LX600

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 28
安全なドライブのために 29
シートベルト 31
SRS エアバッグ..... 35
排気ガスに対する注意 44

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 45
チャイルドシート..... 46

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 62
オートアラーム..... 63
指紋認証システム..... 67

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 72
計器類 76
マルチインフォメーションディスプレイ 79
ヘッドアップディスプレイ 85
燃費画面 89

3 運転する前に

3-1. キー
キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）.. 97
バックドア 103
スマートエントリー＆スタートシステム.....118

3-3. シートの調整
フロントシート 123
リヤシート（5 人乗り車／ 7 人乗り車）.....127
リヤシート（4 人乗り車）.....136
ヘッドレスト 140

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 143
デジタルインナーミラー.....144
ドアミラー 152

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 155
ムーンルーフ 158

3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....161
リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）.....165
マイセッティング 166

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 170
荷物を積むときの注意.....177
トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）.....178

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 181
オートマチックトランスミッション 186
方向指示レバー 190
パーキングブレーキ.....190
ブレーキホールド 193

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 196

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 199
フォグランプスイッチ..... 203
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 204
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）206

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 208

4-5. 運転支援装置について
Lexus Safety System + ... 210
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 215
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 225
RSA（ロードサインアシスト）... 234
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 237
先行車発進告知機能..... 249
ドライバー異常時対応システム . 251
ITS Connect..... 256
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 263
クリアランスソナー..... 270
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 276
RCD（リヤカメラディテクション）..... 281
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 284
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 289
パーキングサポートブレーキ（後方車両）..... 292
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 294
マルチテレインモニター..... 296
ドライブモードセレクトスイッチ..... 357
AHC（アクティブハイトコントロール）..... 359
フルタイム 4WD..... 366
フロントデフロック..... 369
リヤデフロック..... 371
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）.....372
マルチテレインセレクト.....377
ダウンヒルアシストコントロールシステム.....380
プラスサポート（販売店装着オプション）.....382
運転を補助する装置.....386

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 394

5 室内装備・機能

5-1. ディスプレイ
フロントマルチオペレーションパネル.....398
リヤマルチオペレーションパネル（4人乗り車）.....401

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ
レクサスクライメイトコンシェルジュ.....405

5-3. エアコンの使い方
フロントエアコン 406
リヤエアコン 414
ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター.....418

5-4. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 422

5-5. 収納装備
収納装備一覧 427
ラゲージルーム内装備.....434

5-6. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 439

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 456
内装の手入れ 460

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 463
エンジンルームカバー 464
ウォッシャー液の補充 466
タイヤについて 466
タイヤ空気圧について 475
エアコンフィルターの交換 476
電子キーの電池交換 477
ヒューズの点検・交換 479
電球（バルブ）の交換 481

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 486
非常点滅灯（ハザードランプ）... 487
発炎筒 487
車両を緊急停止するには 488
水没・冠水したときは 489

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 491
フューエルポンプシャットオフシステム 495
警告灯がついたときは 496
警告メッセージが表示されたときは 505
パンクしたときは 510
エンジンがかからないときは 520
キーをなくしたときは 522
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは 522
バッテリーがあがったときは 524
オーバーヒートしたときは 528
スタックしたときは 531

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 534

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 539

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 553

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）556
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 558
アルファベット順さくいん 560
五十音順さくいん 562

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

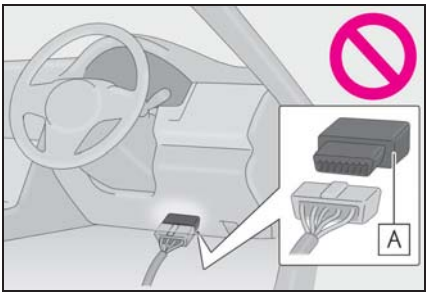
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保障いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両

の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて ※

※ 販売店装着オプション

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.382）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

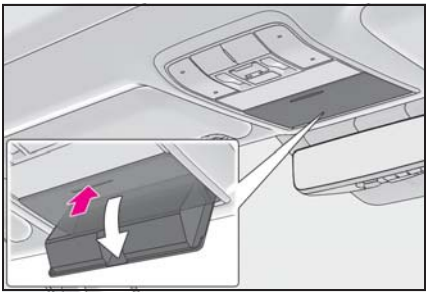
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

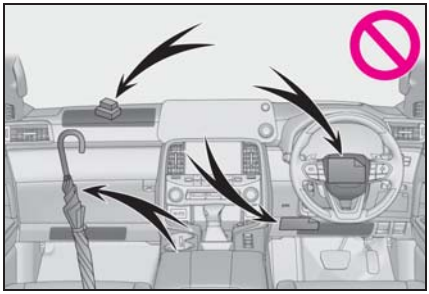
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

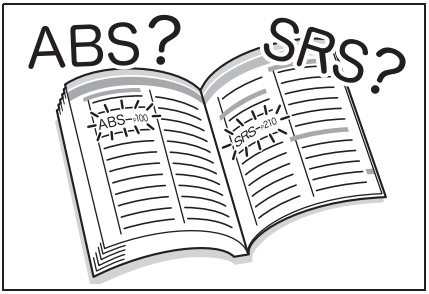


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

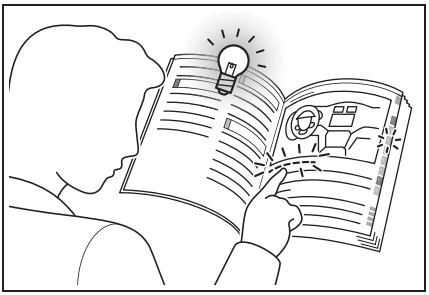
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：→P.562
●アルファベット順さくいん：→P.560



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.12

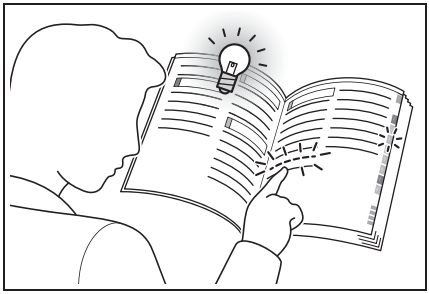


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.556
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.558

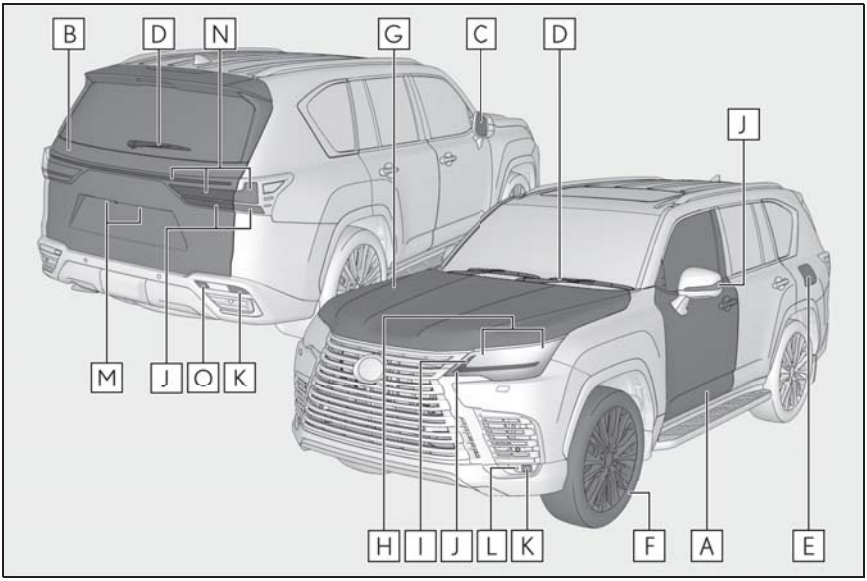
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■外観



A ドア P.97

施錠／解錠 P.97, 100

ドアガラスの開閉 P.155

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.523

警告メッセージ P.505

B バックドア P.103

施錠／解錠 P.104

開け方／閉め方 P.104

警告メッセージ P.505

C ドアミラー P.152

鏡面の角度調整 P.152

ミラーの格納 P.153

調整位置の登録 P.161

曇りを取る（ミラーヒーター） P.408

D ワイパー P.204, 206

冬季の注意 P.394
凍結防止（フロントワイパーデアイサー） P.411
洗車時の注意 P.458

E 給油口 P.208
給油方法 P.208
燃料の種類・燃料タンク容量 P.534

F タイヤ P.466
サイズ・空気圧 P.537
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.394
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム P.466
パンク時の対処 P.510

G ボンネット P.463
開け方 P.463
エンジンオイル P.534
オーバーヒート時の対処 P.528
警告メッセージ P.505

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.481，ワット数：P.538）

H ヘッドランプ P.196

I 車幅灯・LED デイタイムランニングランプ P.196

J 方向指示灯 P.190

K フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.203

L コーナリングランプ P.198

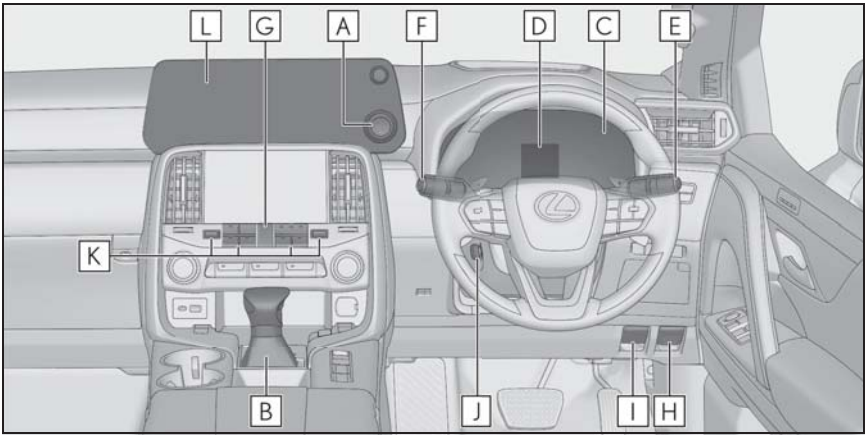
M 番号灯 P.196

N 尾灯 P.196
制動灯
緊急ブレーキシグナル P.387

O 後退灯

シフトポジションを R にする P.187

■インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.181

エンジンの始動・モード切りかえ P.181, 184

エンジンの緊急停止 P.488

エンジンが始動できないときの対処 P.520

警告メッセージ P.505

B シフトレバー P.186

シフトポジションの切りかえ P.187

けん引時の注意 P.491

シフトレバーが動かないときの対処 P.187

C メーター P.76

見方・明るさの調整 P.76, 78

警告灯／表示灯 P.72

警告灯点灯時の対処 P.496

D マルチインフォメーションディスプレイ P.79

表示内容 P.79

警告メッセージ表示時の対処 P.505

E 方向指示レバー P.190

ランプスイッチ P.196

ヘッドランプ・LED デイタイムランニングランプ・車幅灯・尾灯 .. P.196
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... P.199
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.203

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.204, 206
使い方..... P.204, 206
ウォッシャー液の補充 P.466
ヘッドランプクリーナー P.204
警告メッセージ P.466

G 非常点滅灯スイッチ P.487

H 給油扉オープナー P.209

I ボンネット解除レバー P.463

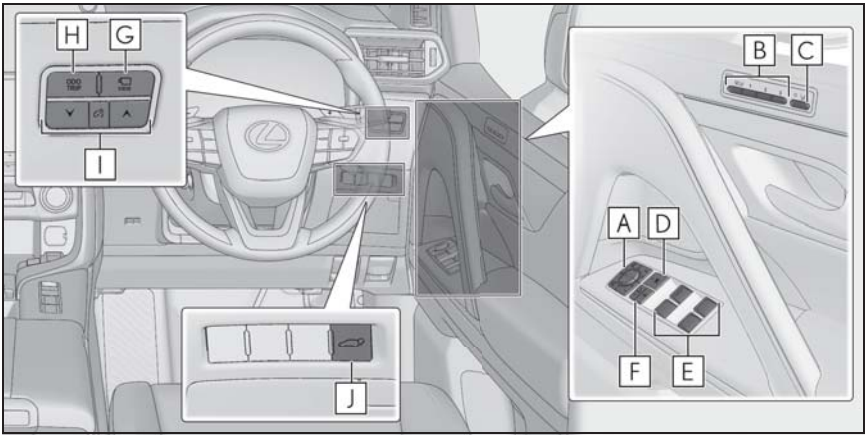
J ハンドル位置調整スイッチ..... P.143
調整方法..... P.143
調整位置の登録 P.161

K オートエアコン P.406
操作方法..... P.406
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... P.408

L オーディオ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



A ドアミラースイッチ P.152

B ポジションメモリーボタン..... P.161

C 助手席操作モードボタン★ P.124

D ウインドウロックスイッチ..... P.157

E パワーウインドウスイッチ..... P.155

F ドアロックスイッチ P.100

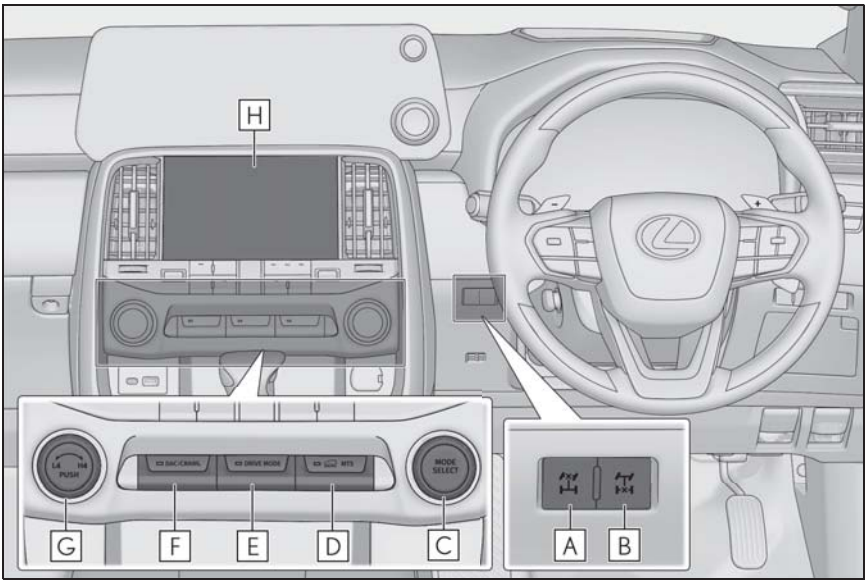
G VIEW スイッチ P.300

H ODO TRIP スイッチ P.78

I インストルメントパネル照度調整スイッチ P.78

J パワーバックドアスイッチ..... P.104

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A フロントデフロックスイッチ★ P.369

B リヤデフロックスイッチ★ P.371

C MODE SELECT スイッチ P.357, 373, 377, 380

D MTS スイッチ P.377

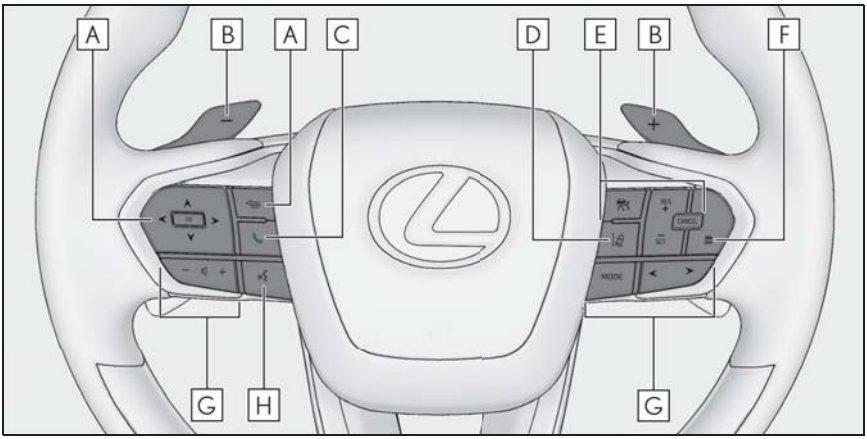
E DRIVE MODE スイッチ P.357

F DAC/CRAWL スイッチ..... P.372, 380

G トランスファースイッチ P.366

H フロントマルチオペレーションパネル P.398

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.80

B パドルシフトスイッチ P.188, 189

C 電話スイッチ ※

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.225

E クルーズコントロールスイッチ

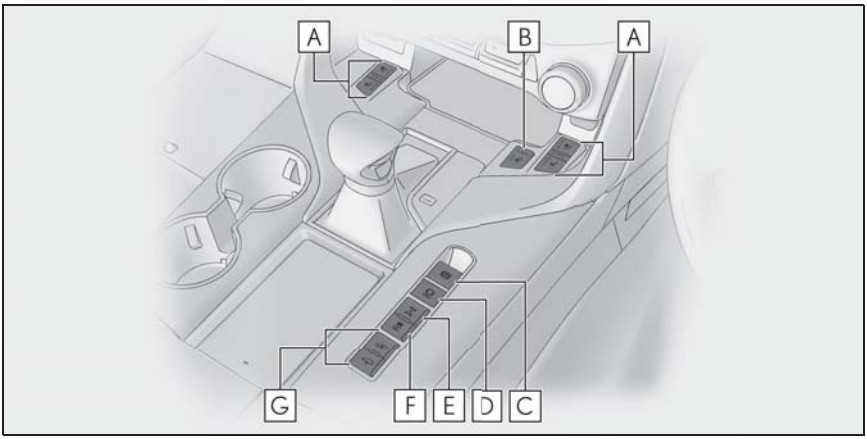
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... P.237

F 車間距離切りかえスイッチ..... P.242

G オーディオスイッチ ※

H トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A フロントシートヒータースイッチ P.418
フロントシートベンチレータースイッチ P.420

B ステアリングヒータースイッチ P.418

C パーキングブレーキスイッチ P.190

かける・解除する P.190

冬季の注意 P.396

警告ブザー・警告メッセージ P.496, 505

D ブレーキホールドスイッチ P.193

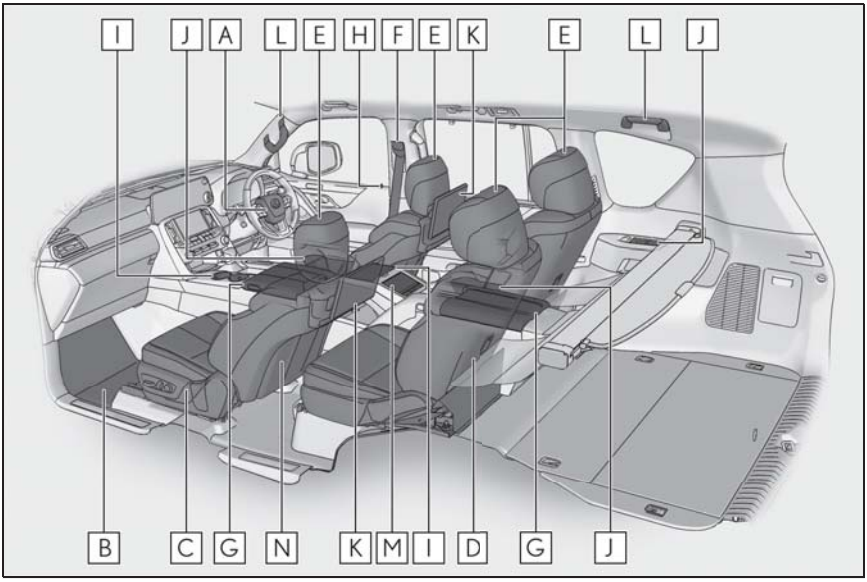
E センターデフロックスイッチ P.367

F VSC OFF スイッチ P.388

G 車高切りかえスイッチ P.359

■室内

▶ 4人乗り車



A SRS エアバッグ P.35

B フロアマット P.28

C フロントシート P.123

D リヤシート P.136

E ヘッドレスト P.140

F シートベルト P.31

G コンソールボックス★ P.429
クールボックス★ P.439

H ドアロックボタン P.100

I カップホルダー P.431

J ボトルホルダー P.432

K リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレ

イ）※

L アシストグリップ P.454

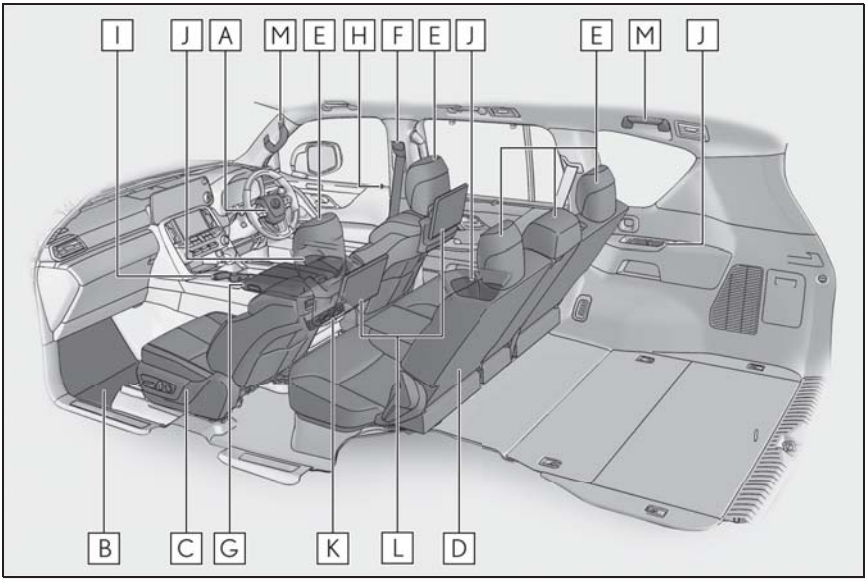
M リヤマルチオペレーションパネル P.401

N オットマン P.137

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ 5人乗り車



A SRS エアバッグ P.35

B フロアマット P.28

C フロントシート P.123

D リヤシート P.127

E ヘッドレスト P.140

F シートベルト P.31

G コンソールボックス★ P.429

クールボックス★ P.439

H ドアロックボタン P.100

I カップホルダー P.431

J ボトルホルダー P.432

K リヤエアコン P.414

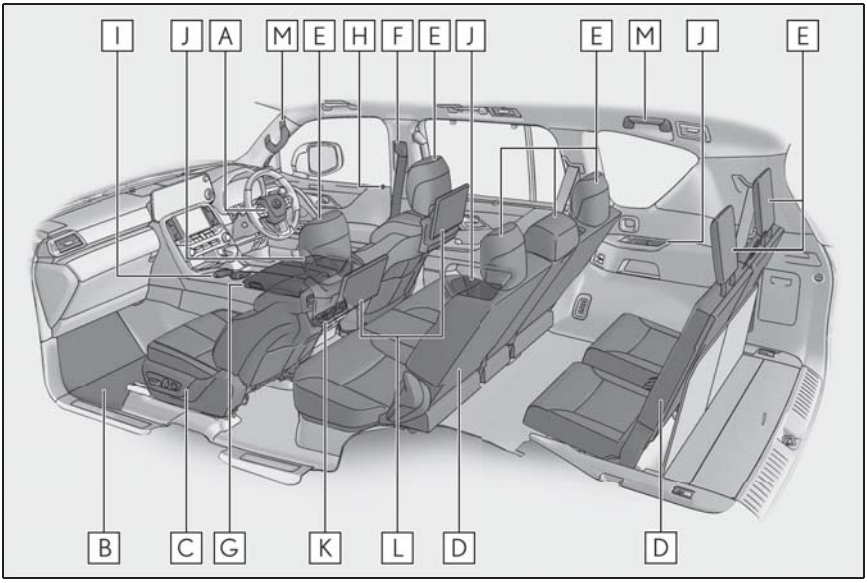
L リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）★※

M アシストグリップ P.454

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ 7 人乗り車



A SRS エアバッグ P.35

B フロアマット P.28

C フロントシート P.123

D リヤシート P.127

E ヘッドレスト P.140

F シートベルト P.31

G コンソールボックス★ P.429
クールボックス★ P.439

H ドアロックボタン P.100

I カップホルダー P.431

J ボトルホルダー P.432

K リヤエアコン P.414

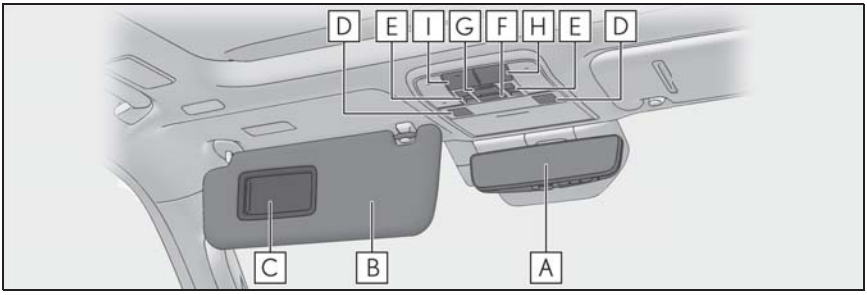
L リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）★※

M アシストグリップ P.454

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 天井



A デジタルインナーミラー P.144

B サンバイザー ※1 ..... P.440

C バニティミラー P.440

D インテリアランプ P.424
パーソナルランプ ※2 ..... P.425

E ムーンルーフスイッチ P.158

F 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.65

G ヘルプネットスイッチパネル ※3

H インテリアランプスイッチ P.424

I インテリアランプドア連動スイッチ P.424

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.48）

※2図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 28

安全なドライブのために 29

シートベルト 31

SRS エアバッグ 35

排気ガスに対する注意 44

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 45

チャイルドシート 46

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム 62

オートアラーム 63

指紋認証システム 67

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

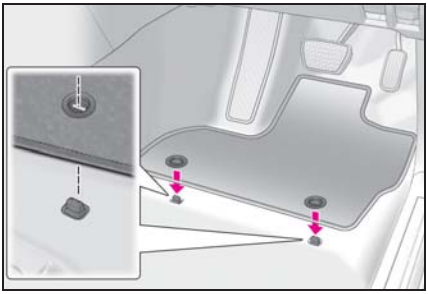
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

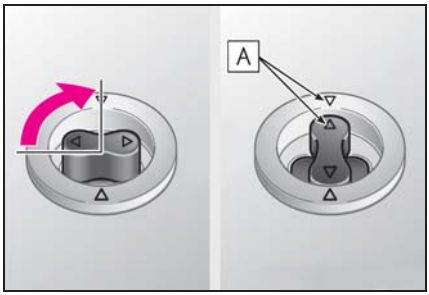
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

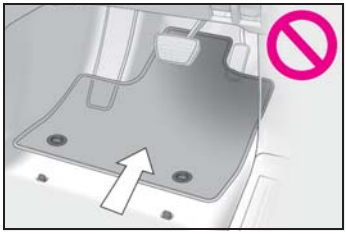
■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

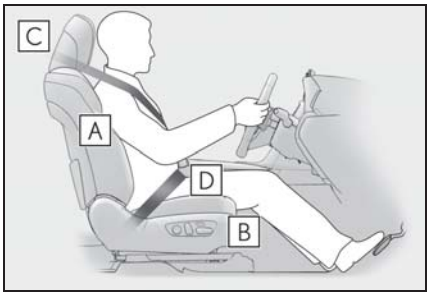


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.123）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.123）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.140）

D シートベルトを正しく着用する（→P.32）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.32)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.46)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.144, 152)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- セカンドシート外側席やサードシート★のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→P.128, 133）にかかっていないことを確認する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.32）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.58

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。
うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

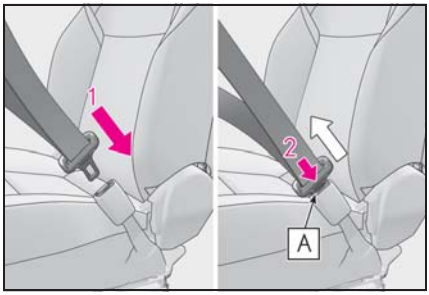
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.46)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.31)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

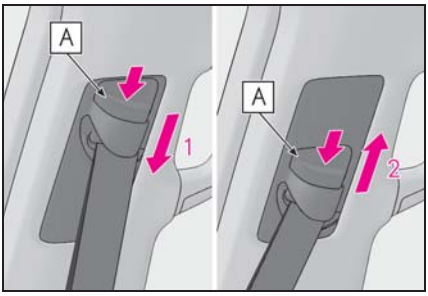
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどしゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロントシート）



1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを上げる

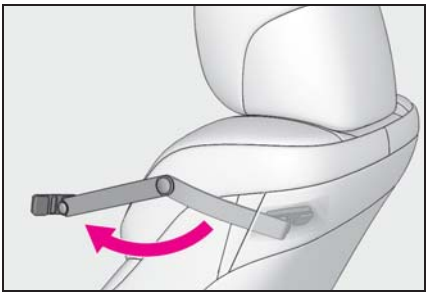
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトリルータ★

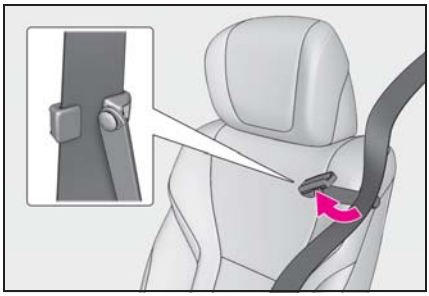
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

背もたれの角度によりシートベルトが視界のさまたげになる場合、シートベルトリルータを使用する事で視界をより広くすることができます。

1 背もたれうしろのポケットからシートベルトリルータを引き出す



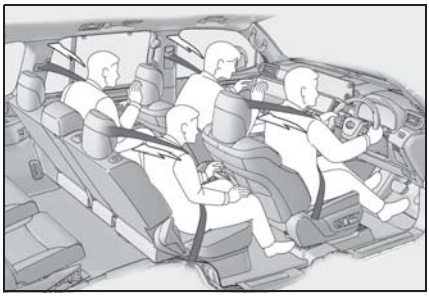
2 シートベルトをシートベルトリルータの穴に通す



シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシート外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

●シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

●助手席に乗員がいないと、助手席シートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席シートベルトプリテンショナーが作動することがあります。

■予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

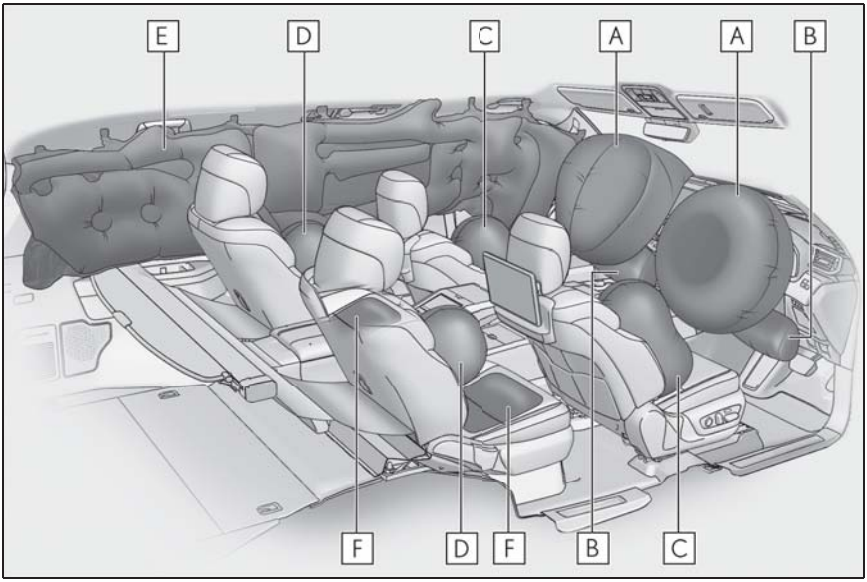
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置（4 人乗り車）



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

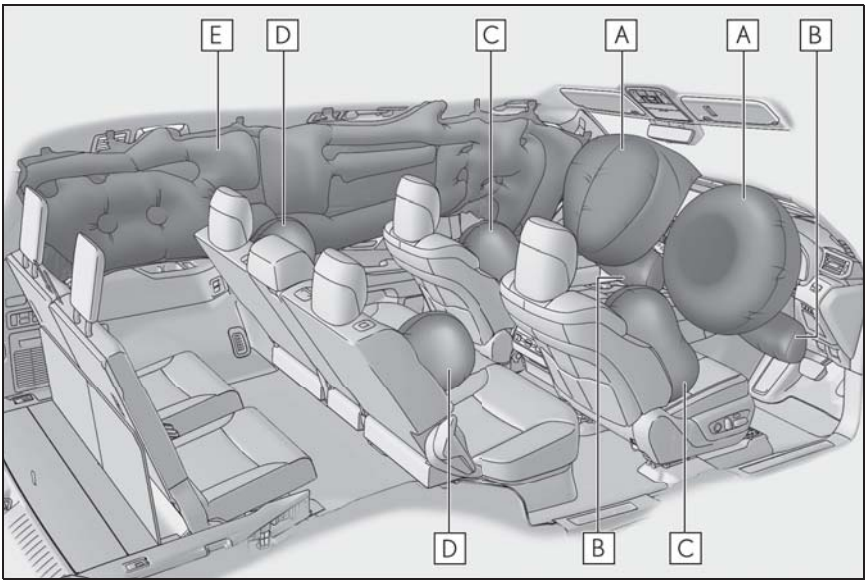
D SRS リヤサイドエアバッグ
（リヤ席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

E SRS カーテンシールドエアバッグ（フロント席とリヤ席乗員の主に頭部へ

の衝撃を緩和）

F SRS シートクッションエアバッグ
（リヤ席乗員の拘束に寄与）

■ SRS エアバッグの配置（5 人乗り車、7 人乗り車）



イラストは 7 人乗り車で代表しています。

▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS リヤサイドエアバッグ
（セカンドシート外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

E SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とセカンドシート外側席、サードシート※ 乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

※ 7 人乗り車のみ

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→P.98）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.387）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.424）

●非常点滅灯が自動で点灯します。（→P.487）

●燃料供給を停止します。（→P.495）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた
・RSCA OFF 表示灯が点灯中に横転した

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ／SRS シートクッションエアバッグ★）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、SRS シートクッションエアバッグのみ作動する場合があります。

●後席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●横転時は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場

合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

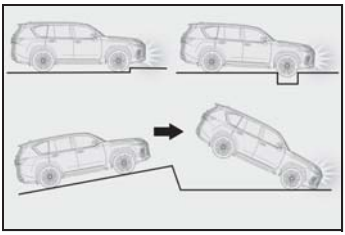
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグと SRS シートクッションエアバッグ★が作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

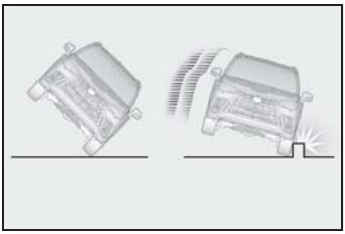
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



SRS カーテンシールドエアバッグは、次のような状況で作動する場合があります。

●車両が大きく傾いたとき

●車両が横すべりし縁石などに衝突して強い衝撃があったとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ／ SRS シートクッションエアバッグ★）

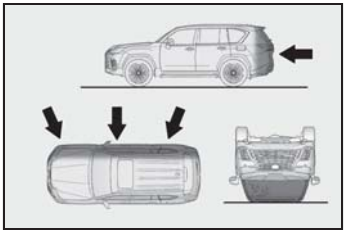
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

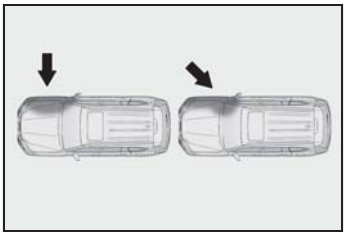


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

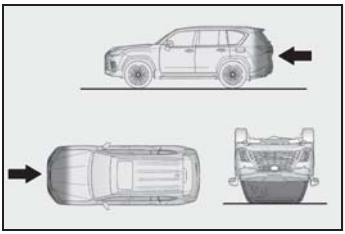


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

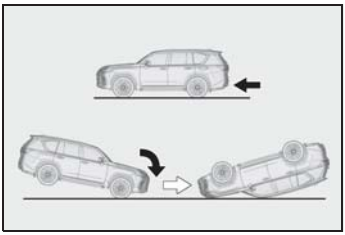
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃、縦方向への転覆、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●縦方向への転覆

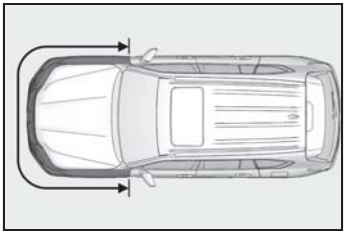


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

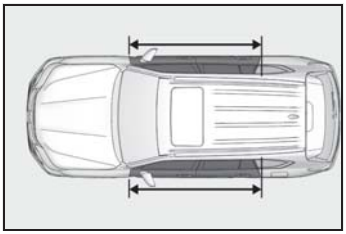
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

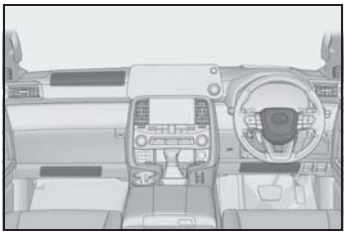
●フロント SRS エアバッグ・SRS シートクッションエアバッグ★はふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

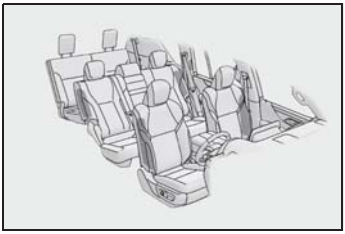


●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

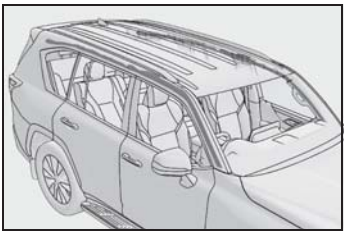


●SRS シートクッションエアバッグ装着車：シートクッションの表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・センターピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

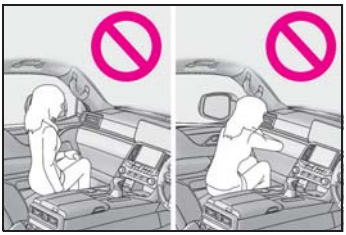
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

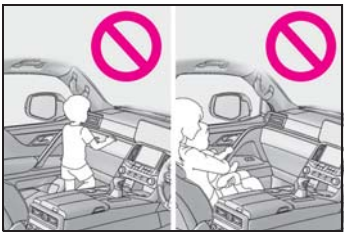
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P.45）

警告

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

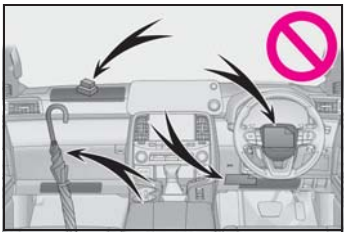


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

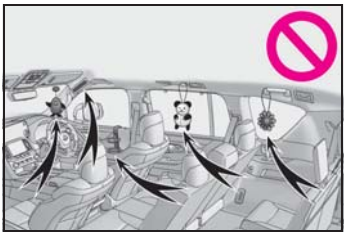
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席やセカンドシート外側席・サードシート（7 人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグやシートクッションエアバッグ★がふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

車両の横転時に SRS カーテンシールドエアバッグの作動を停止するには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して ⚙ を選択する
2 メーター操作スイッチを操作して“車両設定”を選択する
3 “RSCA”を選択し、OK を押す

SRS カーテンシールドエアバッグの作動が OFF のときは、RSCA OFF 表示灯（→P.73）が点灯します。

エンジンスイッチを ON にするたびに、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動可能状態にもどります。

知識

■ご留意いただきたいこと

レジャー的なオフロード走行時、運転者の意思によって車両が大きく傾くことが予想される場合、RSCA システムを OFF にしてください。

■RSCA OFF 表示灯が点灯しているときの作動

- 車両の横転・転覆時に、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動しません。
- 車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。
- 車両前方や、車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、シートベルトプリテンショナーが作動します。

警告

■通常走行時は

RSCA OFF 表示灯が点灯していないことを確認してください。
お守りいただかないと、事故が起きたときなどに重大な傷害を受けたり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.46）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.101）・ウインドウロックスイッチ（→P.157）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.46）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
  レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.46

チャイルドシートを使用するときは：P.47

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.50

チャイルドシートの取り付け方法：P.55

・ シートベルトで固定する：P.56

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.58

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.60

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→P.50）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシート★に取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.50)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

シートの高さが調整できる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

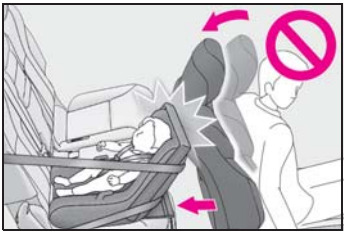
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

警告

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。
- セカンドシートの中央席★にチャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートの位置と背もたれの角度をあわせてください。セカンドシートの位置や背もたれも角度が違うとチャイルドシートを正しく取り付けられず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- サードシート★にチャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートとチャイルドシートが干渉しないようにセカンドシートを調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

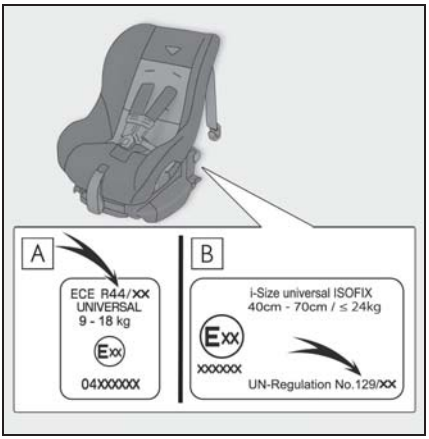
シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.51）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.54）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク ※2

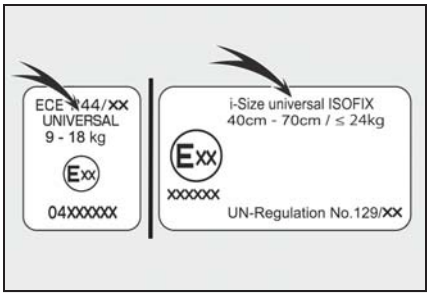
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

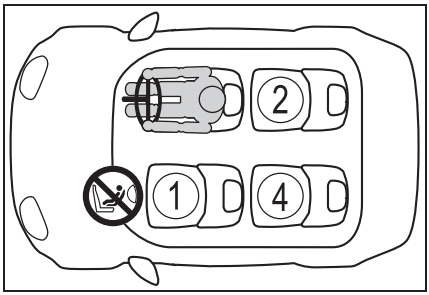


※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

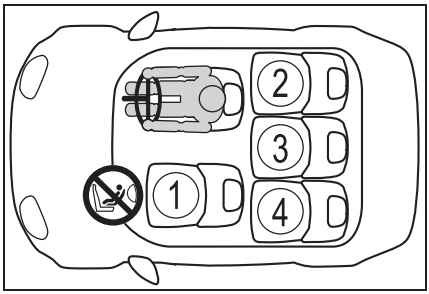
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

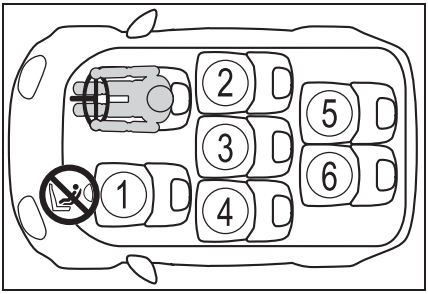
▶ 4 人乗り車



▶ 5 人乗り車



▶ 7 人乗り車



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3	U L
⑤ ※2, 3	U L
⑥ ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.54）に記載されたチャイルドシートに適しています。

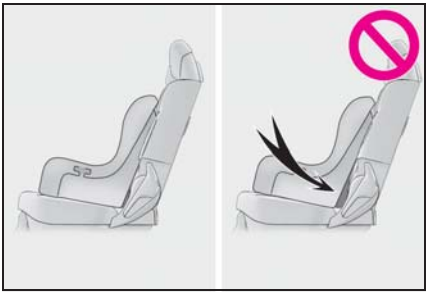
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置						
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1，R2X，R2，R3	×	R1※，R2X※，R2※，R3※	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2，B3	×	B2，B3	×	×

※ 助手席の前後調整スイッチを操作して、助手席をいちばん前に調整してください。（4 人乗り車のみ）

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに

付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

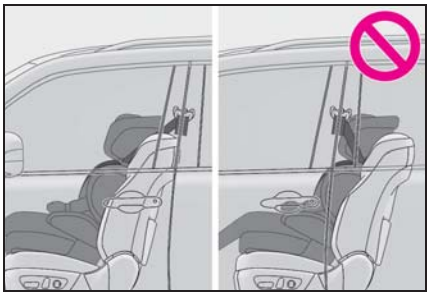
■ **推奨チャイルドシートと適合性一覧表**

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置					
		①	②	③	④	⑤	⑥
0、0+（13kg まで）	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	×	○	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	×	○	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	レクサス純正ジュニアシート	×	○	×	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルド

シートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

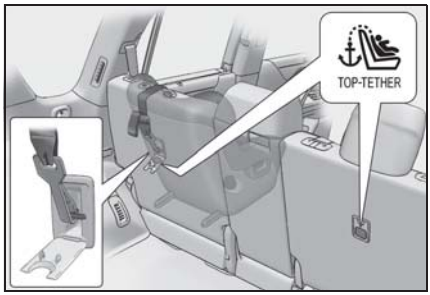
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.56
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.58
テザーベルトを固定する		P.60

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.50, 51）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.47）

2 背もたれを可能な限り起こす

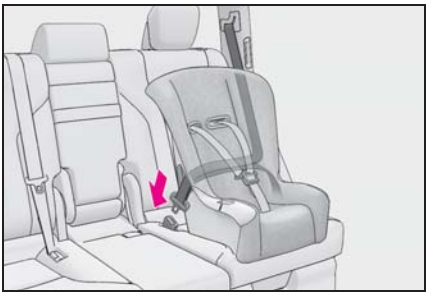
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.140）

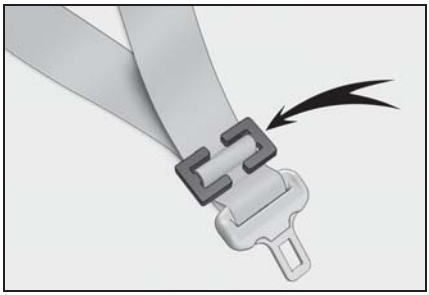
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.58）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

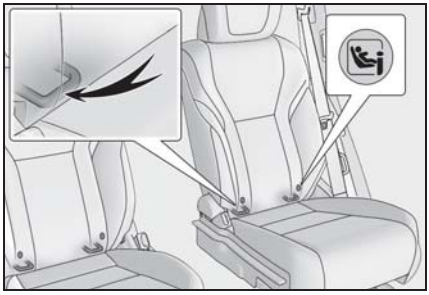
■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

▶ 5 人乗り車／ 7 人乗り車

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）

▶ 4 人乗り車

この車はセカンドシートに ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.50, 51）

1 背もたれを可能な限り起こす

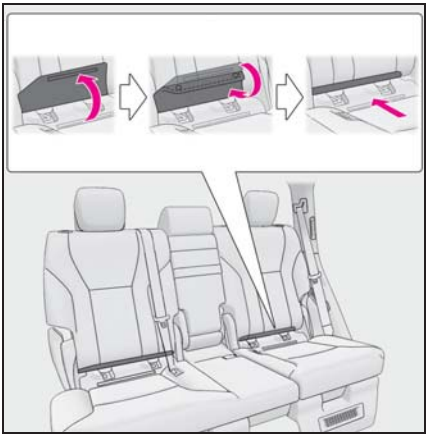
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.140）

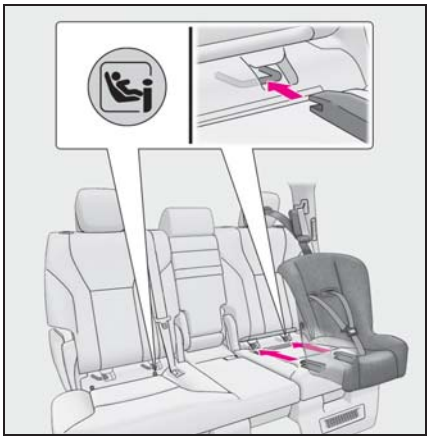
3 5人乗り車／7人乗り車：カバーをめくる

めくったカバーをシートクッションと背もたれのあいだに挿し込んでください。



4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.58）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

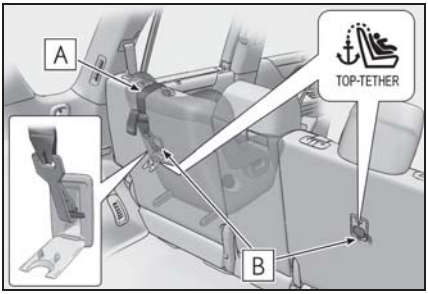
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

▶ 5 人乗り車／ 7 人乗り車

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



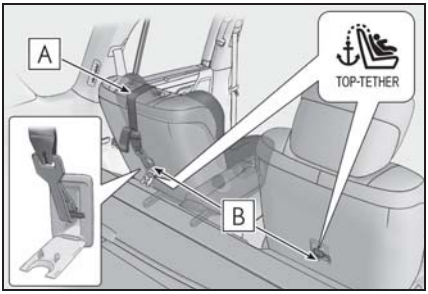
A テザーベルト

B トップテザーアンカレッジ

▶ 4 人乗り車

この車はセカンドシートにトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A テザーベルト

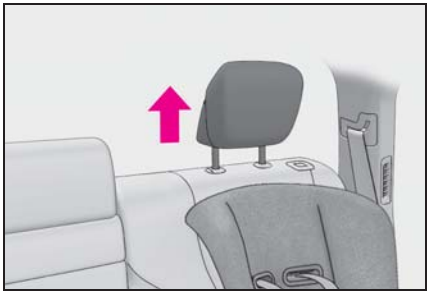
B トップテザーアンカレッジ

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

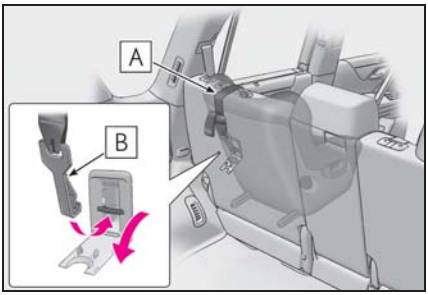
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.140）



2 フタを開けて、トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.58）
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してくだ

さい。



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

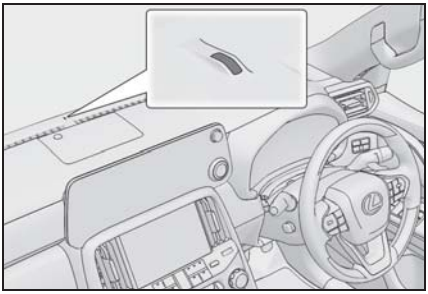
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき
- リヤクォーターガラスやリヤウインドウガラスが割られたとき
- バッテリーがはずされたとき
- バッテリーが再接続されたとき

G-Link サービス をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メール、スマートフォンアプリへお知らせすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

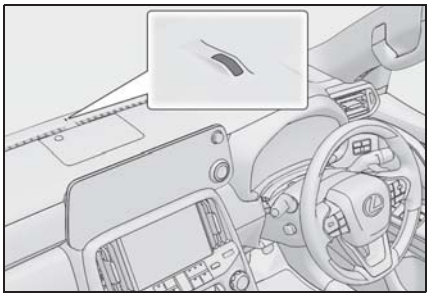
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

全ドア・ボンネットを閉め、すべてのドアを施錠※ します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動す

る（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れなどを、E メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

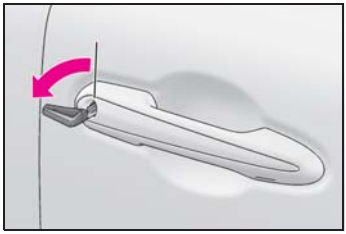
●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

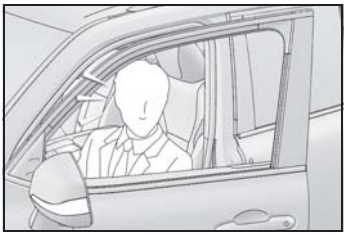
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

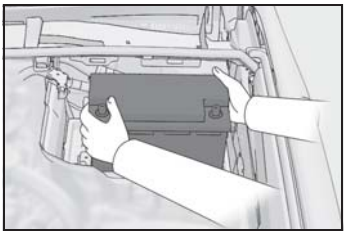


●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ドアロックスイッチで解錠したとき



●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→P.524）

●施錠後、バッテリーを取りはずしたとき



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないよう、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.540）

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きの変化に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.63)

■ 侵入・傾斜センサーの作動を停止するには

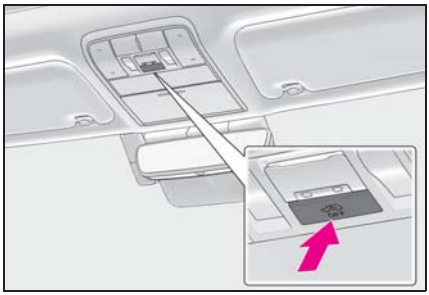
車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーを停止しても、オートアラームは作動します。

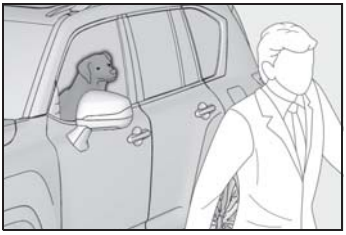
●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能による解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーが復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

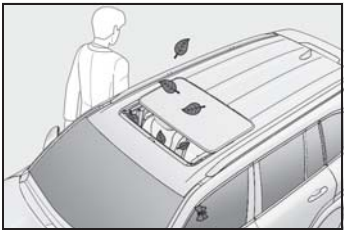
■侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

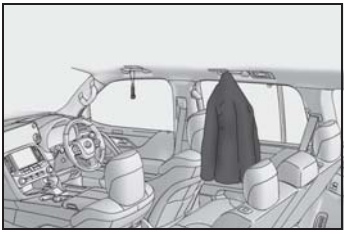
●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



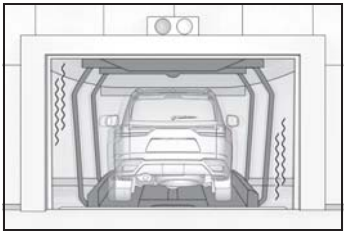
●ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



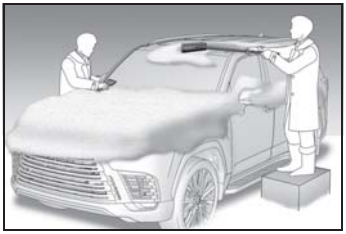
●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■傾斜センサーについて

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

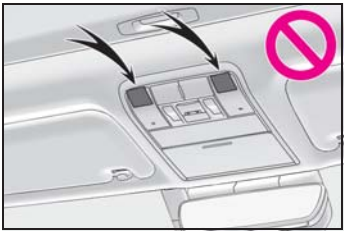
●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

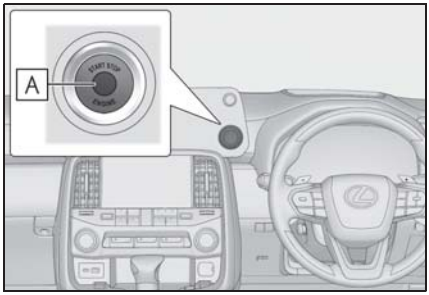
●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

指紋認証システム

指紋認証システムとは、車両に登録された指紋情報とエンジンスイッチ上の指紋センサーにふれた指で指紋認証を行い、認証に成功しないとエンジンを始動することができないシステムです。

指紋情報の登録・消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A 指紋センサー

知識

■指紋認証システムについて

●納車時は指紋情報が未登録です。未登録の状態でもスマートエントリー＆スタートシステムとしてエンジンを始動することができます。

●指紋認証結果の一致だけではエンジンスイッチのモードの切りかえやエンジンの始動をすることはできません。必ず電子キーを携帯する必要があります。

●指紋認証はマイセッティング機能の認証デバイスとして使用されます。（→P.166）

■指紋情報の登録について

●指紋情報を登録するときは、エンジンの始動を行う姿勢で指紋センサにくり

返しタッチしてください。

- 指紋情報を登録するときは、エンジンを始動するときに使用する指で複数回タッチする必要があります。指のあてる位置を少しずつかえながら、広い範囲をタッチしてください。
- 指紋情報を初めて登録すると、自動的に指紋認証システムが ON になります。指紋認証システムの ON/OFF は、マルチメディア画面で確認することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- 指紋センサーにタッチするときは、指がセンサーの全面にかかるようにしてください。指先や指の側面で押すと認証できないことがあります。
- タッチ操作はゆっくり行ってください。速すぎたり、強すぎたり、スライドしながらさわると、正常に認識できないことがあります。
- 指紋センサーをくり返しタッチする場合、タッチからタッチまでの時間を約 1 秒あけてください。素早くタッチをくり返すと認証失敗の原因となります。

■指紋登録注意事項

本システムで利用する指紋情報は、セキュリティ機能およびマイセッティング機能で活用しています。指紋情報はエンジンスイッチ内にのみ暗号化した上で保存されており、指紋認証によるエンジンの始動許可やその他車両各種機能（シートやミラーポジションの自動調整等）以外での用途では使用いたしません。また、指紋情報が第三者へ開示、または提供されることはありません。保存された指紋情報はお客様の意思で消去することが可能です。

指紋情報の取り扱いについて、以下の項目を同意いただいた上でご利用ください。

- 指紋認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。指紋認証を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、レクサスでは一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本システムは指紋の特徴を認証に利用するものです。このため、指紋の特徴が少ないお客様は指紋情報登録ができない、もしくは指紋情報を登録できたお客様でも認証率が悪い場合があります。そのような場合、指紋認証システムを OFF にしてください。
- 指紋認証システムの認証性能はお客様の使用状況によって異なります。指が汚れていたり、ぬれていたり、乾燥や怪我など、指の状態によっては指紋の読取りが困難になったり、認証性能が低下する原因となります。
- 指紋情報の登録失敗や指紋認証失敗が頻発する場合は、指紋センサー表面を清掃、または指紋情報を登録し直してください。
- エンジンスイッチに登録した指紋情報を移行することはできません。指紋情報の消去、または部品交換した場合は指紋情報を再度登録する必要があります。
- 指紋認証システムの故障診断を行う際に指紋情報を登録済みのお客様を特定できない場合は、レクサス販売店により指紋情報を消去する場合があります。
- 消去された指紋情報を復元することはできません。再度、指紋情報の登録を行う必要があります。
- エンジンスイッチの交換をするときは、指紋情報を原則消去します。故障等により指紋情報を消去できない場合は、指紋情報が記憶された状態での部品回収、またはお客様へご返却があることをご了承ください。
- 部品回収した場合、故障解析の目的以

外での利用はありません。

- お客様へご返却した場合、エンジンスイッチにはお客様の個人情報が記憶されています。管理には十分にご注意ください。
- 車両を売却、譲渡、廃棄等する場合は必ず事前に指紋情報を消去してください。指紋情報が記憶されたまま、売却、譲渡、廃棄等された場合に生じるいかなる損害に関しても、レクサスでは一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■指紋センサーのお手入れについて

指紋センサーの表面を掃除するときは、糸くずの出ないやわらかい布で乾拭きしてください。

■カスタマイズ機能

マルチメディア画面で指紋認証システムの ON/OFF を切りかえることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

指紋認証システムの ON/OFF を切りかえるには、以下のことにご注意ください。

- 指紋情報を 1 本以上登録する必要があります。
- 指紋情報を登録済みのお客様による指紋認証の成功かつエンジンスイッチを ON にする必要があります。
- 指紋認証に成功しない場合でも、電子キーをエンジンスイッチにふれてエンジンスイッチを ON にしたあと、指紋認証システムの ON/OFF をマルチメディア画面で切りかえることができます。（→P.523）
- 指紋認証システムを OFF にすると、エンジンスイッチを OFF にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに指紋認証システムが OFF になっていることを示すメッセージが 10 日間表示されます。

注意

エンジンスイッチの故障を防ぐために、次のことをお守りください。

- 強い衝撃を与えたり、本体の取り外し、分解、改造はしないでください。故障および破損の原因となります。
- 指紋センサーの表面をペン先など先の尖ったものでつついたり、ひっかいたりしないでください。指紋センサーの表面に傷が付く原因となります。
- 長時間の使用によりゴミがたまることがありますが、その場合でも先の尖ったもので取り除かないでください。
- 指紋センサーの表面やタッチ操作する指先に水滴や汚れが付着した場合は、指紋認証失敗の原因となります。
- 指紋センサーの表面にシールを貼ったり、インクで塗りつぶしたりしないでください。
- 指紋センサーの表面は定期的に清掃してください。ほこりや皮脂などの汚れ、汗などが指紋センサーの表面に付着、または結露が発生すると不作動の原因となります。
- 故障および破損の原因となるもの（ほこりや砂、染料、インク、石鹸、洗剤、酸や酸性の食品、油、ローションなど）が付着した場合、すぐに指紋センサーをきれいに掃除してください。
- ガラスクリーナー、スプレー式の液体クリーナー、溶剤、アンモニアなどの洗浄剤や、ワックス、サンドペーパーなどの研磨剤の利用は避けてください。故障および破損の原因となります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 72
計器類 76
マルチインフォメーションディスプレイ 79
ヘッドアップディスプレイ 85
燃費画面 89

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.496）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.496）

充電警告灯 ※2 （→P.496）

油圧警告灯 ※2 （→P.496）

高水温警告灯 ※2 （→P.497）

エンジン警告灯 ※1
（→P.497）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.497）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1 （→P.497）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.497）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.497）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1 （→P.498）

（橙色）
LTA 表示灯 （→P.498）

BSM OFF 表示灯 ※1
（→P.498）

RCTA OFF 表示灯 ※1
（→P.498）

RCD OFF 表示灯 ※1
（→P.499）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※3 （→P.499）

PKSB OFF 表示灯 ※1
（→P.499）

ペダル誤操作警告灯 ※2
（→P.215, 500）

スリップ表示灯 ※1
（→P.500）

L4 作動表示灯 （→P.500）
（点滅）

センターデフロック作動表示灯 （→P.501）
（点滅）

フロントデフロック作動表示灯★ （→P.501）
（点滅）

リヤデフロック作動表示灯★
（→P.501）
（点滅）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.501）
（点滅）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1 （→P.501）
（点滅）

燃料残量警告灯 （→P.502）

タイヤ空気圧警告灯 ※1
（→P.502）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 （→P.502）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 （→P.502）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 クリアランスソナー機能が ON のときは、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯 （→P.190）

尾灯表示灯 （→P.196）

ハイビーム表示灯 （→P.198, 201）

アダプティブハイビームシステム表示灯 （→P.199）

フロントフォグランプ表示灯
（→P.203）

リヤフォグランプ表示灯（→P.203）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.218）

LTA 表示灯 ※3（→P.230）
（白色）

LTA 表示灯 ※3（→P.215, 230）
（緑色）

LTA 表示灯 ※3（→P.230）
（橙色）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.237）

クルーズコントロール表示灯（→P.237）

クルーズコントロールセット表示灯（→P.237）

BSM ドアミラーインジケーター ※1, 4（→P.263）

BSM OFF 表示灯 ※2（→P.263）

RCTA OFF 表示灯 ※1, 2（→P.277）

RCD OFF 表示灯 ※2（→P.281）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※2, 5（→P.270）

PKSB OFF 表示灯 ※1, 2（→P.285）

エコドライブインジケーターランプ ※1（→P.81）

スリップ表示灯 ※1（→P.388）
（点滅）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.388）

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯 ※1（→P.380）

ターンアシスト表示灯（→P.372）

クロールコントロール表示灯 ※1（→P.372）

クロールコントロールモード表示（→P.372）

乗降モード表示灯 ※1（→P.361）

L4 作動表示灯（→P.366）

センターデフロック作動表示灯（→P.367）

フロントデフロック作動表示灯★（→P.369）

リヤデフロック作動表示灯★（→P.371）

パーキングブレーキ表示灯（→P.190）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.193）

ブレーキホールド作動表示灯 ※2（→P.193）

RSCA OFF 表示灯 ※1（→P.42）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※6（→P.181）

低温表示灯 ※7（→P.77）

ITS Connect アイコン（→P.256）

ITS Connect アイコン（→P.256）

ITS Connect アイコン（→P.256）

プラスサポート表示灯★
(→P.382)

制動灯表示灯 ※8

エコドライブモード表示灯
(→P.357)

コンフォートモード表示灯
(→P.357)

スポーツ S モード表示灯
(→P.357)

スポーツ S+ モード表示灯
(→P.357)

カスタムモード表示灯
(→P.357)

AUTO モード表示灯
(→P.377)

DIRT モード表示灯
(→P.377)

SAND モード表示灯
(→P.377)

MUD モード表示灯
(→P.377)

DEEP SNOW モード表示灯
(→P.377)

ROCK モード表示灯
(→P.377)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※4 ドアミラーに表示されます。

※5 クリアランスソナー機能が ON のときは、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※6 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※7 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※8 ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

知識

■BSM ドアミラーインジケーターについて

作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

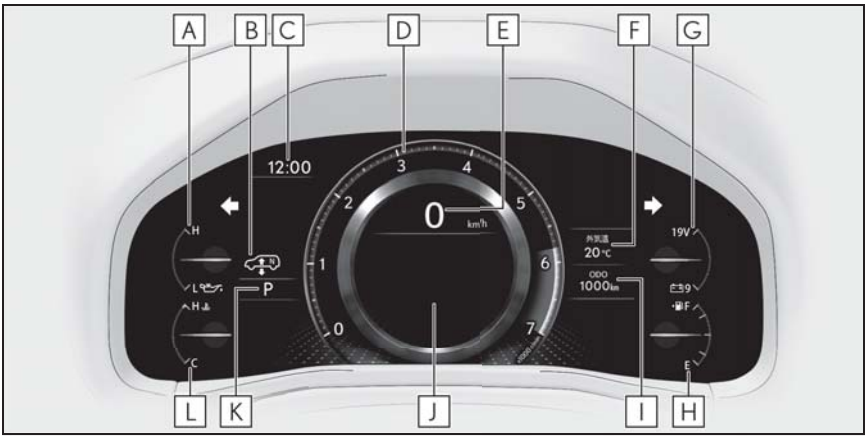
- マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、BSM の機能を ON に設定している状態で、エンジンスイッチを ON にしたとき
- エンジンスイッチが ON の状態で、BSM の機能をマルチインフォメーションディスプレイの⚙で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

B AHC 表示

AHC（アクティブハイトコントロール）のモードを表示します。（→P.359）

C 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

E スピードメーター

車両の走行速度を示します。

F 外気温（→P.77）

G 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 10L 以下）を行ったとき

・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

I オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

J マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.79）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.505）

K シフトポジション・ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたはギヤ段を表示します。（→P.186）

L 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 ODO TRIP スイッチ（→P.78）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

●外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の上に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.80

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.528）

■電圧計について

エンジン回転中に電圧計が19V以上、または9V以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

■油圧計について

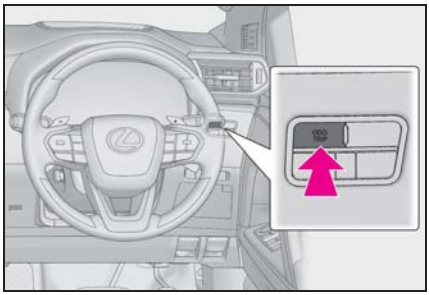
エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、レクサス販売店にご連絡ください。

ODO TRIPスイッチの操作について

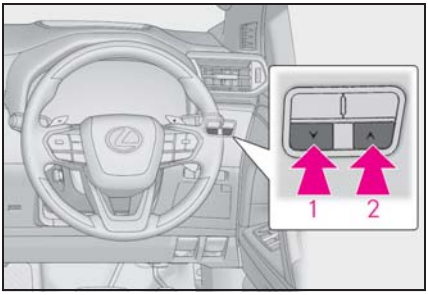
ODO TRIPスイッチを押すごとに、オドメーター／トリップメーターA／トリップメーターBの順に表示が切りかわります。

トリップメーターの表示中にスイッチを押し続けると、走行距離が0にもどります。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

■ メーター照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。

走行情報表示（→P.80）

ナビゲーションシステム連携表示（→P.82）

オーディオシステム連携表示（→P.82）

運転支援機能情報（→P.82）

警告メッセージ（→P.505）

設定（→P.82）

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

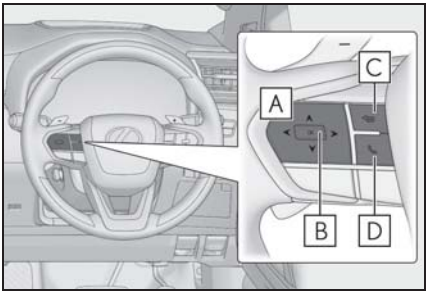
●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.78

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜／＞：メニューの切りかえ
∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行に関する情報について

■ 表示項目

メーター操作スイッチの＜または＞を押して ⓘ を選択し、∧または∨を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● エコドライブインジケーター
● タイヤ空気圧（→P.468）
● 表示 OFF

■ ドライブインフォメーション 1／2

表示される数値は参考として利用してください。

● ドライブインフォメーション 1
- 瞬間燃費
- リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション 2
- 航続可能距離
- リセット間平均車速

表示する項目は、メニューアイコン

の⚙から変更することができます。（→P.82）

表示できる項目は次のとおりです。

● 瞬間燃費

バー表示：現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセット間：リセット後の平均燃費を表示※1

始動後：エンジン始動後の平均燃費を表示

給油後：給油後の平均燃費を表示

● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示※1

始動後：エンジン始動後の平均車速を表示

● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示※1

始動後：エンジン始動後の経過時間を表示

● 距離

航続可能距離：燃料残量による走行可能な距離を表示※2, 3

始動後：エンジン始動後の走行距離を表示

● その他

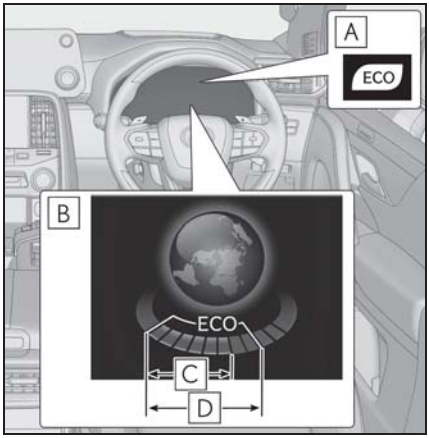
ブランク：非表示

※1リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのOKを長押しします。

※2運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※3燃料給油量が少量（約 10L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.77）

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

■エコドライブインジケーターについて

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがスポーツ S モードまたはスポーツ S+ モードのとき
- 走行モードがカスタムモードで、パワートレーンの制御を Power にしているとき（→P.357）
- 車速が約 100km/h 以上のとき

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内
- コンパス

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.225）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.237）
- RSA （ロードサインアシスト）（→P.234）
- ITS Connect（→P.256）

設定について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して変更する項目を選択し、OK を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して設定したい項目を選択し、OK を押す

4 設定が完了したら、メーター操作スイッチの ⇦ を押す

■ 変更できる項目（メーター表示）

- 言語

表示される言語を選択することができます。

- 単位

燃費表示の単位を選択することができます。

- 車速表示

スピードメーターの表示を、デジタル／アナログ／両方表示から選択することができます。

- ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（→P.80）

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ **変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）**

→P.539

知識

■**設定画面の操作について**

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを

閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ウインドウロック解除提案

ウインドウロックスイッチ（→P.157）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで運転席以外のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

知識

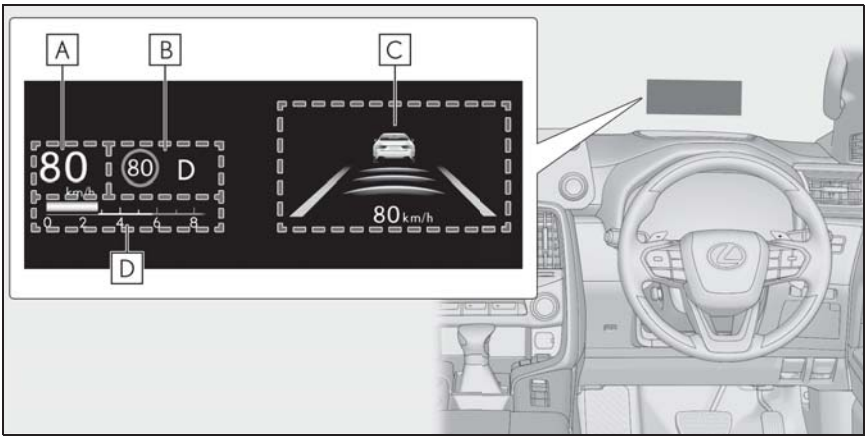
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.539）

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 車速表示

B シフトポジション／ RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.186, 234）

C 運転支援システム表示エリア（→P.87）／ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携してルート案内などを表示します。

D エコドライブインジケーター／タコメーター表示エリア（→P.88）

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差

点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

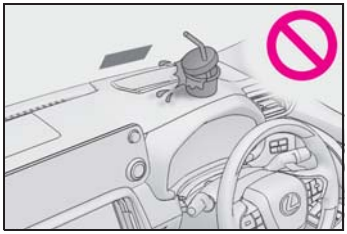
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から次の設定を変更することができます。(→P.79)

● ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● タコメーター切替

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

- 表示なし
- エコドライブインジケーター表示
- タコメーター表示

● 次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ナビゲーション表示
- レーン表示
- 運転支援表示※
- オーディオ表示

※運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.161）

■バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.225）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.237）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.215）
- 先行車発進告知機能（→P.249）
- ドライバー異常時対応システム（→P.251）
- ITS Connect（→P.256）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.284）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.171）
- ドライブスタートコントロール（→P.175）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。

⚠: マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.505）

ⓘ: インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス（→P.83）や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

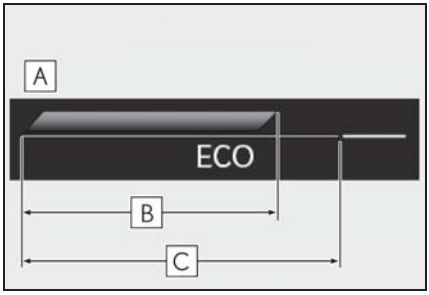
知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

エコドライブインジケーター／タコメーター表示エリア

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.81を参照してください。

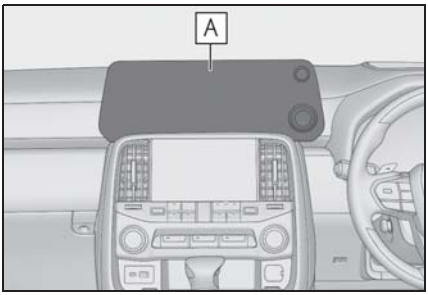
■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

瞬間燃費画面の見方

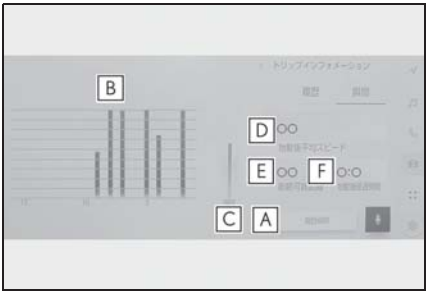
■ **表示のしかた**

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “瞬間” を選択する

■ **表示について**



A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E 航続可能距離

F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費履歴画面の見方

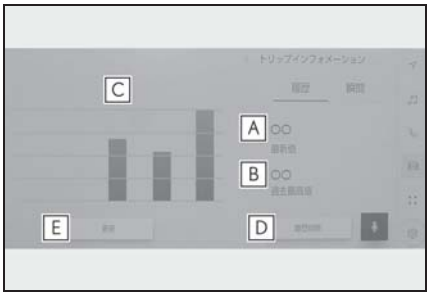
■ **表示のしかた**

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “履歴” を選択する

■ **表示について**



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずか

に異なる場合があります。

知識

■ **過去の区間平均燃費の記録を更新するには**

燃費履歴画面で “ 更新 ” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ **燃費データをリセットするには**

“ 履歴削除 ” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ **航続可能距離について**

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）97

バックドア 103

スマートエントリー＆スタートシステム 118

3-3. シートの調整

フロントシート..... 123

リヤシート（5 人乗り車／ 7 人乗り車）..... 127

リヤシート（4 人乗り車）..... 136

ヘッドレスト 140

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 143

デジタルインナーミラー 144

ドアミラー 152

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ..... 155

ムーンルーフ 158

3-6. お好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 161

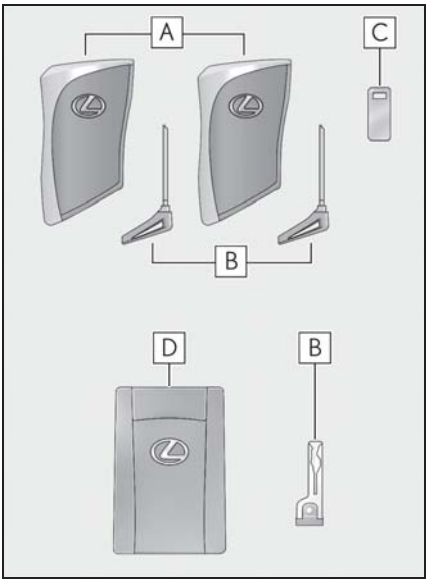
リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）..... 165

マイセッティング..... 166

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.118）
・ワイヤレス機能の作動（→P.95）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー★

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.118）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カードキー★について

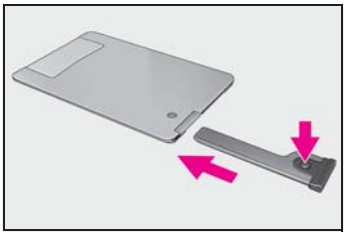
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●カードキーは非防水です。

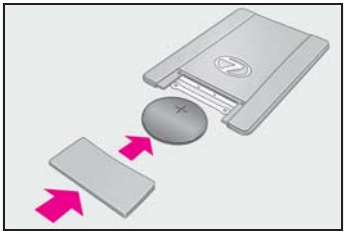
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 ～ 1 年半で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.119）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.477）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.98）

■電池の交換方法

→P.477

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください ” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

■電子キーの取り扱いについて

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.523

■電子キーを紛失したとき

→P.522

■カードキー★の取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

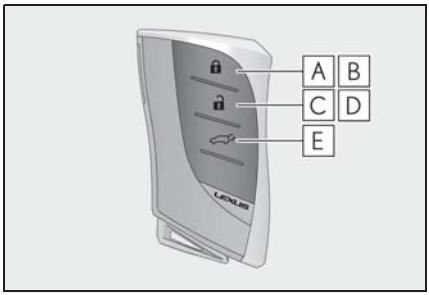
⚠ 注意

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
  水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
  無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - ・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - ・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - ・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.97）

B ドアガラスとムーンルーフを閉める※（→P.97）

C 全ドアを解錠する（→P.97）

D ドアガラスとムーンルーフを開く※（→P.97）

E パワーバックドアを開閉する（→P.104）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

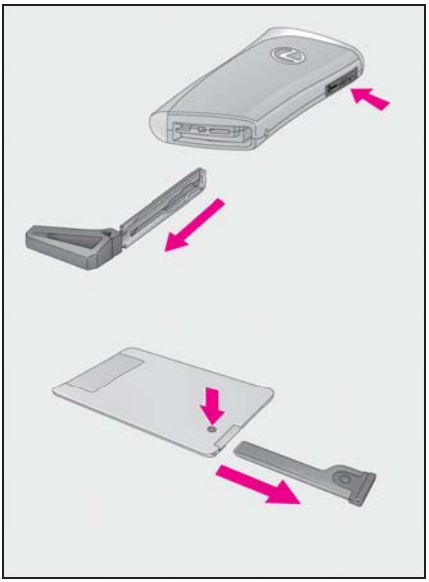
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、

メカニカルキーが必要になります。
（→P.522）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→P.429）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

指紋認証システムがONの場合に、エンジンを始動するには、ブレーキペダルを踏みながらキーでエンジンスイッチにふれてから、エンジンスイッチを押してください。（→P.523）

■メカニカルキーを紛失したとき

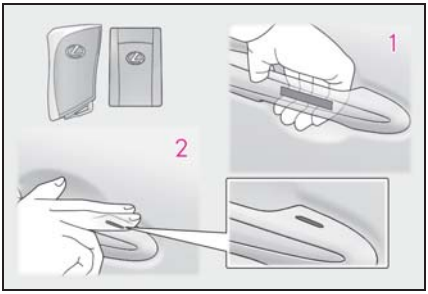
→P.522

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する

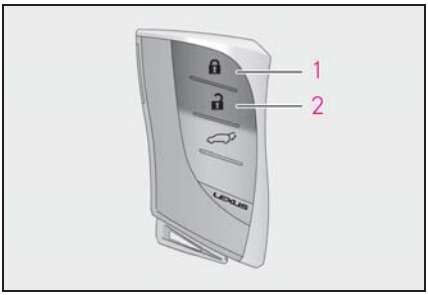
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが開きます。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.118）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中 ※1 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1 バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

※2 レクサス販売店での設定変更が必要で

す。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

● ドアを施錠・解錠する

● エンジンを始動する

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P.65）

3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、 ボタンと同時に、 ボタンまたは ボタンのいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
車外：“ピピッ”（3 回）	運転席側のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ”（2 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.63）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

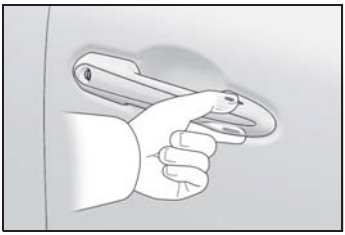
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.63)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.119

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.523)

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.477)

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
・エンジンがかかっている状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.542)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.541)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

警告

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

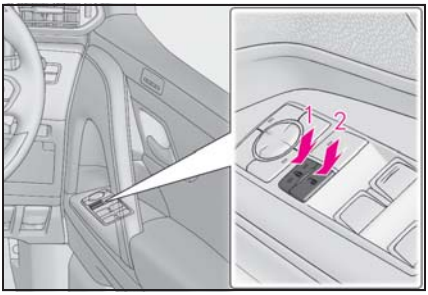
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

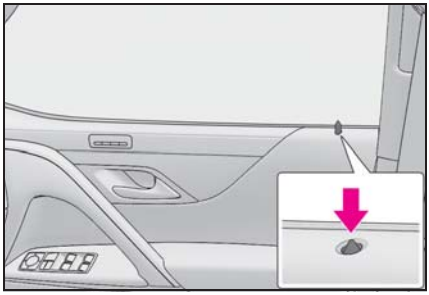


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

運転席ドア：

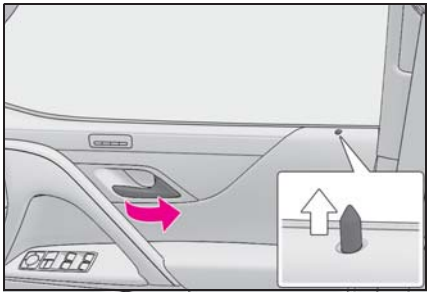
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

運転席以外のドア：

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ドアロックボタンを押し下げる（→P.100）

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のと

きや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

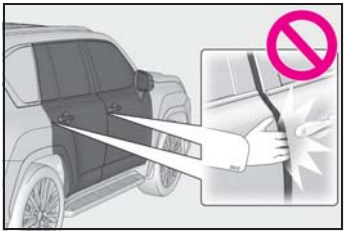
■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■イージークローザーについて

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



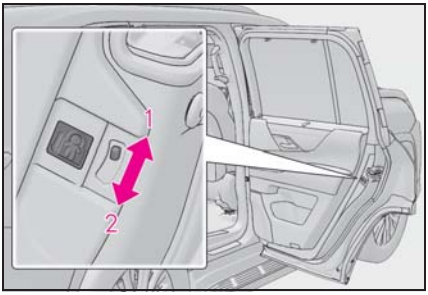
注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.539 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

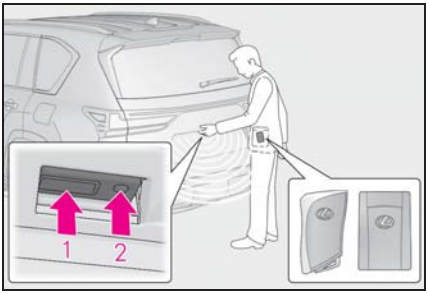
警告

- スピンドルユニット（→P.115）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.95

知識

■作動の合図

→P.98

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.98

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.100

バックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

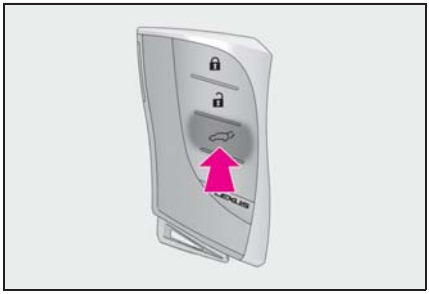
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠※ してから操作してください。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



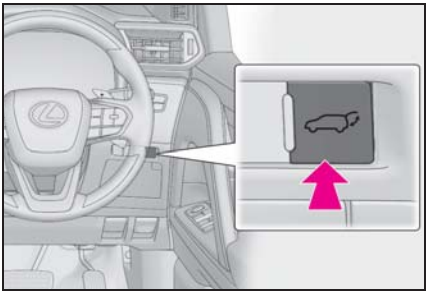
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

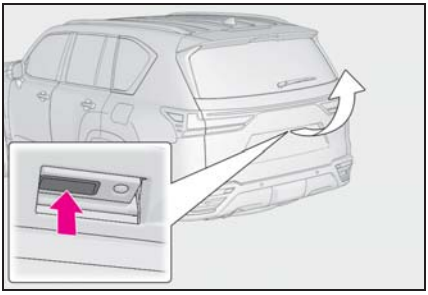
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。

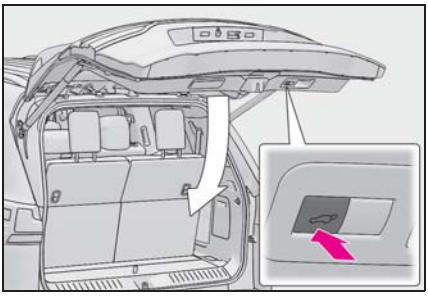


● 閉じる

バックドア下部の スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

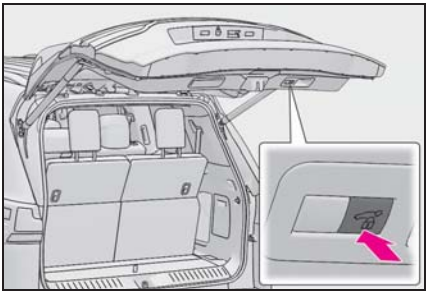
バックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度 スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



● バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の スイッチを押す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。

バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。

再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

作動が停止した状態から再度 スイッチを押すと、再びクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

● バックドアを閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）※

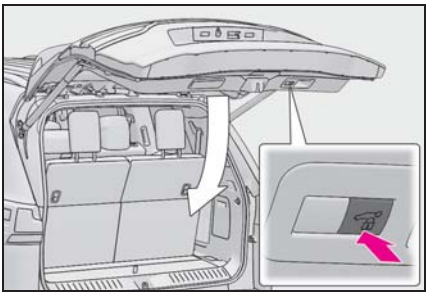
※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の

スイッチを押す

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、バックドアが自動で閉まります。バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

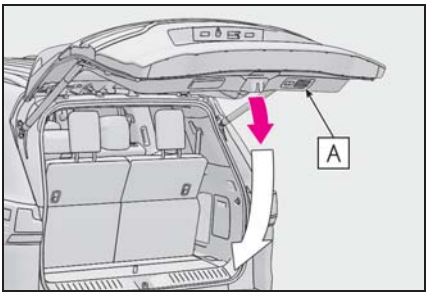
バックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度 スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



■ **バックドアハンドルを使用して閉じる**

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げる

ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能（→P.109）が作動し、バックドアが自動で閉まります。



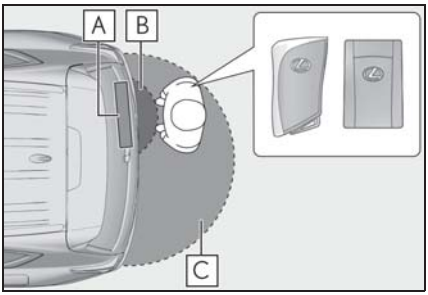
■ **キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）**

リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。次の条件をすべて満たしたとき、キックセンサーを使用することができます。

・ エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P

にあるとき
・ キックセンサーの作動が ON のとき（→P.79）
・ 電子キーを携帯しているとき

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.118）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

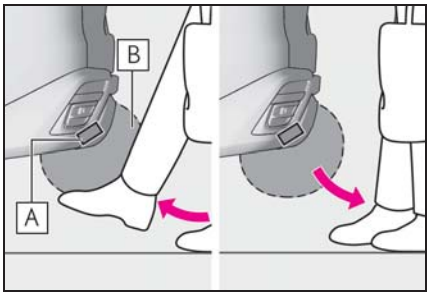
足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

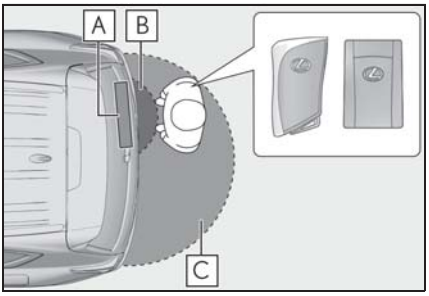
作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

■ キックセンサーを使用してバックドアから離れたあとに閉じて施錠する（ハンズフリークローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をし、バックドアから十分に離れることで、バックドアを自動で閉じたあと全ドアを施錠することができます。キックセンサーを使用するときは、エンジンスイッチが OFF、かつキックセンサーの作動が ON で（→P.79）、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.118）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

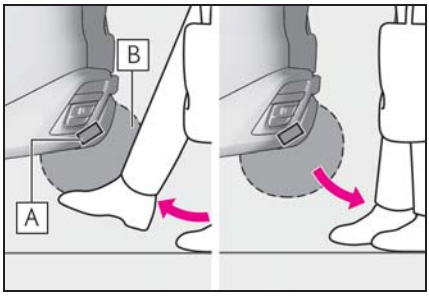
足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知すると、通常ブザーとは異なるブザー音が鳴りハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

4 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉まる途中で電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.98）作動が停止した状態から再度ハンズフリーパワーバックドアを作動させると、バック

ドアは自動で閉まります。

知識

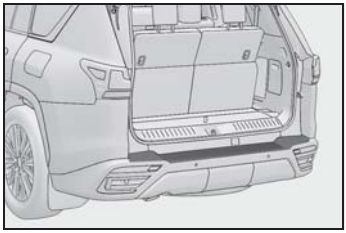
■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●エンジンスイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■リヤバンパー

リヤバンパー上部に過度の力がかかると変形したり破損したりするおそれがあります。



■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワーバックドアの作動がONのとき（→P.79）

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.105）

●エンジンスイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約3km/h未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーがPの位置にある

■パワーバックドアの作動について

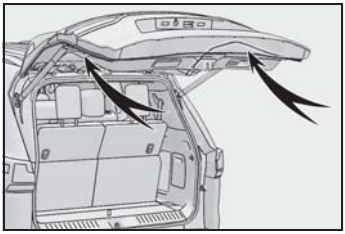
●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。

●パワーバックドアの作動がOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.97）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.97）

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.98）

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動が ON のとき

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●エンジンスイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が正常に作動しない状況

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

●車両に登録された電子キーの本数が増えたとき

■クローズ＆ロック機能※の作動条件

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●エンジンスイッチが OFF のとき

■クローズ＆ロック機能※が正常に作動しない状況

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチを押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを

入れたままパワーバックドア下部の

スイッチを押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチから離れた位置から押したとき

■**ハンズフリーパワーバックドアの作動条件**

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●キックセンサーの作動が ON のとき（→P.79）

●エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.118）

●足をリヤバンパー運転席側の下部に近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■**ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況**

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.119）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。

■**ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために**

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動を OFF にしてください。（→P.79）

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

■ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動が ON のとき ※

●ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●エンジンスイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 ※ が正常に作動しない状況

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

●車両に登録された電子キーの本数が増えたとき

●ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しないとき

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■バッテリーを再接続したとき

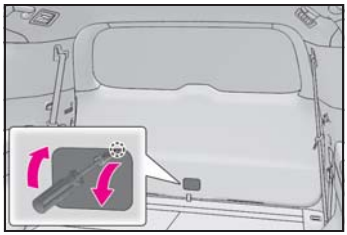
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

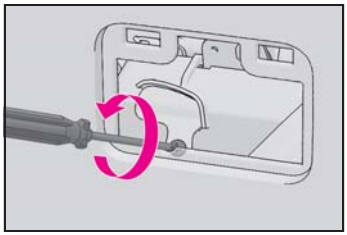
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

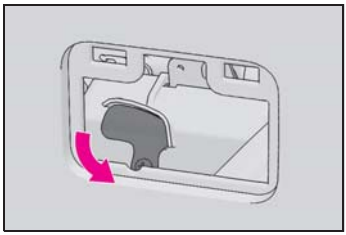
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



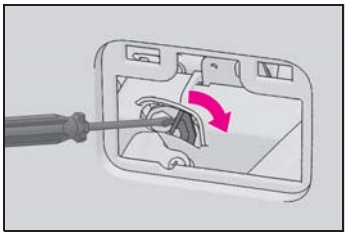
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

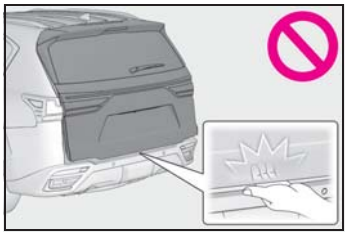
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.543）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

- 自動開閉中に作動条件（→P.109）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
  この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
  - 自動作動中、障害物に干渉したとき
  - エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパー下に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

警告

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能・ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※について

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

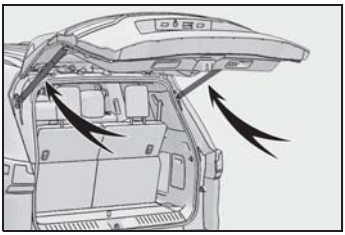
バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.109）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

注意

■クローズ＆ロック機能※について

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことを作動の合図でお知らせします。（→P.98）

車から離れるときは、作動の合図を確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、“車両設定”-🚗画面を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.79）

パワーバックドアの設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもと

にもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について

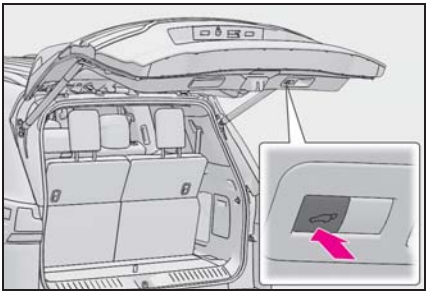
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.104）

2 バックドア下部の🚗スイッチを約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

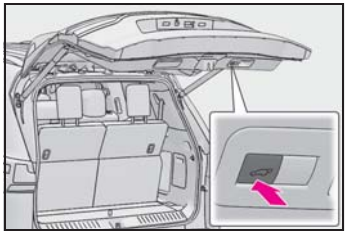


知識

■**バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには**

バックドア下部の🚗スイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■**カスタマイズ機能**

マルチメディア画面からもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.539）

バックドア下部の🚗スイッチまたはマルチメディア画面のうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

スマートエントリー＆スタートシステム

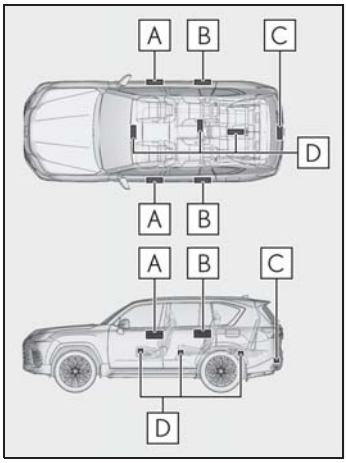
電子キー（カードキー★含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.97）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.104）
- エンジンを始動する（→P.181）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■アンテナの位置



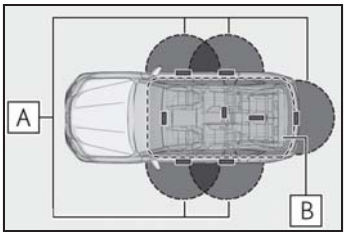
A 車外アンテナ（フロントドア）

B 車外アンテナ（リヤドア）

C 車外アンテナ（バックドア）

D 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・リヤドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを ACC にした（エンジンスイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■**節電機能**

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 3.5m 以内に電子キーを 2 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■**電子キーを節電モードにするには**

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン

・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.95）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.523 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネル・トノカバー（装着車のみ）・フロア上、またはドアポケット・グローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.119）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべての

ドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ハンドル下側のロックセンサーで操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※1についてご留意いただきたいこと

※1レクサス販売店での設定変更が必要です。

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.98）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
・ブレーキペダルを踏む
・エンジンスイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動開始も含む※2）してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。※2

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※2

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.98）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・エンジンスイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.98）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.98）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※2パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.97）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.542）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.119）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠（→P.523）

●エンジンの始動（→P.523）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.542）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.97, 523）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.523

●エンジンの停止：→P.183

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.118）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

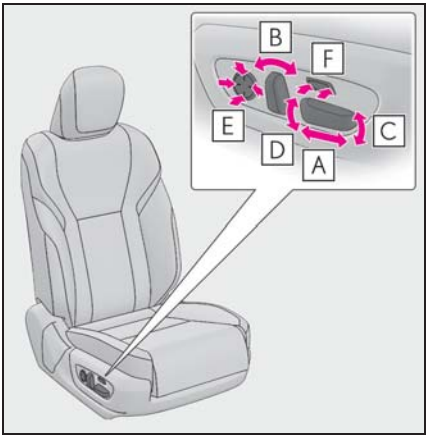
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**（→P.29）**

調整するには

▶ 手動式ヘッドレストタイプ



A 前後位置調整

B リクライニング調整

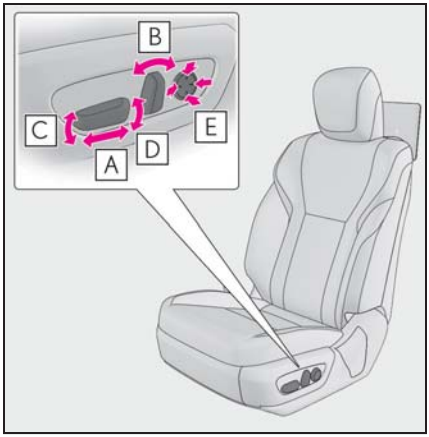
C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部硬さ調整

F クッションの長さ調整（運転席）

▶ 電動式ヘッドレストタイプ



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E ヘッドレストの調整（→P.140）

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井やサンバイザー等にあたらないように注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→P.161）

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろに異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し前方に少し移動します。

挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（4 人乗り車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■助手席を前倒しにしたとき（4 人乗り車）

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（4 人乗り車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

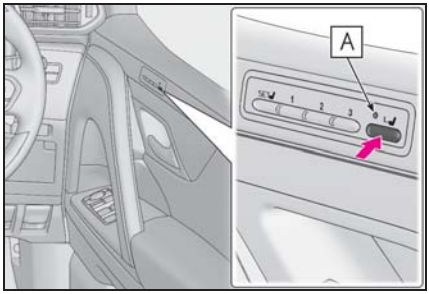
運転席から助手席を操作するには（4 人乗り車）

■ 運転席側シート調整スイッチでの操作（助手席操作モード）

助手席操作モードにすることで、運転席のシート調整スイッチで助手席を操作できます。

1 助手席操作モードボタンを押す

インジケーター A が点灯します。



2 運転席のシート調整スイッチを押して、助手席を操作する

助手席操作モードボタンをもう一度押すと、助手席操作モードが解除されます。

運転席のシート調整スイッチを約 30 秒間操作しなかった場合は、助手席操作モードが自動的に解除されます。

■ マルチメディア画面での操作

1 メインメニューの を選択する

2 “シート” を選択する

3 “アレンジ” を選択する

4 “助手席” を選択する

5 操作ボタンを選択する

A 助手席を前方に移動し、背もたれとヘッドレストを前倒しにする（エクストラフロント）

B 助手席を後方に移動し、背もたれとヘッドレストを中立位置にもどす

途中で停止するときは、助手席操作ボタンのA または B を選択するか、またはシートスイッチを押します。

C 後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■**助手席側シート調整スイッチでの可倒式ヘッドレストの操作について**

助手席のヘッドレストが前倒しのとき、助手席側のドアを開けて、助手席側シート調整スイッチで助手席位置を後方に調整、またはリクライニングを後方に倒すと、スイッチを離したあと、ヘッドレストが中立位置までもどります。

ヘッドレスト作動中に次のいずれかの操作をすることで、ヘッドレストの作動を停止することができます。

- 助手席側シート調整スイッチのいずれかを操作する
- ドライビングポジションメモリーの SET ボタンを押す
- ドライビングポジションメモリーの1～3 のボタンを押す
- シートスイッチを押す

■**マルチメディア画面での助手席操作について**

次のときは、助手席を操作できません。

- エンジンスイッチが ACC または OFF のとき
- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

リヤ席から助手席を操作するには（4 人乗り車）

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” を選択する（→P.401）

2 “助手席” を選択する

3 操作ボタンを選択する

作動条件を満たしていないときは、操作

ボタンがグレー表示になります。

A 助手席のリクライニングを調整する

ボタンをタッチしているあいだ、背もたれが動きます。

B 助手席の前後位置を調整する

ボタンをタッチしているあいだ、助手席が動きます。

C 後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

D 助手席を前方に移動し、背もたれを前倒しにする

ヘッドレストも前倒しになります。

途中で停止するときは、“停止”をタッチします。

E 助手席を後方に移動し、背もたれを中立位置にもどす

ヘッドレストも中立位置にもどります。

知識

■ **リヤ席からの助手席操作について**

● 次のときは、助手席を操作できません。
- エンジンスイッチが ACC または OFF のとき
- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

リヤシート（5 人乗り車／7 人乗り車）

レバー操作もしくはスイッチ操作により、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

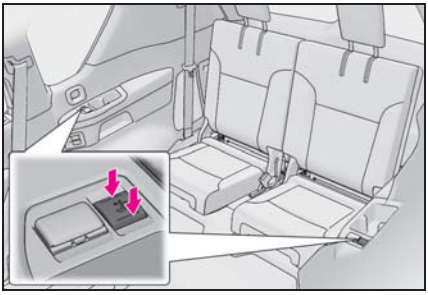
▶ セカンドシート

レバーを引いて、背もたれを調整する

▶ サードシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチを押して、背もたれを調整する

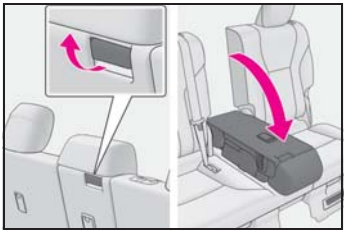


知識

■中央席の前倒しについて

中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。



警告

■リヤシートを操作するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■リヤシートを操作するときは

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

サードシート★へ乗り降りするときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

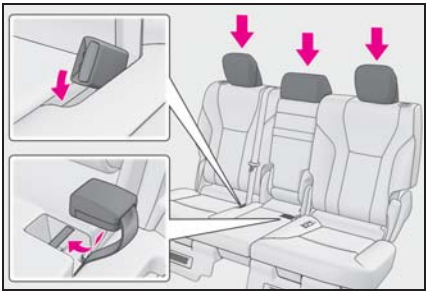
サードシートへの乗り降りの際は、“セカンドシートの格納のしかた”の1の操作を行ってください。(→P.128, 129)

セカンドシートを格納するときは

■ セカンドシートを格納する前に

1 バックルを格納し、ヘッドレストをいちばん下まで下げる

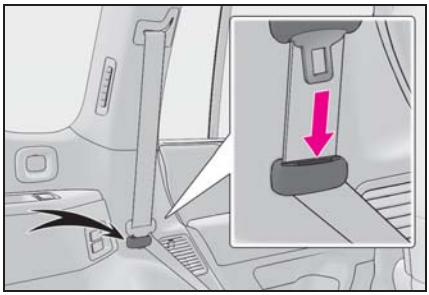
中央席のバックルは、バンドで固定してください。



2 シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

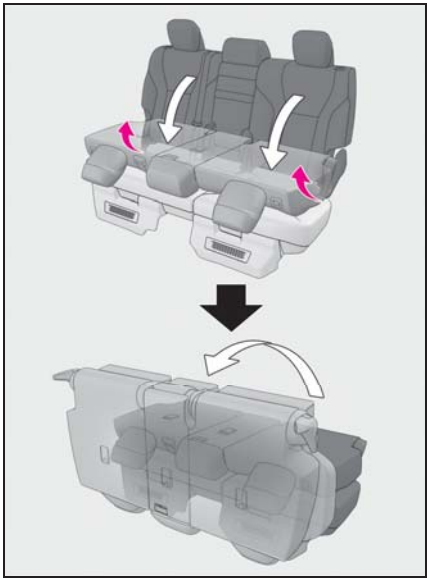
使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



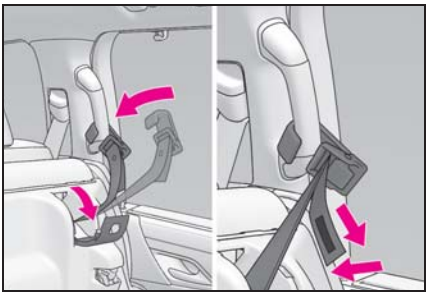
■ セカンドシートの格納のしかた（マニュアルタイプ）

1 レバーを引く

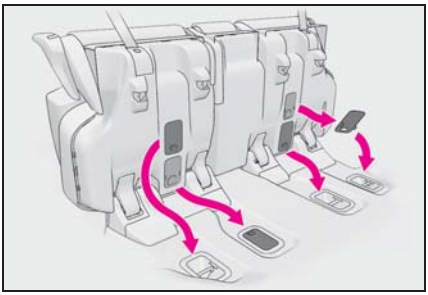
背もたれが前に倒れ、シートがはね上がります。



2 カバーを開け、アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する



3 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずしシートフックの位置に取り付ける



■ **セカンドシートの格納のしかた（パワータイプ）**

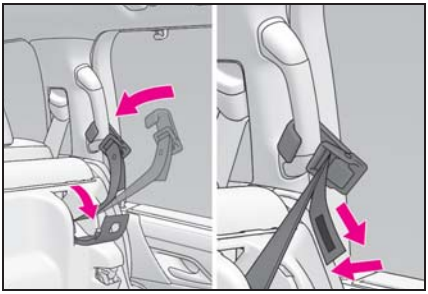
1 スイッチを押し続ける

フロントシートが前方へ移動して停止します。作動中はスイッチから手を離さないでください。

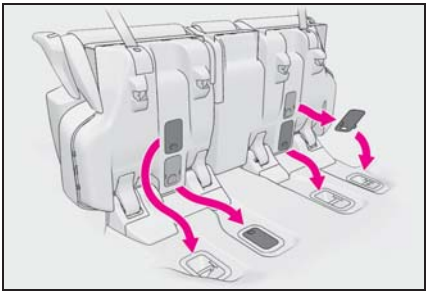
2 フロントシートが停止したことを確認してスイッチから手を離す

背もたれが前に倒れ、シートがはね上がります。

3 カバーを開け、アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する



4 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずしシートフックの位置に取り付ける



知識

■作動条件（パワータイプ）

エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

■セカンドシート（パワータイプ）を格納するときは

●次のときはセカンドシートが正常に格納されず、作動が停止します。
・背もたれが前倒しになっているとき
・中央席が前倒しになっているとき
・アームレストを使用しているとき

●シートクッションにものが置いてある場合、作動が停止する場合があります。

警告

■セカンドシートを格納するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する

●シート可動部分には絶対に手や足などを入れない

●お子さまにシートの操作をさせない

■セカンドシートを格納したときは

●走行中は、格納したシートに乗ったり、ものを置いたりしないでください。

●シートフックの位置に確実にシートフックカバーを取り付けてください。お守りいただかないと、やけどをするおそれがあり危険です。

●コンソールボックス後方のアクセサリーコンセントや充電用 USB 端子に電気製品を接続したまま、セカンドシートを格納しないでください。電気製品にセカンドシートがぶつかり、破損するおそれがあります

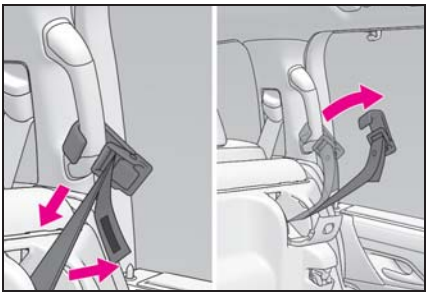
●シートを格納したときはフックで固定してください。シートが固定されていないと、走行中に突然シートがもどり重大な傷害を受けるおそれがあります。

セカンドシートをもとにもどすには

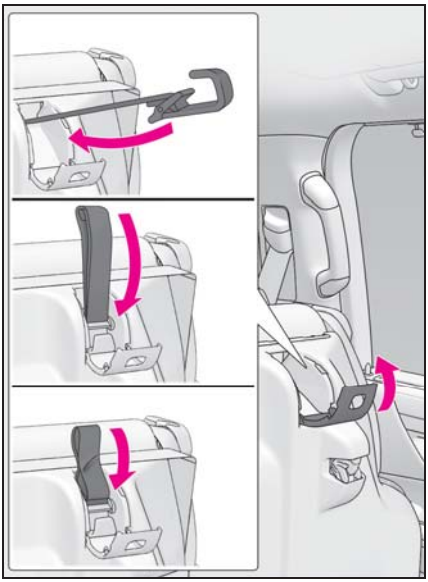
1 アシストグリップからフックを取りはずす

アシストグリップから取りはずしにくい

ときは、ベルトをゆるめてください。

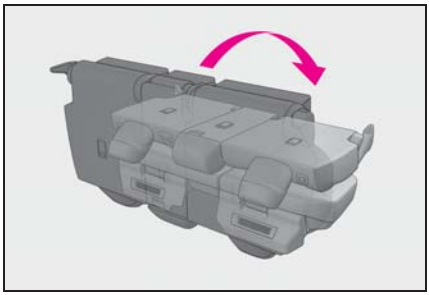


2 フックとタンブルバンドを格納し、カバーを閉める



3 シートをもとにもどす

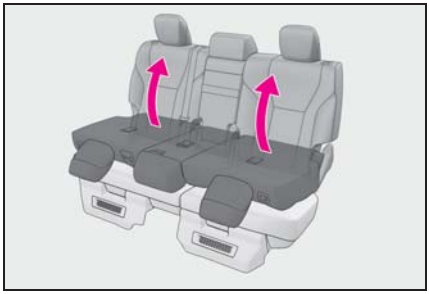
ロックされる位置までシートを押してください。



4 背もたれを起こす

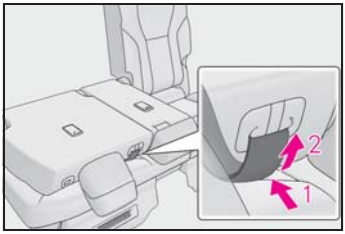
ロックされる位置まで背もたれを起こしてください。

パワータイプ：フロントシートがもとの位置にもどります。セカンドシートとの距離が近い場合、フロントシートの作動が制限されることがあります。



知識

■前倒ししたあと、背もたれが引き起こせない場合は



1 背もたれの先端 を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる

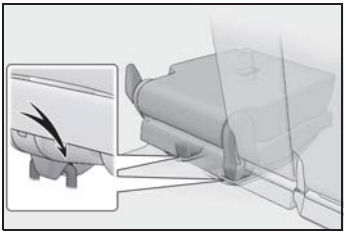
2 シートベルトを少し巻き取らせてシー

トベルトのロックを解除する

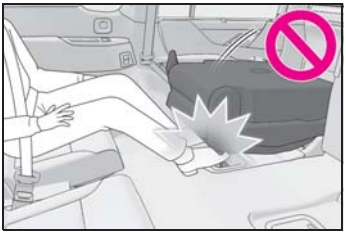
警告

■シートをもとにもどすときは

●シートを降ろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。



■シートをもとにもどしたあとは

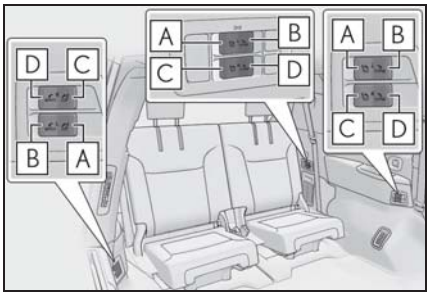
●シートをもとにもどしたあとはシートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトを挟み込まないようにする

●シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する

サードシート★の操作スイッチについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 復帰スイッチ（助手席側用）

B 格納スイッチ（助手席側用）

C 復帰スイッチ（運転席側用）

D 格納スイッチ（運転席側用）

シート側とバックドア側のスイッチで操作することができます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

■スイッチ操作について

●サードシートが作動中はスイッチから手を離さないでください。作動中に手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

●サードシートがセカンドシートなどの周辺部品に近い場合は、サードシートの作動が制限されることがあります。

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は

システムに異常が発生すると、エンジンスイッチが ON のあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。この場合は、次の操作を行ってください。

1 バックドア側の復帰スイッチを押し続ける

2 10 秒以内にシート側の格納スイッチを 5 回押し、ブザーが 3 回鳴るのを確認する（ブザーが 3 回鳴るまで、バックドア側の復帰スイッチを離さないでください）

3 シート側またはバックドア側の復帰スイッチを押し続ける

シートの格納作動が行われたあと、ブザーが止まります。

この処置を行っても異常が解消されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

サードシート★を格納するときは

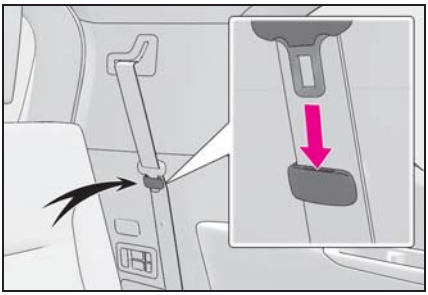
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サードシートを格納する前に

1 シートベルトハンガーにシートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



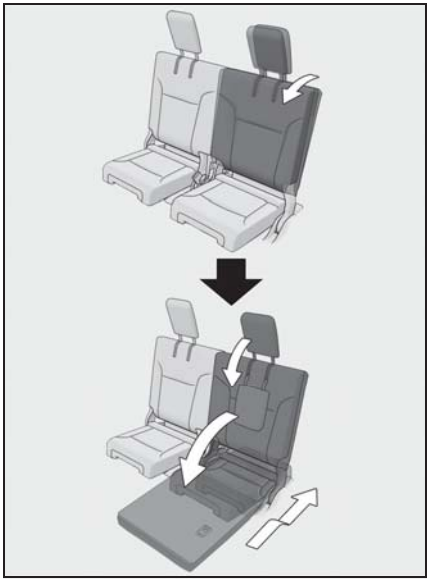
2 セカンドシートの背もたれがサードシートに干渉しないように調整する（→P.127）

■ サードシートの格納のしかた

格納スイッチを押し続け、サードシートを格納する

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、ヘッドレストが倒れシートクッションが自動でフロアに格納されます。

格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



警告

■サードシートを格納するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する
- シート可動部分には絶対に手や足などを入れない
- お子さまにシートの操作をさせない

警告

- シートクッションだけを格納した状態で使用しない

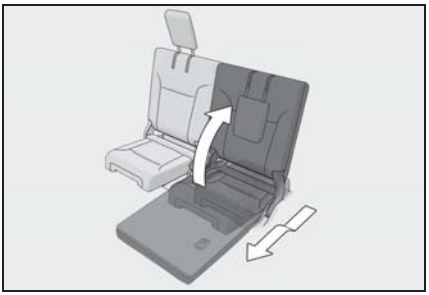
サードシート★をもとにもどすには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

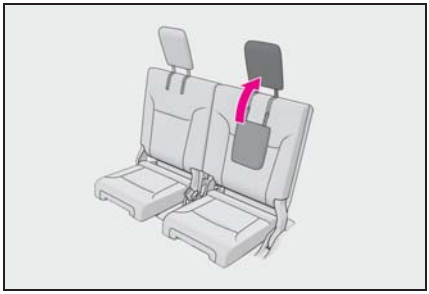
1 復帰スイッチを押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

復帰作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



2 ヘッドレストを起こす



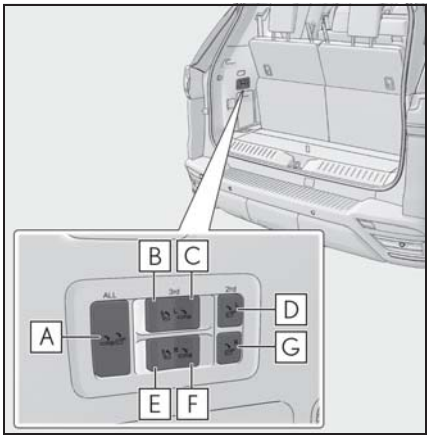
警告

■ **シートをもとにもどしたあとは**

- シートベルトを挟み込まないようにする
- シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する
- ヘッドレストをもとどおりに起こす

ラゲージルームの操作スイッチ★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A オートアレンジスイッチ

B サードシート復帰スイッチ（助手

席側用）

C サードシート格納スイッチ（助手席側用）

D セカンドシートスイッチ（助手席側）

E サードシート復帰スイッチ（運転席側用）

F サードシート格納スイッチ（運転席側用）

G セカンドシートスイッチ（運転席側）

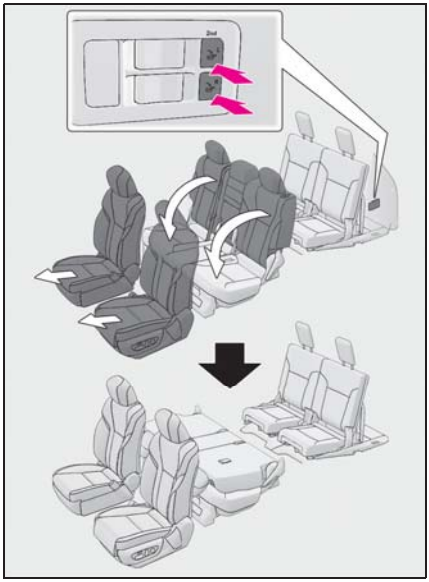
グレード、オプションなどにより、装着されているスイッチが異なります。

■ セカンドシートを操作する

セカンドシートスイッチを押し続ける

背もたれが前に倒れます。

セカンドシートをもとにもどすときは：→P.130



■ サードシートを操作する

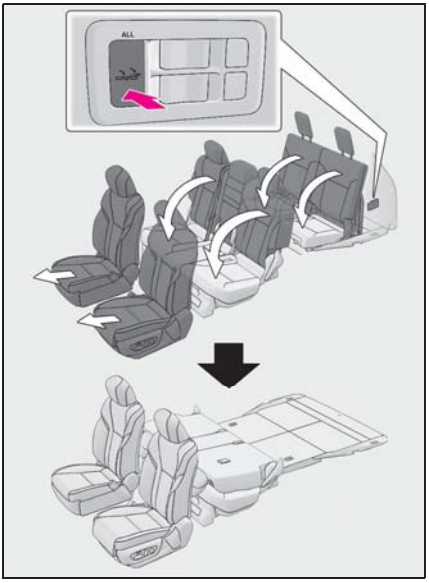
→P.132

■ セカンドシートとサードシートを同時に格納する

オートアレンジスイッチを押し続ける

セカンドシートとサードシートが格納されます。

シートをもとにもどすときは：→P.130, 134



知識

■作動条件

→P.132

■スイッチ操作について

→P.132

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は

→P.132

リヤシート（4 人乗り車）

警告

■シートを調整するとき

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●前後調整やオットマンの操作をするときは、足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■オットマンの使用について

●オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●走行中は角度調整をしないでください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

注意

■オットマンの故障を防ぐために

●足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■後席ディスプレイの故障を防ぐために（オットマン付きシート）

後席ディスプレイを手で動かさないでください。ディスプレイが損傷するおそれがあります。

調整するには

■ オート作動での操作

シートをあらかじめ登録されたモードにすることができます。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.401）

2 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する

3 モードボタンを選択する

作動条件を満たしていないときは、モードボタンがグレー表示になります。

A オットマン付きシートの背もたれを前倒しにして、リヤ席の背もたれを倒す（リラックスモード）

オットマン付きシートは前方に移動し、ヘッドレストも前倒しになります。

途中で停止するときは、“ 停止 ” をタッチします。

B 中立位置にする（ビジネスモード）

C オットマン付きシートの後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ マニュアル作動での操作

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.401）

2 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する

3 ボタンを選択して調整する

A リクライニング調整

B クッション前端の上下調整

C オットマン角度調整（オットマン付きシート）

D 前後位置調整（助手席）

ボタンをタッチしているあいだ、シートが作動します。

知識

■ビジネスモードの作動条件

リヤ席シートベルトがバックルに留められているときは、ビジネスモードを選択できません。

■リラックスモードの作動条件

次のときは、リラックスモードを選択できません。

●エンジンスイッチがACCまたはOFFのとき

●助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFFにするまで、検知状態が継続します。

●助手席シートベルトがバックルに留められているとき

●助手席ドアが開いているとき

■プリクラッシュシートバック

→P.216

フロント席からリヤ席をもどすには

1 メインメニューの を選択する

2 “シート” を選択する

3 “アレンジ” を選択する

4 “リヤ席” を選択する

5 “戻す” を選択する

リヤ席が中立位置に戻ります。

知識

■フロント席からのリヤ席操作について

次のときは、リヤ席を操作できません。

●リヤ席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFFにしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

●リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

警告

■フロント席からリヤ席をもどすとき

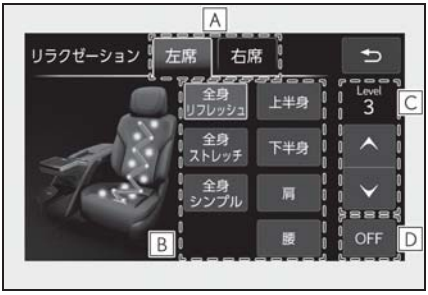
リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

リヤシートリラクゼーションシステム

エアーの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが装備されています。リラクゼーションシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

リラクゼーションシステム操作画面を表示するには、リヤマルチオペ

レーションパネルの HOME 画面で“リラクゼーション”を選択します。（→P.401）



A 操作するシートの選択

B コースの選択

コースをタッチすると作動が開始します。

C 作動の強さ調整

5 段階で調整することができます。

D 作動の停止

シートに乗員がいないときは、リラクゼーションシステムを使用しないでください。

知識

■ **リヤシートリラクゼーションシステムについて**

● 作動条件
・ エンジンスイッチが ON のとき
・ 車室内の温度が高温でないとき
・ リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

● 自動停止機能
・ 作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■ **リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について**

● 妊娠中の方、出産直後の方、静養を要する疾患（心臓疾患）のある方は、使用する前に必ず医師に相談してください。

● お子さまは使用しないでください。

● 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

● 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

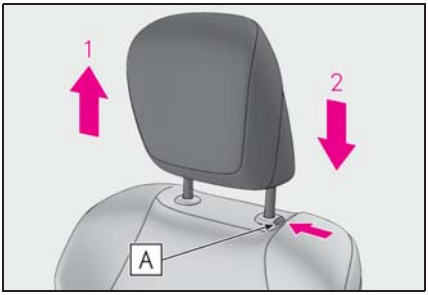
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシート装着車：サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする

上下調整するには

■ フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）

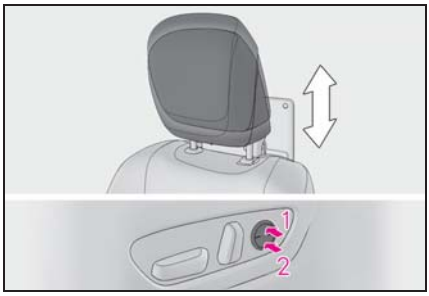


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ フロントシート（電動式ヘッドレスト）

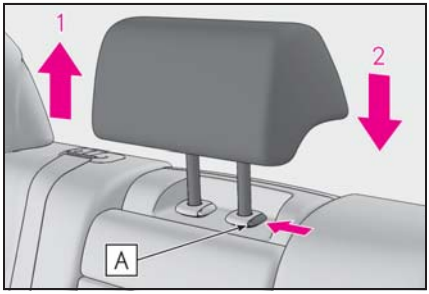


1 上げる

2 下げる

■ セカンドシート（中央席）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



1 上げる

2 下げる

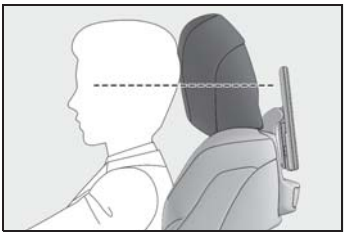
下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート・セカンドシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してくださ

い。



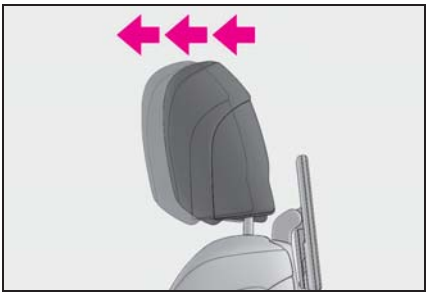
前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

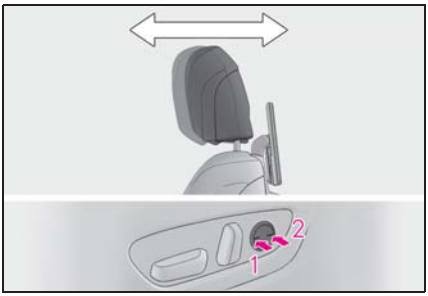
▶ 手動式ヘッドレスト

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



▶ 電動式ヘッドレスト



1 前方に移動

2 後方に移動

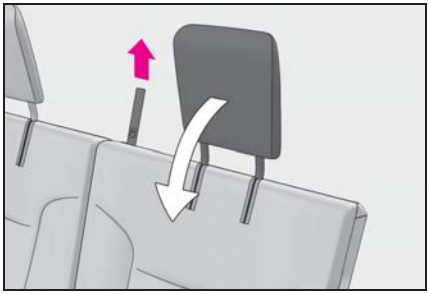
倒すには（サードシート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

倒す

ストラップを引きながら操作します。

起こすときは、ヘッドレストを引き上げます。

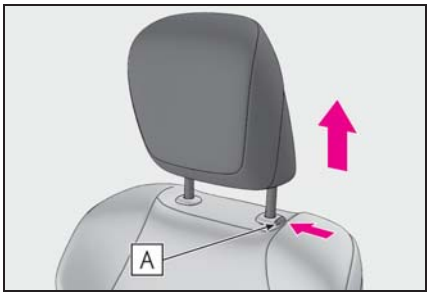


ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。
（→P.123, 127, 137）



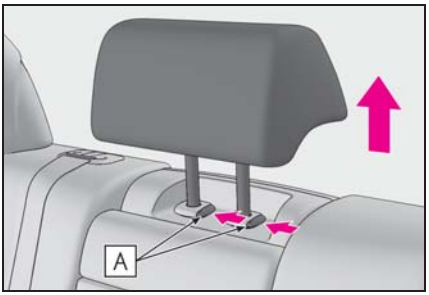
■ セカンドシート（中央席）★

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの角度をかえてください。(→P.127)



■ **フロントシート（電動式ヘッドレスト）・サードシート★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

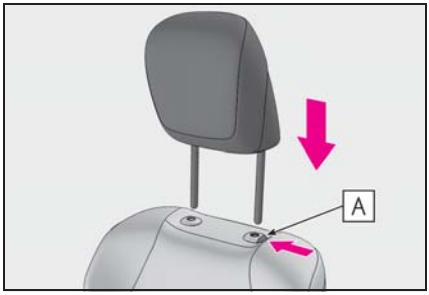
ヘッドレストを取りはずすことはできません。

ヘッドレストを取り付けるには

■ **フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）**

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。

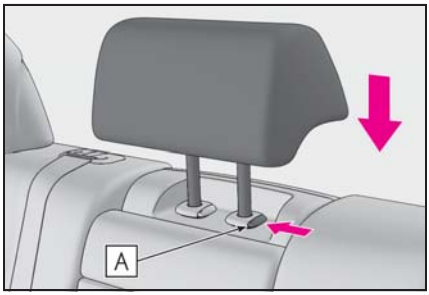


■ **セカンドシート（中央席）★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

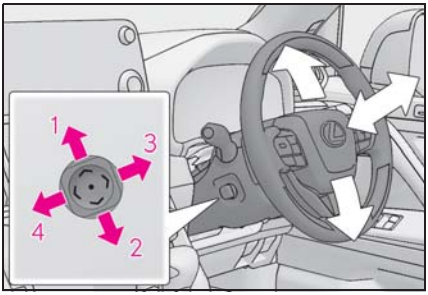
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC、または ON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.162）

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.161）

■ハンドル位置調整について

車両カスタマイズ機能の「降車時の運転席シート前後移動量」で「なし」以外を選択しているときは、エンジンスイッチが OFF でも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整できます。

警告

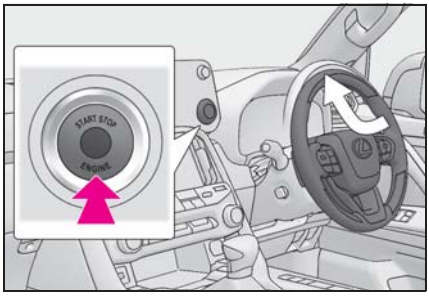
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートアウェイ＆オートリターン機能

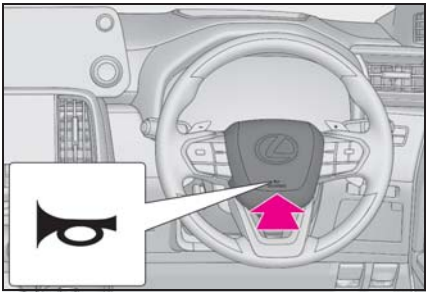
エンジンスイッチを OFF にすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

エンジンスイッチを ACC または ON にすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

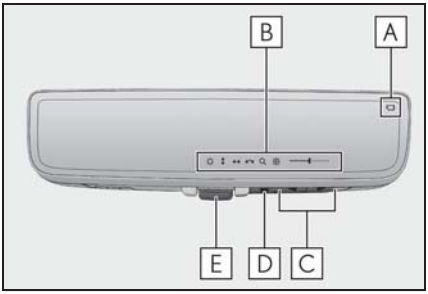
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.146)

・光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.146）・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

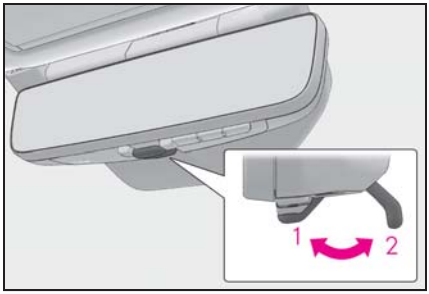
調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェードを閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・映像の色と実際の色が異なって見える

・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

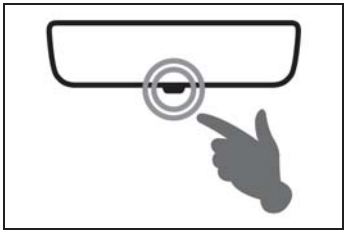
●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

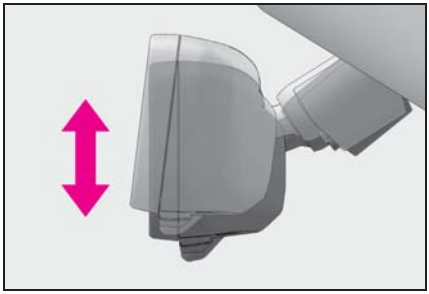


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

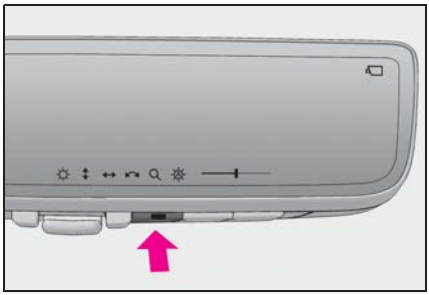


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 ▭ または ▭ を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☼	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↻	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
Ⓐ	自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON ／ OFF 切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能の ON ／ OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

▶ デジタルミラーモード使用時

→P.146

▶ 光学ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。

2 ▬ または ▬ を押して、自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

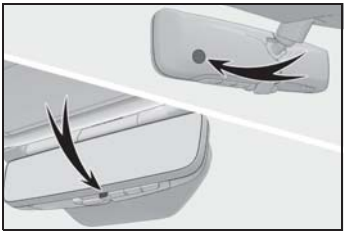
知識

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

お手入れについて

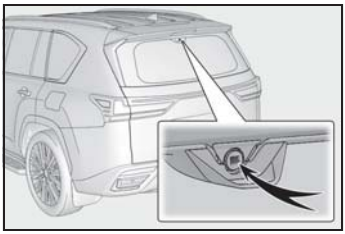
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



注意

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

・有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

注意

・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフからの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	光学ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	・光学ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガー（→P.408）を使用し、曇りを取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった。	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイ上が暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます）

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.408)

■ 自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.147)

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない

必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

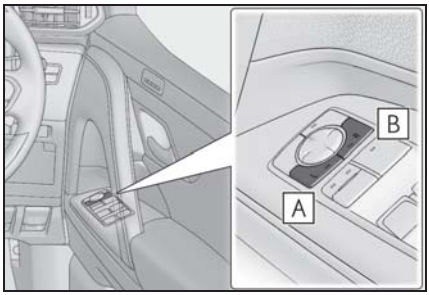
■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

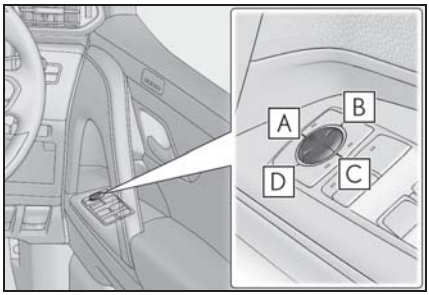


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または、ON のとき

■ ミラー角度の自動調整

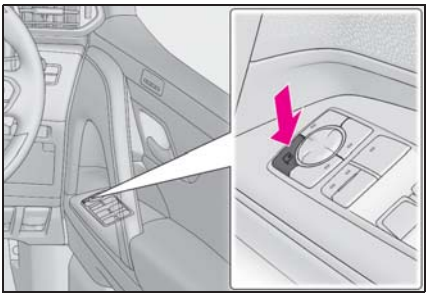
お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.162）

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



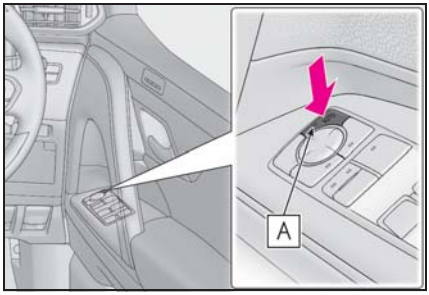
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■ カスタマイズ機能

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.544）

警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチが解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

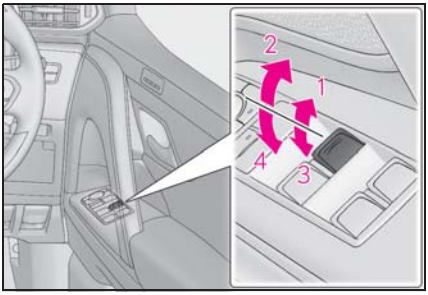
通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位

置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **エンジン停止後の作動**

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ **音声対話サービスでの操作について★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ **挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ **巻き込み防止機能**

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ **ドアガラスを開閉することができないとき**

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.523）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.97）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.63）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告機能

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

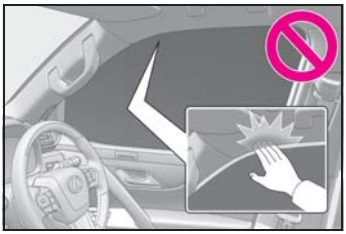
ドアロック連動ドアガラス開閉機能などを設定することができます。
（カスタマイズ一覧：→P.544）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.157）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

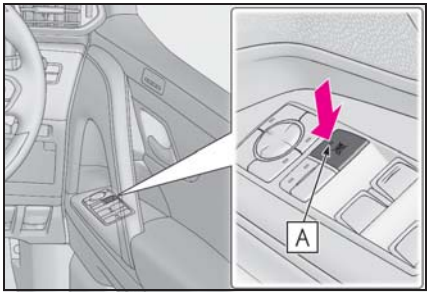
■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服など巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

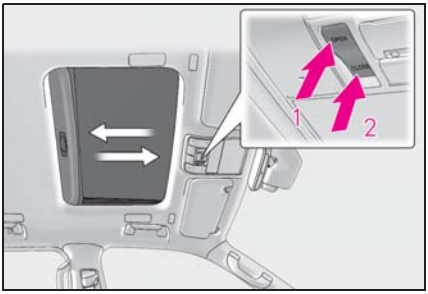
ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

ムーンルーフ

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ 開閉するには



1 ムーンルーフを開く ※

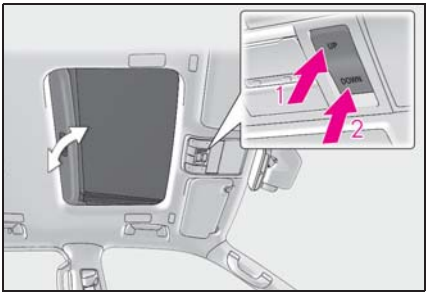
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ムーンルーフを開閉することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.523）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.97）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.63）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します ※2。その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し ※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “UP” 、または、 “CLOSE” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告機能

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.544）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車両から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

マイセッティングが ON の場合：

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストにそれぞれ 3 パターンまで登録できます。

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

マイセッティングが OFF の場合：

ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

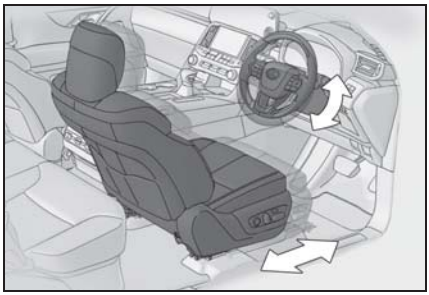
マイセッティングについては、P.166 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.544）

警告

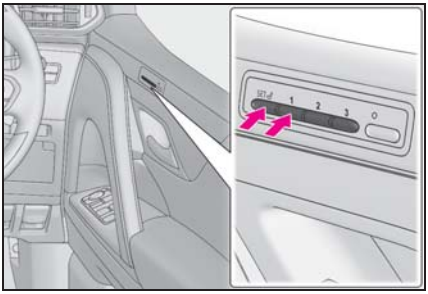
■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションをポジションメモリーボタンに登録するには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 エンジンスイッチを ON にする
3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■登録できるシート位置（→P.123）

腰部硬さ調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

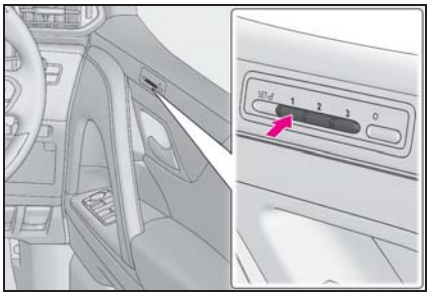
警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 エンジンスイッチを ON にする
3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作

する（シートのみ作動停止）

● ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ **音声対話サービスでの操作について★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

● ドライビングポジションの登録

● ドライビングポジションの呼び出し（シフトレバーが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ **エンジンスイッチ OFF 後の作動**

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ **ポジションを呼び出すとき**

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■ **登録したシート位置が呼び出せないとき**

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）

■ マイセッティングが ON（電子キーで個人を特定）の場合

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

1 マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 エンジンスイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する

初期化方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが ON（指紋情報で個人を特定）の場合

指紋認証システムに指紋情報を登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼

び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

エンジンスイッチを ACC または ON にする

指紋認証に成功したあと、シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。
ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

● メモリーコール機能の解除方法

指紋認証システムで指紋情報を消去する

消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが OFF の場合

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

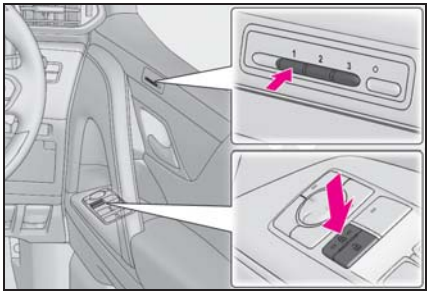
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチを ON にする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピー ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



● ドライビングポジションの呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 エンジンスイッチを ACC または ON にするか、運転席シートベルトを着用する

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチを ON にする
2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P.544）

リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

ポジションを登録するには

1 エンジンスイッチを ON にする
2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.401）
3 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する
4 リヤ席を好みの位置に調整し、“ 登録 ” を選択する
5 “1” または “2” を選択する

すでに登録されている場合は、上書きされます。

知識

■ **ポジションメモリーを正しくお使いいただくために**

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

ポジションを呼び出すには

1 エンジンスイッチを ON にする

2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.401）

3 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する

4 “1” または “2” を押し続ける

登録位置になると作動が停止します。

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除はマルチメディア画面から行えます。別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー & スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。（→P.118）

● 指紋認証システム

エンジンスイッチの指紋センサーに指紋情報を登録した指をタッチして指紋認証をすることで個人を特定します。（→P.67, 181）

電子キーで個人を特定した場合でも、指紋認証による個人の特定が優先されます。

● Bluetooth® 対応機器

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続するこで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーや指紋認証システムを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトレバーをP にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける
- 指紋情報で個人を特定：エンジンスイッチを ACC または ON にする

ドライビングポジションの登録、再生については、P.163 をご参照ください。

● メーター表示 ※ ／ヘッドアップディスプレイ表示 ※ ／マルチメディア設定 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● マルチテレインモニター表示 ※

個人特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。（→P.305）

● マルチメディア画面で設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 170

荷物を積むときの注意..... 177

トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）..... 178

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 181

オートマチックトランスミッション..... 186

方向指示レバー..... 190

パーキングブレーキ..... 190

ブレーキホールド..... 193

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 196

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 199

フォグランプスイッチ..... 203

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 204

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 206

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 208

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ... 210

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 215

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 225

RSA（ロードサインアシスト）. 234

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 237

先行車発進告知機能..... 249

ドライバー異常時対応システム 251

ITS Connect.....256

BSM（ブラインドスポットモニター）.....263

クリアランスソナー.....270

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....276

RCD（リヤカメラディテクション）.....281

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....284

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）.....289

パーキングサポートブレーキ（後方車両）.....292

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....294

マルチテレインモニター.....296

ドライブモードセレクトスイッチ.....357

AHC（アクティブハイトコントロール）.....359

フルタイム 4WD.....366

フロントデフロック.....369

リヤデフロック 371

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）.....372

マルチテレインセレクト.....377

ダウンヒルアシストコントロールシステム 380

プラスサポート（販売店装着オプション）.....382

運転を補助する装置.....386

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 394

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.181

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.187）
2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→P.190）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.190）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P.187）

■ 駐車する

1 車を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→P.190）、シフトレバーを P にする（→P.187）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.187）
2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.190）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.387）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況

に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.500）

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外等の一般走行	不要
高速走行（約 100km/h 定速）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場などの 100km/h 以上の連続走行	約 1 分

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
  - ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
  - ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
  - ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.488 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.186)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。

急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

●走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。(表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります)
  この場合、シフトレバーをPに入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切りかえを完了させてください。
  (→P.366)
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
  また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
  また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.510 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフ

トポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

● アクティブ TRC の作動を停止（→P.388）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、アクティブ TRC の作動を停止してください。（→P.388）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

・ トランスファースイッチが L4 にあるとき
・ センターデフロック状態のとき
・ マルチテレインセレクトを選択しているとき

● タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

● 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.539）

・ エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

● 次のときは後退速度の抑制制御は作動しません。

・ トランスファースイッチが L4 にあるとき
・ センターデフロック状態のとき

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・トノカバー（装着車のみ）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。

警告

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 75kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

■荷物を積むとき

ムーンルーフに荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）

接続部品を取り付けることによりトレーラーがけん引可能になります。必要な部品などの情報はレクサス販売店にお問い合わせください。

けん引するときは各部品の取扱説明書もお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

トレーラーをけん引する場合は、運輸支局・検査登録事務所へ所定の申請が必要となります。詳細は、レクサス販売店または、運輸支局・検査登録事務所へお問い合わせください。

トレーラーをけん引すると、ハンドル操作・走行性能・制動力・耐久性・燃費に悪影響をおよぼします。ご自身の安全と安心のために、正しい器具を適切に使用し、走行習慣にも注意を払ってください。また、車両・トレーラーに過積載しないでください。

トレーラーを安全にけん引するため、十分な注意を払い、トレーラーの特性と操作状況に応じた走行を行ってください。

けん引する前に

■ 重量制限について

トレーラーをけん引する前に、車両のけん引能力・車両総重量を確認してください。（→P.538）

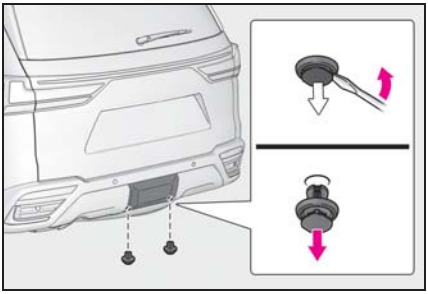
トレーラーをけん引するときは

次のシステムが正常に作動しないおそれがあるため、各システムを OFF にしてください。

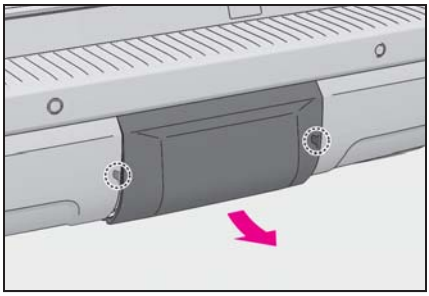
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.225）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.237）
- BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.263）
- クリアランスソナー（→P.270）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.276）
- RCD（リヤカメラディテクション）（→P.281）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.284）

ヒッチカバーの取りはずし

1 クリップを取りはずす

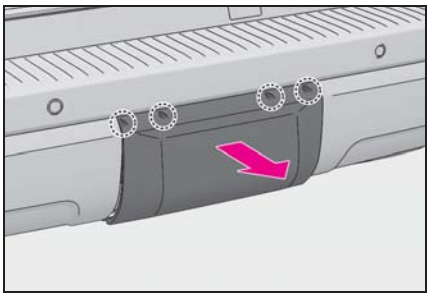


2 ヒッチカバーの下端を手前に引いて、ツメ（2ヶ所）を取りはずす



3 ヒッチカバー本体を手前に引いて取りはずす

カバーをもとにもどすときは、逆の手順で取り付けてください。



警告

この項目に記載されている、すべての指示に従ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■事故や傷害の発生を防ぐために

- トレーラーを連結するときは、車高を L モードにしてから、AHC を OFF にしてください。AHC が OFF になっていないと、オートレベリング機能によって車高がかわり、体が車両に挟まるなどの事故につながるおそれがあり危険です。（→P.359）

警告

- トレーラーをけん引しているときは、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。

■トレーラーをけん引するときは

- 許容車両総重量・けん引能力および合計重量をこえていないことを確認してください。（→P.538）
- 連結するトレーラーの各機能が正常に作動することを確認してください。
- 接続部品が確実に取り付けられていることを確認してください。

■けん引時の車速について

けん引時の法定最高速度をお守りください。

■長い下り坂を走行するときは

減速し、ダウンシフトしてください。急激なダウンシフトを行わないでください。

■ブレーキペダルの操作について

ブレーキペダルをくり返し踏んだり、長時間踏み続けたりしないでください。

ブレーキの過熱や、ブレーキ性能の低下などにつながるおそれがあります。

注意

■ヒッチについて

トレーラーのヒッチは、メーカーごとに許容荷重が異なります。車両がより大きなけん引能力を備えていたとしても、装着されているヒッチの許容荷重を把握し、ヒッチの許容荷重を絶対にこえないようにしてください。ヒッチのメーカーが設定した許容荷重をこえると、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■トレーラーのランプについて

トレーラー側のランプ類で使用できる電力量は、次のとおりです。下記の電力量を上まわるランプ類を使用しないでください。また、装飾等の目的でのランプ類の増設も行わないでください。

- 制動灯：合計 42W 以下（例：21W×2 灯）
- 方向指示灯（右）：合計 21W 以下（例：21W×1 灯）
- 方向指示灯（左）：合計 21W 以下（例：21W×1 灯）
- 尾灯・番号灯・車幅灯：合計 10W 以下（例：5W×2 灯）
- 後退灯：合計 32W 以下（例：16W×2 灯）

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.190）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。

4 指紋認証システムが ON のとき：エンジンスイッチの指紋センサーに指紋情報を登録した指をタッチして指紋認証をする（→P.67）

指紋認証に成功すると “ピッ” とブザーが鳴ります。

極端に素早い操作や指をスライドさせながらの操作をすると指紋認証に失敗することがあります。

5 エンジンスイッチを短く確実に押す

指紋認証システムが ON のときは、指紋認証に成功し、“ピッ” とブザーが鳴ったあと、約 5 秒以内にエンジンスイッチを押してください。時間がかかりすぎると、再度指紋認証をする必要があります。

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

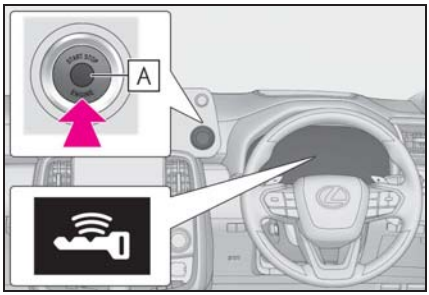
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

プラスサポート★をご使用の方は、P.382 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどに より、装備の有無があります。



A 指紋センサー

知識

■エンジンスイッチ文字照明演出

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が明るく点灯します。
- エンジンスイッチがACCまたはONのときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。

●エンジンスイッチをACCまたはONからOFF にしたときは、エンジンスイッチ照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P.62）
レクサス販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.523 を参照してください。
または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.100）はエンジンを始動できます。

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.524 を参照してください。

■指紋認証について

●指紋情報の登録本数によって、指紋認証の照合に時間がかかることがあります。

●指紋センサーにタッチするときは、指がセンサーの全面にかかるようにしてください。指先や指の側面で押すと認証できないことがあります。

●タッチ操作はゆっくり行ってください。速すぎたり、強すぎたり、スライドしながら触ると、正常に認識できないことがあります。

●爪が長いなどの理由で、指紋認証に使用する指でエンジンスイッチを押しにくいときは、指紋認証に成功したあと、一度指を離してから、押すことが可能な別の指でエンジンスイッチを押してください。

●指紋認証に失敗した場合、“登録した指でスイッチを ゆっくり押してください” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

●指紋認証に 3 回連続で失敗した場合、“ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

●指紋情報を登録済みのお客様が不明、または指紋認証に成功しない場合、ブレーキペダルを踏みながら電子キーをエンジンスイッチにかざし、エンジンスイッチを押してください。
（→P.523）

■電子キーの電池の消耗について

→P.93

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.119

■ご留意いただきたいこと

→P.120

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください” が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。

●短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2～10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.477

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.523 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.190）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを P の位置にする（→P.187）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

エンジンスイッチを押すときは、シフトレバーから手を離してください。

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

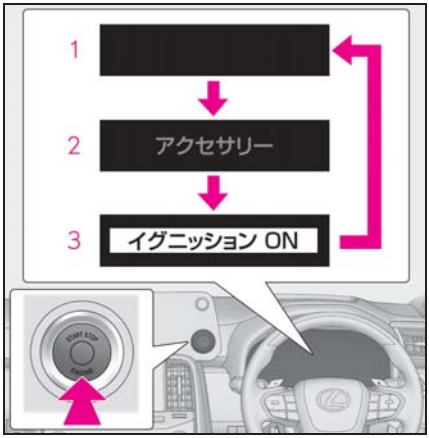
警告

■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.488）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを短く確実に押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20 分以上 ACC か ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2 シフトレバーを P の位置にする

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
4 マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

注意

■バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチは ON のままになるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.189)

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※2シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作して変速段を切りかえることにより、適切なエンジンブレーキ力が得られます。

知識

■**リバース警告ブザー**

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■**オートマチックトランスミッションの保護制御**

●ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。

●トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに“トランスミッションオイル高温　安全な場所に停止し取扱書を確認してください”が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき**

エンジンブレーキを目的にDポジションで走行中に走行モードをスポーツSモードやスポーツS＋モード（→P.357）にしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

■**急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）**

→P.175

■**AI-SHIFT**

AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

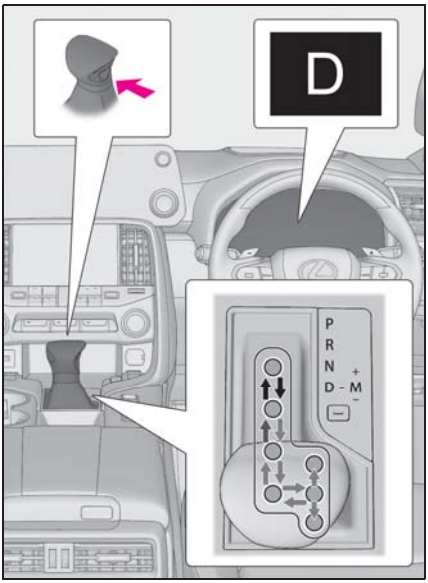
AI-SHIFTは、シフトレバーをDにしているときに自動的に作動します。（シフトレバーをMにすると、機能が解除されます）

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

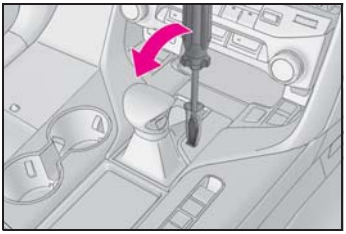
エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

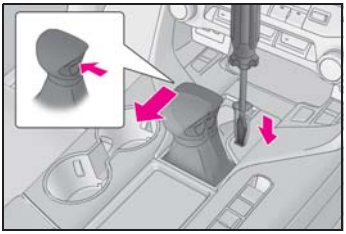
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

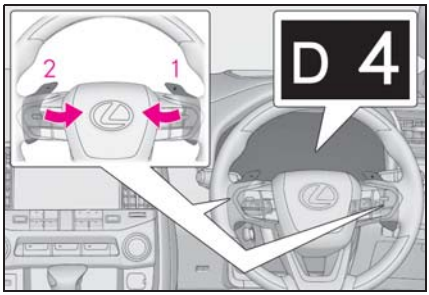
走行モードの選択

→P.357

D ポジションで変速段選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。

変速段を選択することで、使用する変速段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。



1 シフトアップ
2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

知識

■変速段機能

- エンジンブレーキ力は、10 段階から選択が可能です。
- 変速段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

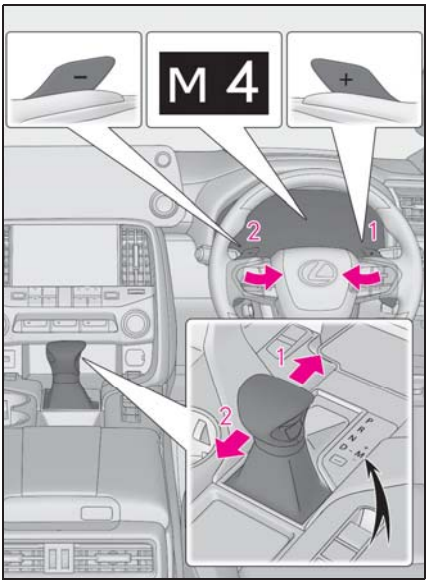
●パドルシフトスイッチの “＋” 側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

● 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

● エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

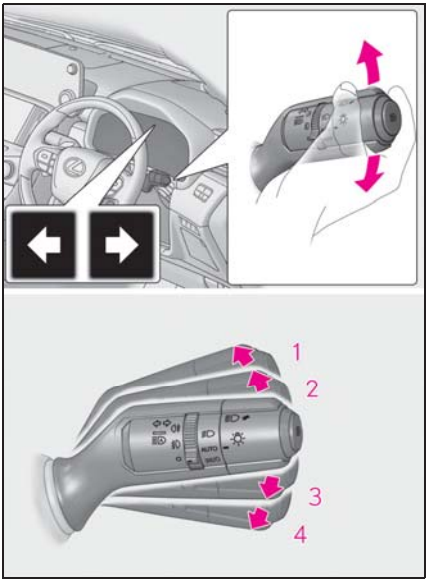
■シフトレバーを M にしてもシフトポジション・ギヤ段表示に M が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

レクサス販売店で点検を受けてください。

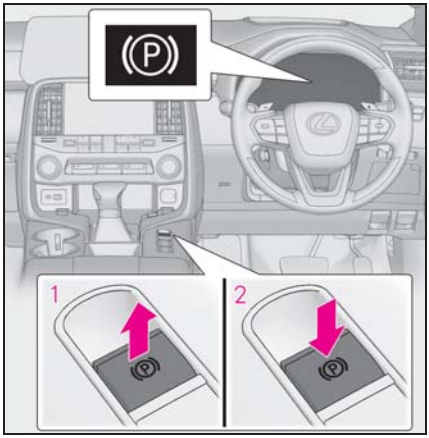
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

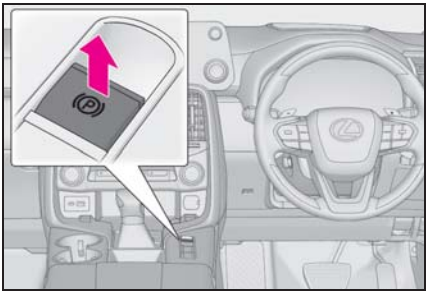
・ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏みながら操作してください。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。
・パーキングブレーキ自動解除機能（→P.191）

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→P.501）

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB シフト連動機能 ON” が表示されるまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON にすると、シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

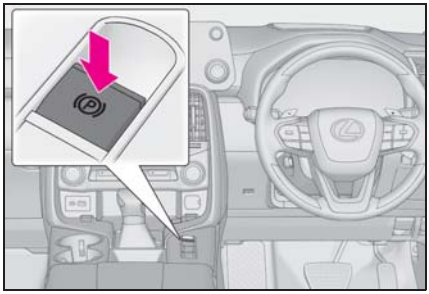
● P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏みながら、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB シフト連動機能 OFF” が表示されるまでスイッチを押し続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいないとき

●運転席のドアが開いているとき

●運転席のシートベルトを装着していないとき

●シフトレバーが P または N 以外にあるとき

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯しているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたとき

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたとき

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.170

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→ P.496

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.396

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

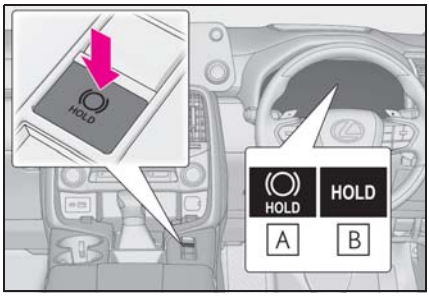
ブレーキホールド

シフトレバーがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

●パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、シス

テムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

● ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

● ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ **ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき**

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

● 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

● ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.190）

■ **レクサス販売店で点検が必要なとき**

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください” または “BrakeHold 故障 販売店で点検してください” と表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ **ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合**

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● ブレーキホールド作動不可
・ ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動中に、ブレーキホールドスイッチを押した場合
・ トランスファーが L4 レンジの状態で、DAC/CRAWL スイッチを押した場合

● ブレーキホールド現在使用不可
・ ブレーキホールドシステムが作動中に、DAC/CRAWL スイッチを操作した場合
・ ブレーキホールドシステムが作動中に、トランスファーを L4 レンジにした場合

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステムまたはトランスファーが L4 状態と同時に作動さ

せることができません。

ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

■ **ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは**

→ P.501

警告

■ **急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ **すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■ **駐車するとき**

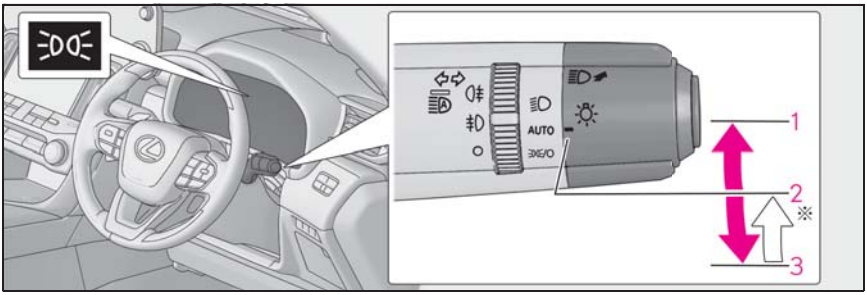
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※1	LED デイタイムランニングランプ（→P.197）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1操作するたびに、2 AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

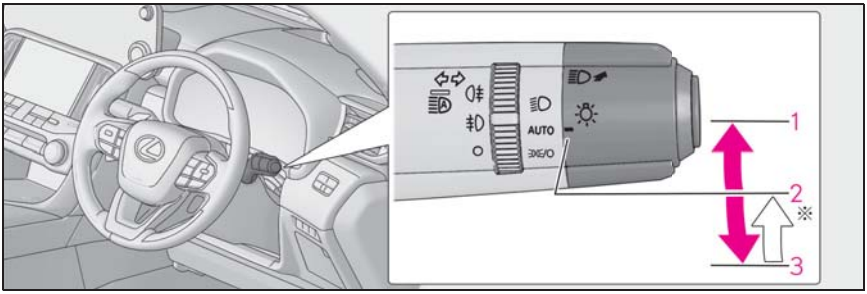
※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2 AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で約 1 秒以上保持すると、次のように作動し

ます。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.197）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■LED デイタイムランニングランプ

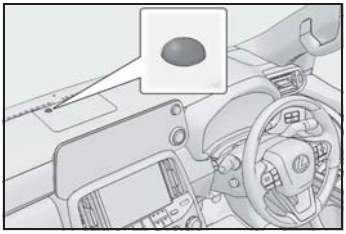
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC、または OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチをAUTOにしてから⇒DOE/Oまたは

⇒Oの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチがAUTOで車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■制動灯について

尾灯の点灯または消灯により、制動灯の点灯状態が変わります。

■カスタマイズ機能

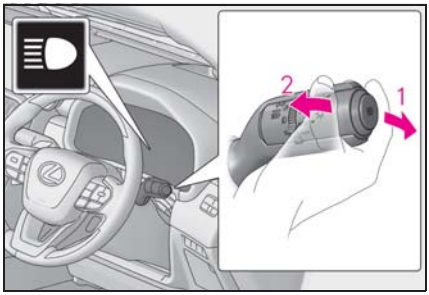
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.545）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時

に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーがRのとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■コーナリングランプ制御について

- 車速が約30 km/h以下のときに点灯します。ただし、約35 km/h以上になると消灯します。
- 点灯した状態で30分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■**安全にお使いいただくために**

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

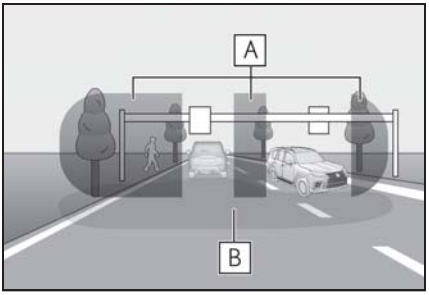
■**アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



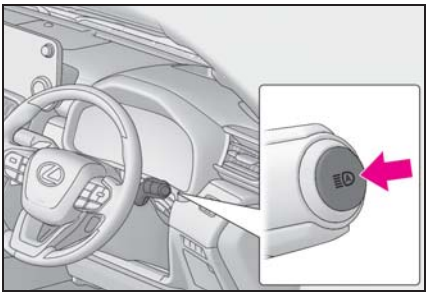
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

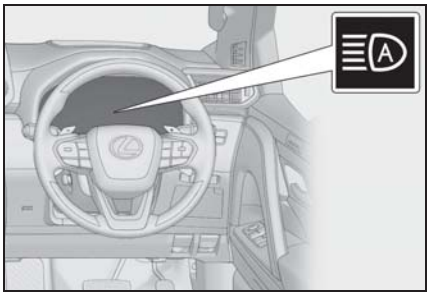
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき

・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“ヘッドランプシステム故障販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。

レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.546）

手動制御に切りかえるには

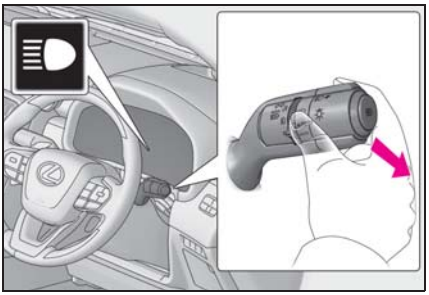
■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯しま

す。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

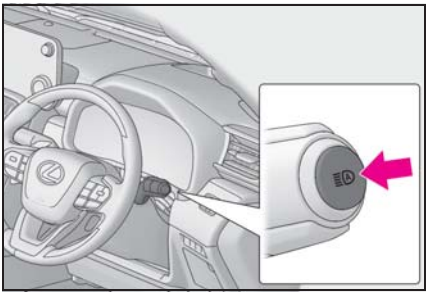


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

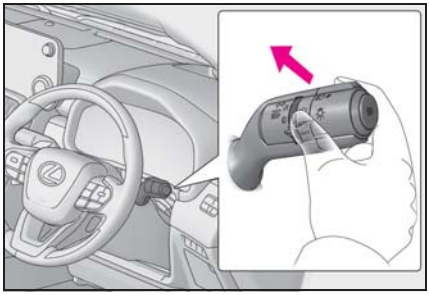
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



知識

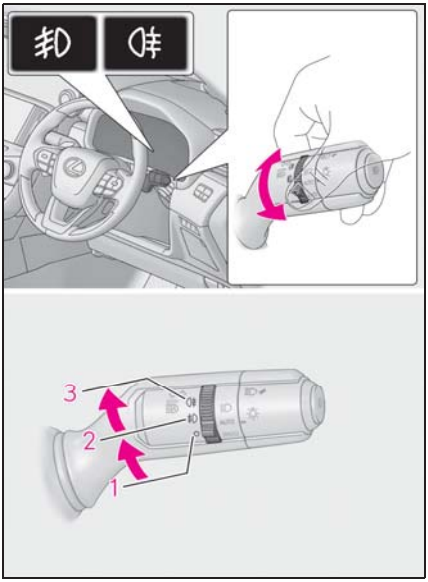
■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 ○ 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

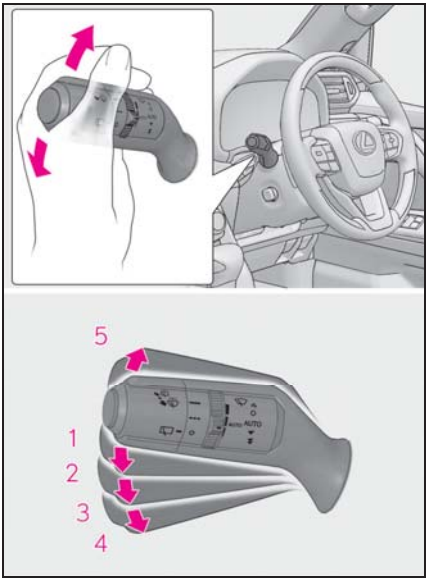
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 ○停止

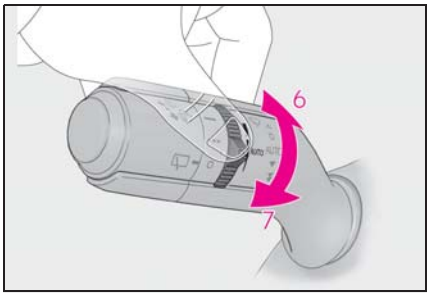
2 AUTO雨滴感知オート作動

3 ▼低速作動

4 ▼▼高速作動

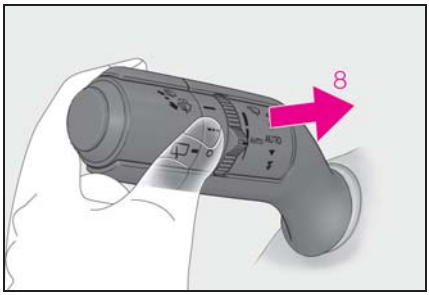
5 ▲一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）

ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●フロントワイパーを 1 回のみ作動

●ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

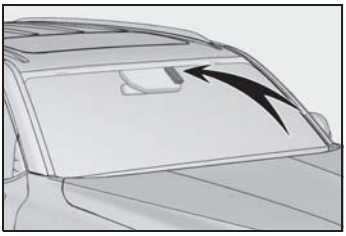
■車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチが ON のときにワイパースイッチをAUTOにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●ワイパースイッチがAUTOのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 80 ℃以上または－ 30 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

注意

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

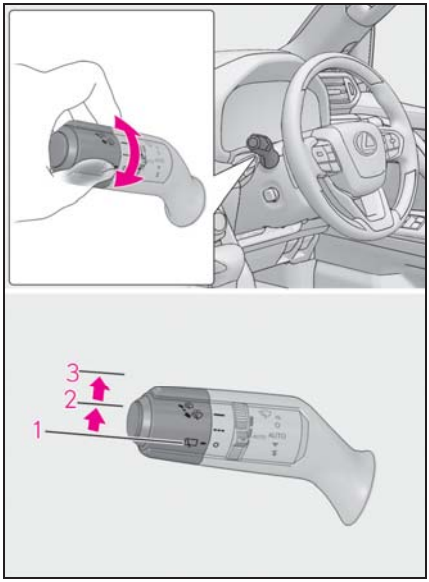
注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

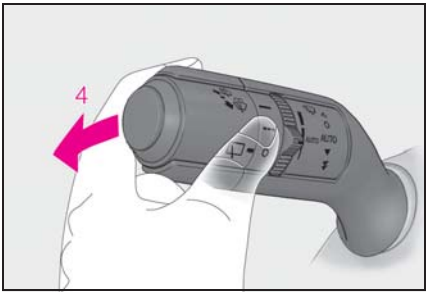
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○停止

2 - - -間欠作動

3 ━━ 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

カメラ洗浄システムも連動して作動します。（→P.348）

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- リヤワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■液だれ防止機能

ウォッシャー液を出すと、数秒後に液だれ防止としてワイパーがもう 1 度作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■リバース連動機能

フロントワイパーが ・▼・▼▼ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.545）

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

● ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ガソリンエンジンの出力が低下する

●その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ガソリンエンジンの出力が低下する

・ガソリンエンジンの始動性が悪くなる

・排気制御システムが正常に機能しない

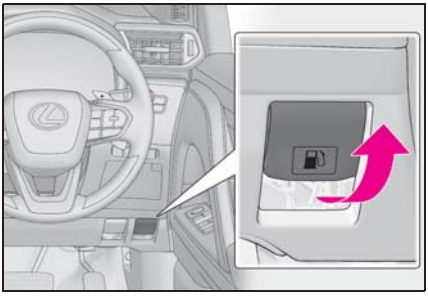
注意

・燃料系部品が損傷する

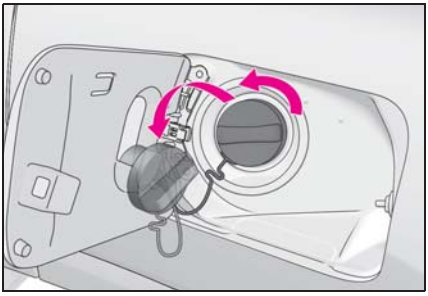
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



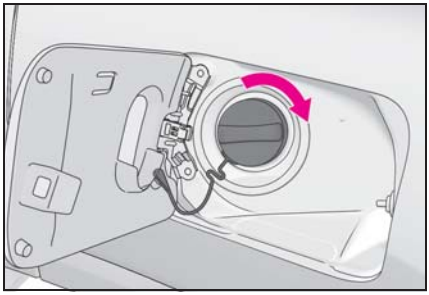
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.215

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.225

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）

→P.199

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.234

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.237

■ 先行車発進告知機能

→P.249

■ ドライバー異常時対応システム

→P.251

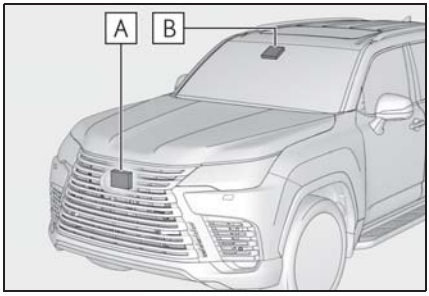
警告

■Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

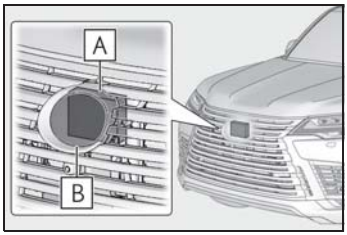
警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

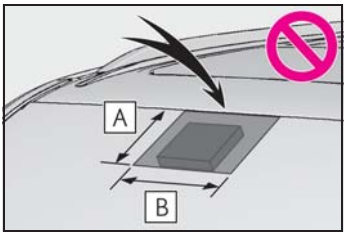
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.408）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.408）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき

・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないときその場合には “ プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください ” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.215）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.218）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

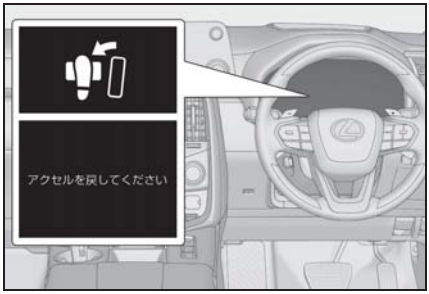
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

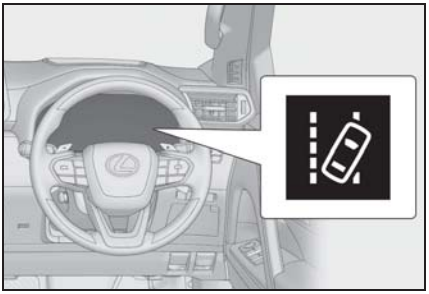
低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回

避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

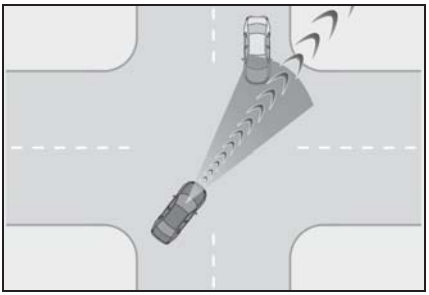


■ **交差点右左折支援**

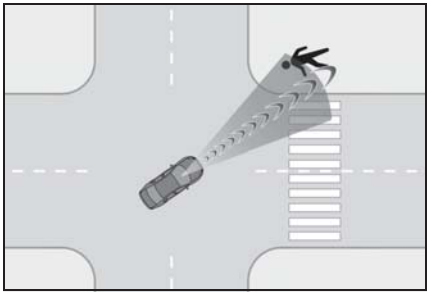
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ **プリクラッシュシートバック（4人乗り車リヤ席）**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、リヤシートの背もたれを起こします。

シートの背もたれを倒しているときに作動します。

スイッチ操作によるシート調整中には作動しません。

■ **サスペンションコントロール**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.387）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

警告

■ **安全にお使いいただくために**

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.221

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.223

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。
運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.79）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

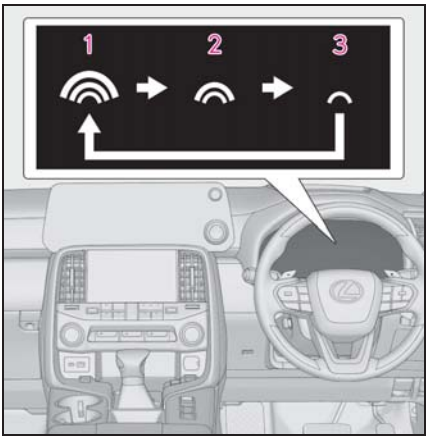
■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.79）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■ **プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・ シフトレバーが R のとき

・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

● 交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

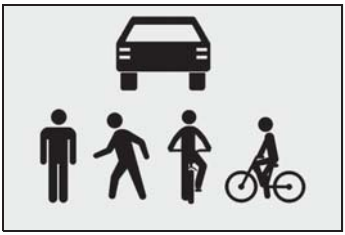
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■**作動対象の検出**

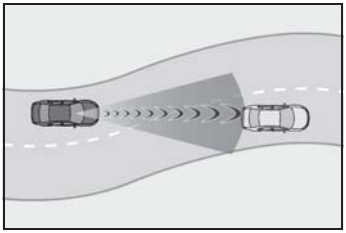
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.223）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



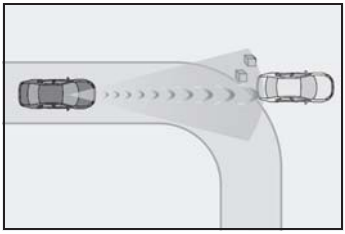
■**衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

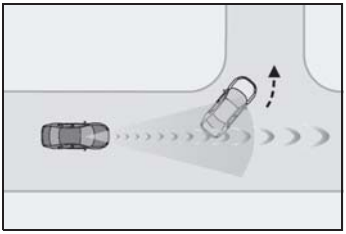
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



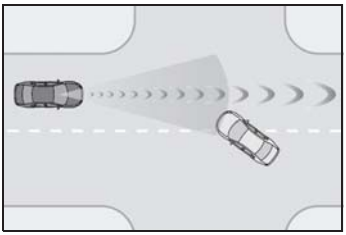
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



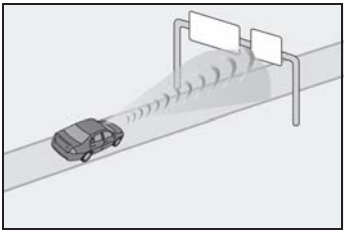
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



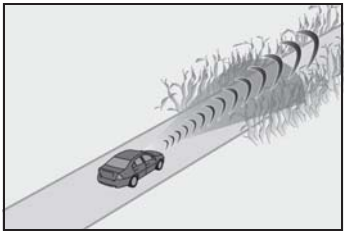
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



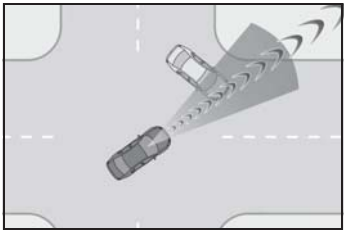
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

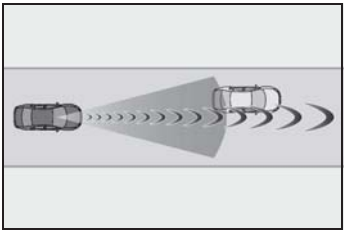


・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

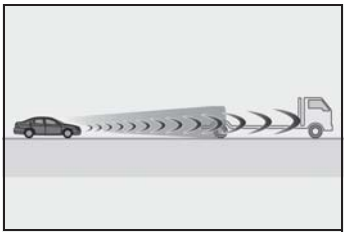
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

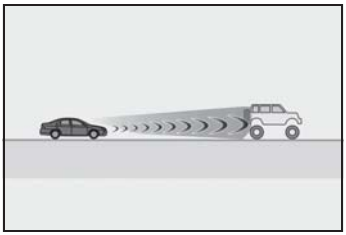
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

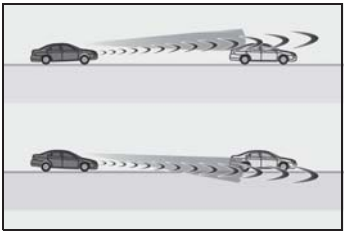


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

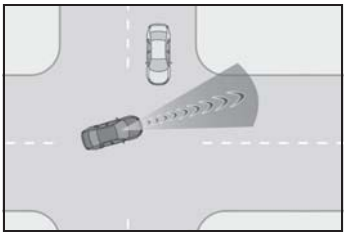


・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

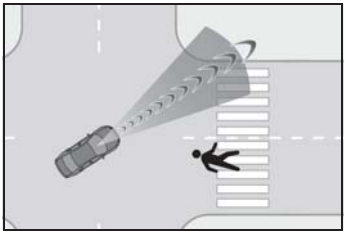
グスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき

・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・ 道路面に深いわだちがあるとき
・ 坂道を走行しているとき
・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.388）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

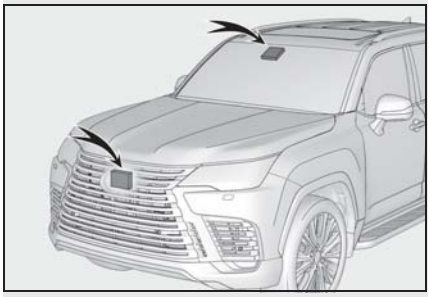
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.237）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●トレーラーまたは車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

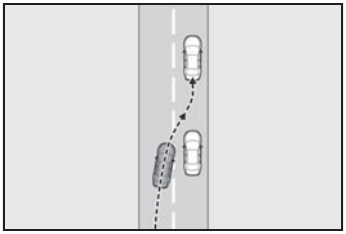
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.230）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

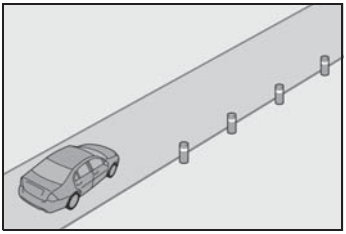


●先行車追従表示中（→P.230）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

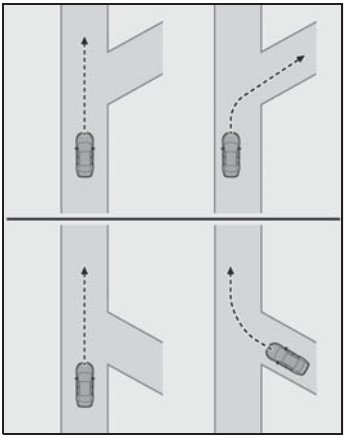
●先行車追従表示中（→P.230）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

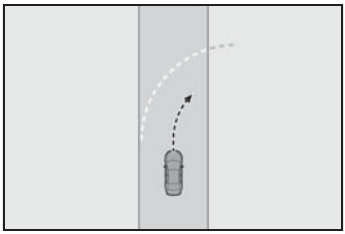
- 先行車追従表示中（→P.230）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

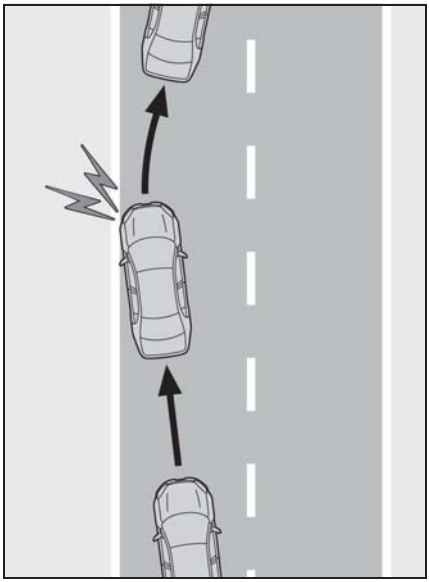
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界



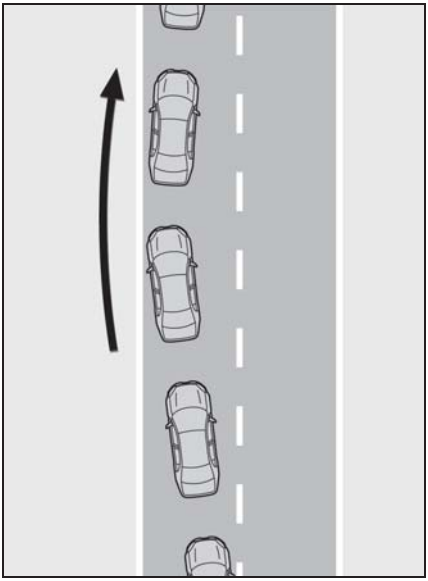
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指

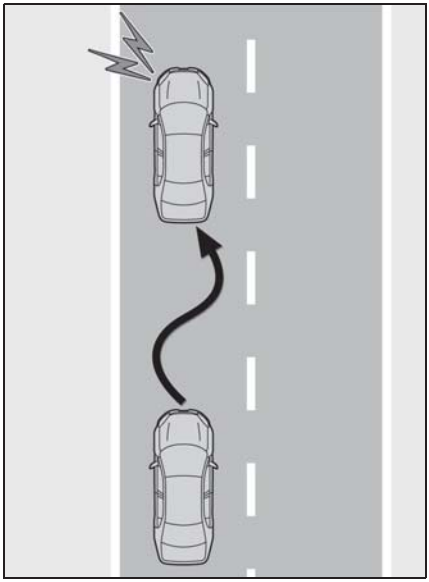
示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

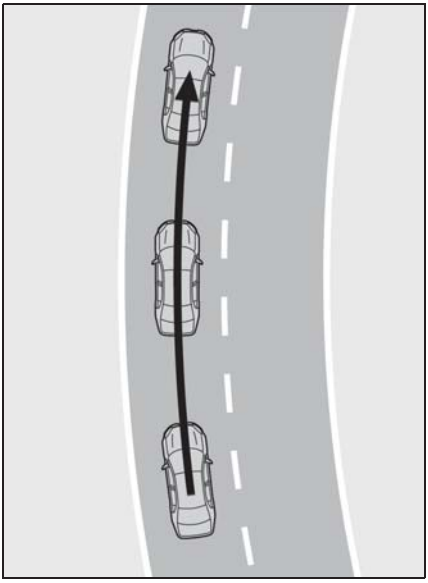


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

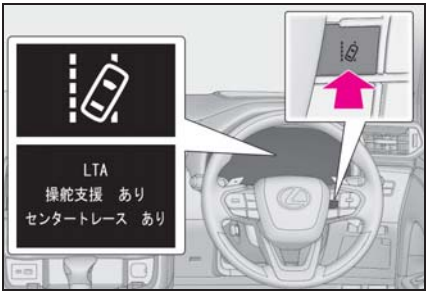


設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON ／ OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON ／ OFF が切りかわります。



車線維持支援機能が ON のとき：“LTA 操舵支援あり センタートレースあり” と表示されます。

LTA を ON にすると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

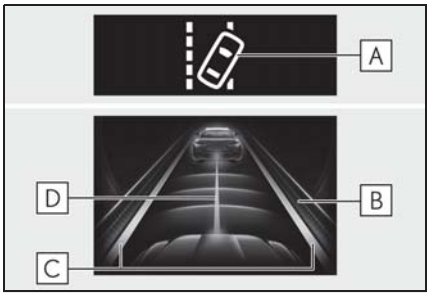
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、エンジンスイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・ システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.233）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハ

ンドルを操作していないとき
・マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・PCS が作動していないとき
・アクティブ TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・マルチインフォメーションディスプレイの で “ふらつき検知” を “ON” に設定しているとき（→P.79）
・車速が約 50 km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3 m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.233）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの で “センタートレース” を “ON” に設定しているとき（→P.79）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.233）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・PCS が作動していないとき
・アクティブ TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.233）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.231）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.231）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または “ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で “警報手段” を に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報が作動しない場合があります。

● となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

● 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ **手放し運転に対する注意喚起について**

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

● 車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

● 車線維持支援機能作動中に カーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

● 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ **ふらつき警報機能について**

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ **警告メッセージ**

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません”

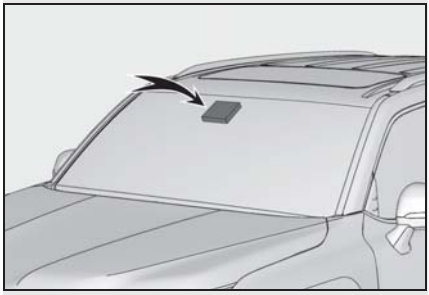
車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.547）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

■RSA をお使いになる前に

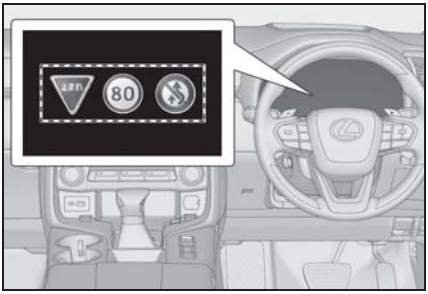
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチイ

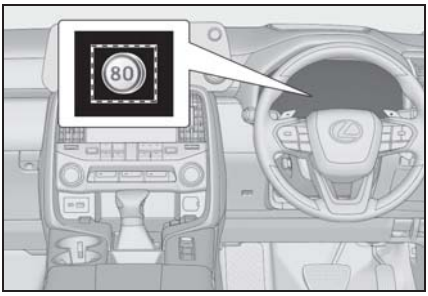
ンフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報表示画面を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。（→P.79）



● 運転支援機能情報表示画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.79）

- 最高速度標識
- 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

● 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。

● システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

● はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→P.82

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに “RSA 故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.547）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

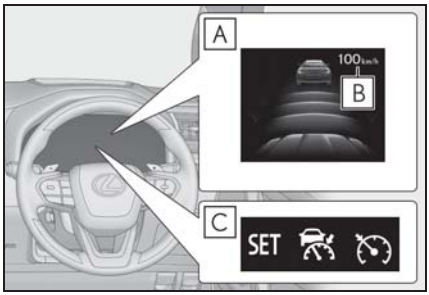
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.240）
- 定速制御モード（→P.243）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（→P.244）

システムの構成部品

■ メーター表示

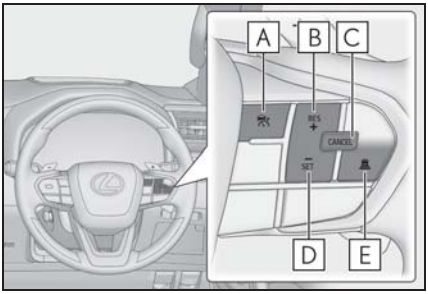


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A クルーズコントロールメインスイッチ

B “+RES” スイッチ

C キャンセルスイッチ

D “-SET” スイッチ

E 車間距離切りかえスイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.247

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.248

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

警告

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

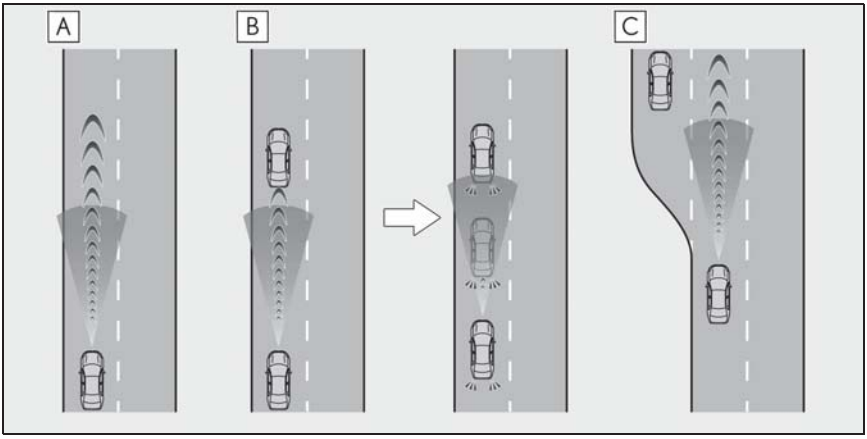
●トレーラー、または車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

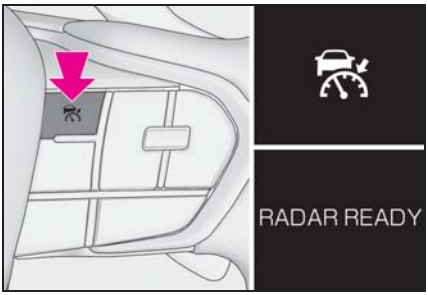
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

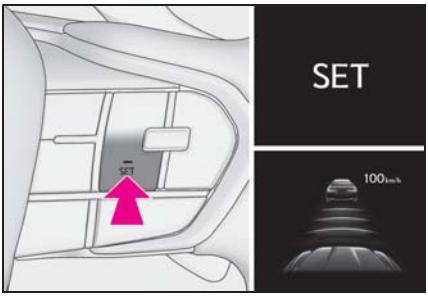
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.243）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

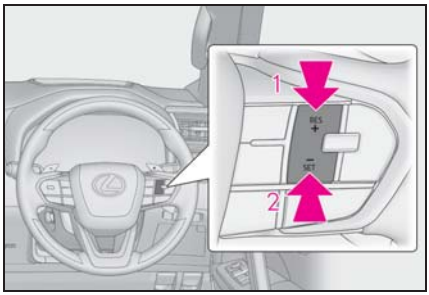
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.243）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

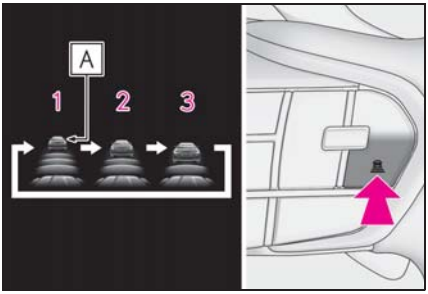
● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い
2 中間
3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

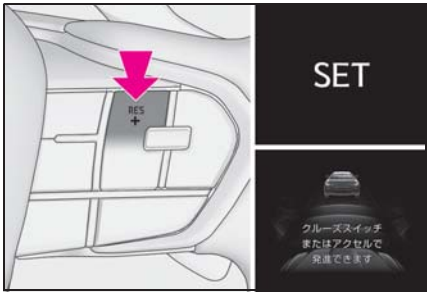
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

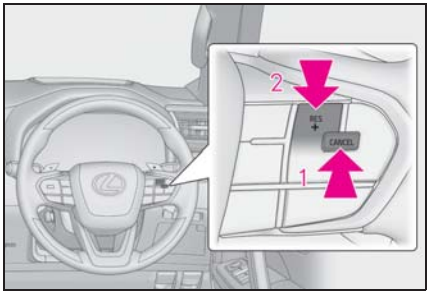
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

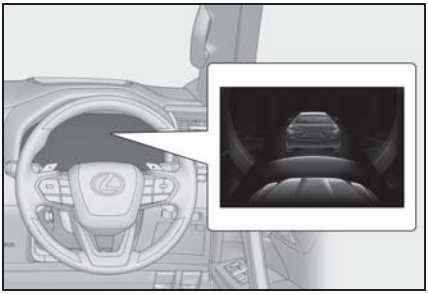
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してくだ

さい。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

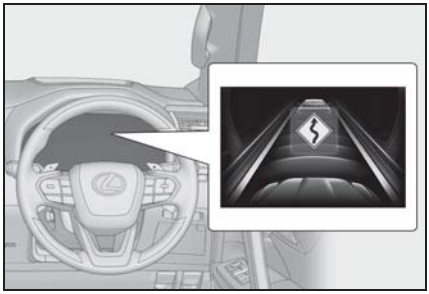
■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示



車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.79）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON／OFF を切りかえることができます。

OK を押すごとに設定が切りかわります。

定速制御モードでの走行

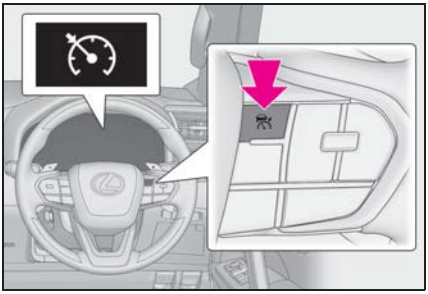
定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、ク

ルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



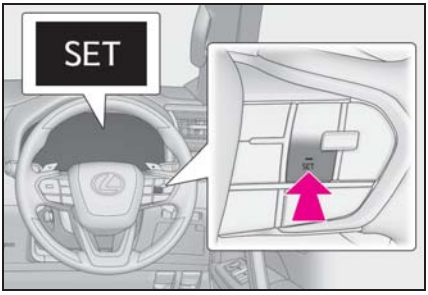
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.241）

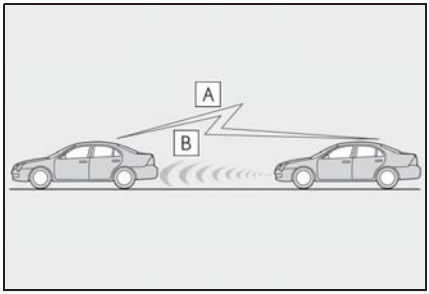
制御を解除する・復帰させる（→P.242）



通信利用型レーダークルーズコントロール

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

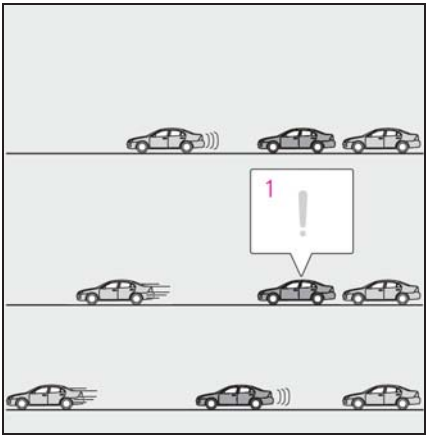
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

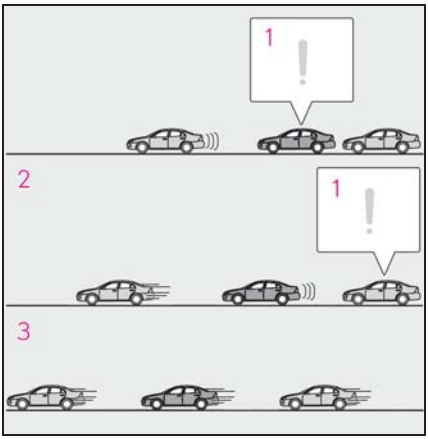
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



1 先行車の発進に素早く気づく

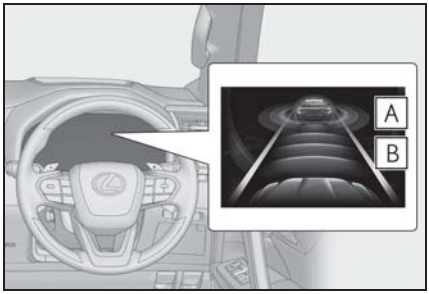
2 スムーズな加速で追従

3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.79) から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて本機能の作動レベルがかわります。(→P.242)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速

が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●アクティブ TRC が一定時間作動したとき

●アクティブTRCまたはVSCをOFFにしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●センターデフロックスイッチ操作後、約 5 秒以上切りかえ中が続いたとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●アクティブ TRC が一定時間作動したとき

●アクティブTRCまたはVSCをOFFにしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●センターデフロックスイッチ操作後、約 5 秒以上切りかえ中が続いたとき

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操

作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.213, 505)

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

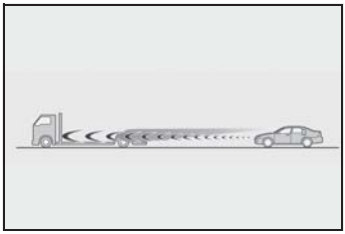
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.242）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

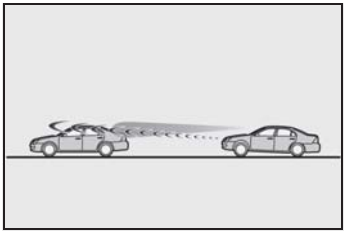
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



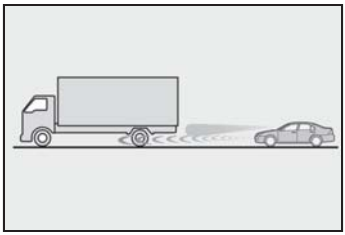
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



●先行車の車高が極端に高いとき

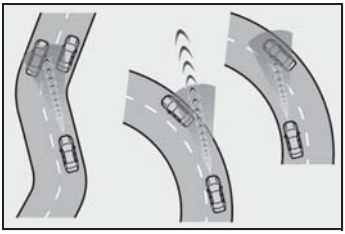


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

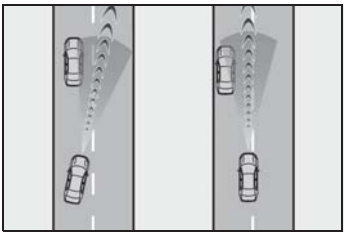
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

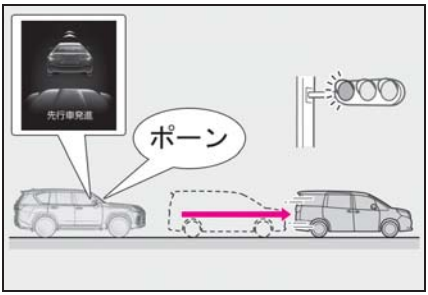
●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車では

ないものを先行車と認識しているとき

- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.79）

- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。（→P.79）

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

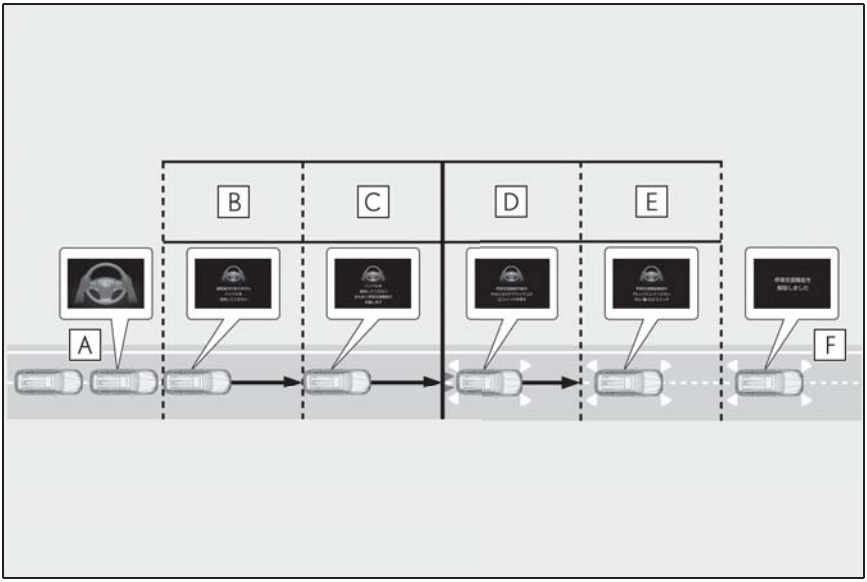
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット ※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には D「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告（→P.233）

B「警告 1 状態」

C「警告 2 状態」

D「減速停止制御」

E「停止保持」

F 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.486)

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中

●レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

●自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

●B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
・運転者がブレーキ操作をしたとき
・運転者がアクセル操作をしたとき
・ブレーキ異常検出時
・方向指示レバーを操作したとき

●E「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・エンジンスイッチを ON から OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

●B「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき

●C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）

●手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（C「警告 2 状態」および D「減速停止制御」のみ）

●運転者がブレーキ操作をしたとき

●運転者がアクセル操作をしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、

一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。(→P.233)

■ **ドライバー異常時対応システムの留意事項**

- ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴(「ピッ、ピッ、・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、C「警告 2 状態」に移行します。

C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴(「ピッピッピッピッ・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート(消音)※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内(約 40km/h ～ 50km/h の間)まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、D「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

知識

■ **非常点滅灯(ハザードランプ)について**

C「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯(ハザードランプ)が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を

停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。

車両が停車すると E「停止保持」に移行します。

知識

■ **非常点滅灯（ハザードランプ）について**

D「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

知識

■ **非常点滅灯（ハザードランプ）について**

E「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ **ヘルプネット自動接続について**

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■ **非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）**

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯します。

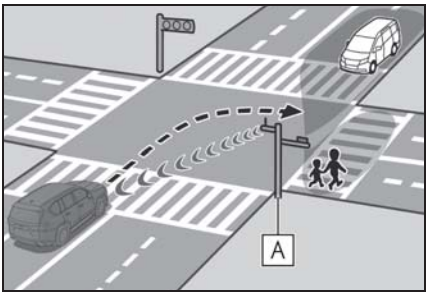
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

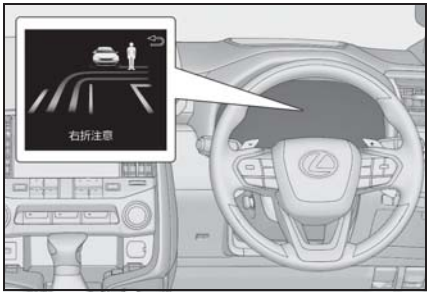
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.237 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。
このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1030
型式認定番号：10008

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.260）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.258）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

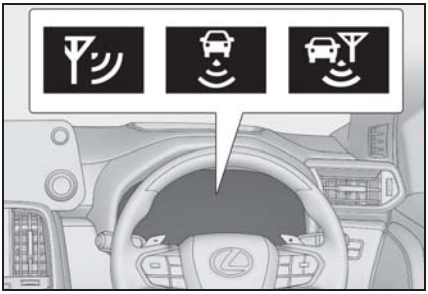
●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

⚠注意

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起・赤信号注意喚起・出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）**

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **出会い頭注意喚起**

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **赤信号注意喚起**

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ **信号待ち発進準備案内**

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ **緊急車両存在通知**

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

■ **通信車両接近通知の使い方**

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

メーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、∧ または ∨ を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知識

■ **交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について**

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

● 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・ トンネルや高架下を通過しているとき
・ エンジンを始動してから、しばらく走

行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から“車両設定”を選択し、“ITS Connect”または“クルーズ（ITS）”を選択することで、次の機能の設定を変更することができます。（→P.79）

■ ITS Connect

● 信号情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※1（初期設定：ON）

- 赤信号注意喚起
- 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※1（初期設定：ON）

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

● 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切りかえることができます。※2, 3（初期設定：高い）

- 赤信号注意喚起
- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起

※1“信号情報”または“道路環境情報”に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※2各機能の通知感度を個別に変更することはできません。

※3“高い”に設定すると通知タイミングが早くなり、“低い”に設定すると通知タイミングが遅くなります。

■ クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断や停車時にドア開き時のドアとの衝突可能性を判断して衝突回避を支援するシステムです。

警告

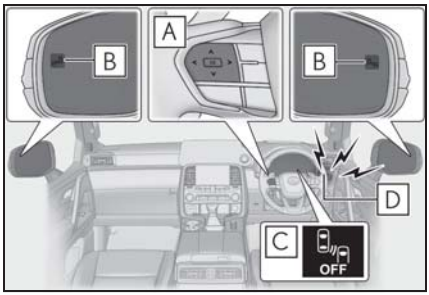
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

●停車時警報機能は、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

走行中：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

停車中：

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知し

たときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯します。

D BSM ブザー

停車中、ドアミラーインジケーター点灯時に点灯している側のドアを開けるとブザーが鳴ります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません 取扱書を確認ください” が表示されたとき

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.264）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 故障　販売店で点検してください” が表示されたとき

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.548）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

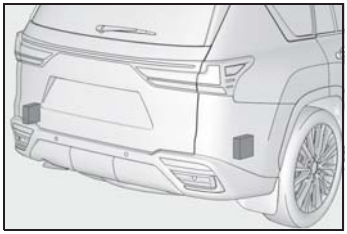
警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.264）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件（→P.268）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部がはずれている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON/OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して を選択する

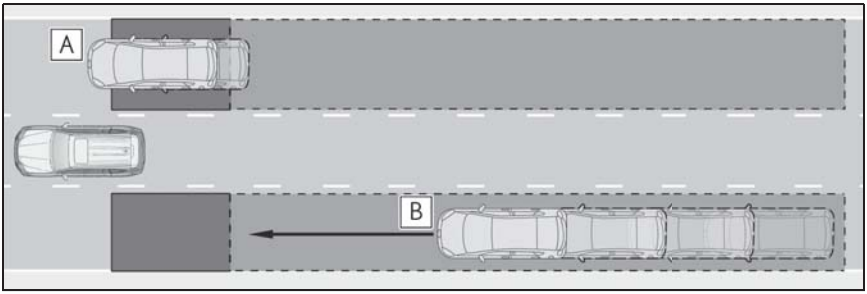
2 を選択し、OK を押す

ブラインドスポットモニターが OFF のときは、BSM OFF 表示灯（→P.73）が点灯します。エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

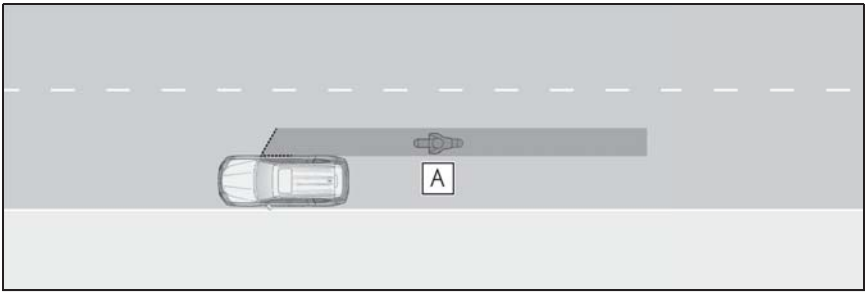


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 停車中に検知できる車両・自転車

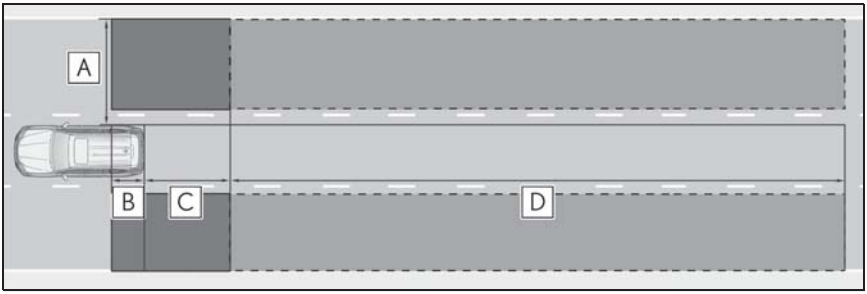
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーのインジケーターおよびブザーによってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

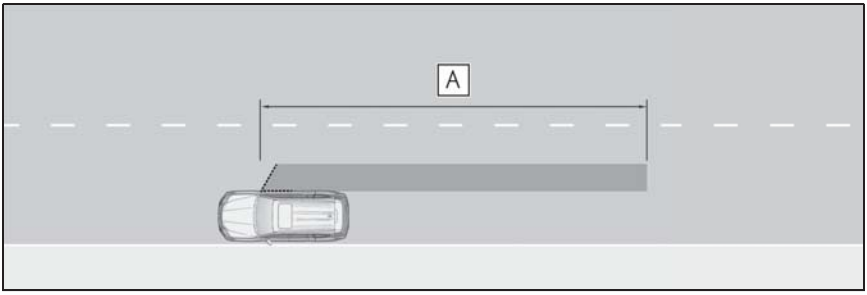
D リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 停車中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



検知できる範囲：

A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が低いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより近くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

●ブラインドスポットモニターがON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 10 km/h 以上のとき（走行中）

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ブラインドスポットモニター（走行中）が車両を検知しない条件

ブラインドスポットモニター（走行中）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニター（停車中）が車両・自転車を検知しない状況

●ブラインドスポットモニター（停車中）は、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・接近する車両・自転車の速度が約 8km/h 未満のとき
・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車
・真うしろから接近する車両・自転車
・前方から接近する車両・自転車
・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
・動物など

●ブラインドスポットモニター（停車中）は、次のような状況では作動しません。

・エンジンスイッチが OFF のとき
・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。（走行中）

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほ

とんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●次のような状況では車両・自転車を有効に検知しないおそれがあります。（停車中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両・自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・発進した直後の車両・自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両・自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。（走行中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。（停車中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で接近する車両・自転車
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両・自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近して

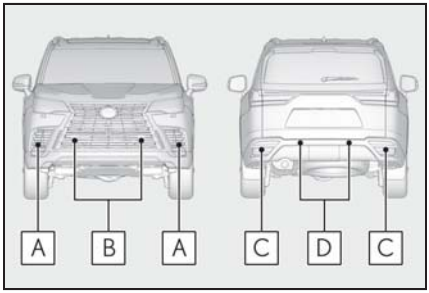
いるとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面に距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ **センサーの種類**



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。（→P.296）

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して⚙を選択する

2 Pを選択し、OKを押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.73）が表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面からPを ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

- クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、

正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。
氷が解ければ、正常に復帰します。
水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、レクサス販売店で点検を受けてください。

- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■ **センサーの検知について**

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ **システムが正しく検知できないことがある静止物**

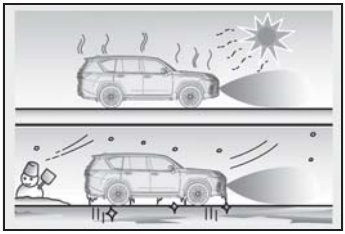
静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

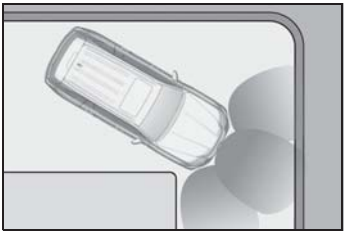
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

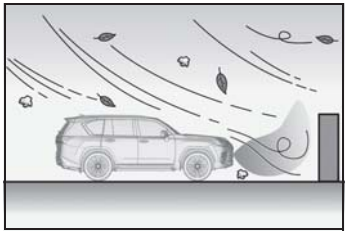
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

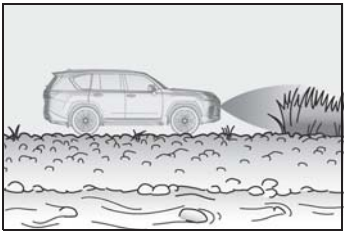
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

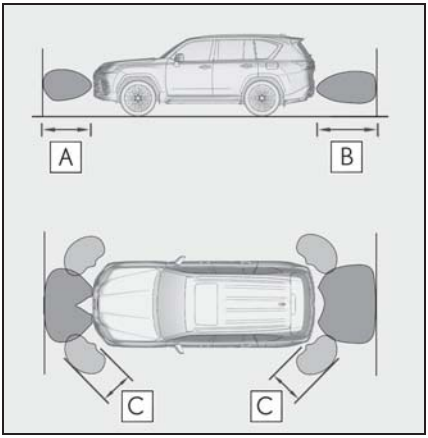
●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンター： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンター： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	早い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.275）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、最も近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して を選択する

2 メーター操作スイッチを操作して “車両設定” を選択する

3 “音量” を選択し、OK を押す

押すごとに 1,2,3 のあいだで音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイとマルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK または を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

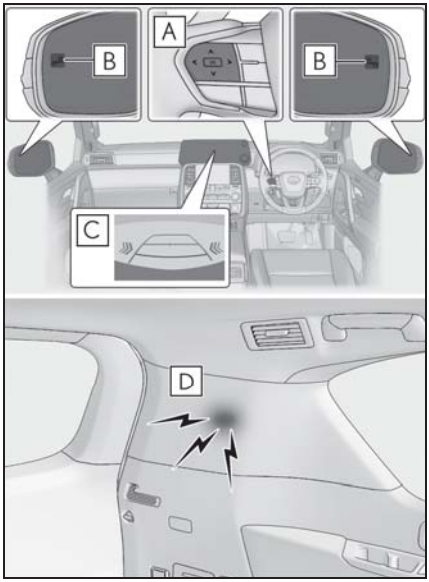
■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.263）

■システムを正しく作動させるために

→P.264

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.277）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して ⚙ を選択する

2 “RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.73）が点灯します。エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません 取扱書を確認ください” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。

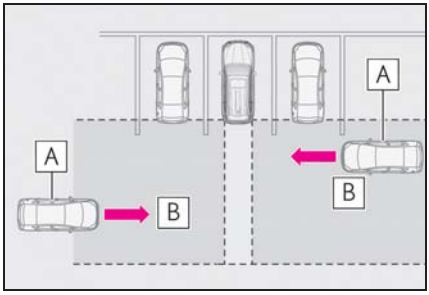
■後側方レーダーセンサーについて

→P.265

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



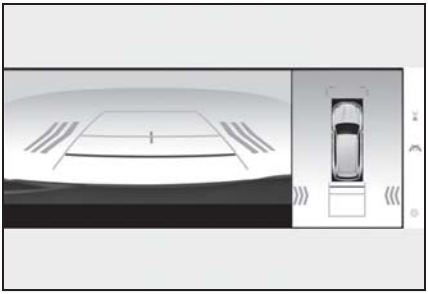
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

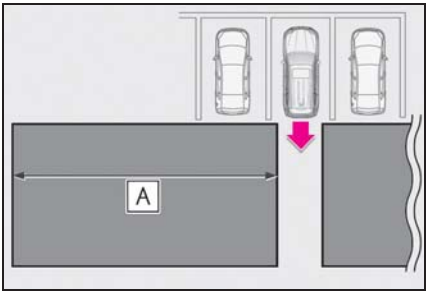
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して を選択する

2 メーター操作スイッチを操作して “車両設定” を選択する

3 “RCTA 音量” を選択し、OK を押す

押すごとに 1,2,3 のあいだで音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイとマルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK または を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトレバーを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

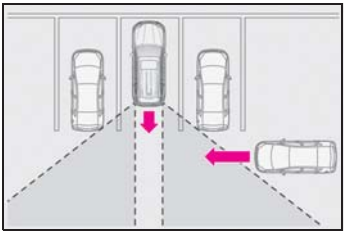
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■**システムが正常に作動しないおそれのある状況**

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

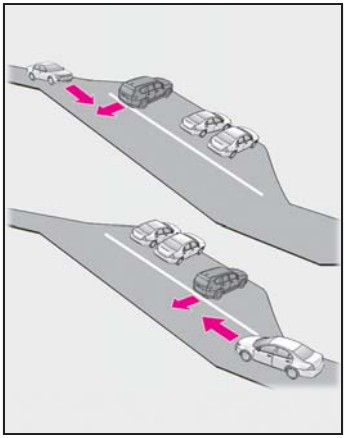
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

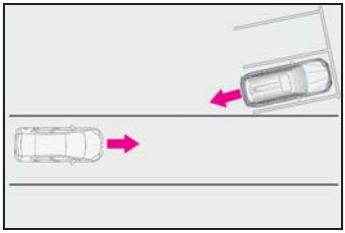
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



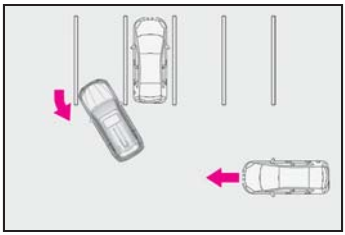
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

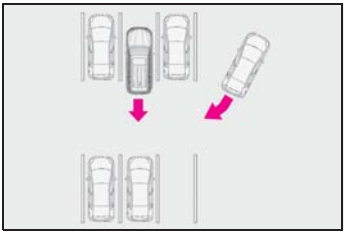
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



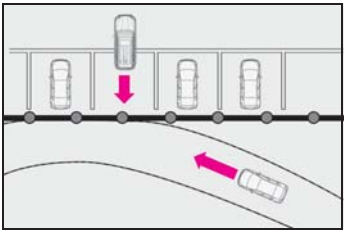
●旋回しながら車両が近付いてきたとき



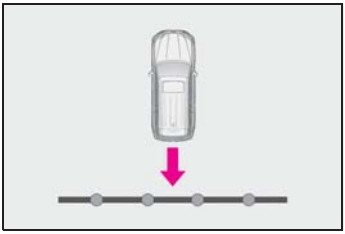
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

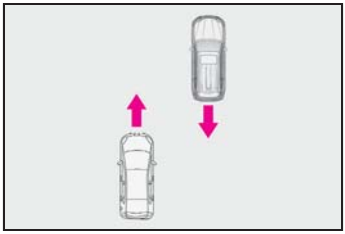


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

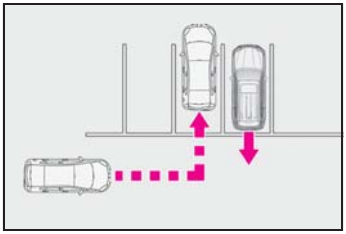


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

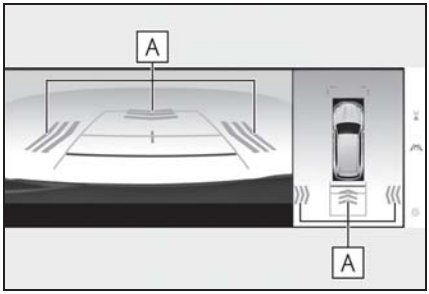
- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

マルチメディア画面



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して ⚙ を選択する

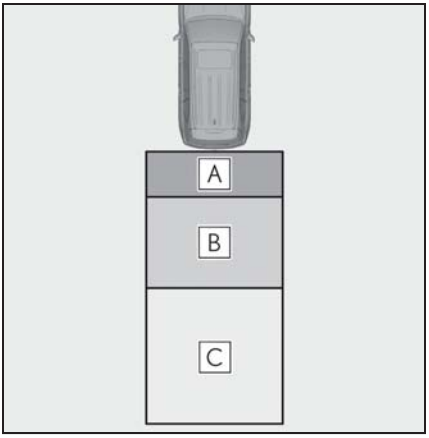
2 “RCD” を選択し、OK を押す

RCD 機能が OFF の時は、RCD OFF 表示灯（→P.73）がメーター上に表示されます。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接

近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意をうながします。



A 歩行者がA エリアにいる場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

B 歩行者がB エリアにいる場合
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるとシステムが判断した場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトレバーが R にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して を選択する

2 メーター操作スイッチを操作して “車両設定” を選択する

3 “RCD 音量” を選択し、OK を押す

押すごとに 1,2,3 のあいだで音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイとマルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK または を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトレバーを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “リヤカメラ検知使用できません レンズの汚れを除去してください” が表示されたときは

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっ

ては、汚れを取り除いたあとも、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“リヤカメラ検知使用できません 取扱書を確認ください”が表示されたときは

●バッテリー脱着後などに表示された時は、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。

●シフトレバーがRにあるときのみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知をさまたげる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（前後方静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.289

■ パーキングサポートブレーキ（後方車両）

→P.292

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

→P.294

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- トレーラーまたは車両けん引時

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.80）

1 メーター操作スイッチを操作して を選択する

2 を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB

OFF 表示灯（→P.73）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの画面から

を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

知識

■ **トランスファーレンジを L4 にしたときは**

PKSB は自動的に OFF（非作動）になります。

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジン出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

ヘッドアップディスプレイ表示：なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：“ ポーン ”（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：“ ポーン ”（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ ブレーキを踏んでください ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください ”
アクセルが踏まれていない場合は “ ブレーキを踏んでください ” が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示：“ ブレーキを踏み直してください ”
アクセルが踏まれていない場合は “ ブレーキを踏んでください ” が表示されます。

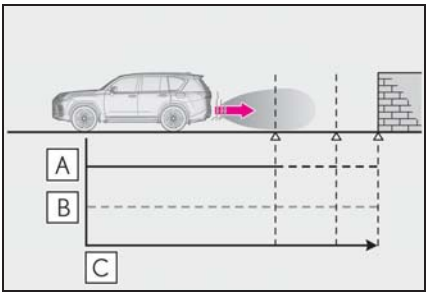
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：“ ポーン ”（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（エンジン出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

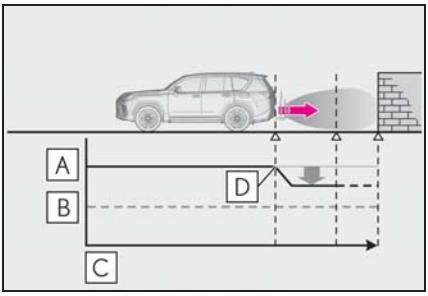


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



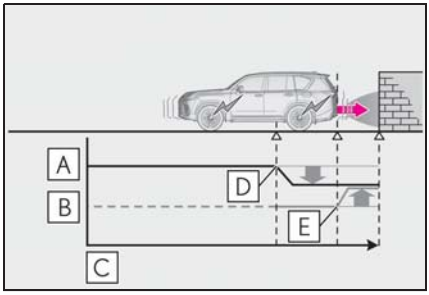
A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏

んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にする（→P.285）か、エンジンスイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。
また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

●シフトポジションを P にした

●進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた

●車両の進行方向が切りかわった ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングサポートブレーキ 現在使用できません ” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

●センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトポジションが R 時以外も表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

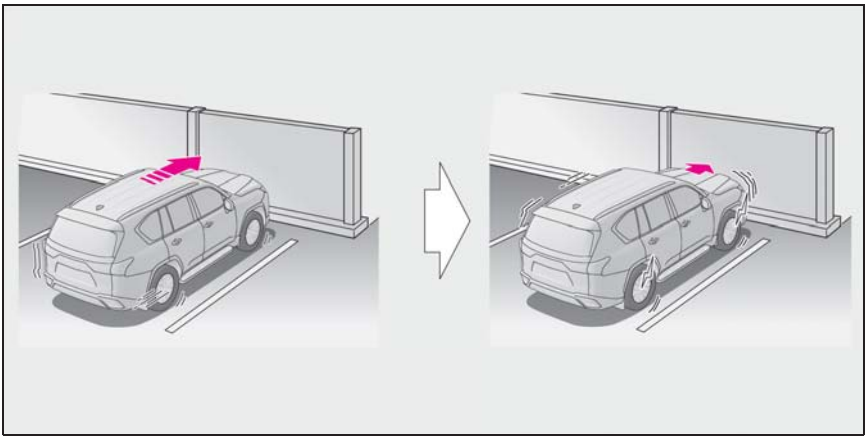
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

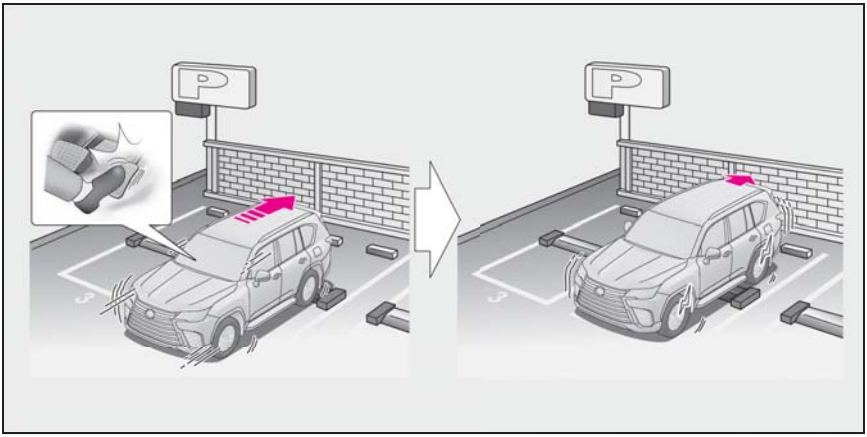
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

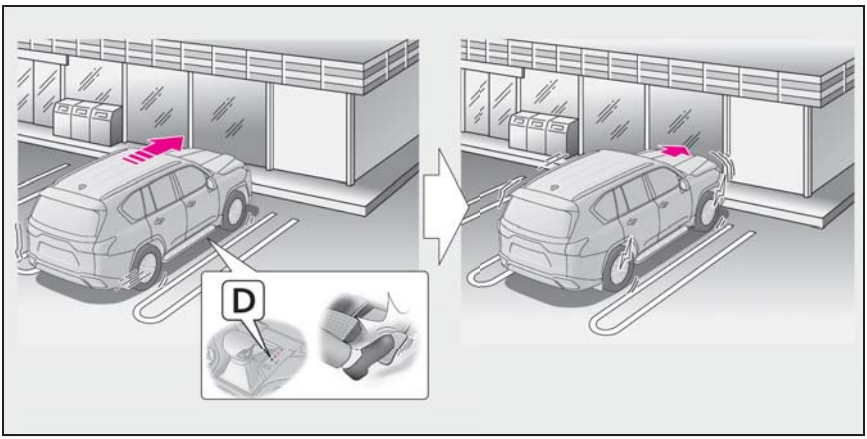
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.270

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.271

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（前後方静止物）が誤って作動したときは

→P.287

■洗車時の注意

→P.271

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.72, 73）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.274）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.272

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.273

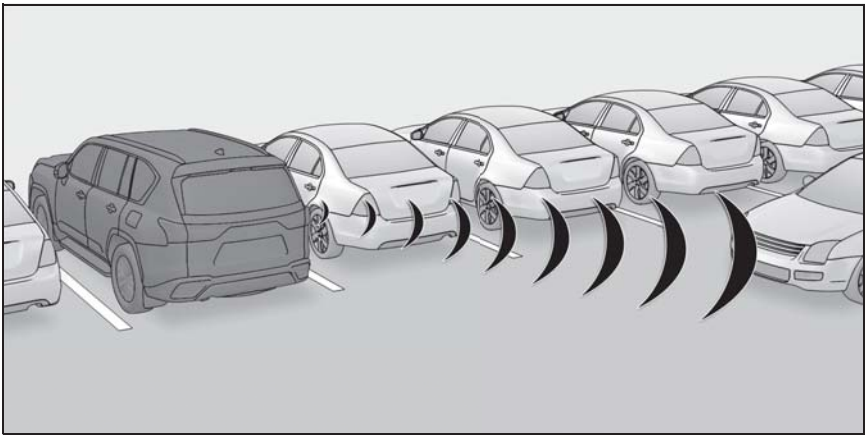
パーキングサポートブレーキ（後方車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.264

警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.264

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.72, 73）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトレバーが R にあるとき
- 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- エンジン出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.278）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.279

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

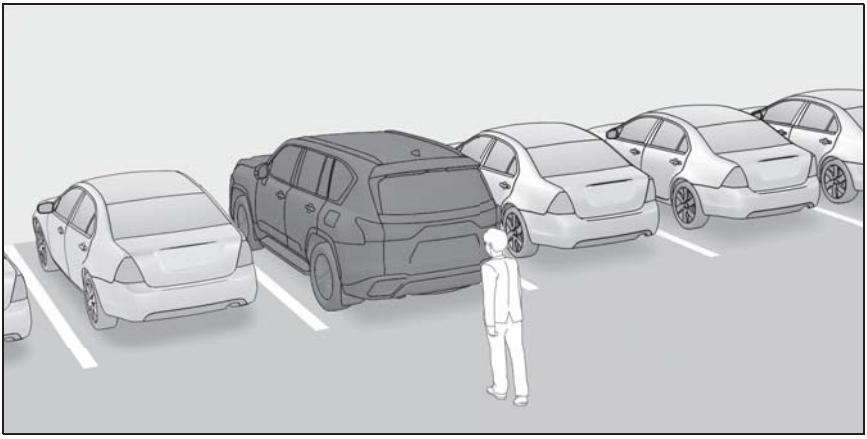
→P.280

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

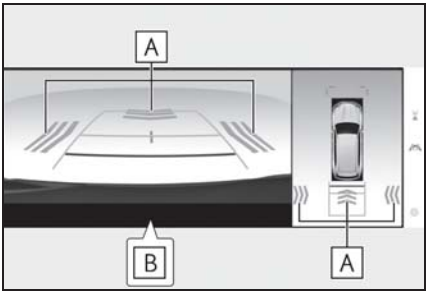
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



マルチメディア画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作をうながします。マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイにも同様に表示されます。



A 歩行者検知表示

B ” ブレーキ！ ”

警告

■**万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは**

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■**パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために**

→P.281

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.72, 73）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトレバーが R にあるとき
・システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるとシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.288

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.281）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.283

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.283

マルチテレインモニター

マルチテレインモニターは、車両周辺の状況確認を補助するシステムです。オフロード走行時の状況把握や車庫入れ時の障害物の確認など、幅広い場面で運転者の状況判断を支援します。

知識

- 本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- マルチテレインモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方・周囲の安全を直接確認しながら、慎重に運転してください。特に、周辺に駐車している車や障害物などに接触しないように注意してください。
- カメラのレンズの特性により、マルチテレインモニター画面に映る人や障害物などは、実際の位置・距離と異なります。必ず周囲の安全を直接確認した上で運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やデジタルインナーミラー・ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。
  特に動いているものの映像がゆがむ、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

マルチテレインモニターで表示できる画面

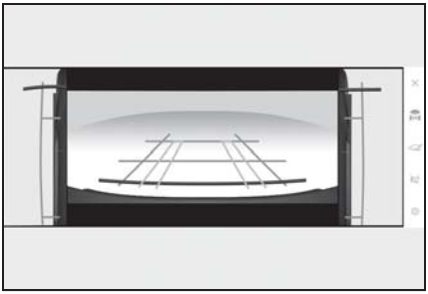
走行状況に応じて、次の各画面表示を選択できます。

・ 現在のシフトポジションや車速などの条件により、選択できる画面は異なります。（→P.300）
・ 表示する画面によっては、通常表示から全画面表示への切りかえが可能です。

■ トランスファーレンジがL4またはH4 かつマルチテレインセレクトが ON のとき

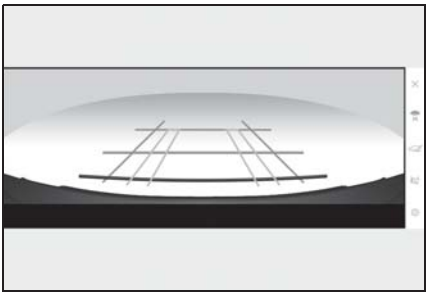
● 車両前方・側方を確認するとき

▶フロントビュー＆両サイドビュー



→P.306

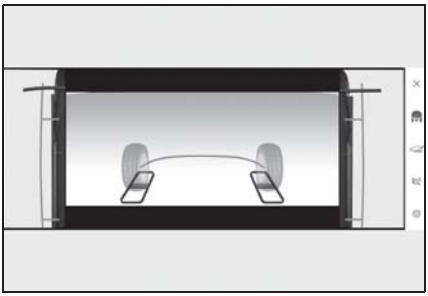
▶ フロントビュー（拡大時）



→P.306

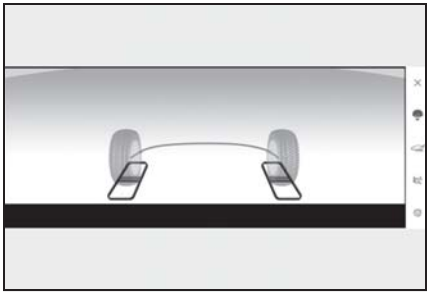
● フロア下の路面状況を確認するとき

▶ アンダーフロアビュー＆両サイドビュー



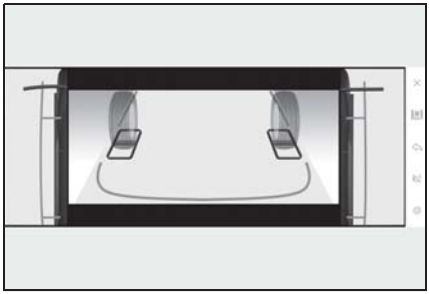
→P.308

▶ アンダーフロアビュー（拡大時）



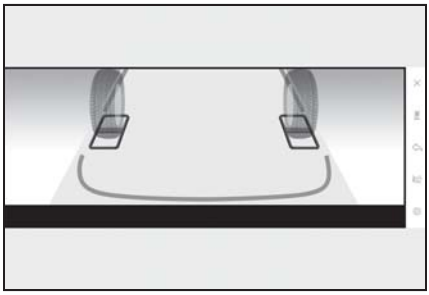
→P.308

▶ アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー



→P.311

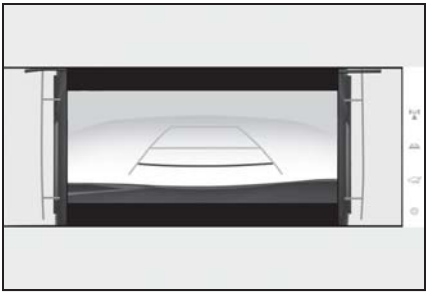
▶ アンダーフロアビュー（後輪）（拡大時）



→P.311

● 車両後方を確認するとき

▶ バックビュー＆両サイドビュー

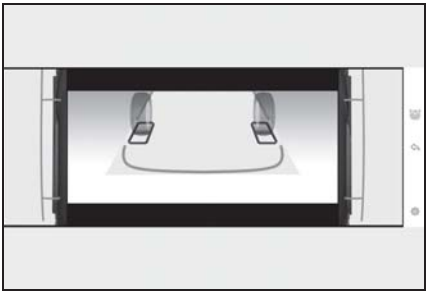


→P.314

▶ ワイドバックビュー＆両サイドビュー

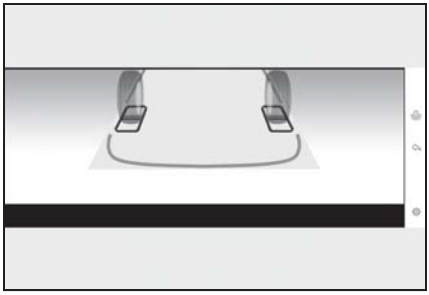
→P.314

▶ バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー



→P.317

▶ バックアンダーフロアビュー（拡大時）

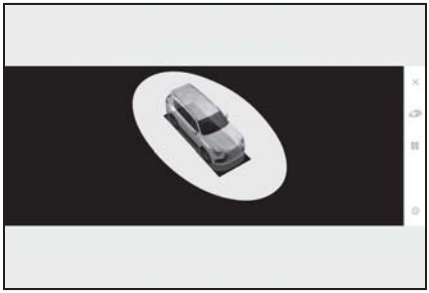


→P.317

■ **トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF のとき**

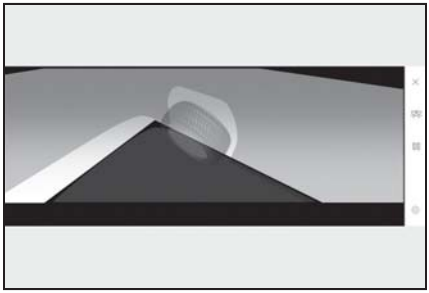
● 周囲を確認するとき

▶ ムービングビュー



→P.320

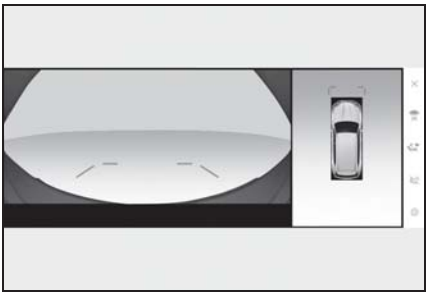
▶ シースルービュー



→P.320

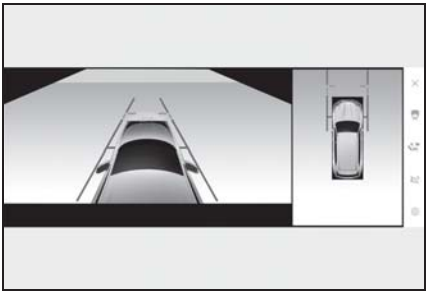
● 車両前方・側方を確認するとき

▶ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー



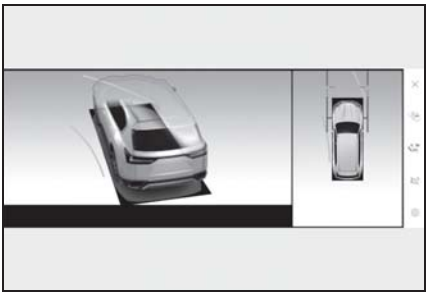
→P.321

▶ パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー



→P.324

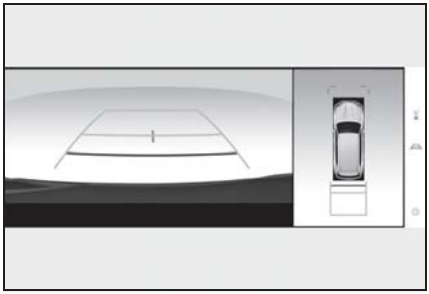
▶ パノラミックビュー＆コーナリングビュー



→P.324

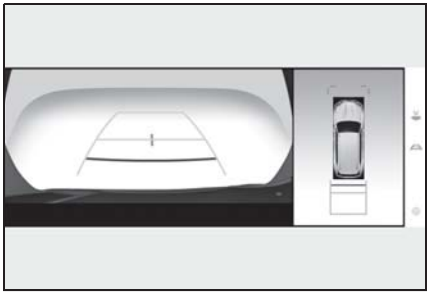
● 車両後方・側方を確認するとき

▶ パノラミックビュー＆バックビュー



→P.329

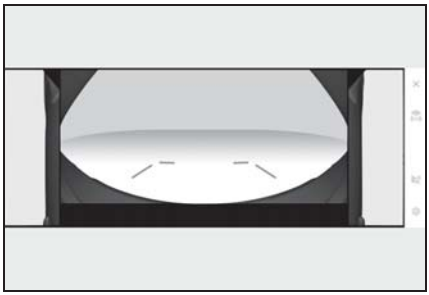
▶ パノラミックビュー＆ワイドバックビュー



→P.329

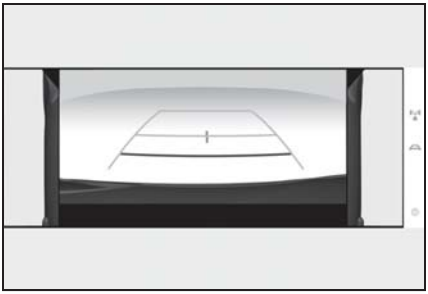
● ドアミラー格納時

▶ ワイドフロントビュー＆両サイドビュー



→P.338

▶ バックビュー＆両サイドビュー



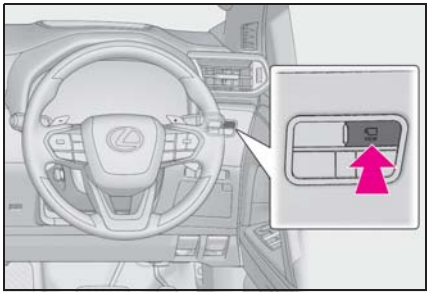
→P.338

▶ ワイドバックビュー＆両サイドビュー

→P.338

VIEW スイッチについて

マルチテレインモニターの表示と画面の切りかえをします。

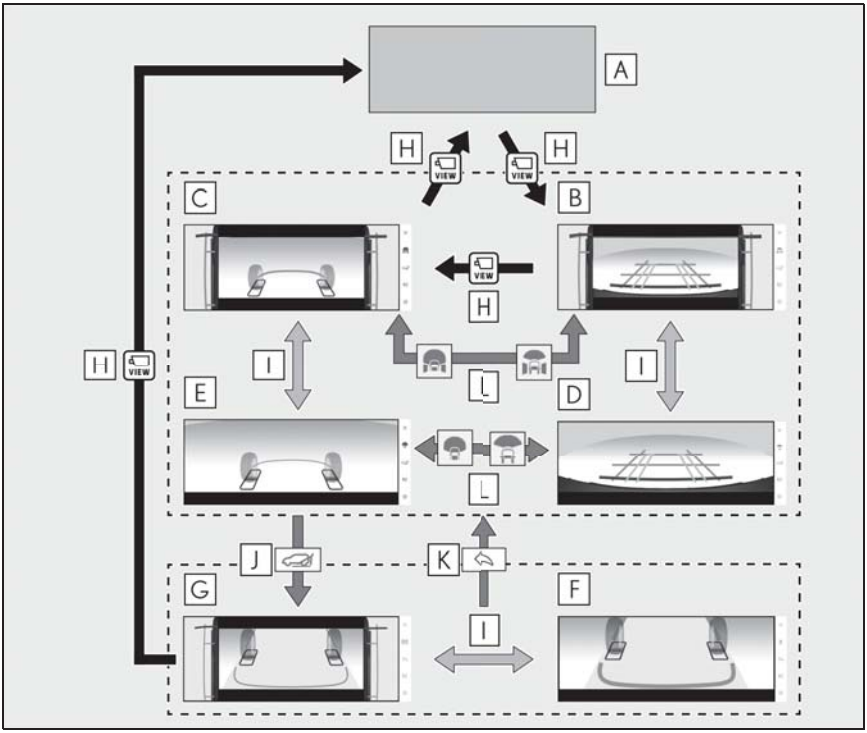


画面表示条件について

エンジンスイッチが ON の状態で、VIEW スイッチを押したときに次の画面が表示されます。（以下は一例です）

トランスファーレンジが L4 または H4 かつマルチテレインセレクトが ON のとき

■ シフトレバーが P・D・N のとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

B フロントビュー＆両サイドビュー

C アンダーフロアビュー＆両サイドビュー

D フロントビュー（拡大時）

E アンダーフロアビュー（拡大時）

F アンダーフロアビュー（後輪）（拡大時）

G アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー

H VIEW スイッチを押す

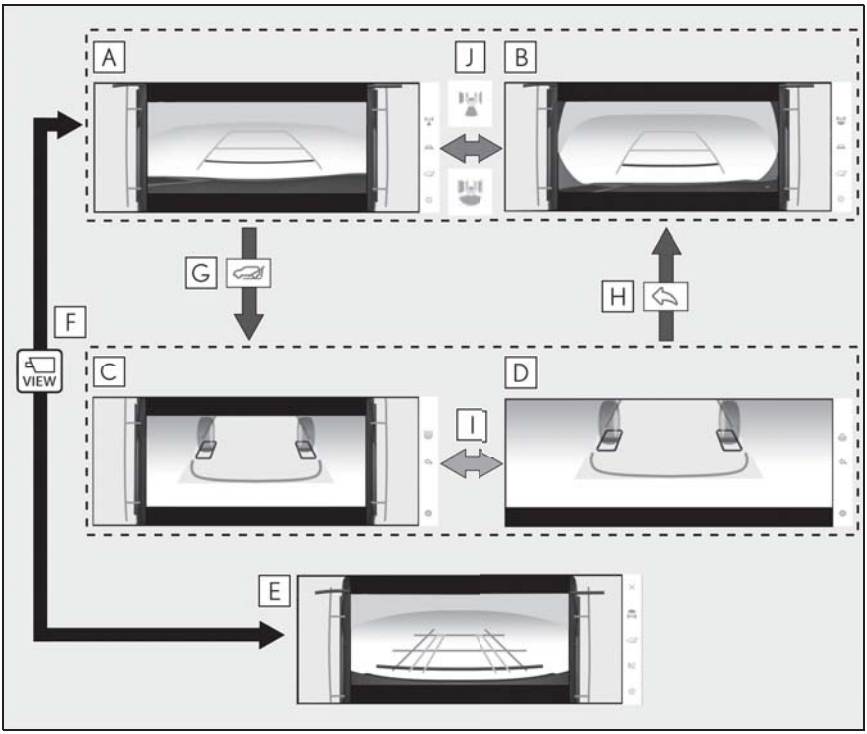
I 表示画面をタッチする

J アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチを選択

K アンダーフロアビュー（後輪）解除スイッチを選択

L 画面切りかえスイッチを選択

■ シフトレバーが R のとき



A バックビュー＆両サイドビュー

B ワイドバックビュー＆両サイドビュー

C バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー

D バックアンダーフロアビュー（拡大時）

E ワイドフロントビュー＆両サイドビュー

F VIEW スイッチを押す

G バックアンダーフロアビュー表示スイッチを選択

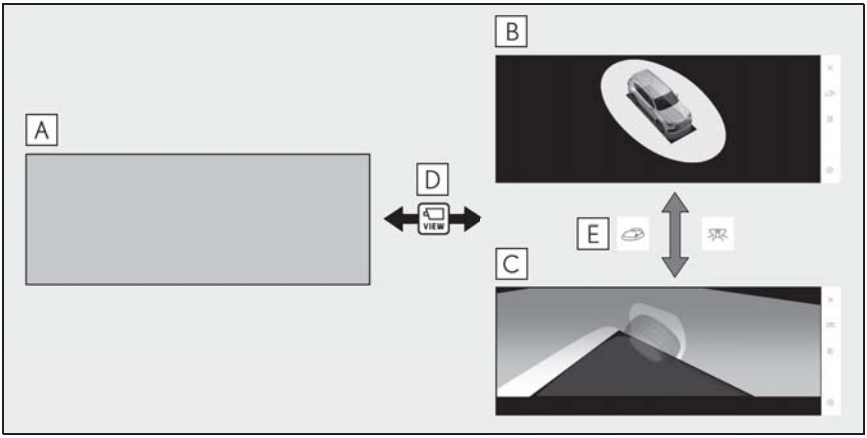
H バックアンダーフロアビュー解除スイッチを選択

I 表示画面をタッチする

J 画面切りかえスイッチを選択

トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF のとき

■ シフトレバーが P のとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

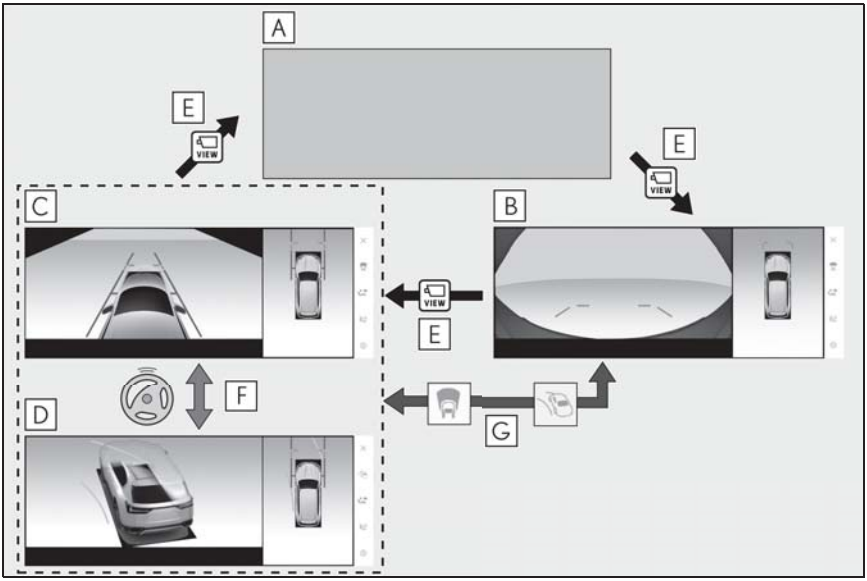
B ムービングビュー

C シースルービュー

D VIEW スイッチを押す

E 画面切りかえスイッチを選択

■ シフトレバーがD・Nのとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

B パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

C パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー

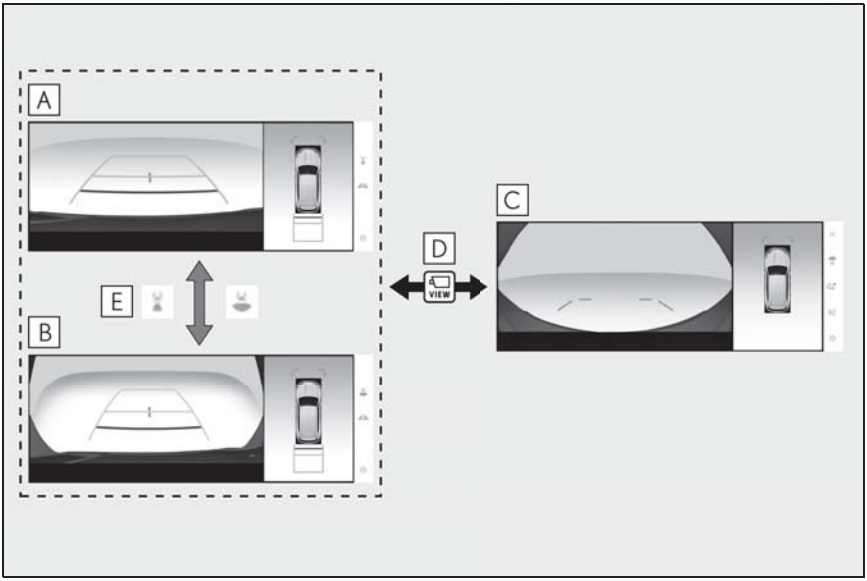
D パノラミックビュー＆コーナリングビュー

E VIEW スイッチを押す

F 直進状態から 180 度以上ハンドルを操作

G 画面切りかえスイッチを選択

■ シフトレバーが R のとき



A パノラミックビュー＆バックビュー

B パノラミックビュー＆ワイドバックビュー

C パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

D VIEW スイッチを押す

E 画面切りかえスイッチを選択

知識

■マルチテレインモニター画面の表示について

●車速が約20km/h 以下でVIEWスイッチを押した場合、約 8 秒間マルチテレインモニター画面を表示します。車速が約 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えてもとの画面に戻ります。

●車速が約20km/h 以上でVIEWスイッチを押した場合、車速が約 20km/h 以下にならない限り、約 5 分間はマルチテレインモニター画面が表示されます。ただし、車速が約 20km/h 以下になった場合は、約 8 秒間はマルチテレインモニター画面が表示され、車速が約 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えてもとの画面に戻ります。

●画面表示タイマー機能を作動していないとき、車速が 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えて元の画面に戻ります。

●ガイド線モードなどの表示設定は、ドライバー登録をすることでマイセッティングとして保存され、乗車時に呼び出すことができます。

●画面表示タイマー機能はカスタマイズ設定で変更できます。

画面表示の見方や機能などについて

トランスファーレンジがL4またはH4かつマルチテレインセレクトがONのときに表示される各画面には、前進・後退時の障害物の確認や、オフロード走行時の路面状況の把握など、さまざまな走行状況を補助する情報が表示されます。

フロントビュー＆両サイドビューについて

車両前方付近の状況確認に利用できます。

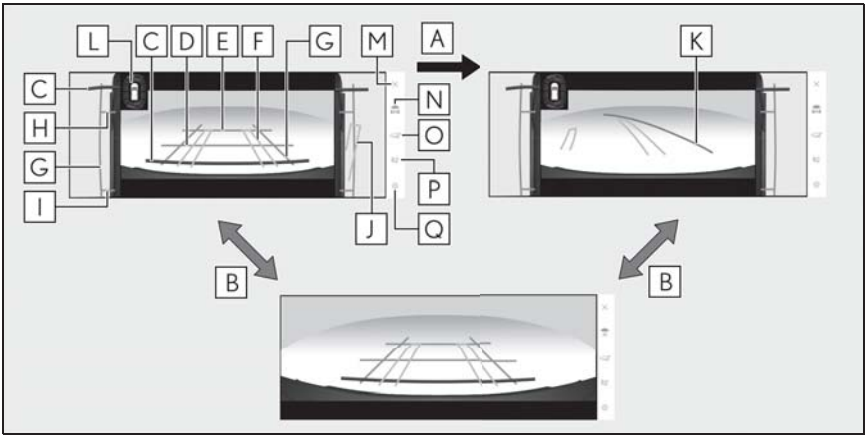
- 車両前方の映像に加えて、進行方向を決定する際の目安となる、ガイド線が合成表示されます。
- 表示されている画面をタッチすると、通常表示から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常表示にもどります）
- ハンドルを約270°以上操作しているときは、右左折を補助するガイド線などが自動で表示されます。

画面を表示する

1 シフトレバーをP・DまたはNにする

2 VIEWスイッチをフロントビュー＆両サイドビューが表示されるまで押す

フロントビュー＆両サイドビューについて



A ハンドルを約270°以上操作しているとき

B 表示画面をタッチする

C 0.5m距離目安線（赤）

D 1.0m距離目安線（青）

E 2.0m 距離目安線（青）

C ～E は、それぞれ車両前端からの距離の目安を示します。

F フロントタイヤ進路線（黄）

ハンドル操作に連動して、前輪の進路の目安を示します。

G 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

H フロントタイヤ接地線（青）

I リヤタイヤ接地線（青）

H ·I は、それぞれ映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

J リヤタイヤ進路線（黄）

後輪の軌跡の目安を示します。

K 前進ガイド線（青）

最も小まわりして前進した場合の軌跡の目安を示します。

L クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

M 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

N 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

O アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.311）

P 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.307

Q カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

自動表示モードについて

VIEW スイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイド

ビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトレバーを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● 自動表示モード 切りかえスイッチを選択するたびに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

知識

■フロントビュー＆両サイドビュー表示について

シフトレバーが P・D・N のときに表示できます。

アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方の状況や前輪位置の把握などを補助します。

● 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。

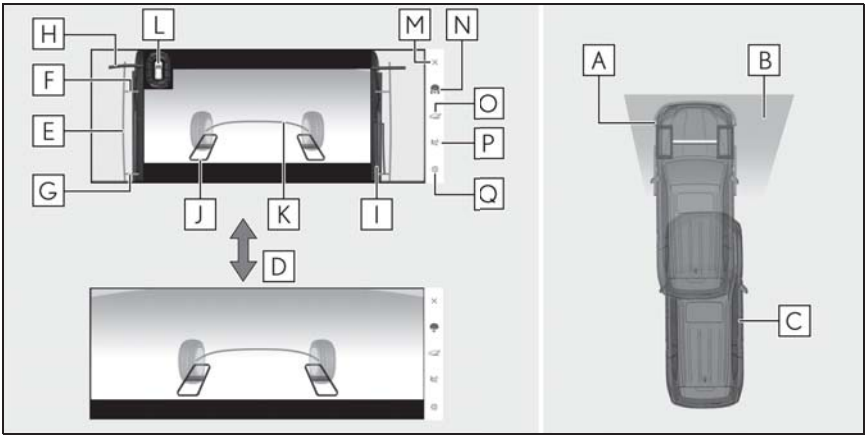
● 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

画面を表示する

1 シフトレバーを P・D または N にする

2 VIEW スイッチをアンダーフロアビュー＆両サイドビューが表示されるまで押す

アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B アンダーフロアビューで表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より後方）

D 表示画面をタッチする

E 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

F フロントタイヤ接地線（青）

G リヤタイヤ接地線（青）

F ・G はそれぞれの映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

H 0.5m 距離目安線（赤・黒）

車両前端からの距離の目安を示します。

I リヤタイヤ進路線（黄）

後輪の軌跡の目安を示します。

J タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

K 車両形状線（青）

車両前端の位置の目安を示します。

L クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

M 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

N 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

O アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.311）

P 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.310

Q カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更で

きます。（→P.341）

自動表示モードについて

VIEW スイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

・シフトレバーを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● 自動表示モード 切りかえスイッチを選択するごとに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

知識

■アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて

●シフトレバーが P・D・N のときに表示できます。

●アンダーフロアビュー表示中に車速が約 20km/h 以上になると、アンダーフロアビュー表示が黒表示になります。

●次の場合は、アンダーフロアビュー表示が黒表示になります。
・ハンドルを最大近くまで操作しながら走行したとき
・エンジン始動後、またはシステムが正常復帰後、一定以上の距離を走行していないとき
・車輪が空転したとき
・マルチテレイン ABS 作動時
・システムが正常に作動しないとき

●アンダーフロアビュー表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります
・積雪路
・太陽光や照明などによる光源により影があるとき
・すべりやすい路面や、車輪が空転したとき
・カメラレンズに汚れや異物などが付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操作したとき
・坂道などの勾配があるとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

警告

■アンダーフロアビュー表示について

表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、アンダーフロアビュー表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビューについて

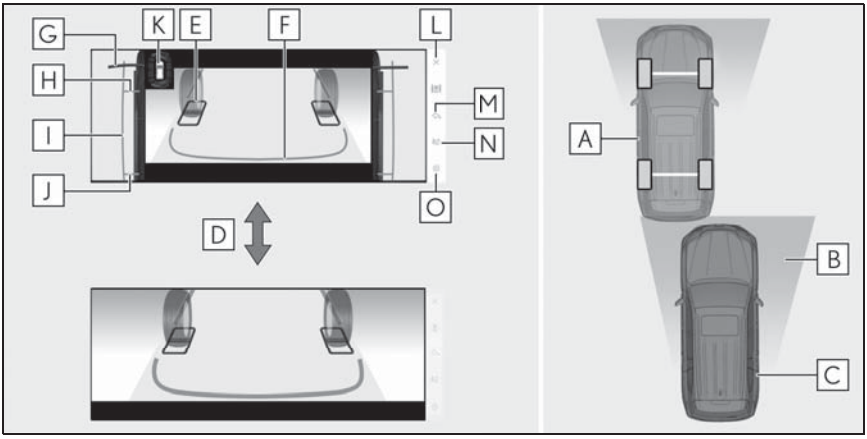
現在の車両位置より手前で撮影された映像を車両の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方の状況や後輪位置の把握などを補助します。

- 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。
- 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

画面を表示する

1 シフトレバーをP・DまたはNにする
2 VIEWスイッチを押し、フロントビュー＆両サイドビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビューまたはそれらの拡大表示を表示させる
3 アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチを押す

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B アンダーフロアビュー（後輪）で表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より後方）

D 表示画面をタッチする

E タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

F 車両形状線（青）

車両端部の位置の目安を示します。

G 0.5m 距離目安線（赤・黒）

車両前端からの距離の目安を示します。

H フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

I 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

J リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

K クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

L 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

M アンダーフロアビュー（後輪）解除スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）を表示する前の画面を表示します。

N 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.313

O カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

自動表示モードについて

VIEW スイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトレバーを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● 自動表示モード 切りかえスイッチを選択するごとに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

知識

■**アンダーフロアビュー（後輪）について**

●シフトレバーが P・D・N のときに表示できます。

●次の場合はアンダーフロアビュー（後輪）表示が終了し、自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。
また、次に表示できるまでアンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチは操作できません。

- 車速が約 5km/h 以上になったとき
- ハンドルを最大近くまで操作しながら走行したとき
- 車輪が空転したとき
- マルチテレイン ABS 作動時
- システムが正常に作動しないとき
- ハンドルを一定舵角以上操作したとき

●アンダーフロアビュー（後輪）表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない、またはアンダーフロアビュー（後輪）への切りかえができない場合があります。また、次に表示できるまでアンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチは操作できません。

- 積雪路
- 太陽光や照明などによる光源により影があるとき
- すべりやすい路面や、車輪が空転した

とき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操舵したとき
・坂道などの勾配があるとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■アンダーフロアビュー（後輪）表示について

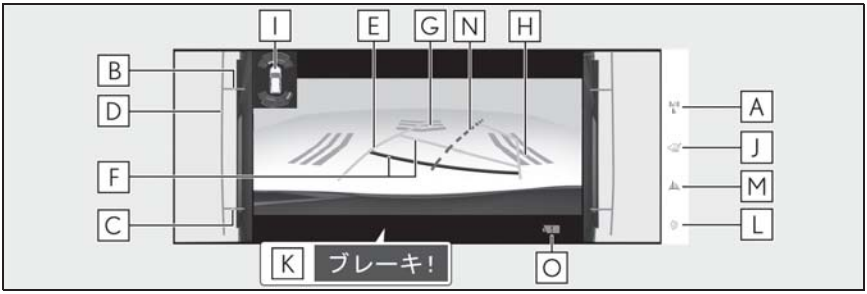
表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、アンダーフロアビュー（後輪）表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューについて

駐車時の安全確認を行うために、車両側方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

画面を表示する

1 シフトレバーをＲにする



A 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューが切りかわります。

B フロントタイヤ接地線（青）

C リヤタイヤ接地線（青）

B・C はそれぞれの映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

D 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

E 後方予想進路線（黄）

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。

F 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動する。
・ 車両後端から約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。

G RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

H RCTA（リヤクロストラフィックアラート）／ RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。
・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

I クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

J バックアンダーフロアビュー表示スイッチ

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.317）

K PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

L カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

M ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、予想進路線表示モード／車両中央予想進路線表示モードが切りかわります。

N 車両中央予想進路線

ハンドル操作と連動して、車両中央の目安（緑色）を示します。

O カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

知識

■バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューについて

●シフトレバーがRのときに表示できます。

●シフトレバーがRのときにVIEWスイッチを押すと、フロントビュー＆両サイドビューに切りかえできます。

●クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

■ガイド線について

バックドアが閉じていないと、ガイド線が表示されません。バックドアが閉まっているのにガイド線が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

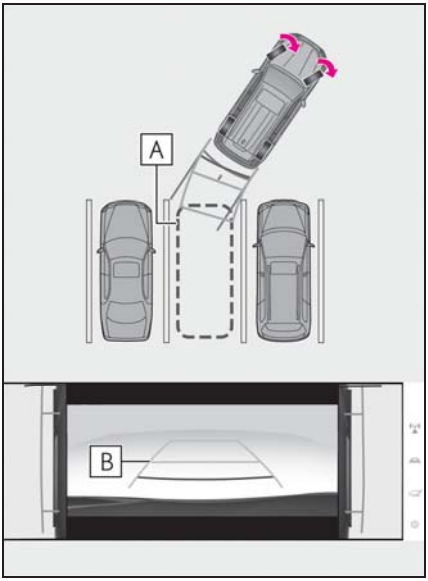
クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

駐車する

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーをRにする

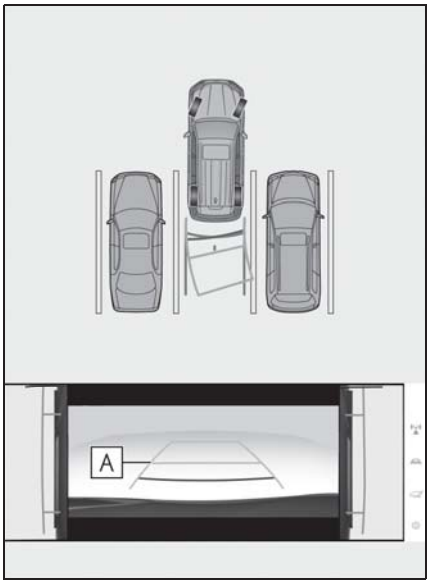
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



A 駐車スペース

B 予想進路線

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線のあいだに入るようにハンドルを操作する



A 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像を車両の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方・後方の状況や後輪位置の把握などを補助します。

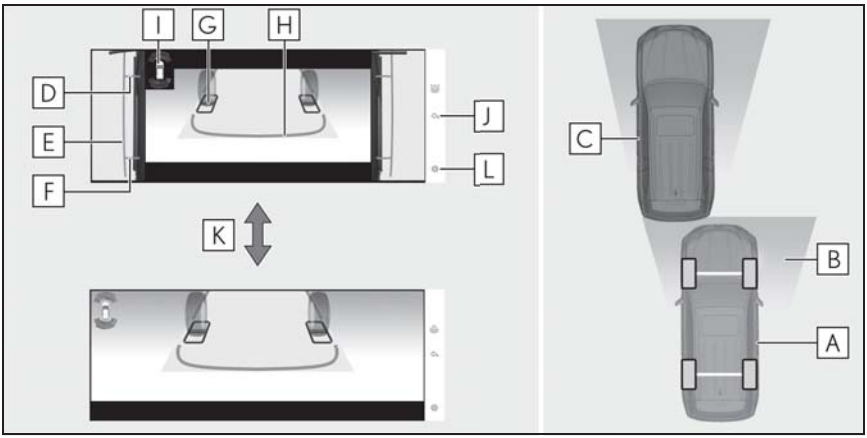
- 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。
- 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

画面を表示する

1 シフトレバーを R にし、バックビュー＆両サイドビューまたはワイドバックビュー＆両サイドビューを表示させる

2 バックアンダーフロアビュー表示スイッチを押す

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B バックアンダーフロアビューで表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より前方）

D フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

E 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

F リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

G タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

H 車両形状線（青）

車両端部の位置の目安を示します。

I クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

J バックアンダーフロアビュー解除スイッチ

バックアンダーフロアビューを表示する前の画面を表示します。

K 表示画面をタッチする

L カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

知識

■バックアンダーフロアビューについて

●シフトレバーが R のときに表示できます。

●バックアンダーフロアビュー表示中に、車速が約 5km/h 以上になると自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。

●次の場合はバックアンダーフロアビュー表示が終了し、自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。また、次に表示できるまでバックアンダーフロアビュー表示スイッチは操作できません。
・車輪が空転したとき
・マルチテレイン ABS 作動時
・システムが正常に作動しないとき
・RCTA・RCD やパーキングサポートブレーキが作動したとき

●バックアンダーフロアビュー表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない、またはバックアンダーフロアビューへの切りかえができない場合があります。また、次に表示できるまでバックアンダーフロアビュー表示スイッチは操作できません。
・積雪路
・太陽光や照明などによる光源により影があるとき
・滑りやすい路面や、車輪が空転したとき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川、海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操舵したとき
・坂道などの勾配があるとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

警告

■**バックアンダーフロアビュー表示について**

●表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、バックアンダーフロアビュー表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

●表示される映像の範囲には限界があります。必ず目視やデジタルインナーミラー・ドアミラーなどで周囲の安全を確認した上で運転してください。

画面表示の見方や機能などについて

トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF のときに表示される各画面には、前進・後退時の障害物の確認など走行状況を補助する情報が表示されます。

シースルービュー／ムービングビューについて

車両周辺の障害物を確認するため、各カメラから合成された映像を表示するモードです。運転席から見たような映像や、車両まわりの斜め上方から見たような映像を表示します。

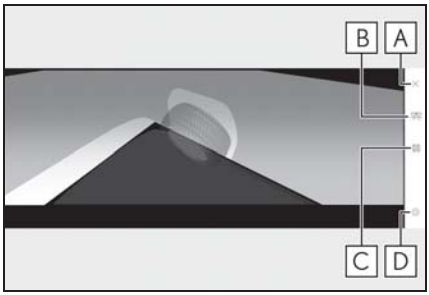
画面を表示する

1 シフトレバーを P にする

2 VIEW スイッチを押す

● シースルービュー／ムービングビューが表示されます。

▶ シースルービュー



A 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

B 画面モード切りかえスイッチ

シースルービュー／ムービングビューを切りかえます。

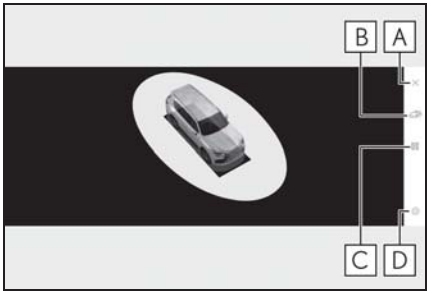
C 一時停止／再回転スイッチ

回転表示を一時停止、再開します。

D カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

▶ ムービングビュー



A 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

B 画面モード切りかえスイッチ

シースルービュー／ムービングビューを切りかえます。

C 一時停止／再回転スイッチ

回転表示を一時停止、再開します。

D カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

知識

■シースルービュー／ムービングビューについて

● シフトレバーが P のときにシースルービュー／ムービングビューを表示できます。

● シースルービュー／ムービングビューが表示されているときに、シフトレバーを D または N にすると、パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー表示に切りかわります。

● シースルビュー／ムービングビュー画面を選択しても、シースルビュー／ムービングビューの回転を一時停止、再開できます。

● クリアランスソナーが ON のときのみ、シースルービュー／ムービングビューを表示できます。

パノラミックビュー＆ワイドフロントビューについて

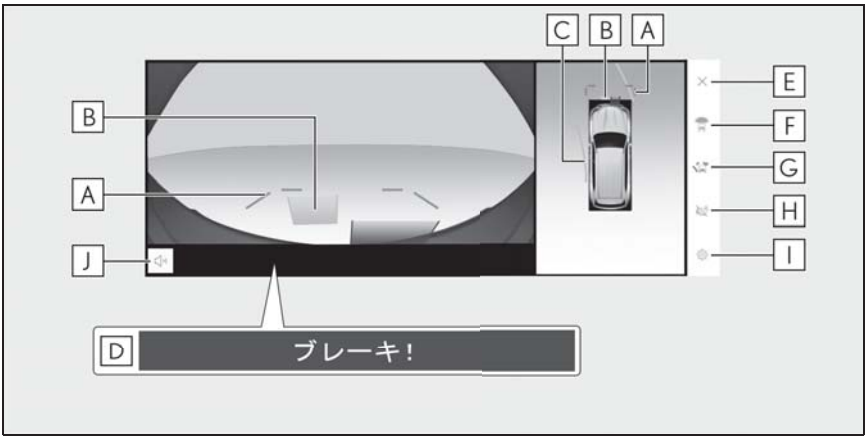
見通しの悪い交差点や丁字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

画面を表示する

1 シフトレバーを D または N にする

2 VIEW スイッチを押す

● パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが表示されます。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

C 前進予想進路線

・ ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）
・ 直進状態から 90 度以上ハンドルを操作した場合に表示します。

D PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

E 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

F 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

G ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切りかわります。（→P.323）

H 自動表示モード切りかえスイッチ

・ 自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。（→P.323）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

I カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

J クリアランスソナーミュートボタン

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

知識

■パノラミックビュー＆ワイドフロントビューについて

● シフトレバーが D・N のときにパノラミックビュー＆ワイドフロントビューを表示できます。

● シフトレバーが R でドアミラーが開いているときに VIEW スイッチを押すと、パノラミックビュー＆ワイドフロントビューに切りかえできます。

● クリアランスソナーの作動対象の接近をお知らせする機能であり、画面に作動対象検知方向の映像が映ることはありません。

● クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

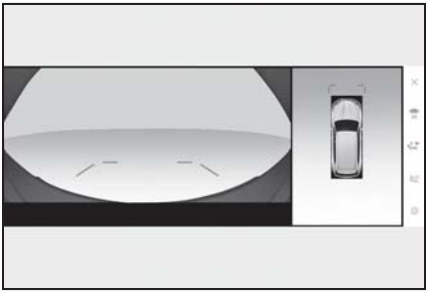
■表示について

クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードについて

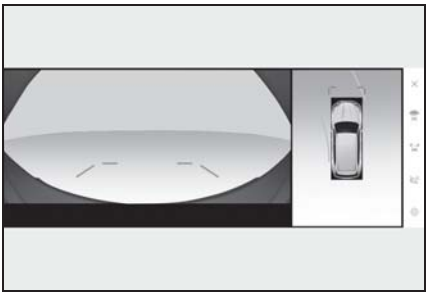
ガイド線表示モード切りかえスイッチを選択するごとに、表示モード が切りかわります。

▶ 距離目安線表示モード



● 車両前端から約 1.0 m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドルを操作した場合に表示されます。

自動表示モードについて

VIEW スイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトレバーを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● 自動表示モード 切りかえスイッチを選択するごとに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

クリアランスソナー連動表示機能について

クリアランスソナーの検知状態に応じて、パノラミックビュー＆ワイド

フロントビューが自動的に表示されます。

● 次の場合に自動で表示されます。

・クリアランスソナーが静止物を検知したとき（シフトレバーがDまたはNのとき）

● 次の場合に自動で元の画面へ戻ります。

・クリアランスソナーの検知が終了したとき

パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナリングビューについて

車両をうしろ上空から見たような映像を表示し、車両側方の安全確認や狭い小路での接触回避などの操作を補助するモードです。

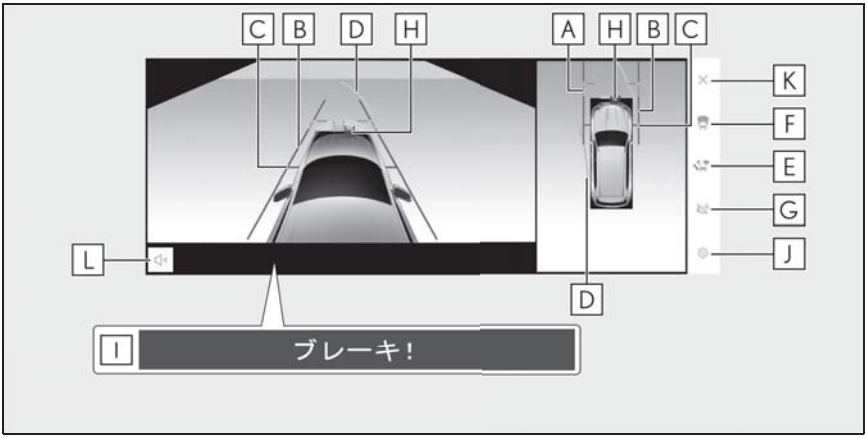
画面を表示する

1 シフトレバーをDまたはNにする

2 VIEWスイッチをパノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナリングビューが表示されるまで押す

● パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナリングビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー



A 前方距離目安線

車両前端から約1.0m先（青色）を示します。

B 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安線（灰色）を示します。

C 前輪接地線

フロントタイヤの位置（灰色）を示します。

D 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。（直進状態から 90 度以上ハンドルを操作した場合に表示されます）

E ガイド線表示モード切りかえスイッチ

ガイド線表示モードを切りかえます。

F 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

G 自動表示モード切りかえスイッチ

・ 自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。（→P.327）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

H クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

I PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

J カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

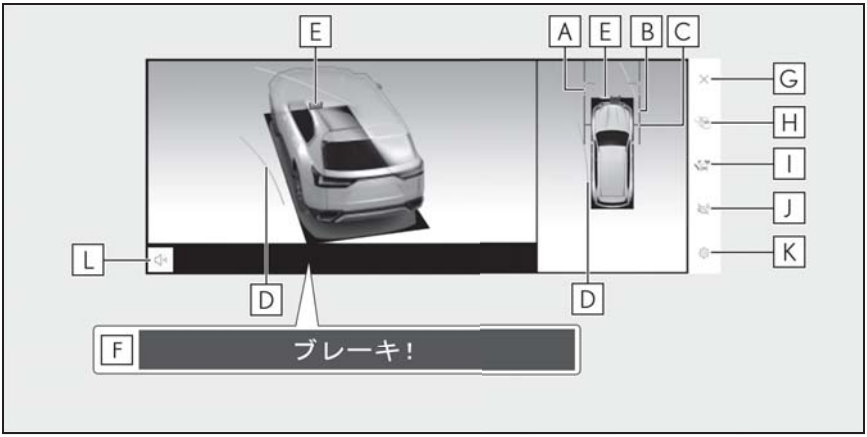
K 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

L クリアランスソナーミュートボタン

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

▶ パノラミックビュー＆コーナリングビュー



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安線（灰色）を示します。

C 前輪接地線

前タイヤの位置（灰色）を示します。

D 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。（直進状態から 90 度以上ハンドルを操作した場合に表示されます）

E クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

F PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

G 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

H 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

I ガイド線モード切りかえスイッチ

ガイド線表示モードを切りかえます。

J 自動表示モード切りかえスイッチ

・自動線表示モードの ON/OFF を切りかえます。(→P.327)
・自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

K カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。(→P.341)

L クリアランスソナーミュートボタン

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

知識

■パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナーリングビューについて

● シフトレバーが D、N のときにパノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビューを表示できます。

● クリアランスソナーは作動対象の接近をお知らせする機能であり、画面に作動対象検知方向の映像が映ることはありません。

● クリアランスソナーが ON のときのみ、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビューを表示できます。

● クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

自動表示モードについて

VIEW スイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナリングビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

・シフトレバーを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● 自動表示モード 切りかえスイッチを選択するごとに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

コーナリングビュー自動表示モードについて

ハンドル操作に応じて自動的にパノラミックビュー＆コーナリングビューが表示されるコーナリングビュー自動表示モードを設定することができます。

● コーナリングビュー自動表示モードを ON にしたとき、以下の条件をすべて満たした場合に自動でコーナリングビューを表示することができます。

- シフトレバーを D または N にしたとき
- 車速が約 12km/h 以下のとき
- 直進状態から 180 度以上ハンドルを操作したとき

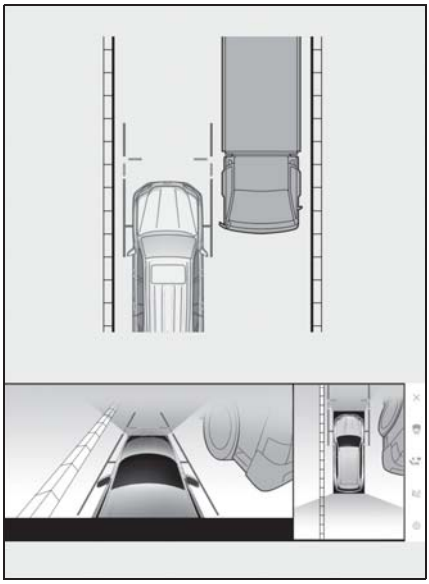
知識

■ コーナリングビュー自動表示モードについて

コーナリングビュー自動表示モードはカスタマイズ設定で変更できます。

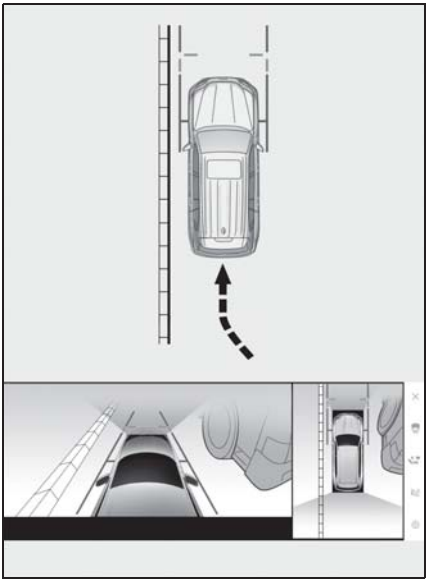
車幅平行線の使い方

■ パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー



● 車幅平行線と障害物との位置関係を確認します。

● 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドル操作をして前進します。



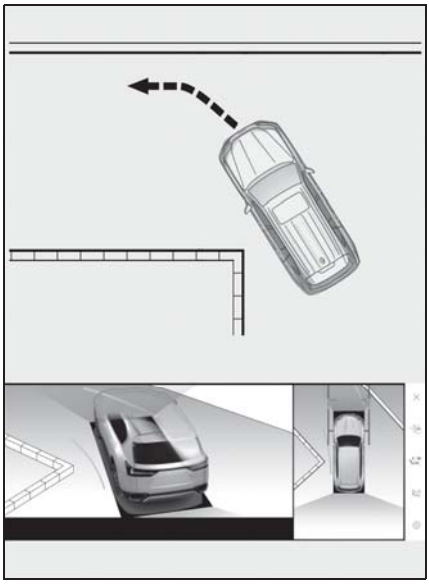
● 車両平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認します。

● 上記のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。

● 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

前進予想進路線の使い方

■ パノラミックビュー＆コーナリングビュー



● 前進予想進路線と障害物との位置関係を確認します。

● 前進予想進路線が実際の障害物と重ならないようにハンドルを操作して前進します。

パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューについて

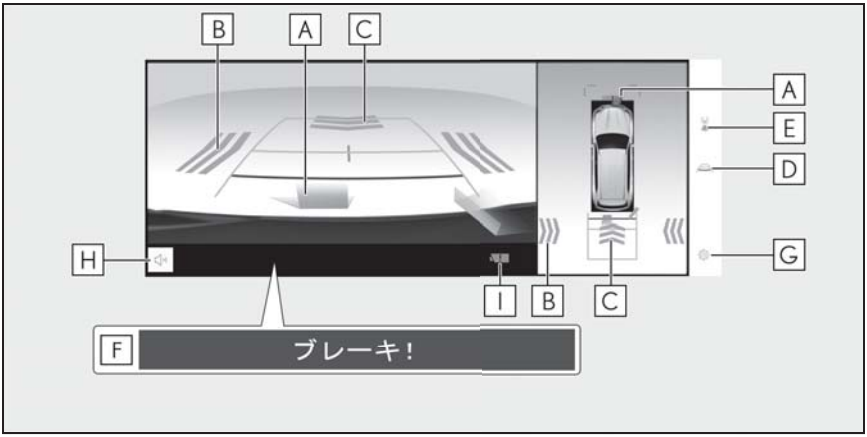
駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

画面を表示する

1 シフトレバーを R にする

● パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー＆バックビュー



A クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

B RCTA（リヤクロストラフィックアラート）／ RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。
・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

C RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

D ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切りかわります。（→P.332）

E 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、バックビューとワイドバックビューが切りかわります。

F PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

G カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

H クリアランスソナー／ RCTA（リヤクロストラフィックアラート／ RCD（リヤカメラディテクション）ミュートボタン

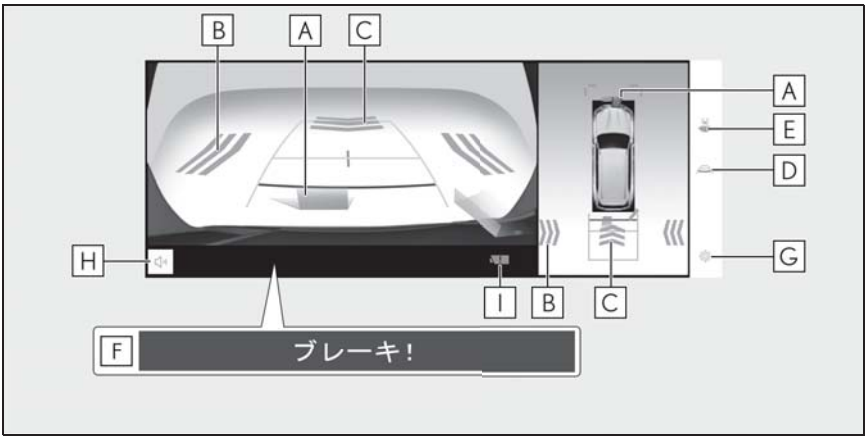
クリアランスソナー／ RCTA（リヤクロストラフィックアラート／ RCD（リヤカメラ

ディテクション）の作動音を一時的にミュートします。

I カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

▶ パノラミックビュー＆ワイドバックビュー



A クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

B RCTA（リヤクロストラフィックアラート）／ RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。
・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

C RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

D ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切りかわります。（→P.332）

E 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、バックビューとワイドバックビューが切りかわります。

F PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージが表示されます。

G カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.341）

H クリアランスソナー／ RCTA（リヤクロストラフィックアラート／ RCD（リヤカメラディテクション）ミュートボタン

クリアランスソナー／ RCTA（リヤクロストラフィックアラート／ RCD（リヤカメラディテクション）の作動音を一時的にミュートします。

I カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

知識

■パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューについて

- シフトレバーが R でドアミラーが開いているときにパノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューを表示できます。
- シフトレバーが R のときに VIEW スイッチを押すと、パノラミックビュー＆ワイドフロントビューに切りかえできます。
- クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

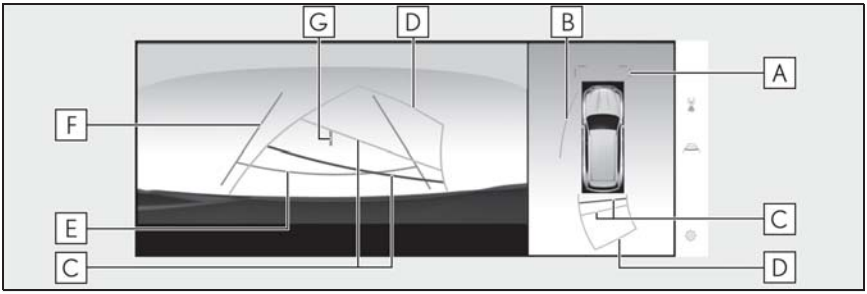
クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードについて

ガイド線表示モード切りかえスイッチを選択するごとに、表示モード が切りかわります。

▶ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されます。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B 側方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

C 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動する。
・ 車両後端から約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。

D 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

E 後方距離目安線

車両後端から約 0.5m 先（青色）を示します。

F 後方車幅延長線

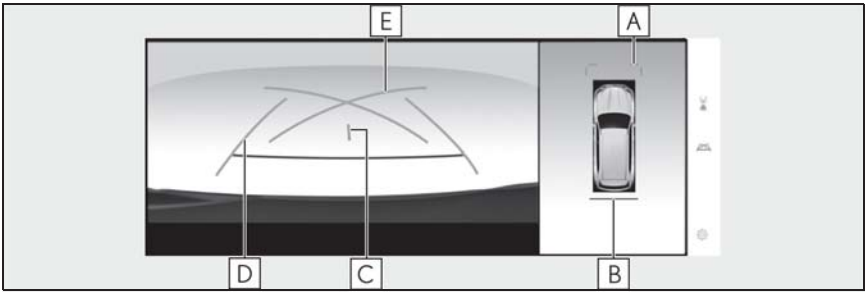
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。

G 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置（青色）を示します。

▶ 駐車ガイド線表示モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されます。予想進路線表示を必要とせずに駐車できる、車両感覚に慣れた方におすすめします。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 車両後端から約 0.5m 先（赤色）を示します。

C 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置（青色）を示します。

D 後方車幅延長線

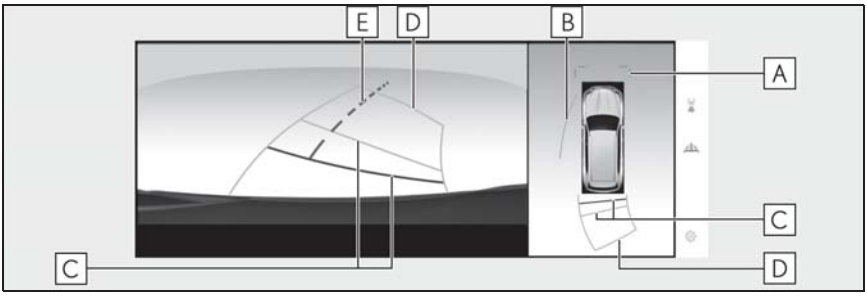
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示。

E 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安を示します。
・ 駐車時にハンドルを操作する位置の目安。

▶ 車両中央予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動して、予想進路線や車両中央線の目安などが表示されます。またリヤバンパーの中心を、看板やポールなどの目印に寄せる場合に使用します。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B 側方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

C 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 車両後端から約 0.5m 先（赤色）を示します。

D 後方予想進路線

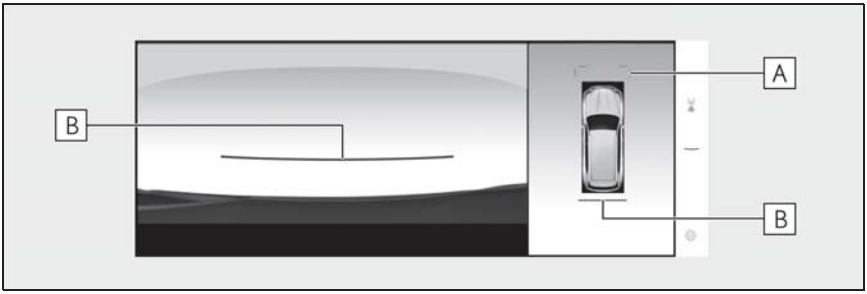
ハンドル操作を連動して、進路の目安（黄色）を示します。

E 車両中央予想進路線

ハンドル操作と連動して、車両中央の目安（緑色）を示します。

▶ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。ガイド線を必要としない方におすすめします。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1.0m 先（青色）を示します。

B 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 車両後端から約 0.5m 先（赤色）を示します。

知識

■ **ガイド線表示モードについて**

● バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

● クリアランスソナーは作動対象の接近をお知らせする機能であり、画面に作動対象検知方向の映像が映ることはありません。

● クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線表示モードについて

後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

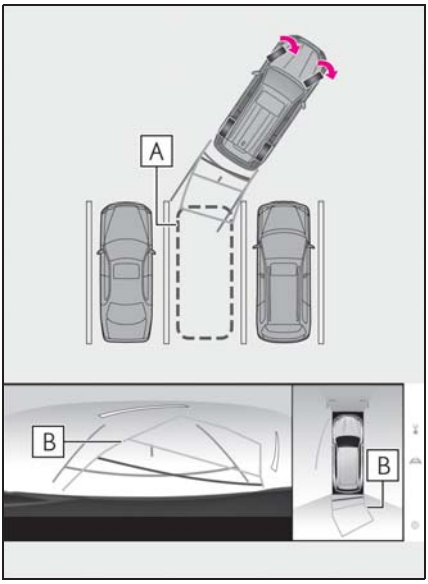
駐車する

予想進路線表示モード

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

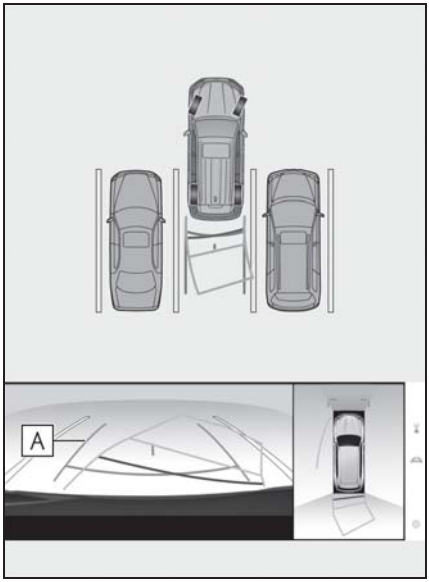
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



A 駐車スペース

B 予想進路線

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線のあいだに入るようにハンドルを操作する



A 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

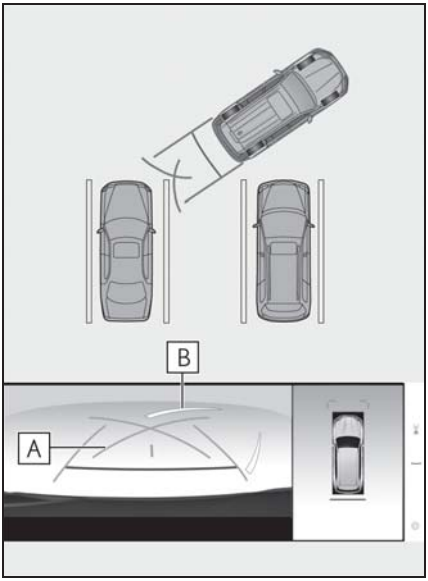
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

駐車ガイド線表示モード

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



A 駐車ガイド線

B 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

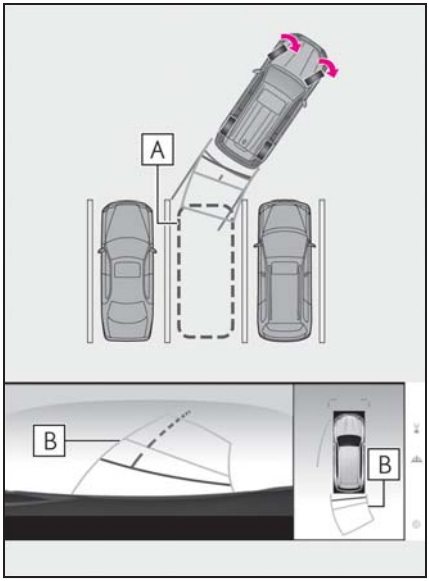
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

車両中央予想進路線表示モード

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する

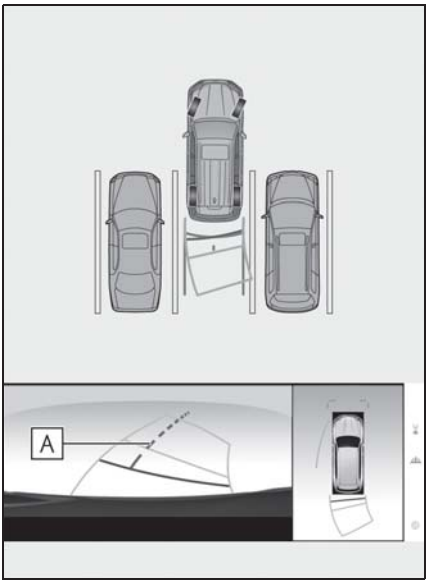


A 駐車スペース

B 予想進路線

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車両中央予想進路線が

駐車スペース中央に入るようにハンドルを操作する



A 車両中央予想進路線

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

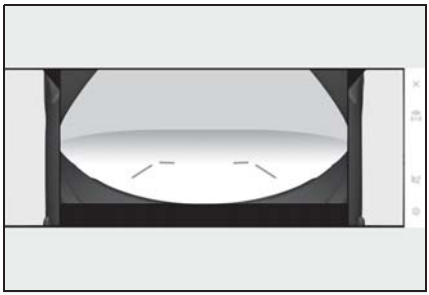
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

ドアミラー格納時の表示について（パノラミックビューモニター）

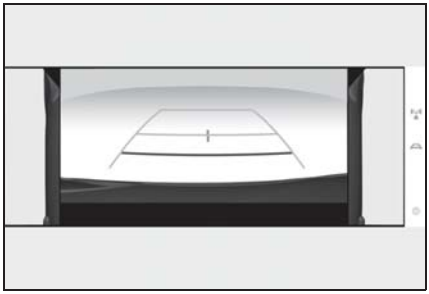
ドアミラーを格納した場合、パノラミックビューのかわりにサイドカメラからの映像が表示されます。狭い場所での幅寄せ駐車の際などに、車両周辺の安全確認を補助します。

画面表示について

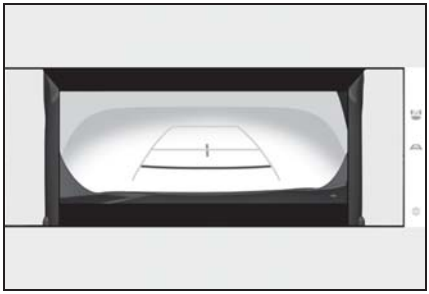
▶ ワイドフロントビュー＆両サイドビュー



▶ バックビュー＆両サイドビュー



▶ ワイドバックビュー＆両サイドビュー



知識

■表示について

●ワイドフロントビュー、バックビュー、ワイドバックビューについては、それぞれ「パノラミックビュー＆ワイドフ

ロントビューについて」（→P.321）、「パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビュー」（→P.329）をご覧ください。

● シフトレバーが R のときは、ワイドフロントビュー＆両サイドビューを使用できません。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

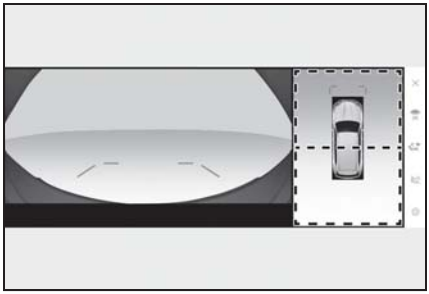
クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

拡大機能について（パノラミックビュー）

パノラミックビューを表示させているとき、画面に映っているものが小さく見えにくい場合に、パノラミックビューの車両の前後 2 カ所のいずれかを拡大して表示させることができます。

画面を拡大表示させる

パノラミックビューを表示させているとき（パノラミックビュー＆コーナリングビュー表示中は除く）に、パノラミックビューの拡大させたいエリアを選択。



● 選択したエリアが拡大表示されます。

● 拡大表示を解除するには、再度画面を選択します。

知識

■拡大機能について

●以下の条件をすべて満たすと拡大機能を使用することができます。
・ 車速が 12km/h 以下
・ クリアランスソナーが ON になっている

●以下のいずれかの条件を満たすと拡大表示が自動的に解除されます。
・ 車速が 12km/h 以上になった
・ クリアランスソナーを OFF にした

●シフトレバーが R のときの パノラミックビュー＆フロントビューでは、拡大表示使用できません。

●パノラミックビューの拡大表示は、通常のパノラミックビューとは違い、ガイド線を表示しません。

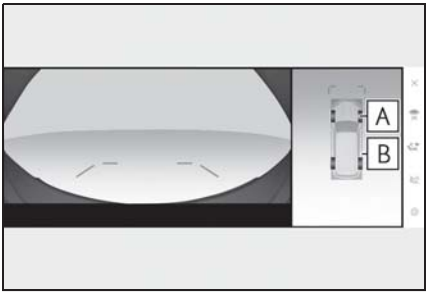
●クリアランスソナーの割込表示は作動対象の接近をお知らせする機能であり、画面に作動対象検知方向の映像が映ることはありません。

床下透過映像について（パノラミックビュー）

現在の車両位置から撮影された過去

のカメラ映像が車両下に合成表示され、車両下の状況やタイヤ位置の把握などを補助できます。映像はパノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示させることができます。

床下透過映像について



A タイヤ形状線

ハンドルと連動してタイヤ位置の目安を示します。

B 車両形状目安線

車両の外形の目安を示します。

知識

■床下透過映像について

●床下透過映像表示は、カスタマイズ設定画面の設定を On にし、車両を前進または後退すると表示されます。(→P.341)

●次の場合は、床下透過映像表示が表示されません。
・車速が約 20km/h 以上になったとき
・車両が停止し、一定時間経過したとき
・車両始動後、一定以上の距離を走行していないとき
・ドアミラーを格納しているとき
・マルチテレイン ABS が作動したとき
・システムが正常に作動しないとき

●次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。
・積雪路
・照明などによる影があるとき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラの前に障害物があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いて、カメラの位置が正しくない場合
・すべりやすい路面や車輪が空転したとき
・坂道などの勾配があるとき

●過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
・撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
・表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・車両がスリップしたとき

●次のような状況では、床下透過映像が一部、またはすべて黒映像で表示される場合があります。
・撮影した映像がない状態で発進したとき
・ハンドルを一定以上の角度まで操作したとき
・車両が停止し、一定時間が経過したとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・タイヤ交換などにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

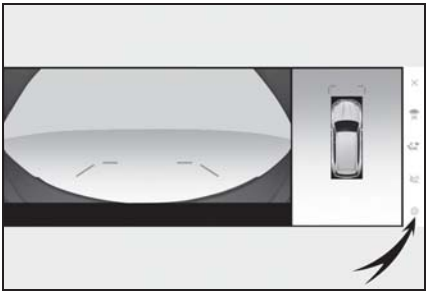
■床下透過映像について

表示される映像は、撮影された過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

マルチテレインモニターの設定を変更する

コーナリングビュー自動表示や車両のボディーカラー・クリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。

1 カスタマイズ設定スイッチにタッチする



2 各項目を設定する

● コーナリングビュー

コーナリングビューを自動で表示できます。

● ボディーカラー

画面に表示されるボディーカラーを変更できます。

● クリアランスソナー検知距離

クリアランスソナーによる障害物検知の開始距離を切りかえることができます。

● クリアランスソナー 3D 表示

クリアランスソナー 3D 表示の ON/OFF を設定できます。

● 床下透過の映像表示

床下透過映像表示の設定を ON/OFF できます。設定を ON にし、車両を前進または後退すると、現在の車両位置から撮影された過去のカメラ映像が車両下に合成表示され、車両下の状況やフロントタイヤ位置の把握などを補助できます。映像はパノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示されます。

● カメラ映像自動オフ

画面表示タイマー機能の ON/OFF を設定できます。

知識

■マルチテレインモニターの設定変更について

走行中は安全のため、設定変更画面を表示できません。

ご使用上の注意

マルチテレインモニターを使用するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、運転操作時は必ず後方・周囲の安全を直接確認してください。

警告

■マルチテレインモニターを使用してはいけないとき

次のような状況では、マルチテレインモニターを使用しないでください。使用すると、システムが正常に働かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 凍結路や雪道など、またはすべりやすい路面
- タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき
- フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない道路
- 指定以外のタイヤやサスペンション部品などが装着されているとき
  タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。
- 画面に映るエリアにレクサス純正品以外の装備品を装着しているとき

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

注意

■パノラミックビューについて

- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、特性を十分理解した上で使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラの映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、各カメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックドア・フロントドアが開いていると、パノラミックビューは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックスによる画像であり、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。そのため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際と異なる場合があります。
- カメラが正しく作動せず、画面が次のように表示されることがあります。

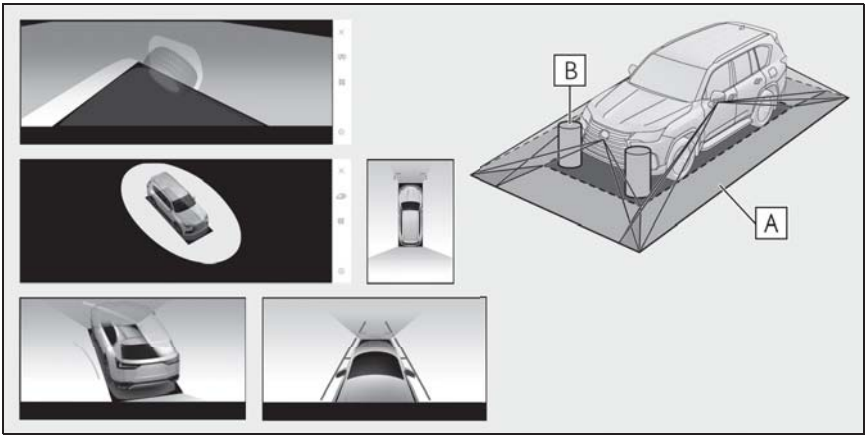
⚠ 注意

- シフトレバーをＲにしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
- シフトレバーをＲにしたときに、カメラ映像に切りかわらない
- カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

画面に映る範囲について

両サイドビュー、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー（拡大表示を含む）、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューについて：

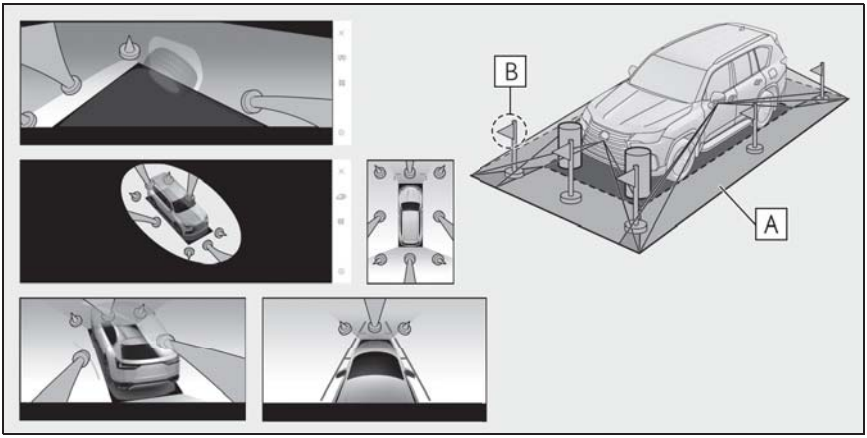
車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

黒色部分内にある障害物は画面に表示されません。



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

路面より高い部分は画面に表示されません。

知識

■画面に映る範囲について

●車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。

●シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー（拡大表示を含む）、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、4つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、以下のように表示されることがあります。

・立体物が倒れて細長く、または大きく見える
・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、または見えない
・高さのある物が合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある

●照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。

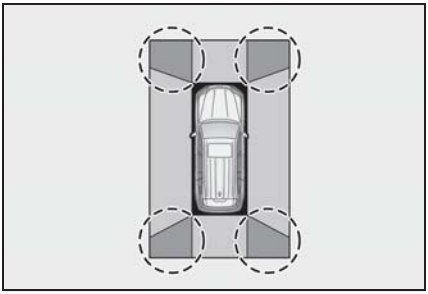
●乗員人数・積載状況・ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。

●ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。

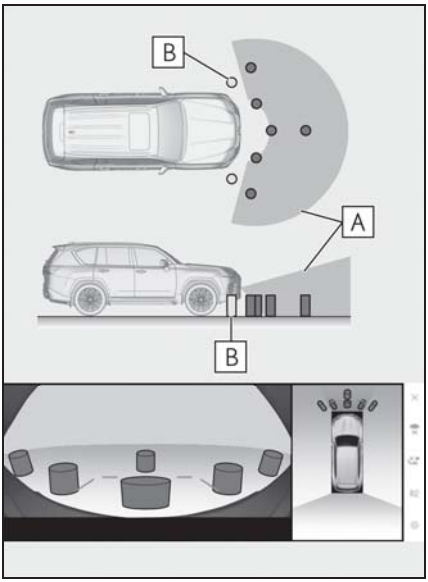
●シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー（拡大表示を含む）、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。

●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

●下図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



ワイドフロントビューについて



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

知識

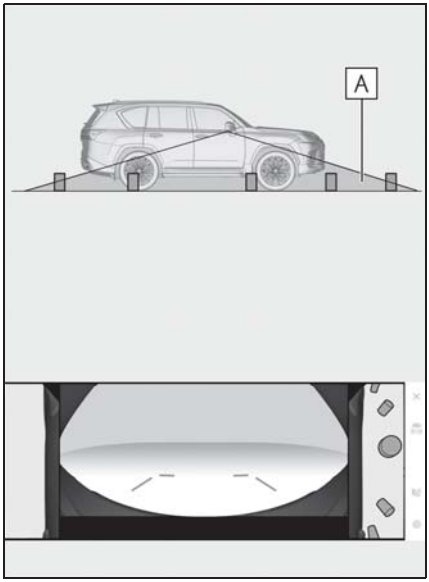
■ワイドフロントビューに映る範囲について

●カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

●画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●ワイドフロントビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

両サイドビューについて



A 画面に映るエリア

知識

■両サイドビューに映る範囲について

●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。

●カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

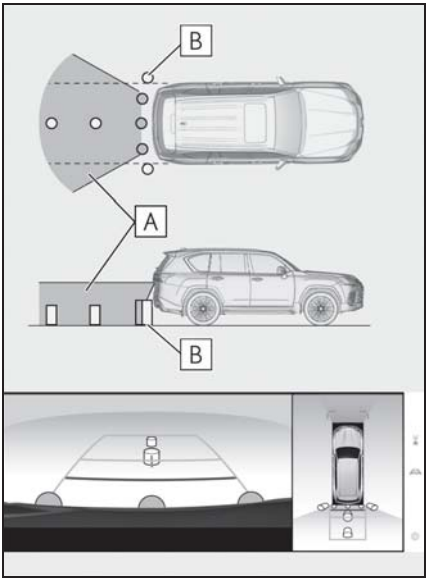
●画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●両サイドビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映

像の距離感は実際の距離とは異なります。

バックビュー・ワイドバックビューについて

▶ バックビュー

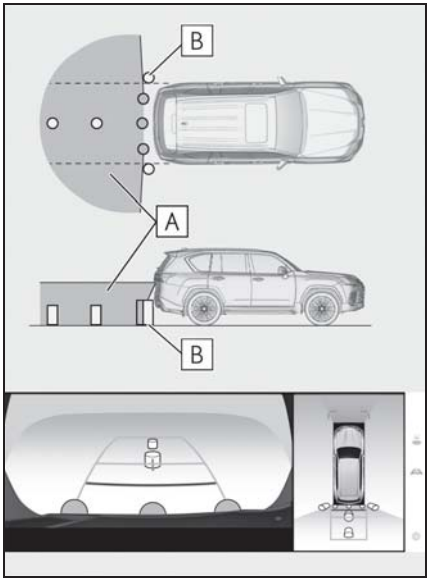


A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

▶ ワイドバックビュー



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

知識

■バックビュー・ワイドバックビューに映る範囲について

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- バックビュー・ワイドバックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないこと

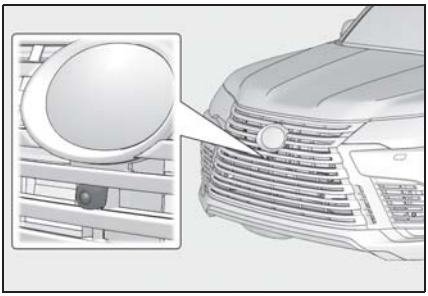
があります。

●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

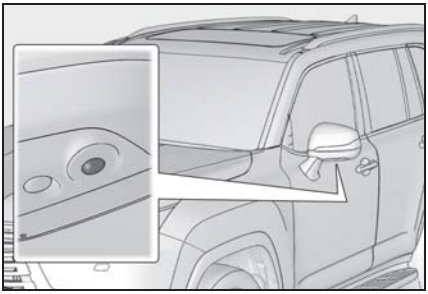
カメラについて

マルチテレインモニターの各カメラは図の位置にあります。

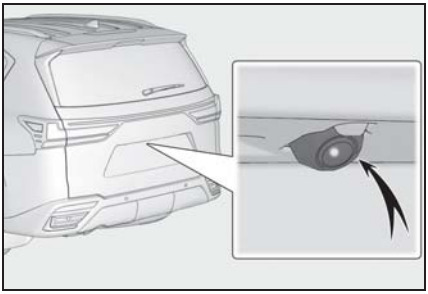
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ バックカメラ



カメラのお手入れについて

カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

バックカメラ：カメラ洗浄用のウォッシャーを作動させることで、カメラレンズの汚れを洗浄することができます。（→P.206）

注意

■カメラについて

●マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

注意

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

ウォッシャー液によるカメラ洗浄について（バックカメラ）

● カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、映像が見えにくくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

● カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、映像が見えにくくなることがあります。

● カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

● カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

注意

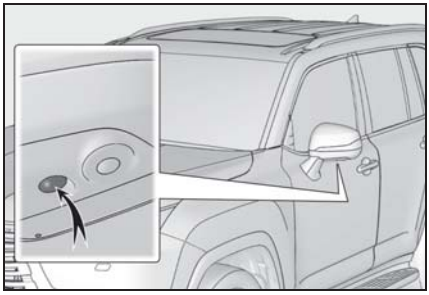
■カメラ洗浄について

●ウォッシャーノズル部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ウォッシャーノズルの位置・取りつけ角度がずれるおそれがあります。

●ウォッシャーノズル部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

パーキングアシストランプについて

マルチテレインモニターのパーキングアシストランプは図の位置にあります。



注意

■パーキングアシストランプについて

●マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・ランプ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ランプの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・ランプ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

注意

- ランプ部を洗うときは、大量の水でランプの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でランプ部をふき取ってください
- ランプのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 洗車時に高圧洗浄機でランプやランプ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

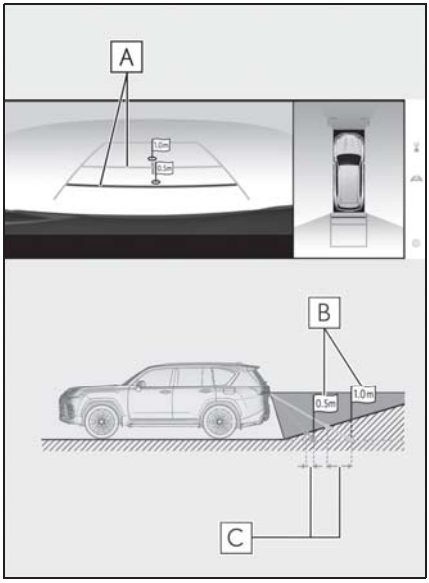
● ランプ部をぶつけたときは、ランプの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

画面と実際の路面との誤差について

マルチテレインモニターの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



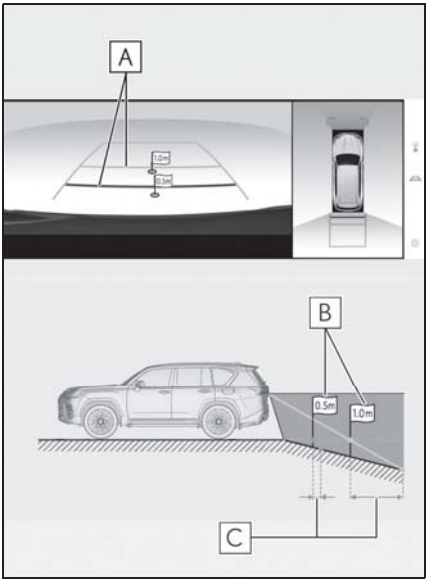
A 距離目安線

B 実際の距離

C 誤差

急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



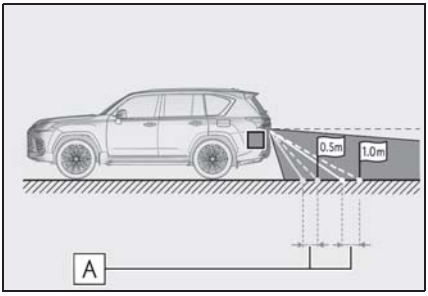
A 距離目安線

B 実際の距離

C 誤差

車が傾いているとき

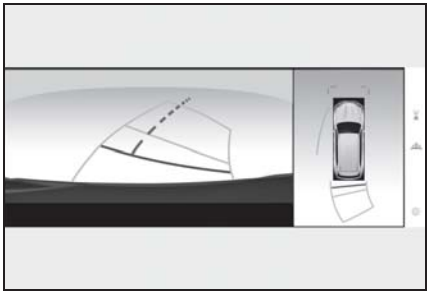
乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



A 誤差

車両中央予想進路線について

リヤバンパー付近の空中にガイド線が描かれているため、車両の中央からずれているように見えることがあります。



画面と実際の立体物との誤差について

画面に表示されるガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、以下のことにご注意ください。

警告

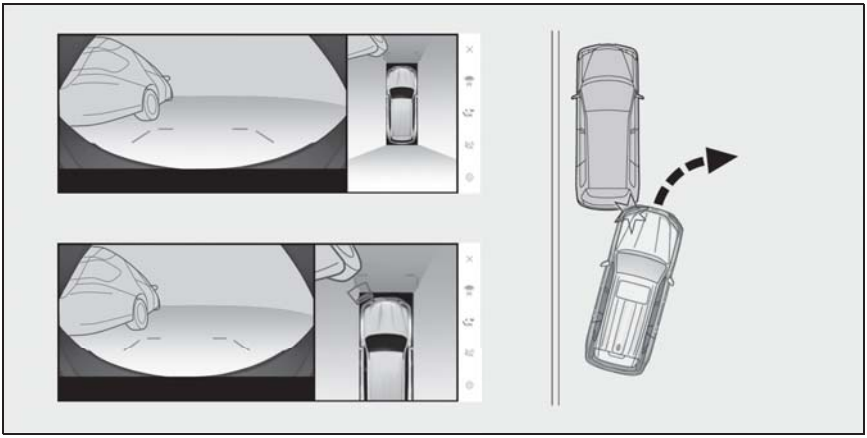
■ **クリアランスソナーの割り込み表示について**

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビュー（拡大表示を含む）の表示について

画面では車両のバンパーとのあいだに余裕があり、ぶつからないように見え

ても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。

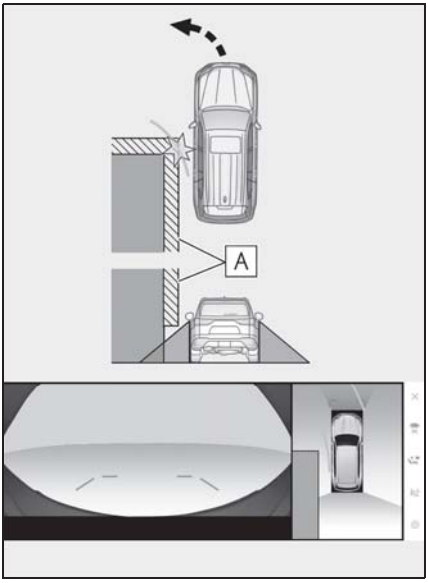


予想進路線について

● 画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。

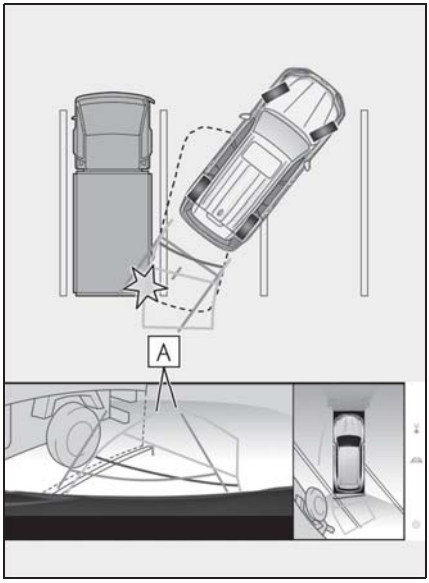
A 予想進路線

● 高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。周囲の安全を直接確認してください。



A 壁の張り出し部分

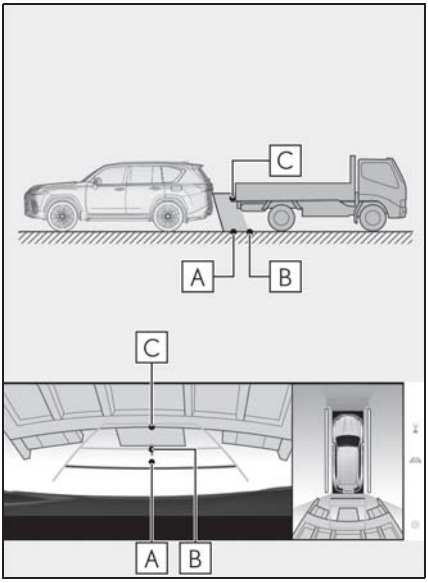
● 画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。

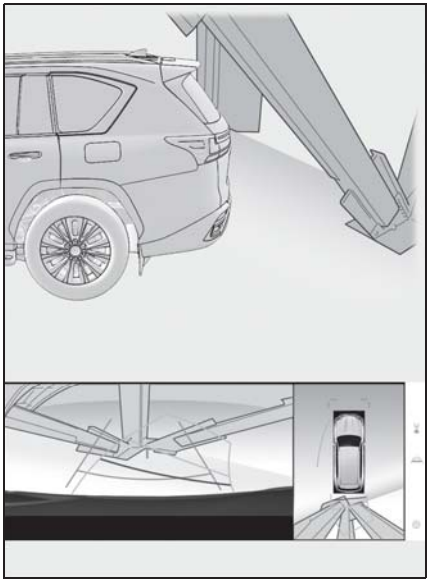


A 予想進路線

距離目安線について

画面では、距離目安線によりB の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際にはA の位置まで後退すると、ぶつかります。画面ではA ・B ・C の順に近く見えますが、実際の距離はA とC は同じ距離で、B はA とC より遠い距離にあります。後方や周囲の安全を直接確認してください。



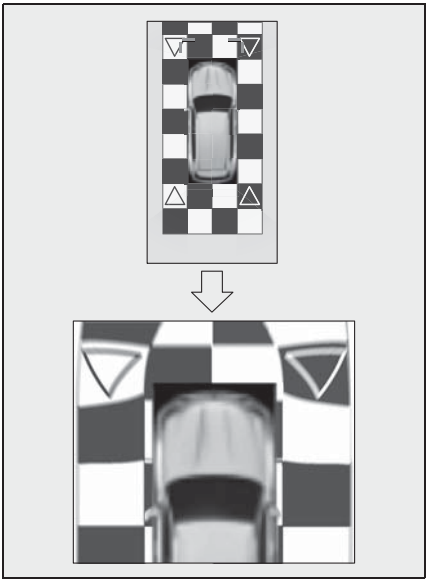


斜めの柱の張り出し部について

パノラミックビューでは倒れた柱がまっすぐでぶつからないように見えても、実際は柱の上部が張り出しているため、ぶつかる可能性があります。後方や周囲の安全を直接確認してください。

拡大機能について

パノラミックビューの拡大機能は、通常のパノラミックビューとは違い、車両アイコンのほうへ映像を縮めています。そのため、路上の白線や壁などが曲がって見える場合があります。



アンダーフロアビューについて

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面の状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線、車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

■アンダーフロアビューについて

●現在の位置より手前で撮影した過去の映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影した時点よりあとにものが動く、入り込むなど状況が変化したとき
・砂や雪などが崩れたり動いたりしたとき
・障害物が動いたとき
・表示範囲内に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・スリップなどで車両がすべったとき

●次の場合は、車両形状とタイヤ位置目安線・車両形状目安線が異なって表示される場合があります
・タイヤを交換したとき
・オプション装備を取り付けたとき

警告

■ガイド線について

表示されているガイド線は過去に撮影された映像に合成しているため、現在の状況と必ずしも一致しない場合があります。

必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

知っておいていただきたいこと

故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
画面が見にくい	●夜間など暗いところで使用 ●レンズ付近の温度が高い、または低い ●外気温が低いとき ●カメラに水滴が付いた ●雨天時など湿度が高い ●カメラ付近に異物（泥など）が付いた ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ●蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用した	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再度マルチテレインモニターをご使用ください。 マルチテレインモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。 バックカメラ：カメラ洗浄システムを作動させて、カメラレンズを洗浄してください。（→P.206）
画面がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた	レクサス販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれている	レクサス販売店で点検を受けてください。
	●車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ●傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。
ハンドルが直進状態であるにも関わらず予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	ステアリングセンサーの信号に異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ガイド線が表示されない	バックドアが開いている	バックドアを閉めてください。 直らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
パノラミックビューが拡大できない シースルービュー／ムービングビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューが表示されない	クリアランスソナーに異常（汚れ・故障など）が発生した	クリアランスソナー異常時の対処方法に従ってください。（→P.271）
画面に が表示された	フロント・サイド・バックカメラのいずれかに汚れが付着している	アイコンが表示されたカメラの汚れを取り除いてください。（→P.347）

ライセンスについて

フリー/オープンソフトウェア情報について

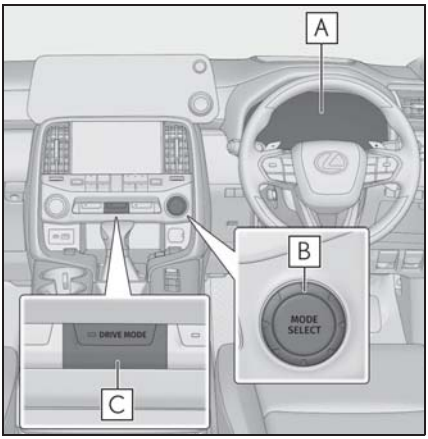
本製品はフリー/オープンソースソフトウェアを含んでいます。
このようなフリー/オープンソフトウェアのライセンス情報は以下のURLで入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/toyota/

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ（→P.79）

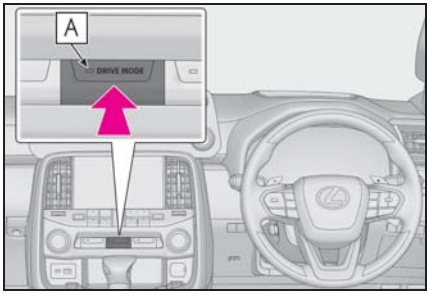
B MODE SELECT スイッチ

C DRIVE MODE スイッチ

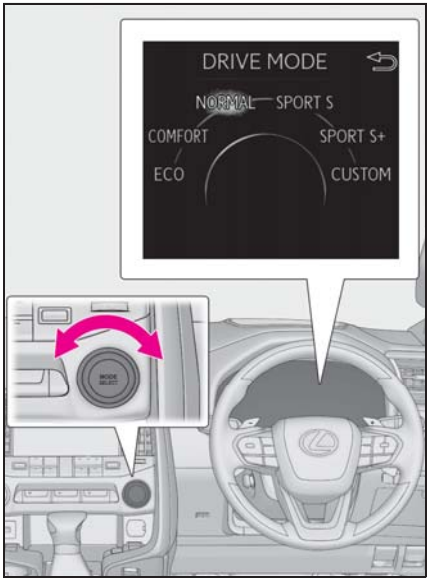
走行モードを選択するには

1 DRIVE MODE スイッチを押す

インジケーターA が点灯します。



2 MODE SELECT スイッチを左右に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択する



・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

・ コンフォートモード

サスペションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。コンフォートモード表示灯が点灯します。

・ エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。エコドライブモード 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させます。力強い加速をしたいときに適しています。スポーツ S モード表示灯が点灯します。

・ スポーツ S ＋モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより、操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティな走りを楽しみたいときに適しています。スポーツ S+ モード表示灯が点灯します。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、ステアリング制御、サスペンション制御、またはエアコン動作の機能をお好みで設定し走行することができます。カスタムモードは、マルチメディア画面で設定します。（→P.539）カスタムモード 表示灯が点灯します。

知識

■ **作動条件**

トランスファースイッチが H4 のとき

■ **エコドライブモード時のエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

● エコ空調モードを OFF にする（→P.408）

● 風量を調整する（→P.407）

● エコドライブモードを解除する（→P.357）

■ **走行モードの自動解除**

次のときは、走行モードが解除されノーマルモードにもどります。

▶ スポーツＳモード/スポーツＳ＋モード/カスタムモード選択時

● エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にしたとき

● トランスファースイッチを L4 にしたとき

● マルチテレインセレクトを ON にしたとき

▶ エコドライブモード / コンフォートモード選択時

● トランスファースイッチを L4 にしたとき

● マルチテレインセレクトをON にしたとき

■ **カスタマイズ機能**

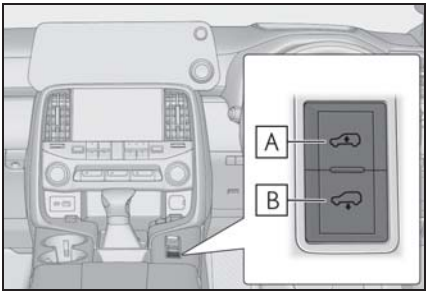
カスタムモードの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.552）

AHC（アクティブハイトコントロール）

走行・使用状況に合わせて車高モードを選択できます。

システムの構成部品

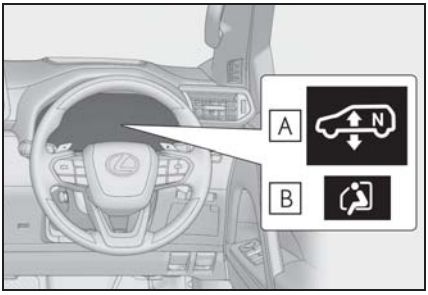
■ 車高切りかえスイッチ



A 車高上昇

B 車高下降

■ メーター表示

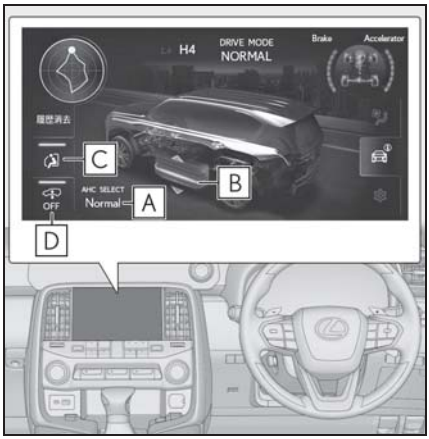


A AHC 表示

停車時は選択した車高モードが表示されます。走行時は現在の車高モードが表示されます

B 乗降モード表示灯

■ フロントマルチオペレーションパネル



A 車高モード

選択した車高モードが表示されます。

B AHC 表示

停車時は選択した車高モードが表示されます。走行時は現在の車高モードが表示されます。

C 乗降モードスイッチ

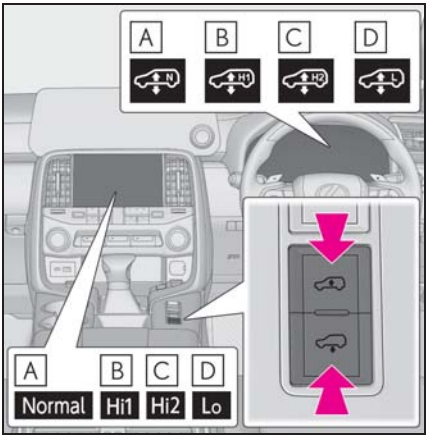
D 車高制御 OFF スイッチ

車高を切りかえるには

車高切りかえスイッチを押す

メーター内の AHC 表示とフロントマルチオペレーションパネルに選択した車高モードが表示されます。

作動中は AHC 表示の一部が点滅し、作動が停止すると点滅から点灯にかわります。



A N（Normal）モード

B H1（Hi1）モード

C H2（Hi2）モード

D L（Lo）モード

車高モード

車高モードは、車高切りかえスイッチを操作することで以下の表のように切りかわります。

現在の車高モード	操作するスイッチ	
H2	H1	H2
H1	N	H2
N	L	H1
L	L	N

■ N モード

標準車高です。一般的な走行に適しています。

■ H1 モード

▶ トランスファースイッチが H4 のとき

未舗装路走行、ダート走行に適しています。

車速が約 100km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 25mm 高くなります。

▶ トランスファースイッチがL4のとき

極悪路走行に適しています。

車速が約 80km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 55mm 高くなります。

■ H2 モード

▶ トランスファーレンジが H4 のとき

悪路走行に適しています。

● 車速が約 30km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 75mm 高くなります。

● 車速が約30～60km/hのときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 55mm 高くなります。

▶ トランスファースイッチがL4のとき

極悪路走行に適しています。

● 車速が約 15km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 85mm 高くなります。

● 車速が約15～50km/hのときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 75mm 高くなります。

■ L モード

車への乗り降りや、荷物の積み降ろ

しが容易になります。

車速が約 12km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 25mm 低くなります。

車高モード切りかえ条件

車速により選択できない車高モードがあります。以下の表を参照してモードを切りかえてください。

○：選択可

×：選択不可

▶ トランスファースイッチが H4 のとき

車速	車高モード			
	L	N	H1	H2
約12km/h 以下	○	○	○	○
約12km/h～60km/h	×	○	○	○
約60km/h～100km/h	×	○	○	×
約100km/h 以上	×	○	×	×

▶ トランスファースイッチがL4のとき

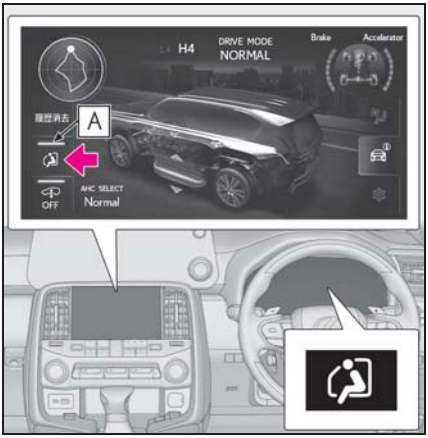
車速	車高モード			
	L	N	H1	H2
約12km/h 以下	○	○	○	○
約12km/h～50km/h	×	○	○	○
約50km/h～80km/h	×	○	○	×
約80km/h 以上	×	○	×	×

乗降モード

車への乗り降りや、荷物の積み降ろしが容易になります。

乗降モードを作動させるには、トランスファースイッチを H4 に切りかえて、フロントマルチオペレーションパネルの乗降モードスイッチを押す

乗降モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯 A が点灯し、メーター内の乗降モード表示灯が点灯します。



乗降モードが ON のとき、停車してから約 30 秒以内にエンジンスイッチを OFF にすると、自動的に車高が下がります。

車高が下がり始めるときにブザーが 2 回鳴り、作動中はメーター内の乗降モード表示灯が点灯して車高が下がっていることを知らせます。

作動が停止すると乗降モード表示灯が消灯します。

知識

■乗降モードの作動条件

●次の条件をすべて満たしているときに作動します。
・車高モードが N モードのとき
・車両が平坦な場所に停止しているとき
・シフトレバーが P にあるとき
・停車してからドアまたはバックドアを開けなかったとき

●車高切りかえスイッチの を押したとき、車高の下降が停止し再び上昇します。

■乗降モードが作動しないとき

サスペンションフルードの温度が約－15℃以下になると、乗降モードは作動しません。

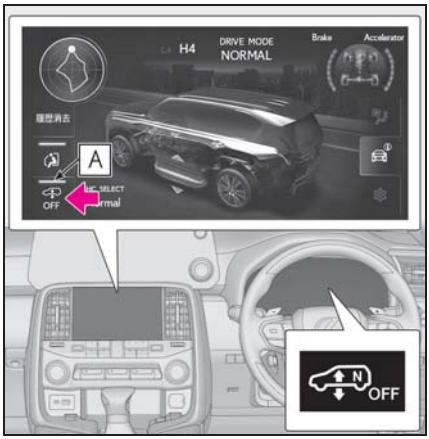
車高制御の停止方法

停車中にフロントマルチオペレーションパネルの車高制御 OFF スイッチを押す

スイッチの作動表示灯 A が点灯し、メーター内の AHC 表示に “OFF” が表示されます。

車高制御 OFF モードのとき、車高切りかえスイッチを押しても車高はかわりません。

車高制御の停止を解除するときは、再度スイッチを押します。



知識

■AHC の作動条件

●エンジンがかかっていること

●車高制御が停止されていない（車高制御 OFF モードでない）こと

●すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっていること

■車高制御速度について

車高制御速度は、AHC の作動状況によって異なります。

■エンジン停止中の車高モードの切りかえ

●車高が下降中にエンジンを停止した場合、下降を継続します。

●エンジンスイッチを OFF にしてから約 30 秒間は、人が降りたり荷物を降ろしたりして車高が上がると、オートレベリング機能により車高が下がることがあります。

●エンジン停止中は、車高切りかえスイッチの操作は受け付けません。

■車高モードの自動切りかえ

●次の条件をすべて満たしているときに、車高は自動的に N モードへ移行します。
・トランスファースイッチを H4 に切りかえたとき
・マルチテレインセレクトを OFF にしたとき

●次のいずれかの場合、車高は自動的に H2 モードへ移行します。
・トランスファースイッチを L4 に切りかえたとき
・マルチテレインセレクトを ON にしたとき ※

※ 選択したモードによって車高モードが異なります。

■H1 モードでの車高自動変更

▶トランスファースイッチが H4 のとき

●車速が約 100km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

●車速が約 80km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

▶トランスファースイッチが L4 のとき

●車速が約 80km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 25mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

■H2 モードでの車高自動変更

▶トランスファースイッチが H4 のとき

●車速が約 30km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 55mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h をこえたとき、車高は自動的に H1 モードへ移行します。

●車速が約 100km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

●車速が約 80km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

●車速が約 40km/h 以下になったら、N モードより約 55mm 高い位置へもどります。

●車速が約 10km/h 以下になったら、自動的に N モードより約 75mm 高い位置へもどります。

▶トランスファースイッチが L4 のとき

●車速が約 15km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 75mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 50km/h をこえたとき、車高は自動的に H1 モードへ移行します。

●車速が約 80km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 25mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

●車速が約 30km/h 以下になったら、N モードより約 75mm 高い位置へもどります。

●車速が約 5km/h 以下になったら、自動的に N モードより約 85mm 高い位置へもどります。

■L モードでの車高自動変更

車速が約 12km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

■エクストラハイモード

H2 モードでトランスファースイッチが L4 のときに車がスタックすると、自動的にエクストラハイモードへ移行します。車高が H2 モードより約 20mm 高くなります。

●H2 モードにもどる条件
・車速が約 10km/h 以上になる
・トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●エクストラハイモードで車高切りかえスイッチ の を押すと、H1 モードへ移行します。

●エクストラハイモードはスイッチ操作による選択はできません。

■車高制御の停止について

●エンジンを停止しても、車高制御の停止状態は記憶されています。

●車高制御 OFF スイッチにより車高制御を停止しても、下記の車速をこえると、停止状態が解除されます。
・H2・L モード：車速約 30km/h 以上
・N・H1 モード：車速約 100km/h 以上

■オートレベリング機能

すべてのモードで乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるように車高が自動で制御されます。

■運転中に停車したとき

オートレベリング機能が作動し車高がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■車高がかわらないとき

積荷が重すぎる場合、車高を上げることができません。また、車両下部が路面と接触している場合、車高を下げることができません。

●次のいずれかの場合、車両の積荷が重すぎることを示しています。この状態で走行するときは、十分に注意してください。
・N モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L” と表示されたとき
・H1 モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L” または “N” と表示されたとき
・H2 モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L”、“N” または “H1” と表示されたとき

●積荷を降ろしても車高が上がらないときは、車高切りかえスイッチの を押して一度車高を下げたあと、車高切りかえスイッチの を押して車高を上げてください。

■AHC が作動しないとき

●メーター内の AHC 表示が点滅します。

●車高の切りかえをひんぱんに行ったとき

●サスペンションフルードの温度が約－30 ℃以下のとき

●サスペンションに氷が付いているとき

●サスペンションが伸びきるような凹凸の激しい路面を走行しているとき

●センターデフロック作動状態（→P.367）で、ハンドルを約 3/4 回転以上まわしたとき

■寒冷時の取り扱い

●サスペンションフルードの温度が約－15 ℃以下になると、車高の調整に必要な時間が長くなります。

●サスペンションフルードの温度が約－30 ℃以下になると、AHC は作動しません。この場合、車高切りかえスイッチを押しても車高はかわりません。一度しばらく走行し、サスペンションフ

ルードを通常の温度まで上げると、AHC が作動し、自動的に選択したモードの車高に調整されます。

■駐停車について

●オフロード走行後、すぐにエンジンを停止して駐車する場合、車高が少し下がります。駐車時は、車両が下がった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

●長期間にわたって駐車する場合、気温の変化により車高がかわる場合があります。長期間駐車するときは、車高がかわった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

■プロペラシャフトの音

坂道での車高調整や、駐停車中にシフトレバーが P または N 以外で車高調整した場合、プロペラシャフトの伸縮により作動音が発生することがありますが、異常ではありません。

■AHC が故障したときは

●AHC が故障した場合、N モードが自動的に選択されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、修理を受けるまで AHC を使用することができません。

●エンジンを停止して、再始動したときに警告が表示されなければ、システムは正常です。警告が表示されたままのときは、ただちにレクサス販売店で修理を受けてください。

警告

■車高モードの切りかえ時の警告

車高を下げる前に車の下やまわりに人がいないこと、障害物がないことを確認してください。お守りいただかないと、車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■H2 モードについて

このモードはオフロードなど悪路を走行するときのみ使用してください。重心が高くなるため、ハンドル・ブレーキ・アクセルなどを慎重に操作してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキアップ時やタイヤチェーンを取り付けるときは

車高制御を停止させてエンジンを停止してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■渡河走行するときは

車高を H2 モードに切りかえてから車高制御を停止させ、30km/h 以下で走行してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■他車にけん引してもらうときは

4 輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高を N モードにしてから車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■脱輪したときは

車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■高さ制限のある場所に駐車するときは

乗員が降りたときや積荷を降ろしたときは、通常より車高が高めになりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

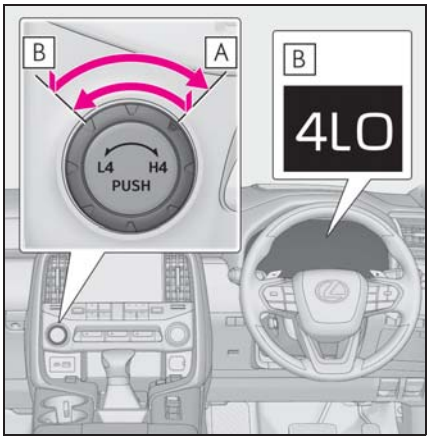
■車高モードの切りかえ時の注意

- L モードにしても、車が発進すると自動的に N モードになるため、高さ制限のある場所では注意してください。
- 凹凸のある路面では、L モードにしないでください。車が路面に接触し、損傷するおそれがあります。
- 凹凸のある路面や水中を走行するとき、またはけん引するときは、乗降モードを ON にしないでください。
- 車高の切りかえをひんぱんに行うと、ポンプが損傷するおそれがあります。車高を連続して切りかえるときは、数秒間待ってから次の切りかえを行ってください。

フルタイム 4WD

トランスファースイッチおよびセンターデフロックスイッチを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

トランスファースイッチ



A H4（ハイレンジ）

一般走行に適しています。通常はこの位置で使用します。

B L4（ローレンジ）

悪路・氷雪路・砂地・泥地など、とくに大きな駆動力を必要とする走行時に適しています。

L4 作動表示灯が点灯します。

トランスファーレンジの切りかえ

■ H4 から L4 へ切りかえ

1. 車両を完全に停車させる
2. シフトレバーを N にする
3. トランスファースイッチを押しながら左（L4）へまわす

L4 に切りかわると L4 作動表示灯が点灯します。点灯するまで他の操作をしないでください。

■ L4 から H4 へ切りかえ

1 車両を完全に停車させる
2 シフトレバーを N にする
3 トランスファースイッチを押しながら右 （H4）へまわす

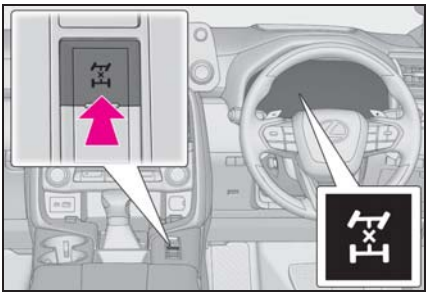
H4 に切りかわると L4 作動表示灯が消灯します。消灯するまで他の操作をしないでください。

センターデフロックスイッチ

ぬかるみなどでスタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

センターデフロック状態になると、センターデフロック作動表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除されます。



知識

■ トランスファースイッチの使用条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトレバーが N にあるとき
- 車両が完全に停車しているとき

■ L4 作動表示灯について

H4 と L4 の切りかえ作動中は、表示灯が点滅します。

■ すべりやすい路面を走行するときは

- 険しいオフロードを走行する場合、トランスファースイッチを L4、シフトレバーを M モードの 2 レンジにすることで、アクティブ TRC のブレーキ制御をより効果的に活用できます。
- スタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、最大の駆動力やエンジンブレーキを必要とする場合にはシフトレバーを M モードの 1 レンジにします。

■ センターデフロックスイッチの使用条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- 車速が約 100km/h 以下のとき

■ センターデフロック作動表示灯について

センターデフの切りかえ作動中は、表示灯が点滅します。

■ センターデフロックについて

- L4 でセンターデフロック状態にした場合、VSC OFF 表示灯が点灯し、VSC は作動しません。
- センターデフロックスイッチを操作後、表示灯が点滅したままのときや、センターデフロックを解除しても表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認して、加減速または後退をしてください。
- センターデフロック状態での急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。

■ フルタイム 4WD の取り扱い

- 4WD 車といっても万能車ではありませ

ん。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

●スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退をくり返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。

●急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。

●急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速は避けてください。

■L4 作動表示灯またはセンターデフロック作動表示灯が点滅したときは

●トランスファーレンジ切りかえ時に L4 作動表示灯が点滅し続けたときは、車両を完全に停車しシフトレバーが N に入っていることを確認してから、もう一度トランスファースイッチを操作し直してください。

●トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）

この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切りかえを完了させてください。

切りかえを完了させるためには、車両を完全に停車しシフトレバーを N にして、切りかえが完了したこと（表示灯が点灯または消灯したこと）を確認してください。

●エンジンが極端に冷えているときは、トランスファーレンジが切りかわらないことがあります。エンジンが暖まってから、もう一度トランスファースイッチを操作してください。

以上を実施しても、L4 作動表示灯またはセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けたときは、エンジン・ブレーキ系統もしくはトランスファーの異常のおそれがあります。この場合、トランスファーレンジやセンターデフの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■渡河について

●4WD 車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。

・水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
・河川進入時は最徐行（5km/h 以下）してください
・河川に対し、直角または下流方向へ横断してください
・渡河途中での変速操作は避け、一気に渡りきってください

●渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスを行ってください。

・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

警告

■トランスファーレンジを L4 で走行するときは（プラスサポート装着車）

プラスサポートを使用しないでください。プラスサポートの急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください
- 車両旋回中や車輪空転中は、トランスファースイッチ操作およびセンターデフロックスイッチ操作を行わないでください
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください

注意

■センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

乾燥した舗装路面では、必ずセンターデフロック状態を解除して走行してください。また、高速道路ではトランスファースイッチを H4 で走行してください。

フロントデフロック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。特に前輪が空転しているときに効果を発揮します。

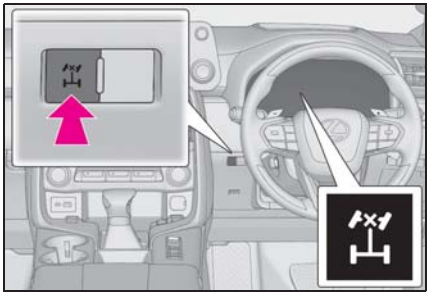
フロントデフロックスイッチ

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が数秒間点滅し、フロントデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、フロントデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



知識

■フロントデフロックを使用するときは

フロントデフロックを使用する前に、まず、脱出できそうな場合は、センターデフロック状態で、トランスファースイッチを L4 に切りかえて脱出を試みてください。それでも脱出できない場合は、フロントデフロックを使用してください。

●タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。

●脱出できたら、ただちにフロントデフロック状態を解除してください。

■フロントデフロックの解除について

フロントデフロックを解除しても作動表示灯が点滅し続ける場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわすと、フロントデフロック状態が解除されます。

■フロントデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、フロントデフロック状態が解除されます。

●トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●センターデフロック状態を解除する

■フロントデフロック使用後は

フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

■フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯について

●フロントデフの切りかえ作動中は表示灯が点滅します。

●フロントデフロックへ切りかえたときに、表示灯が点滅し続けた場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわしてください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、フロントデフロックの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■フロントデフロック状態のときは

フロントデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

●マルチテレイン ABS

●ブレーキアシスト

●VSC

●ダウンヒルアシストコントロールシステム

●ターンアシスト機能

●アクティブ TRC※

※ フロントデフロック／リヤデフロック状態のとき

警告

■フロントデフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●一般走行中に使用しない

・ フロントデフロックを使用すると、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

・ 直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。

・ 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。

・ 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。

●空転が止まるまで使用しない

●フロントデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない

●フロントデフロックの使用後はすぐにスイッチを OFF にし、フロントデフロック状態のまま走行しない

リヤデフロック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。特に後輪が空転しているときに効果を発揮します。

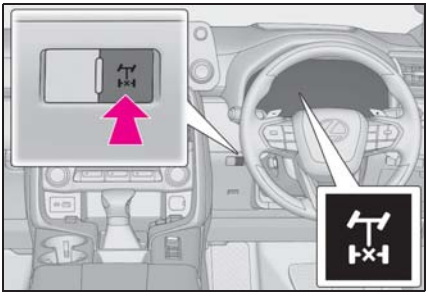
リヤデフロックスイッチ

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が数秒間点滅し、リヤデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



知識

■リヤデフロックを使用するときは

リヤデフロックを使用する前に、まず、脱出できそうな場合は、センターデフロック状態で、トランスファースイッチを L4 に切りかえて脱出を試みてください。それでも脱出できない場合は、リヤデフロックを使用してください。

●タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。

●脱出できたら、ただちにリヤデフロック状態を解除してください。

■リヤデフロックの解除について

リヤデフロックを解除しても作動表示灯が点滅し続ける場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわすと、リヤデフロック状態が解除されます。

■リヤデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、リヤデフロック状態が解除されます。

●トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●センターデフロック状態を解除する

■リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

■リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯について

●リヤデフの切りかえ作動中は表示灯が点滅します。

●リヤデフロックへ切りかえたときに、表示灯が点滅し続けた場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわしてください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、リヤデフロックの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■リヤデフロック状態のときは

リヤデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

- マルチテレイン ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- ダウンヒルアシストコントロールシステム
- ターンアシスト機能
- アクティブ TRC※

※ フロントデフロック／リヤデフロック状態のとき

警告

■リヤデフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 一般走行中に使用しない
  - ・直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。
  - ・雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。
  - ・片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。
- 空転が止まるまで使用しない
- リヤデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない
- リヤデフロックの使用後はすぐにスイッチを OFF にし、リヤデフロック状態のまま走行しない

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）

アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、凹凸の大きなオフロードを一定の低速度で走行でき、すべりやすい路面でのスリップや車輪の空転を最小限に抑え、安定して走行できます。

警告

■クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）をお使いになる前に

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）を過信しないでください。車両の限界性能を高めるものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）を使用するときは（プラスサポート装着車）

プラスサポートを使用しないでください。プラスサポートの急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

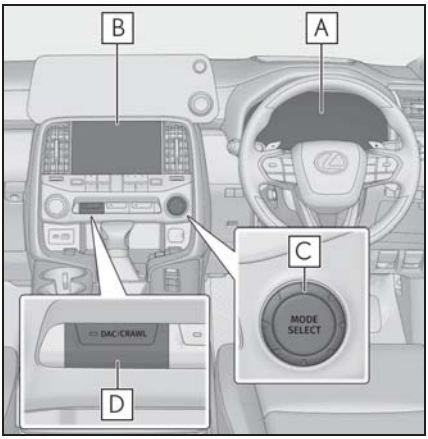
- 極端な急勾配
- 凹凸の激しい路面
- 積雪路などのすべりやすい路面

注意

■ターンアシスト機能をお使いになる前に

ターンアシスト機能は、オフロード路面での回頭性を向上させる機能です。舗装された路面では制御の効果が十分発揮できない場合があります。

システムの構成部品



A メーター（→P.72, 79）

B フロントマルチオペレーションパネル（→P.398）

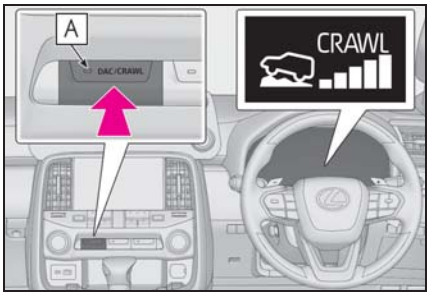
C MODE SELECT スイッチ

D DAC/CRAWL スイッチ

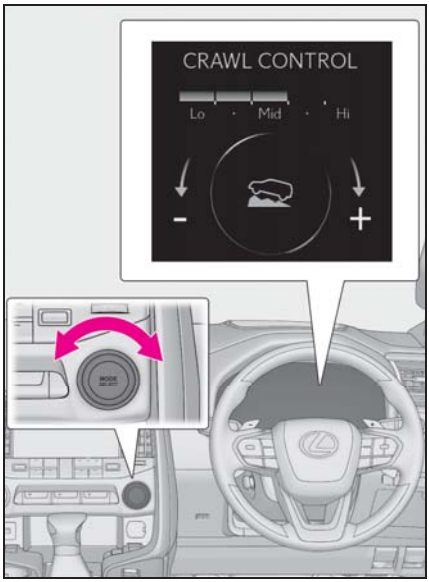
クロールコントロールを作動させるには

1 DAC/CRAWL スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターA とメーター内のクロールコントロール作動表示灯が点灯し、スリップ表示灯が点滅します。

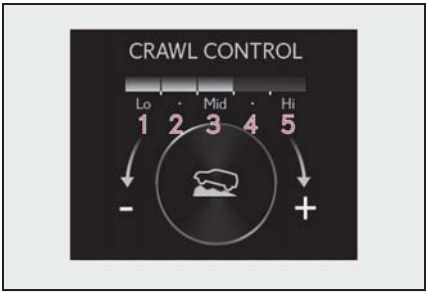


2 MODE SELECT スイッチを左右に操作し、メーター表示からモードを選択する



選択可能なモード

次の 5 つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。



1 LO

岩石路や下り坂を走行するときなどに適しています。

2 Lo - Mid

岩石路・下り坂・モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。

3 Mid

モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。

4 Mid - Hi

モーグル路の登り坂・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

5 Hi

モーグル路の登り坂・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

クロールコントロールを解除するときは

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケーターを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

クロールコントロールが解除されると、クロールコントロール作動表示灯、スリップ表示灯とターンアシスト表示灯（ターンアシスト機能使用時のみ）が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

走行中にクロールコントロールを解除するときは、とくに慎重に運転してください。

知識

■クロールコントロールの作動条件

●エンジンがかかっているとき

●シフトレバーが P・N 以外にあるとき

●トランスファースイッチが L4 にあるとき

●運転席ドアが閉まっているとき

■クロールコントロールの自動解除

次のいずれかのときに、ブザーが継続的に鳴り、クロールコントロール表示灯が点滅後、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示され、クロールコントロールが解除されます。また、ターンアシスト機能が ON のときは、ターンアシスト表示灯が消灯後、同時に解除されます。

●シフトレバーを P または N にしたとき

●トランスファースイッチを H4 にしたとき

●運転席ドアを開けたとき

■クロールコントロールの機能制限

●次の場合は、下り坂を一定の速度で降りるようなブレーキ制御はできますが、

上り坂を一定の速度で登るエンジン制御はできません。
・車速が約 10km/h をこえたとき

●次の場合は、エンジン制御・ブレーキ制御とも一時的に機能を停止します。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅します。
・リヤデフロック★状態：車速が約 10km/h をこえたとき
・リヤデフロック★が解除状態：車速が約 25km/h をこえたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■長時間の使用について

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、ブレーキシステムが異常過熱することがあります。このときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示され、クロールコントロール表示灯が点滅した後消灯します。一時的にクロールコントロールが作動しなくなりますので、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。また、この間の通常走行は可能です。

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、オートマチックトランスミッションが異常過熱することがあります。このときは、ブザーが鳴り、クロールコントロールが自動的に解除されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示されることがあります。この場合は、表示が消えるまで、安全な場所に停車してください。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●クロールコントロールが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯します。
（→P.500, 505）

ターンアシスト機能

切り返し操作なしでは通過困難なタイトコーナーを走行するときに、一定の低速度を維持しながら、運転者のハンドル操作に応じて回頭性を向上させる制御を実施し、切り返し操作回数を低減します。

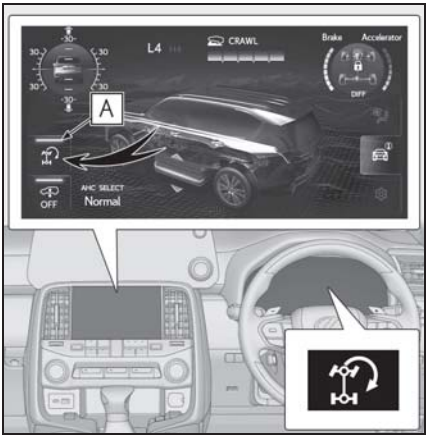
ターンアシスト機能を作動させるには

1 クロールコントロール作動中にフロントマルチオペレーションパネルの を選択して、オフロード走行情報画面を表示させる
（→P.398）

2 ターンアシストスイッチを押す

スイッチ上のインジケーター A とメーター内のターンアシスト表示灯が点灯します。

OFF にするには再度スイッチを押します。



ターンアシスト機能を解除するときは

1 ターンアシスト機能作動中にフロントマルチオペレーションパネルの を選択して、オフロード走行情報画面を表示させる。(→P.398)

2 ターンアシストスイッチを押す

ターンアシストスイッチ上のインジケーターとターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

知識

■ターンアシスト機能の作動条件

- 車速が約 10km/h 以下のとき
- クロールコントロールが作動しているとき
- フロントデフ★・リヤデフ★をロックしていないとき
- ブレーキ操作をしていないとき
- シフトレバーが P・R・N 以外にあるとき
- ハンドル操作角度が大きいとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ターンアシスト機能の自動解除

フロントデフ★・リヤデフ★をロックしたとき、ブザーが断続的に鳴り、ターンアシスト機能が自動的に解除されます。この場合、ターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ターンアシスト機能の機能制限

次の場合は、ターンアシスト機能を一時的に停止します。この場合、ターンアシスト表示灯が点滅します。

- 車速が約 10km/h をこえたとき
- シフトレバーを R にしたとき

■バッテリーをはずしたとき

ターンアシスト表示灯が点滅します。システムを初期化する必要がありますので、約 35km/h 以上の車速でしばらく直進走行することで初期化できます。初期化操作を行ってもターンアシスト表示灯が点滅している場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

マルチテレインセレクト

マルチテレインセレクトは、オフロードでの走破性を向上させるシステムです。

あらかじめ用意されたモードの中から、走行する路面状況に適したモードを選択することで、各状況に合わせてブレーキ制御、駆動力制御やサスペンション制御が最適化されます。
AUTO モードを選択すると、路面状況に合わせて自動で最適化されます。

警告

■マルチテレインセレクトを使用するときは

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

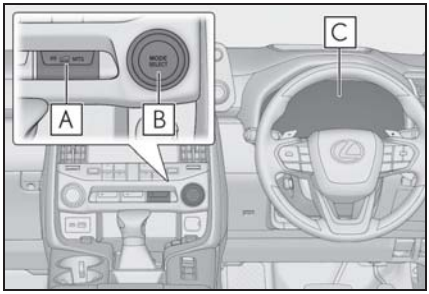
- 選択したモードの表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。各表示灯が消灯している状態ではマルチテレインセレクトの制御が作動しません。
- 「走行モードの切りかえ」に記載している路面状況は、あくまで参考情報です。路面状況（勾配・路面の摩擦係数・起伏）によっては、十分な効果を発揮できない場合があります。路面状況をよくご確認の上、走行してください。
- マルチテレインセレクトは車両の性能限界を高める装置ではありません。路面状況や走行ルートをあらかじめよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

■使用上の注意

マルチテレインセレクトは、オフロード走行時のみ使用してください。

システムの構成部品



A MTS スイッチ

B MODE SELECT スイッチ

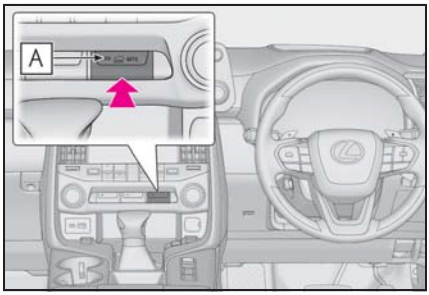
C マルチインフォメーションディスプレイ

選択しているモードが表示されます。

走行モードの切りかえ

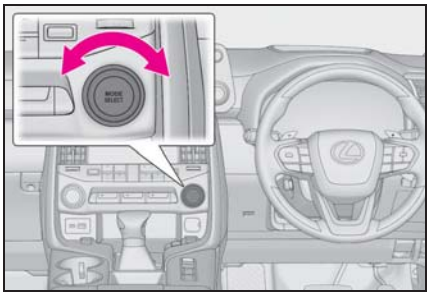
1 MTS スイッチを押す

スイッチの作動表示灯 A が点灯します。



2 MODE SELECT スイッチを右または左に操作し、走行モードを選択する

トランスファーレンジの状態により、次のモードを選択することができます。



▶ トランスファーレンジが L4 のとき

モード		路面状況
	AUTO	路面状況に適した制御状態になります。
	SAND	砂地路の走行に適しています。
	MUD	泥濘路の走行に適しています。
	ROCK	岩石路の走行に適しています。

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。

▶ トランスファーレンジが H4 のとき

モード		路面状況
	AUTO	路面状況に適した制御状態になります。
	DIRT	未舗装路の走行に適しています。
	SAND	砂地路の走行に適しています。
	MUD	泥濘路の走行に適しています。
	DEEP SNOW	深雪路の走行に適しています。

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。
「SAND」・「MUD」・「DEEP SNOW」選択時は、VSC OFF 表示灯が点灯します。

知識

■マルチテレインセレクトについて

マルチテレインセレクトはオフロードでの走破性を高めるため、駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、マルチテレインセレクトが作動していない状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

■機能の自動解除

次のいずれかの場合、マルチテレインセレクトが自動的に解除されます。

- トランスファーレンジが H4 のときに DRIVE MODE スイッチを操作したとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

■AUTO モードについて

走行する路面状況を推定しブレーキ制御、駆動力やサスペンション制御を最適化しています。
走行状況の推定には限界があるため、路面状況をよくご確認の上、走行してください。路面状況（勾配・路面の摩擦係数・起伏）や走行方法によっては、十分な効果を発揮できない場合があります。その際は、路面状況に応じて各モードを選択し走行してください。

■マルチテレインセレクトの作動を停止するときは

次の操作を行うとマルチテレインセレクトの作動が停止し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えます。

▶ MTS スイッチのインジケーター点灯時

MTS スイッチをもう一度押す

▶ MTS スイッチのインジケーター消灯時

MTS スイッチを押してインジケーターが点灯している状態にします。点灯している状態で再度 MTS スイッチを押す

■スタックしたときは

トランスファースイッチと 4WD システムを切りかえてください。
切りかえについては、次のページを参照してください。

- フルタイム 4WD（→P.366）
- センターデフロック（→P.367）
- フロントデフロック★（→P.369）
- リヤデフロック★（→P.371）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■マルチテレインセレクトの各モードで走行中は

次のようなことが起こる場合がありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- エンジンルーム内から作動音が聞こえる

■レクサス販売店で点検が必要なとき

次の場合は、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- スリップ表示灯が点灯している
- MTS スイッチを操作しても、マルチインフォメーションディスプレイに表示灯が表示されない

ダウンヒルアシストコントロールシステム

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。

システムはトランスファースイッチが H4 で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

警告

■ **ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うときは**

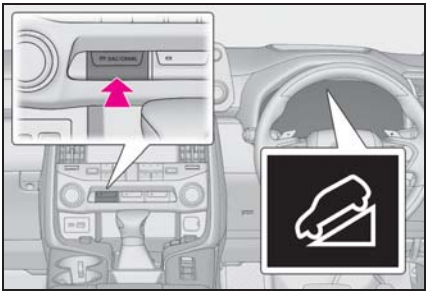
ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC/CRAWL スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。

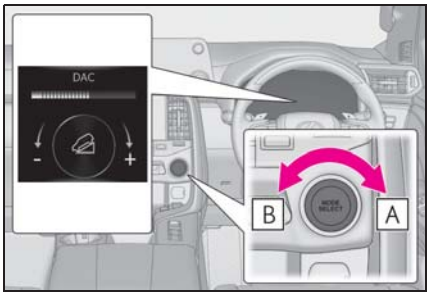
システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの速度を設定する

希望の速度（約 4 ～ 30km/h）に設定するには、MODE SELECT スイッチをまわします。

設定速度はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A 速度を上げる

B 速度を下げる

ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケーターを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯し

ます。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーがP以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、前進時はMモードの1または2レンジにすることをおすすめします。

■ダウンヒルアシストコントロールシステムが使用できないとき

フロントデフロック★・リヤデフロック★を使用しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。
・トランスファースイッチをH4以外に変更したとき
・シフトレバーがPにあるとき
・車速が約30km/hをこえたとき
・ブレーキシステムが異常過熱したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。
・シフトレバーがNにあるとき
・DAC/CRAWLスイッチのインジケーター点灯時にDAC/CRAWLスイッチを押したとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が一時的に停止されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーション内に“TRC Offしました”が表示されます。（通常走行は可能です）

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、“TRC Offしました”の表示が消えればシステムが使用可能となります。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

●DAC/CRAWLスイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●スリップ表示灯が点灯する

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、特に、タイヤのグリップ性能の限界をこえるときや、タイヤが十分に接地していないときは、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 凹凸が大きな荒れた路面

プラスサポート（販売店装着オプション）

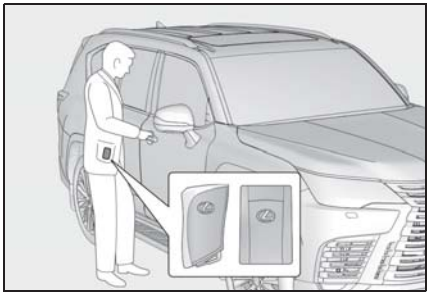
プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート用スマートキー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する （→P.92, 97）

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

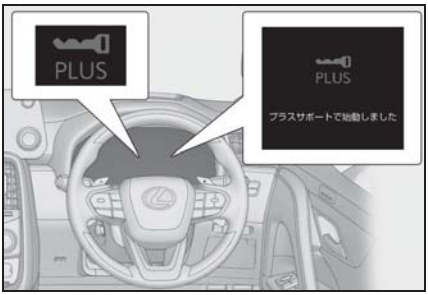


2 通常の手順でエンジンを始動する （→P.181）

3 “プラスサポートで始動しました” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になり

ます。



4 メーター操作スイッチの を押してメッセージを非表示にする

を押すまで、“プラスサポートで始動しました”のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと黒色の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジン始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.73）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

■プラスサポートを使用するときは

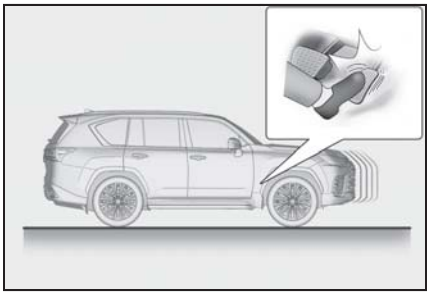
次のシステムを使用しないでください。

急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 4WD システムの L4
- クロールコントロール

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

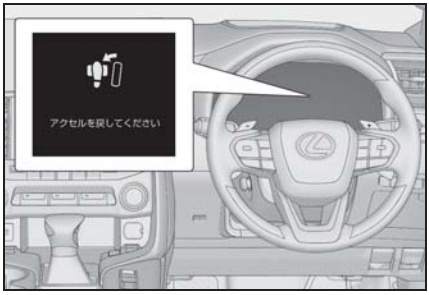
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトレバーがP・N以外のとき

●車速が約30km/h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km/h、後退時は約12km/h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき

・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき

・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき

・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき

・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき

・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき

・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき

・惰性走行から急いで加速しようとしたとき

・ETCゲート通過後に急加速したとき

・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ **ECB（電子制御ブレーキシステム）**

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ **マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）**

急ブレーキ時、またはすべりやすい路面やオフロード（砂利・砂地・泥地・氷雪路など）でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ **ブレーキアシスト**

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ **VSC（ビークルスタビリティコントロール）**

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ **S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）**

マルチテレイン ABS・アクティブ TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急な

ハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ トレーラースウェイコントロール

トレーラーのふらつきが検知されたとき、各タイヤに対してブレーキ圧を選択的に適用して駆動トルクを低減することで、運転者がトレーラーのふらつきを制御するのに役立ちます。

■ アクティブ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を 4 輪別々に抑制すると共に車両の方向安定性と駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・アクティブ TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ NAVI・AI-AVS （AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトで走行モードを選択することで減衰力を切りかえたり（→P.357）、トランスファースイッチを L4 にすることでオフロード走行での乗り心地を確保することができます。（→P.366）

■ 後方車両への接近警報

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

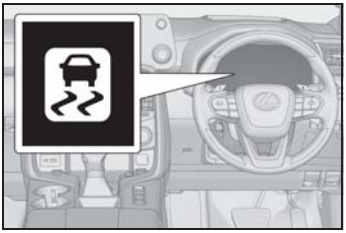
SRS エアバッグのセンサーが軽度の

衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・トレーラースウェイコントロールが作動しているとき

マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・トレーラースウェイコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

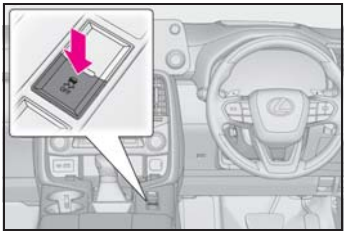


■アクティブ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、アクティブ TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

アクティブ TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。



■アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには

アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには、停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.225)

■VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

アクティブ TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーをPまたはNの位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

●エンジンスイッチが OFF

■マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・VSC・トレーラースウェイコントロール・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●エンジン停止後 1 ～ 2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールの自動復帰について

アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（アクティブTRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、アクティブ TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、マルチインフォーメーションディスプレイに“TRC Off しました”と表示され、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。（この間の通常走行は可能です）

しばらくして表示が消えれば、アクティ

ブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “FHL 現在使用できません” が表示されたときは

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。

この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.264）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが

解除されます

●車速が約 0 km /h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

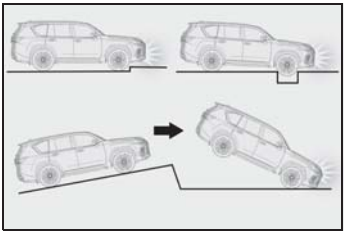
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを早く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを早く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

警告

■マルチテレイン ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■マルチテレイン ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

マルチテレイン ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■アクティブ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、アクティブ TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

アクティブ TRC、マルチテレイン ABS、VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■アクティブ TRC や VSC、トレーラースウェイコントロールを OFF にするときは

アクティブ TRC や VSC、トレーラースウェイコントロール は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外はアクティブ TRC や VSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしないでください。アクティブ TRC や VSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.537）
異なったタイヤを装着すると、マルチテレイン ABS・アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■トレーラースウェイコントロールに関する注意

トレーラースウェイコントロールシステムは、すべての状況においてトレーラーのふらつきの低減を可能にするものではありません。車両やトレーラーの状態、路面の状態、走行環境といった様々な要因から本システムの効果が得られない可能性があります。トレーラーを適切にけん引する方法については、トレーラーに関する取扱説明書を参照してください。

■トレーラーがふらつくときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ハンドルをまっすぐ、しっかりと握ってください。ハンドルを操作してトレーラーのふらつきを抑えようとしないでください。

警告

- アクセルペダルから急に足を離さず、徐々に離して速度を落としてください。速度を上げないでください。ブレーキを掛けないでください。

急ハンドルや急ブレーキをかけなければ車両とトレーラーのふらつきが安定するはずです。(→P.178)

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

■後側方レーダーセンサーの取り扱い

→P.264

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- エンジンオイル
- 冷却水
- ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）※ を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.466）

※ 22 インチタイヤには、タイヤチェーンを装着することはできません。

知識

■タイヤチェーンについて（22 インチタイヤ装着車を除く）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■タイヤチェーンについて（22 インチタイヤ装着車）

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

■AHC について

寒冷時は、AHC の作動に制限がかかる場合があります。（→P.364）

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン取り付け時の警告（22 インチタイヤ装着車を除く）

AHC を OFF にしてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
（→P.359）

警告

■タイヤチェーンを装着するとき（22インチタイヤ装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（22インチタイヤ装着車を除く）

- レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
  レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■タイヤを修理・交換するときは

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.466 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着（22 インチタイヤ装着車を除く）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。
  レクサス販売店で各車指定のブレード

をお求めください。

● 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め ※1 をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.190）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと ※2 を確認してください。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能

5

5-1. ディスプレイ

フロントマルチオペレーションパネル..... 398

リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）..... 401

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 405

5-3. エアコンの使い方

フロントエアコン..... 406

リヤエアコン 414

ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター..... 418

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 422

5-5. 収納装備

収納装備一覧 427

ラゲージルーム内装備..... 434

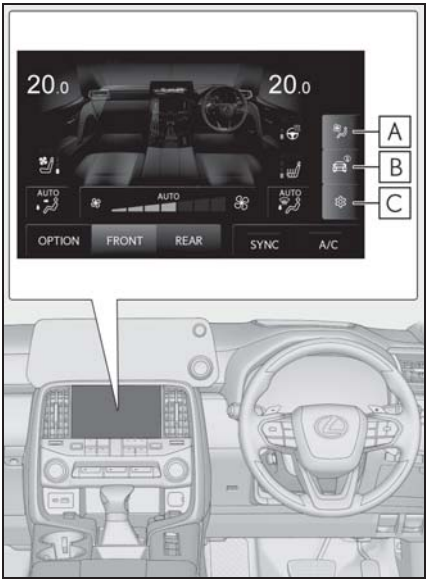
5-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 439

フロントマルチオペレーションパネル

フロントマルチオペレーションパネルを使ってエアコンの操作をすることができます。また、オフロード走行に関する情報を表示することもできます。

フロントマルチオペレーションパネルの操作について



A エアコン操作画面を表示する（→P.406, 414）

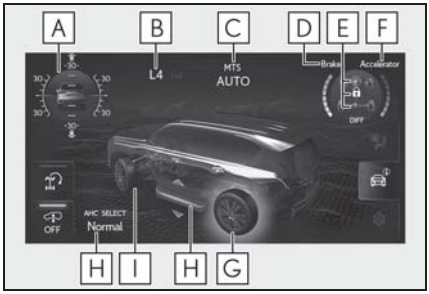
B オフロード走行情報画面を表示する

C フロントマルチオペレーションパネル設定画面を表示する

オフロード走行情報画面について

オフロード走行に関する情報を表示することができます。

▶ マルチテレインセレクト作動時



A 傾斜計表示

車両の前後方向・左右方向のおおよその傾き角度を表示します。

B トランスファーレンジ表示

C マルチテレインセレクトモード表示

D ブレーキペダル踏度表示

ブレーキペダルの踏み込み量を表示します。

E デフロック作動表示

F アクセルペダル踏度表示

アクセルペダルの踏み込み量を表示します。

G アクティブ TRC 作動表示

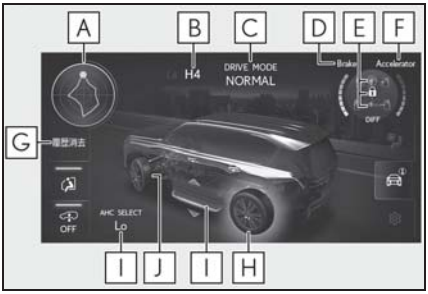
作動しているタイヤを橙色で表示します。

H AHC（アクティブハイトコントロール）表示

I フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向の目安を表示します。

▶ マルチテレインセレクト非作動時



A G モニター表示

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

B トランスファーレンジ表示

C ドライブモードセレクト表示／クロールコントロールモード表示／ダウンヒルアシストコントロールシステム設定速度表示

D ブレーキペダル踏度表示

ブレーキペダルの踏み込み量を表示します。

E デフロック作動表示

F アクセルペダル踏度表示

アクセルペダルの踏み込み量を表示します。

G G モニターの履歴消去

車両にかかる前後左右の G（加速度）の軌跡をリセットすることができます。

H アクティブ TRC 作動表示

作動しているタイヤを橙色で表示します。

I AHC（アクティブハイトコントロール）表示

J フロントタイヤ方向表示

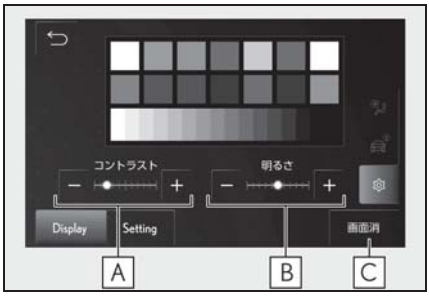
現在のフロントタイヤの方向の目安を表示します。

フロントマルチオペレーションパネルの設定について

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。

■ 画質の調整

“Display” を選択し、各調整スイッチを選択する。



A コントラストを調整する。

B 明るさを調整する。

C 画面を消す。

画面を再度表示させるには、画面にタッチして、画面中央のボタンをタッチします。

■ 設定の変更

“Setting” を選択し、各項目の設定内容を選択する。

A 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 20 秒、1

分、5 分のあいだで設定できます。

B 画面の操作感度を 1（低）2（普通）3（高）のあいだで設定できます。

C ソフトウェアの情報を表示します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■操作画面について

●画面保護のため、操作画面は指で軽くタッチしてください。

●操作画面の反応がないときは、一度画面から手を離してから再度タッチしてください。

●画面に が表示されているときに を選択すると、ひとつ前の画面に戻ります。

●次のときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。
・手袋を着用しているとき
・爪で操作したとき
・他の指や手のひらが、他のスイッチに近付いたとき
・汚れや水分が付着しているとき
・操作画面の表面にフィルムなどを貼ったとき
・操作画面の表面を塗装したとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●操作画面が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●清掃の際、操作画面をふくことで操作画面が反応することがあります。

●操作画面に手を近付けた状態で、エンジンスイッチを ACC または ON にすると、操作画面が反応しないことがあります。その場合、操作画面から手を離し、エンジンスイッチを OFF にしてから ON にしてください。

■液晶画面について

●液晶画面は、斜めからみると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。

●太陽の光などの外光が画面にあたると画面が見にくくなります。

●偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が暗く見えたり、見にくくなったりします。

■オープンソフトウェア情報

©1982-2013, QNX Software Systems Limited. All rights reserved.

警告

■運転中の使用について

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中はハンドルの操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

注意

■画面を清掃するときは

画面の汚れは、プラスチックレンズ用メガネふきなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。

手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。また、液晶画面はコーティング処理してあります。ベンジンやアルカリ性溶液などが付着すると画面が損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときは、長時間操作をしないでください。

リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）

リヤアームレスト内のオペレーションパネルを使って、リヤのオーディオ・エアコン・シート・リラクゼーションシート・ランプの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

■ HOME 画面

A オーディオ操作画面を表示する（詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。）

B リヤエアコン操作画面を表示する（→P.414, 418）

C リヤシート操作画面を表示する（→P.136, 165）

D リヤのリラクゼーションシート操作画面を表示する（→P.138）

E リヤのランプ操作画面を表示する

（→P.425）

F リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する（→P.402）

G ショートカットスイッチ

押すごとに表示／非表示が切りかわります。

H ショートカット画面

次の機能を操作できます。

・ リヤエアコンの温度設定（→P.414）
・ リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター（→P.418）
・ オーディオ（詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。）

I ボタン

HOME 画面を表示します。画面表示時は、押し続けると画面が消灯します。

■ リヤマルチオペレーションパネル設定画面

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。

A 画面を消す

ボタンを押すと、HOME 画面を表示します。

B 画面の明るさを調整する

C 自動画面遷移設定

D 画面操作をロックする

■ 自動画面遷移設定画面

A 一定時間画面操作を行わなかった場合、自動で画面が切りかわるかを設定できます。

B HOME 画面に切りかえるか画面表示を消すかを設定できます。

C 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 10 秒、30 秒、60 秒、120 秒のあいだで設定できます。

画面消灯した場合、ボタンを押すと消灯前の画面が表示されます。もう一度押すと、HOME 画面が表示されます。

■ 画面ロック解除

上部のステータス表示（B）がすべて点灯するまでA を押し続けると、画面操作のロックが解除されます。

知識

■操作画面について

画面に が表示されているときに を選択すると、ひとつ前の画面に戻ります。

■リヤマルチオペレーションパネルの取り扱いについて

●操作は指で行ってください。爪やペン等では操作できません。

●操作は 1 本の指で行ってください。他の指がふれていると操作できないことがあります。

●エンジンスイッチをACCまたはONにしたとき、パネル上に手や物が置かれていたり、水や異物が付着していると、誤作動を起こすことがあります。その場合、それらを取り除き、30 秒ほど待ってから操作してください。万一、パネルの反応がもとにもどらない場合は、 ボタンを長押しして画面を OFF し、再度 ボタンを押してから操作を行ってください。

●以下の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。
・手袋を着用しているとき
・ぬれた手で操作したとき
・パネル面にフィルムを貼ったり、塗装をしたとき
・パネル面に水分や汚れが付着しているとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●リヤマルチオペレーションパネルが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
・小銭
・鍵
・財布や鞄の金属部品
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
・カイロ
・CD ／ DVD などのメディアや USB などのケーブル
・スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器

●リヤマルチオペレーションパネルが汚れていると、操作の反応が悪くなる場合があるため、定期的に清掃を行ってください。また、リヤマルチオペレーションパネルを清掃する際は、誤作動を防ぐため、画面を OFF にした状態で行ってください。

注意

■リヤマルチオペレーションパネルの故障を防ぐために

●リヤマルチオペレーションパネルに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

注意

- リヤマルチオペレーションパネルの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ

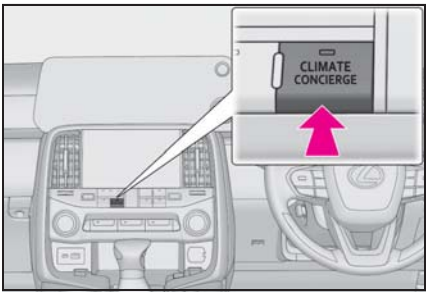
エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

クライメイトコンシェルジュを使用する

クライメイトコンシェルジュスイッチを押す

スイッチの上の作動表示灯が点灯し、エアコン・シートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



各システムの作動について

■ エアコン（→P.406, 414）

運転席・助手席およびリヤ席の設定温度を別々に調整することができます。

リヤエアコンは、セカンドシートの乗員を検知して、オート設定で作動します。

■ シートヒーター／ベンチレーター（→P.418）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・送風が自動的に切りかわります。

助手席およびセカンドシート外側席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.418）

外気温、車室内温度に応じて自動で作動します。

知識

■フロントエアコンの作動について

セカンドシートに乗員がいないときは、フロントシートへの空調効果を高めるため、コンソールボックス後部の吹き出し口が閉じる場合があります。

■リヤエアコンの作動について

セカンドシートに乗員がいないときは、リヤエアコンが自動で停止する場合があります。

■シートヒーター／ベンチレーターの作動について

シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

フロントエアコン

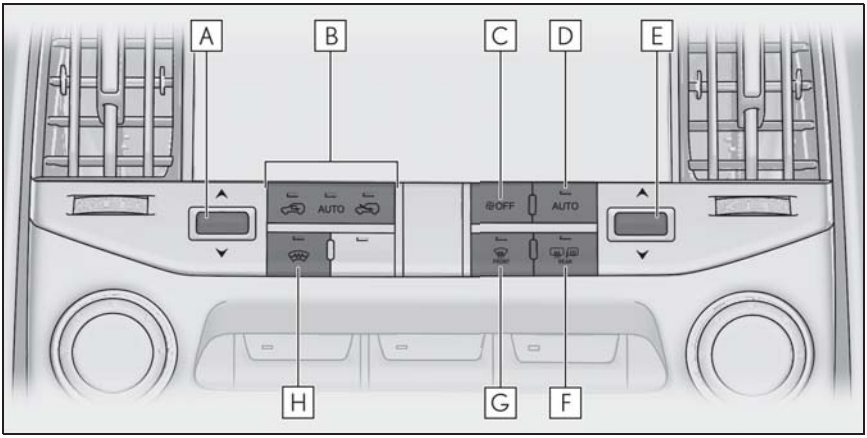
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルと、フロントマルチオペレーションパネルのエアコン操作画面で操作します。

フロントマルチオペレーションパネルについての詳しい説明は P.398 を参照してください。

エアコン操作スイッチについて

▶ エアコン操作パネル



A 助手席側温度調整スイッチ

B 内外気切りかえスイッチ

C OFF スイッチ

D AUTO スイッチ

E 運転席側温度調整スイッチ

F リヤウインドウデフォッガー＆ ミラーヒータースイッチ

G フロントデフロスタースイッチ

H フロントワイパーデアイサー

▶ フロントマルチオペレーションパネル

A 助手席側吹き出し口切りかえスイッチ

B 風量調整スイッチ

C 運転席側吹き出し口切りかえスイッチ

D A/C スイッチ

E SYNC スイッチ

F REAR スイッチ（→P.414）

G FRONT スイッチ

H オプション画面表示スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを上に押す

設定温度を下げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを下に押す

スイッチを押し続けると、温度が連続して変化します。

A/C スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはエアコン操作画面の風量増スイッチを選択する

風量を減らすときはエアコン操作画面の風量減スイッチを選択する

風量は 7 段階に調整できます。

エアコン操作パネルの OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

スイッチを選択するたびに吹き出し口が

切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

エアコン操作パネルの内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／AUTO／外気導入が切りかわります。
AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入を自動で行います。

■ 冷房・除湿機能を使用する

エアコン操作画面の A/C スイッチを選択する

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

オプション画面のエコ空調スイッチを選択する（→P.408）

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

エアコン操作パネルのフロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

エアコン操作パネルのリヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

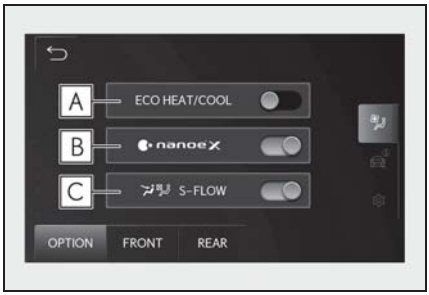
リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。（周囲の環境や外気温によっては 15 分後も作動を継続する場合があります）

■ オプション画面を表示するには

エアコン操作画面のオプション画面表示スイッチを選択する

次の機能の（作動）／（非作動）を切りかえることができます。



A エコ空調モード（→P.408）

B「ナノイー X」※（→P.409）

C フロント席集中送風モード（S-FLOW）（→P.411）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式

会社の商標です。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する (→P.357)
・エコ空調モードを解除する

●エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でもエコ空調スイッチを選択するとエコ空調モードを解除することができます。

■「ナノイー X」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置はフロントセンターの吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風または足元に送風のとき
・吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー X」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・「ナノイー X」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたい

ときは、外気導入にしてください。

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声対話サービスを使うときは

エアコンは音声認識で操作できます。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.476

■クールボックスが ON のとき（クールボックス装着車）

フロントエアコンを停止することはできません。

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを ON にしたとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.549）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

フロントセンターの吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1. エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す
2. AUTO モードになるまで内外気切りかえスイッチをくり返し操作する
3. 温度を設定する
4. ファンを止めたいときは、エアコン操作パネルの OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは、排気ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。エアコンが OFF で送風が作動しているときに AUTO モードにすると、エアコンが ON になります。

運転席と助手席および後席左右の設定温度と吹き出し口を別々に設定するには（独立モード）

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

- SYNC が ON の時に、エアコン操作画面の SYNC スイッチを押す。
- 助手席または後席左右の温度調整スイッチで設定温度を変更する
- 助手席または後席左右の吹き出し口を切り変える

独立モードになり、スイッチの作動表示灯が消灯します。

作動表示灯が消灯しているときに SYNC スイッチを選択すると、作動表示灯が点灯して独立モードが OFF になり、助手席の設定温度および吹き出し口が運転席と同じ温度になります。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）を使用する

スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

エアコン操作画面のオプション画面から を選択し、送風を切りかえます。

（作動）：フロント席のみへの送風

（非作動）：全席への送風

知識

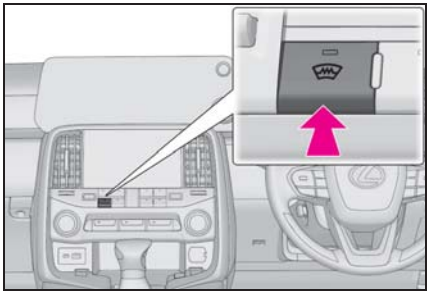
フロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

フロントワイパーデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



警告

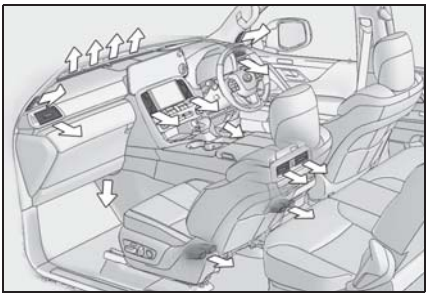
■フロントワイパーデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

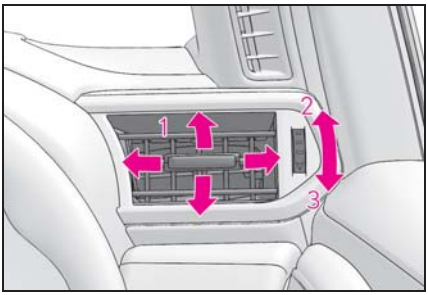
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



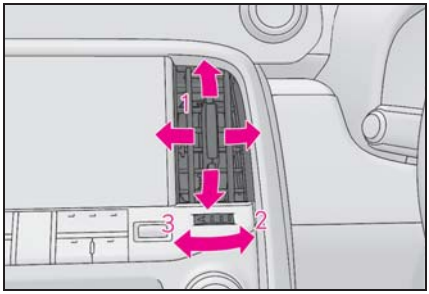
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント（サイド）



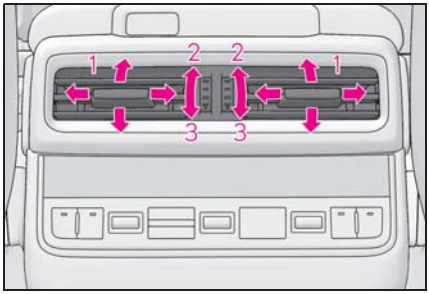
1 風向きの調整
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

▶ フロント（センター）



1 風向きの調整
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

▶ リヤ

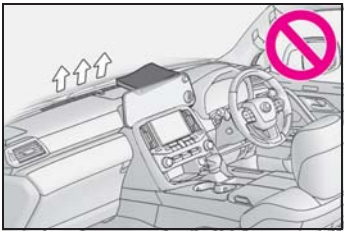


1 風向きの調整
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



注意

■エアコンの故障を防ぐために

ダッシュボード上の吹き出し口にものが落ちないようご注意ください。

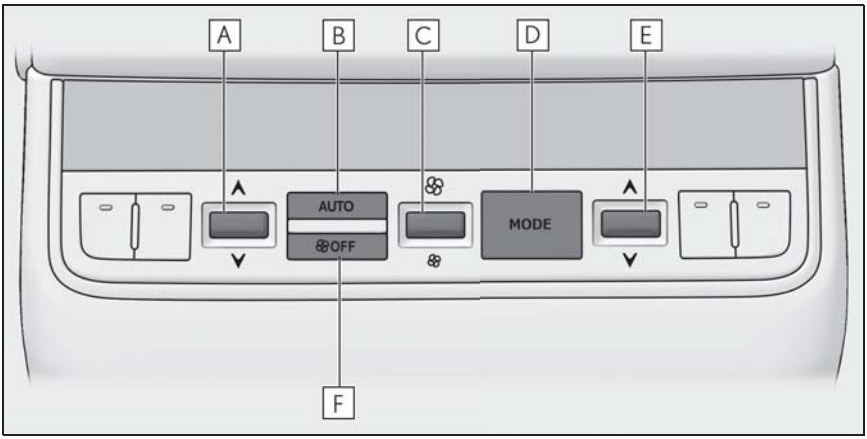
ものが落ちると故障の原因となるおそれがあります。

リヤエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作スイッチについて

▶ エアコン操作パネル（5 人乗り車／ 7 人乗り車）



A 助手席側温度調整スイッチ

B AUTO スイッチ（オート設定）

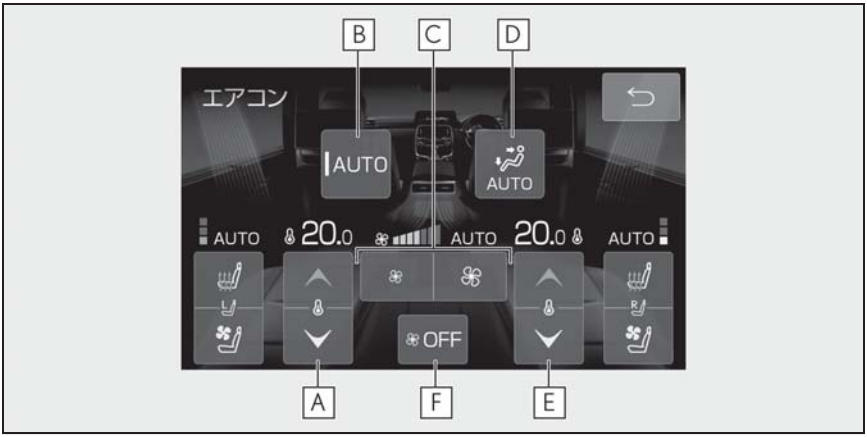
C 風量調整スイッチ

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 運転席側温度調整スイッチ

F OFF スイッチ

▶ リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）



A 助手席側温度調整スイッチ

B AUTO スイッチ（オート設定）

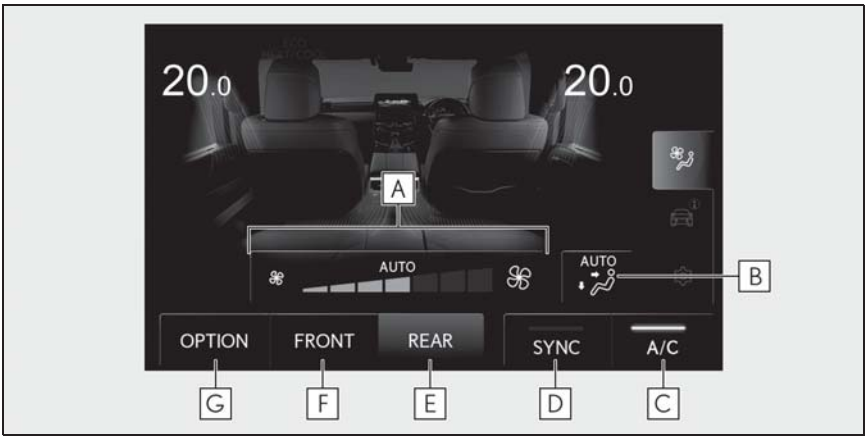
C 風量調整スイッチ

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 運転席側温度調整スイッチ

F OFF スイッチ

▶ フロントマルチオペレーションパネル



A 風量調整スイッチ

B 吹き出し口切りかえスイッチ

C A/C スイッチ（→P.408）

D SYNC スイッチ（→P.411）

E REAR スイッチ

F FRONT スイッチ（→P.406）

G オプション画面表示スイッチ（→P.408）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを上に押す、またはエアコン操作画面にある温度調整スイッチの▲を選択する

設定温度を下げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを下に押す、またはエアコン操作画面にある温度調整スイッチの▼を選択する

右側席と左側席で異なる温度調整が可能です。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはエアコン操作パネルの風量調整スイッチを上に押す、またはエアコン操作画面の風量増スイッチを選択する

風量を減らすときはエアコン操作パネルの風量調整スイッチを下に押す、またはエアコン操作画面の風量減スイッチを選択する

風量は 7 段階に調整できます。

送風を停止するときは、OFF スイッチを押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作パネルの吹き出し口切りかえスイッチを押す、またはエアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

知識

■ リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面の AUTO スイッチを選択する

2 温度を調整する

風量や吹き出し口を切りかえると、ディスプレイ上の AUTO スイッチ作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

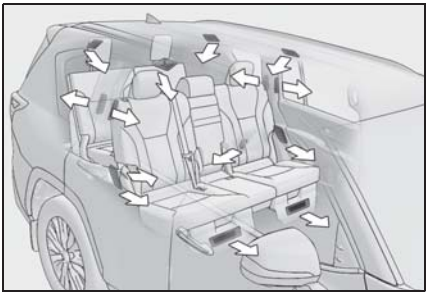
日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

吹き出し口について

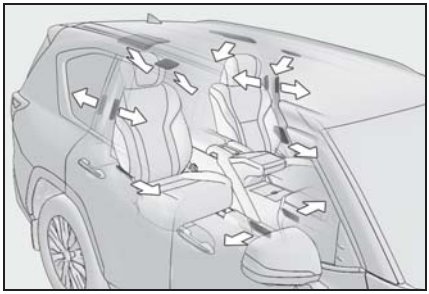
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

▶ 5 人乗り車／7 人乗り車

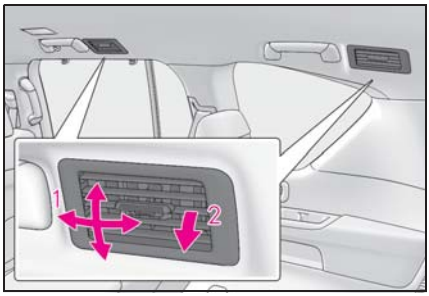


▶ 4 人乗り車



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ ルーフサイド



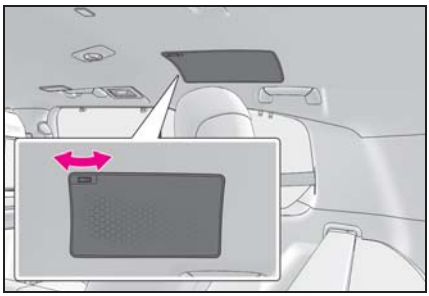
1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで車両下方に動かします。

▶ ルーフ（4 人乗り車）

吹き出し口の開閉



ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター＆ベンチレーター

シートを暖めたり、シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくしたりすることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

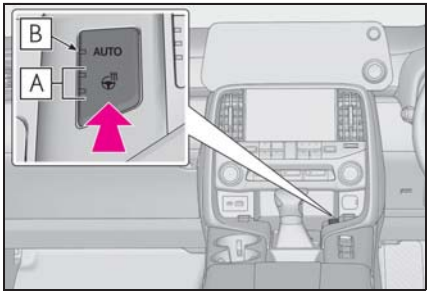
ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は AUTO インジケーター B 、またはレベルインジケーター A のいずれか、または両方が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■インジケーターが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

シートヒーター

■ フロント席

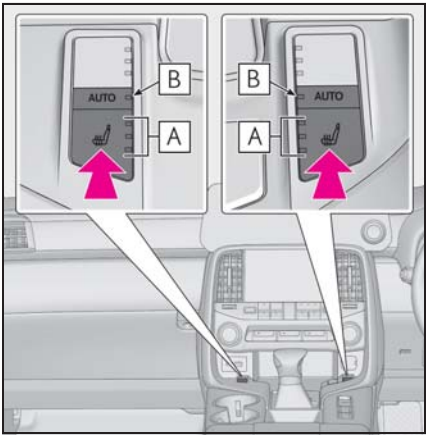
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター B 、またはレベルインジケーター A のいずれか、または両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ **リヤ外側席（5 人乗り車／ 7 人乗り車）**

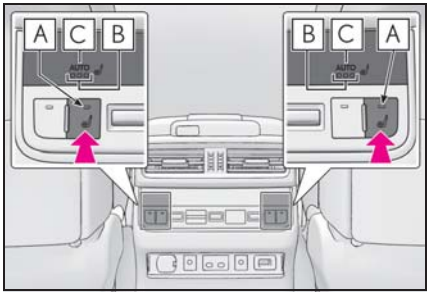
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中はスイッチ上のインジケーター A とレベルインジケーター B 、またはレベルインジケーター B と AUTO インジケーター C の両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ **リヤ席（4 人乗り車）**

HOME 画面で “ エアコン ” を選択すると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートヒーターを操作できます。（→P.401）

また、ショートカット画面でもリヤシートヒーターを操作できます。

▶ エアコン操作画面

リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

▶ ショートカット画面

リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

シートヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッションなどを使用しない

シートベンチレーター

■ フロント席

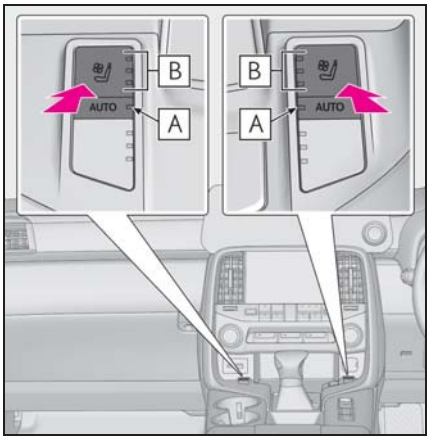
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ リヤ外側席（5 人乗り車／ 7 人乗り車）

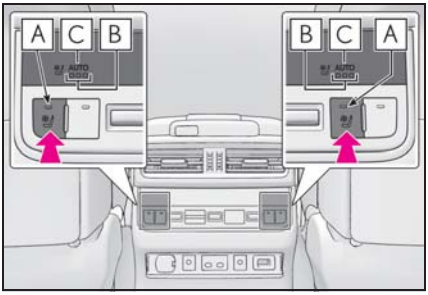
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中はスイッチ上のインジケーター A とレベルインジケーター B 、または レベルインジケーター B と AUTO インジケーター C の両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ リヤ席（4 人乗り車）

HOME 画面で “ エアコン ” を選択すると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートベンチレーターを操作できます。（→P.401）

また、ショートカット画面でもリヤシートベンチレーターを操作できます。

▶ エアコン操作画面

リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

▶ ショートカット画面

リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

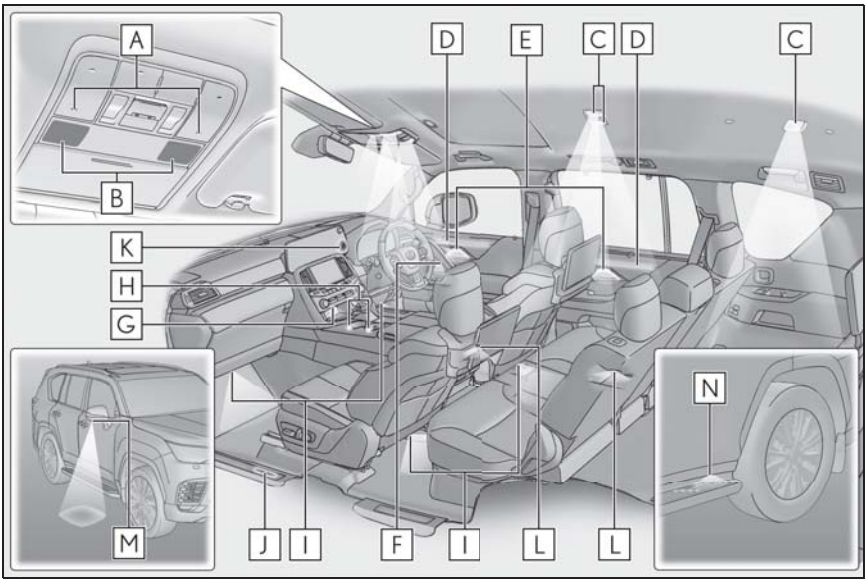
■ カスタマイズ機能

シートベンチレーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

室内灯一覧

室内灯の位置

▶ 5 人乗り車 /7 人乗り車



A シフトレバー照明

B フロントインテリアランプ・フロントパーソナルランプ（→P.424, 425）

C リヤパーソナルランプ（→P.425）

D ドアトリムオーナメント照明

E インサイドハンドル照明

F スポット照明

G 小物入れ照明

H カップホルダー照明

I 足元照明

J スカッフプレート照明

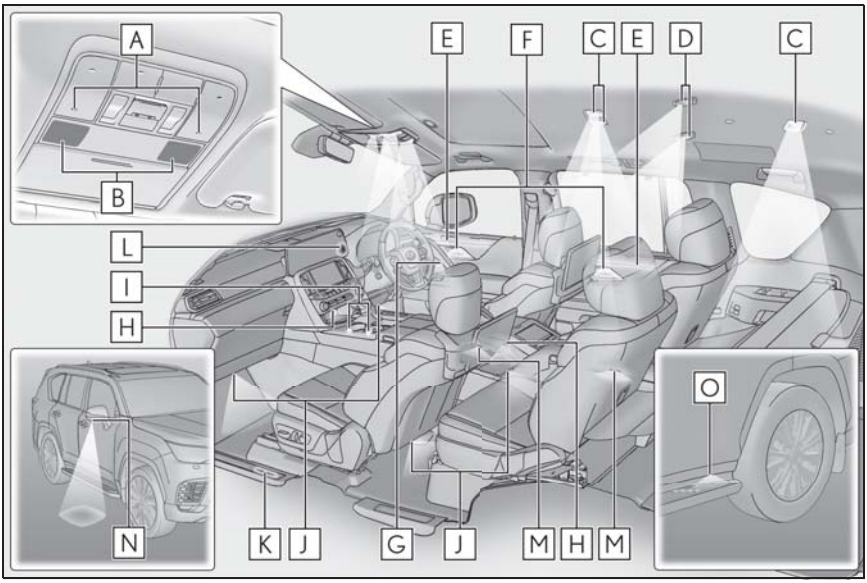
K エンジンスイッチ文字照明

L ドアカーテシランプ

M ドアミラー照明

N サイドステップ照明

▶ 4人乗り車



A シフトレバー照明

B フロントインテリアランプ・フロントパーソナルランプ（→P.424, 425）

C リヤパーソナルランプ（→P.425）

D 読書灯（→P.425）

E ドアトリムオーナメント照明

F インサイドハンドル照明

G スポット照明

H 小物入れ照明

I カップホルダー照明

J 足元照明

K スカッフプレート照明

L エンジンスイッチ文字照明

M ドアカーテシランプ

N ドアミラー照明

O サイドステップ照明

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合は、約 20 分後に自動消灯します。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●各部の照明の ON ／ OFF の切りかえ

●各部の照明の照明色の変更

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間や室内灯の照明色などを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

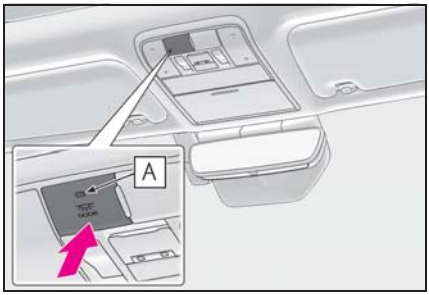
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする



ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

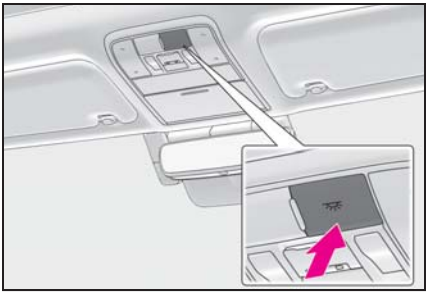
ON のときはインジケーター A が点灯します。

■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動して、リヤパーソナルランプが点灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

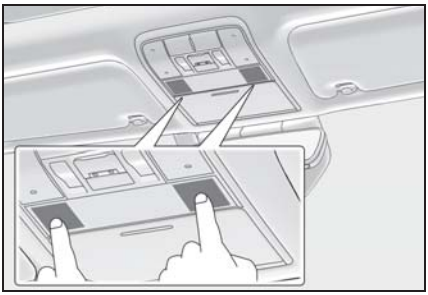


パーソナルランプを操作するには

■ フロントパーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

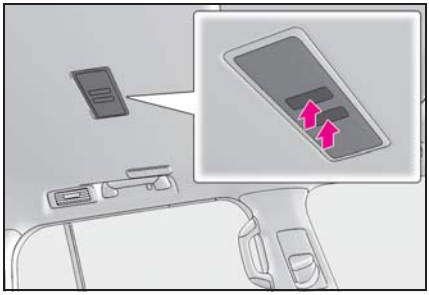


■ リヤパーソナルランプ

▶ セカンドシート

ランプを点灯・消灯する

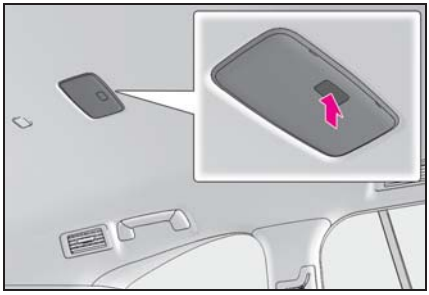
インテリアランプと連動して点灯しているときや、ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



▶ サードシート

ランプを点灯・消灯する

インテリアランプと連動して点灯しているときや、ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



知識

■ フロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- ぬれた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

読書灯★を操作するには

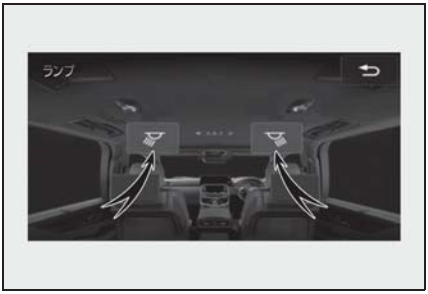
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ランプ” をタッチする（→P.401）

2 読書灯を点灯・消灯するには、操作ボタンをタッチする

操作ボタンをタッチするたびに明るさを3段階に切りかえることができます。

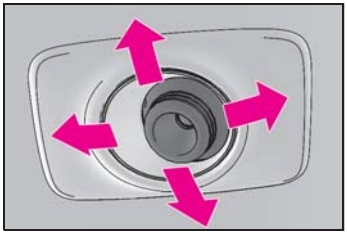
操作ボタンをタッチし続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。



知識

■ **読書灯について**

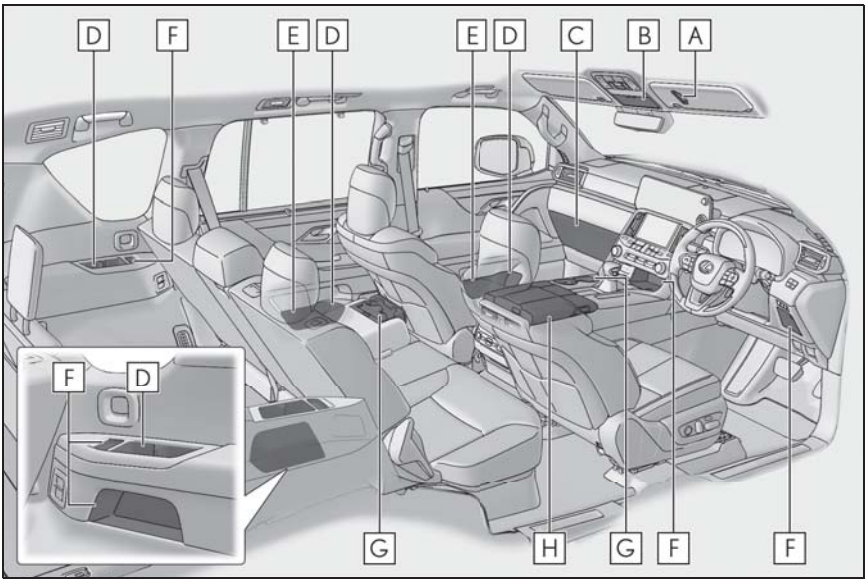
お好みの角度に調整できます。



収納装備一覧

収納装備の位置

▶ 5 人乗り車 /7 人乗り車



A カードホルダー（→P.432）

B オーバーヘッドコンソールボックス（→P.430）

C グローブボックス（→P.429）

D ボトルホルダー（→P.432）

E ドアポケット

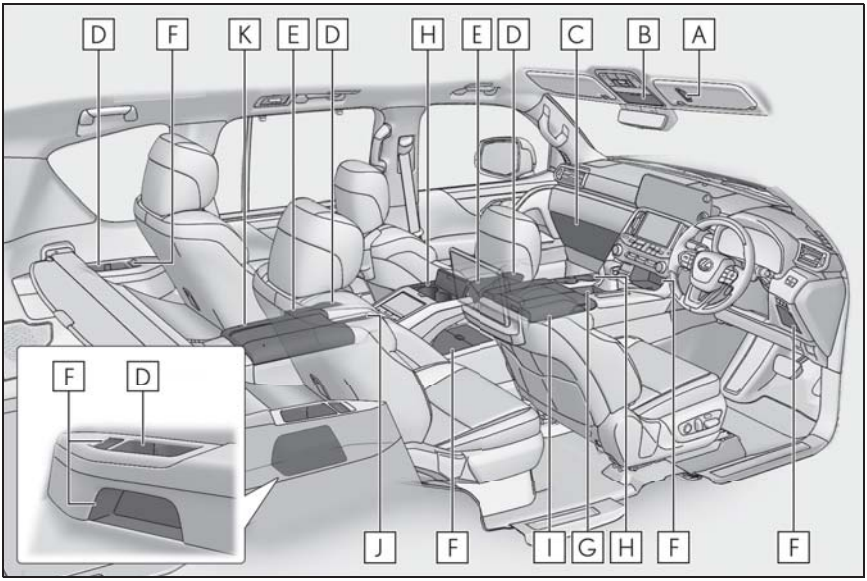
F 小物入れ★（→P.433）

G カップホルダー（→P.431）

H コンソールボックス★（→P.429）／クールボックス★（→P.439）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4人乗り車



A カードホルダー（→P.432）

B オーバーヘッドコンソールボックス（→P.430）

C グローブボックス（→P.429）

D ボトルホルダー（→P.432）

E ドアポケット

F 小物入れ★（→P.433）

G オープントレイ（→P.433）

H カップホルダー（→P.431）

I フロントコンソールボックス★（→P.429）／クールボックス★（→P.439）

J オープントレイ★（→P.433）／ワイヤレス充電器★（→P.445）

K リヤコンソールボックス（→P.429）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

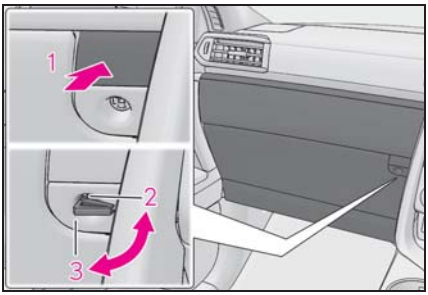
警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには



1 開ける
2 メカニカルキーで解錠
3 メカニカルキーで施錠

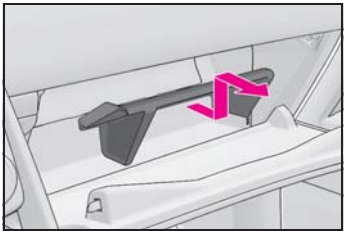
知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■仕切り板について

グローブボックス内の仕切り板は、引き抜くことで取りはずすことができます。



警告

■グローブボックスを使用しないときは

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

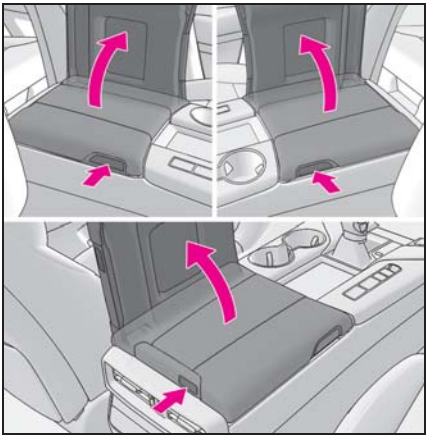
▶ フロント

コンソールボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）もあります。

クールボックスについては、P.439 を参照してください。

ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

左右・後方から開けることができます。

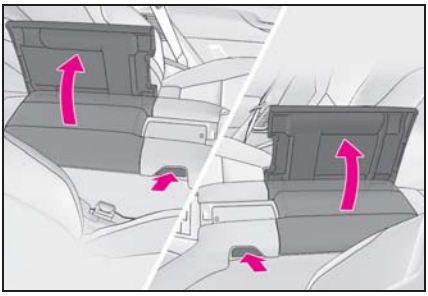


▶ リヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

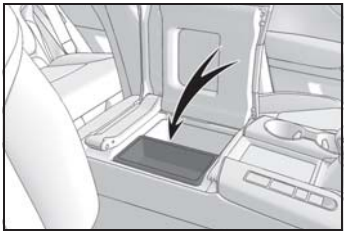
左右から開けることができます。



知識

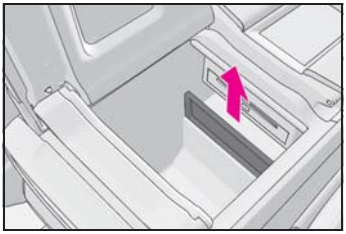
■コンソールボックス内のトレイについて（フロント）

コンソールボックス内のトレイを左右に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



■仕切り板について（フロント）

コンソールボックス内の仕切り板を引き抜くことで、取りはずした状態で使用することもできます。



警告

■コンソールボックスを使用しないときは

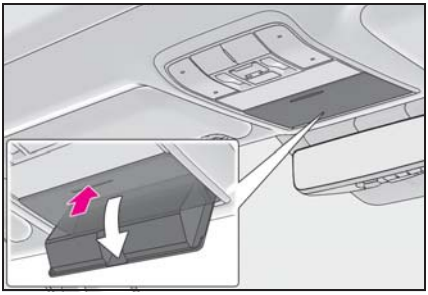
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■コンソールボックスを開閉するときは

指などを挟まないよう注意してください。

オーバーヘッドコンソールボックス

フタを押す



警告

■収納してはいけないもの

オーバーヘッドコンソールボックスに200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

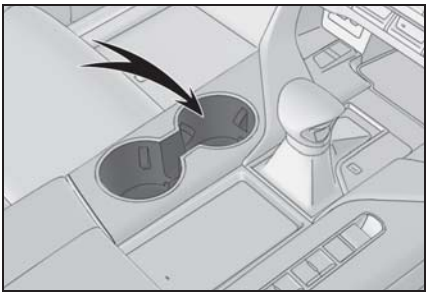
■オーバーヘッドコンソールボックスを使用しないときは

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダーを使うには

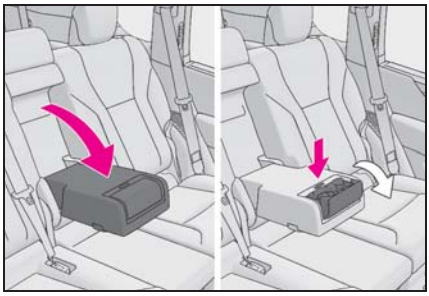
▶ フロント



▶ リヤ★（A タイプ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

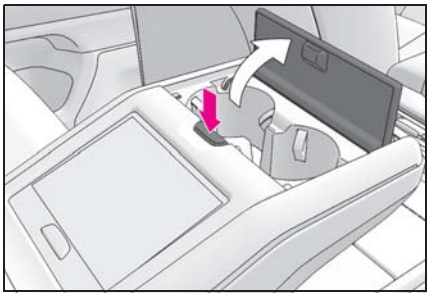
アームレストを手前に倒しボタンを押して開ける



▶ リヤ★（B タイプ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

警告

■使わないときは

フタを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

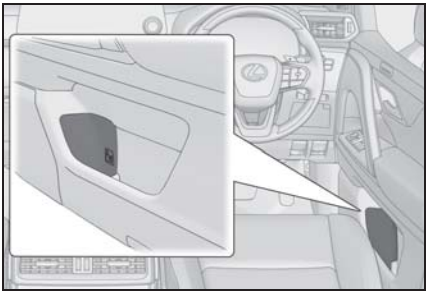
注意

■カップホルダーの破損を防ぐために（リヤアームレスト装着車）

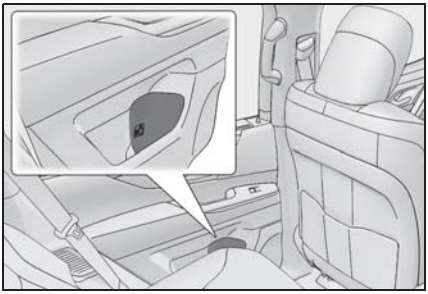
リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダーを使うには

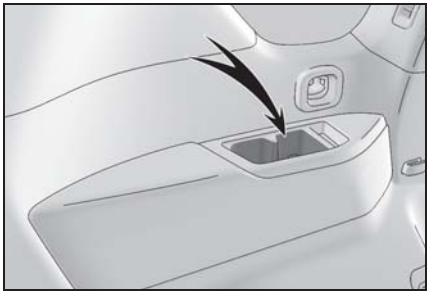
▶ フロントドア



▶ リヤドア



▶ リヤサイドトリム



知識

■ボトルホルダーについて

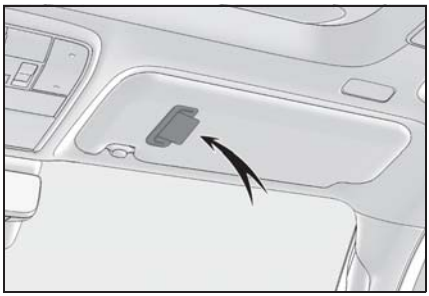
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

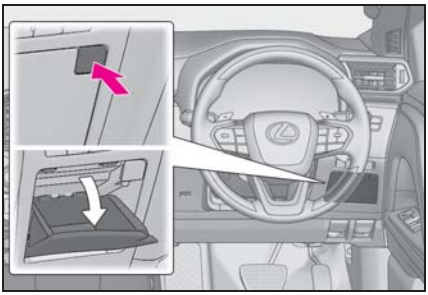
カードホルダーを使うには



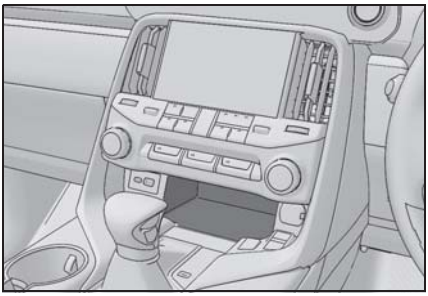
小物入れを使うには

▶ インストルメントパネル

ボタンを押す



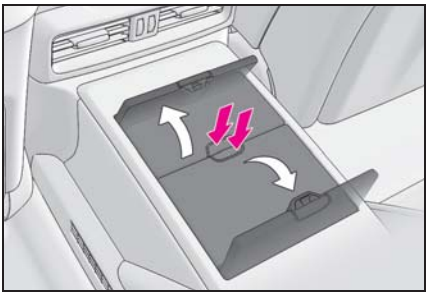
▶ フロント部



▶ リヤ部★

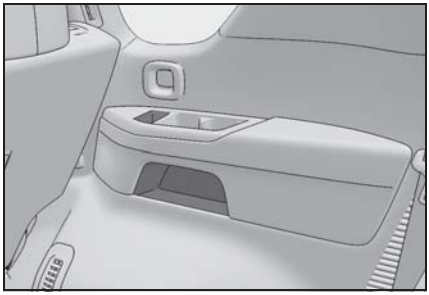
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



▶ リヤサイドトリム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



警告

■小物入れを使用しないときは

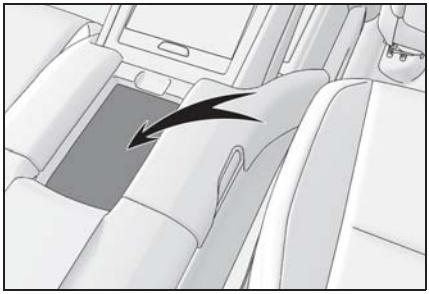
●小物入れには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●フタを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



警告

■収納してはいけないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

警告

■走行中の警告

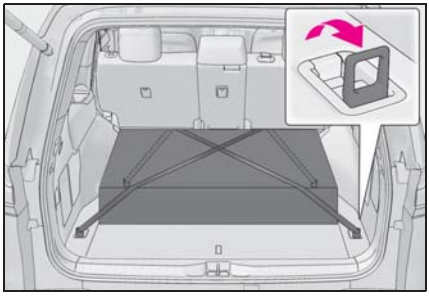
デッキボードのフタを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カーゴフックを使うには

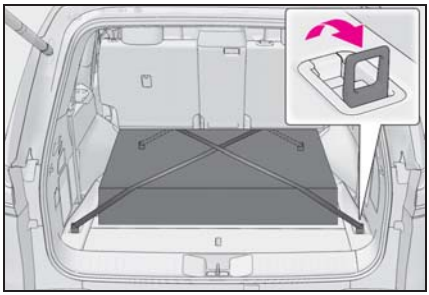
フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

▶ 4 人乗り車／ 5 人乗り車



▶ 7 人乗り車

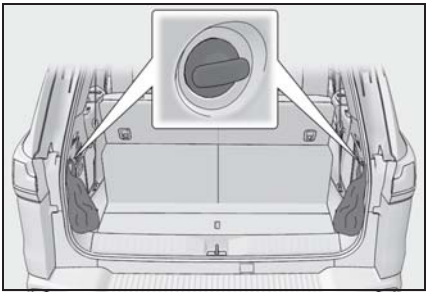


警告

■カーゴフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



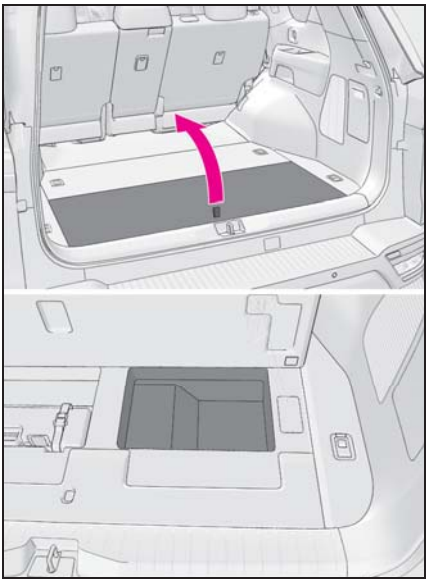
⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐために

3kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

小物入れを使うには（4 人乗り車／5 人乗り車）

デッキボードを持ち上げる

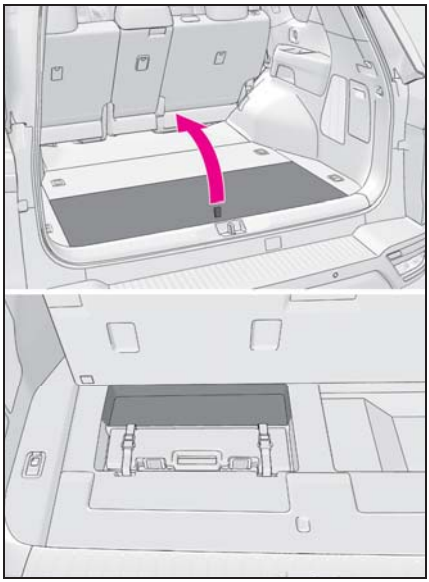


三角表示板等収納スペース

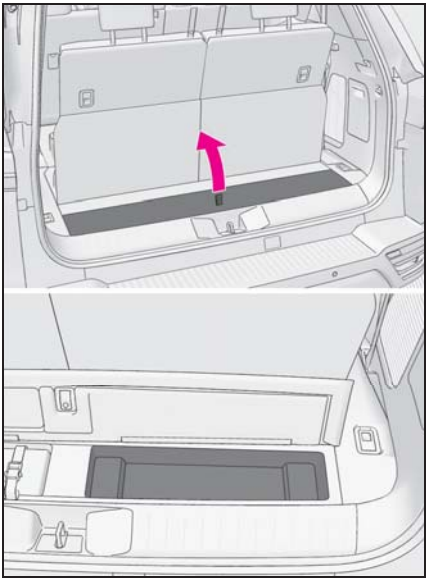
デッキボードを持ち上げる

三角表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

▶ 4 人乗り車／5 人乗り車



▶ 7 人乗り車



知識

■ **停止表示板について**

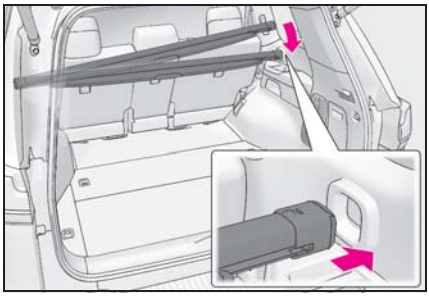
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

トノカバー★を使うには（5 人乗り車）

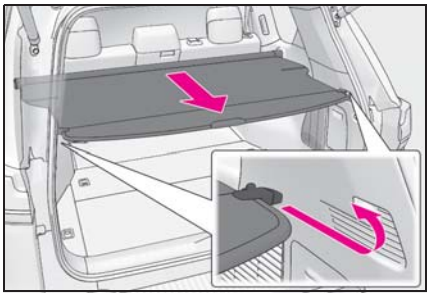
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **トノカバーを取り付けるときは**

1 トノカバー本体の一方をホルダーに取り付け、もう一方の先端を内側に押し込みながらホルダーに取り付ける

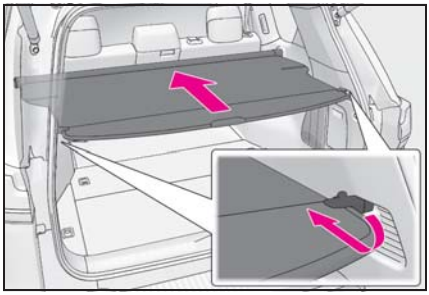


2 トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



■ **トノカバーを取りはずすときは**

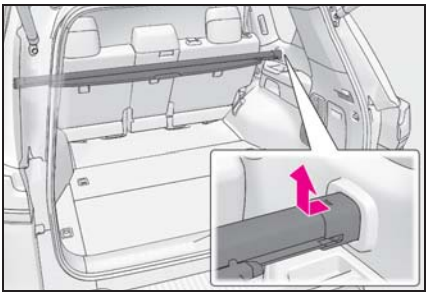
1 トノカバーを左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



2 一方の先端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保

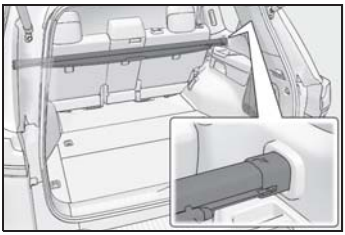
管してください。



知識

■トノカバーを取り付けるときは

両端の “TOP” を上にして取り付けてください。



警告

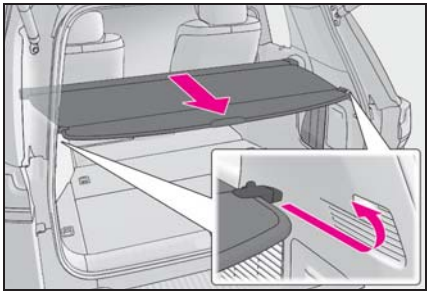
■トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

トノカバーを使うには（4 人乗り車）

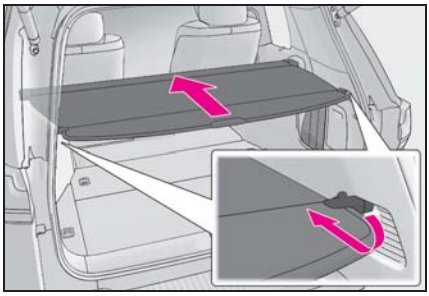
■ トノカバーを引き出すときは

トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



■ トノカバーを巻き取るときは

トノカバーを左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



知識

■トノカバーの取りはずしについて

お客様ご自身で取りはずすことを推奨しておりません。取りはずしが必要な場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。

警告

■トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

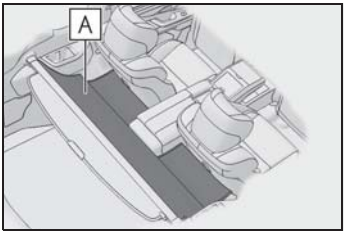
警告

- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■トノカバーの損傷を防ぐために

シートとトノカバーのあいだ A にものを置かないでください。



その他の室内装備

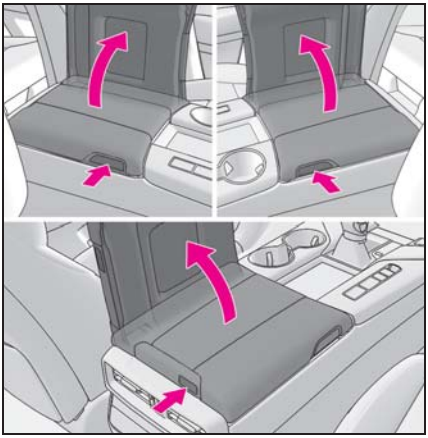
クールボックス★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンがかかっているとき、エアコンを利用した保冷をすることができます。

1 ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

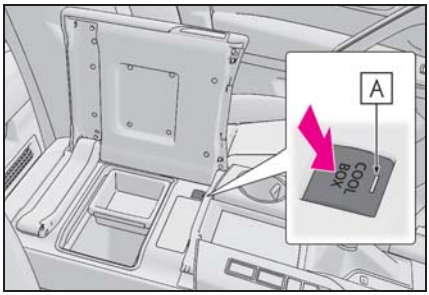
左右・後方から開けることができます。



2 ON ／ OFF を切りかえる

クールボックスが ON のときは、作動表示灯 A が点灯します。

フロントエアコン停止中にクールボックスを ON にすると、自動的にフロントエアコンが作動します。



知識

■クールボックスが ON のとき

●フロントエアコンを停止することはできません。

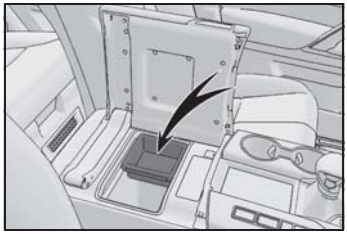
●クールボックス内の温度を調整するために、一時的に作動停止する場合があります。

■外気温が約 0 ℃以下のとき

保冷機能が作動しない場合があります。

■クールボックス内のトレイについて

クールボックス内のトレイを左右に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



■クールボックスに入れるものとして適さないもの

●フタがされていない容器に入ったもの

●割れもの・腐るもの・臭いが強いもの

●取扱説明書・車検証・電子機器・CD など

■クールボックス内を清掃するときは

水を少し含ませた布などで、汚れをふき取ってください。ボックス内に直接水をかけると、故障の原因になります。

警告

■走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

■クールボックスを開閉するときは

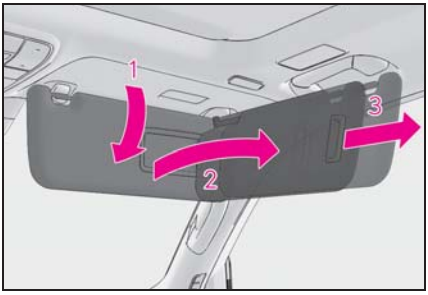
指などを挟まないよう注意してください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

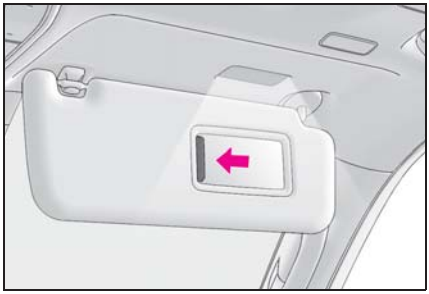
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを使うには

■ DC12V （アクセサリーソケット）

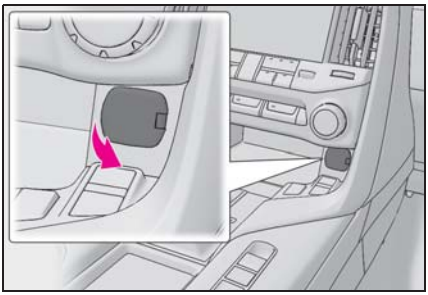
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品の使用時は、車両に装着さ

れているすべてのアクセサリーソケットの合計で、最大消費電力が120W 以下になるようにしてください。

▶ フロント

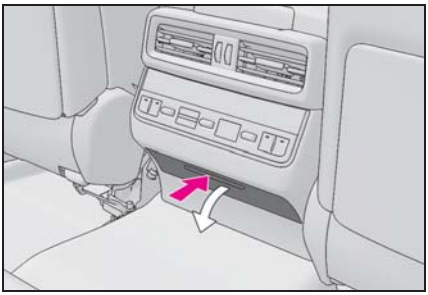
フタを開ける



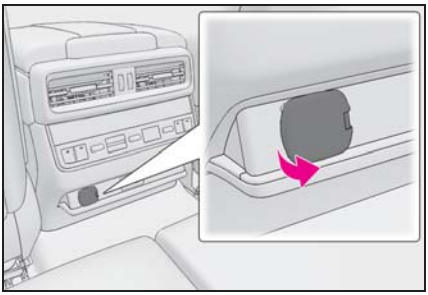
▶ コンソール後方★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける



フタを開ける

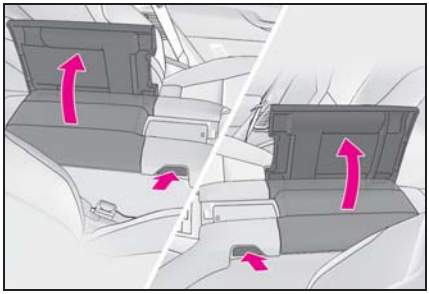


▶ リヤコンソールボックス★

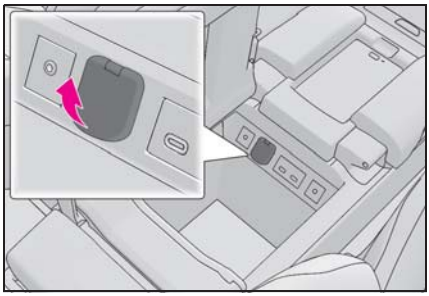
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

左右から開けることができます。



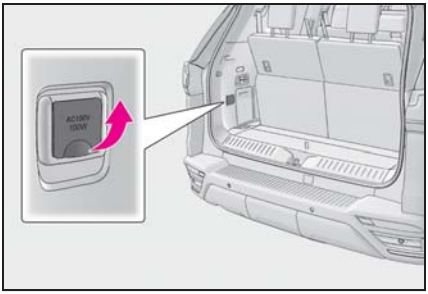
フタを開ける



■ AC100V（アクセサリーコンセント）

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開ける



知識

■作動条件

▶アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

▶アクセサリーコンセント

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

警告

■コンソール後方のフタについて

コンソール後方のフタにはものを置いたり、置いたままフタを閉じないでください。また、アクセサリーソケットを使用しないときはフタを閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、置いたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■アクセサリーソケットやアクセサリーコンセントを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットやアクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために（AC100V）

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。
消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットやアクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

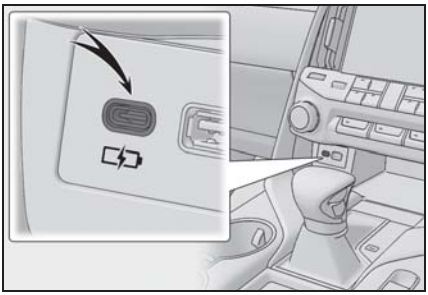
充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ **充電用USB Type-C 端子を使用するには**

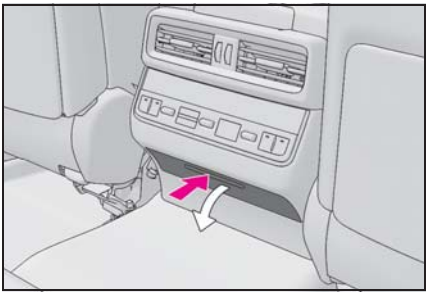
▶ フロント

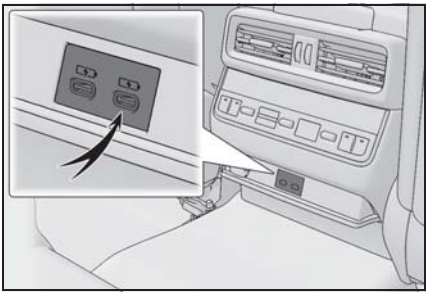


▶ コンソール後方★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける

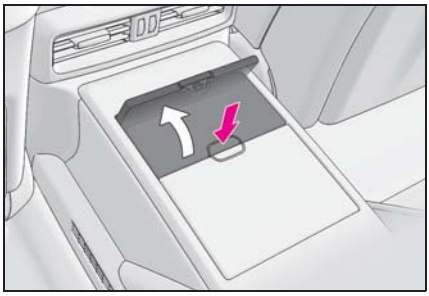


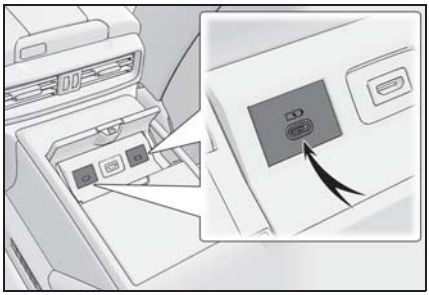


▶ 小物入れ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



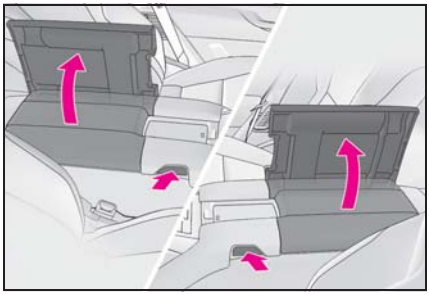


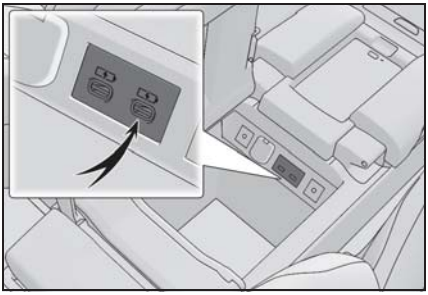
▶ リヤコンソールボックス★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

左右から開けることができます。

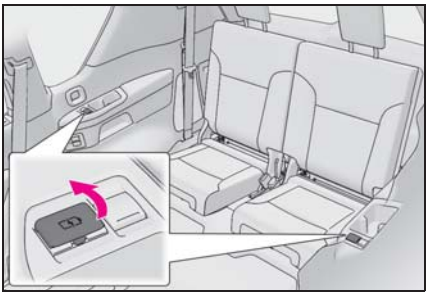




▶ リヤサイドトリム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

警告

■コンソール後方のフタについて

コンソール後方のフタにはものを置いたり、置いたままフタを閉じないでください。また、充電用 USB Type-C 端子を使用しないときはフタを閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、置いたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

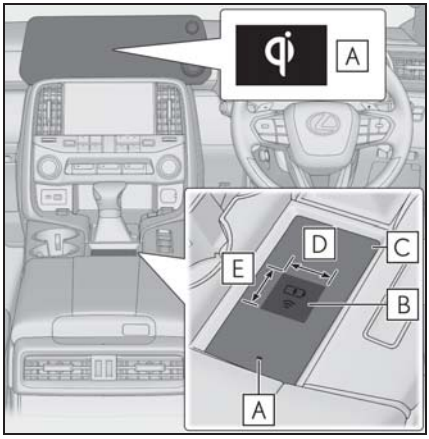
■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

▶ フロント★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 作動表示灯

B 充電エリア ※

C 充電トレイ

D 約 6cm

E 約 7cm

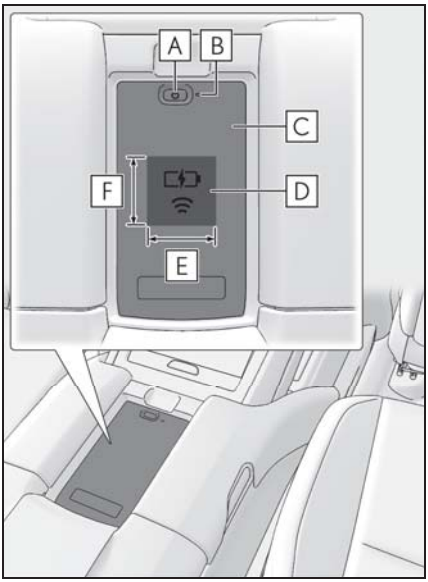
※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用

コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

▶ リヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 電源スイッチ

B 作動表示灯

C 充電トレイ

D 充電エリア※

E 約 6cm

F 約 7cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアから外れた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

▶ フロント★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電トレイに携帯機器を置く

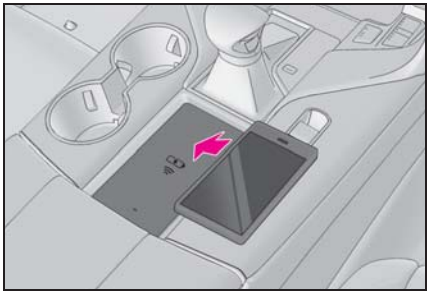
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



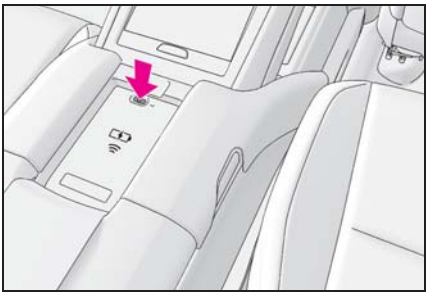
▶ リヤ★

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。
ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。
ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。



2 充電トレイに携帯機器を置く

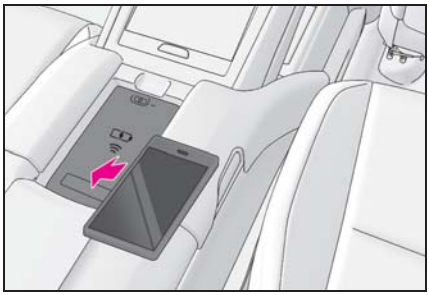
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ **再充電機能**

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがはずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ **急速充電機能**

● 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

● 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ **作動表示灯の点灯状況**

作動表示灯		状況
充電トレイ側	センターディスプレイ側 ※1	
消灯	非表示	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき

作動表示灯		状況
充電トレイ側	センターディスプレイ側 ※1	
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※2
		充電完了時 ※3
橙（点灯）	青	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
		充電中

※1フロントのワイヤレス充電器のみ表示されます。

※2待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、加熱されることはありません。

※3携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側 ※	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	**車両とワイヤレス充電器の通信不良** **→ エンジンがかかっているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。** エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.181）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	**ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常** **→ エンジンがかかっているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。** エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.181）

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側※	
緑（点灯）	青	**AM 放送局を自動選局している** **→ AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。**
		スマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行っている。 **→ キーの検出が完了するのをお待ちください。**
橙（3 回連続の点滅をくり返す）	灰	**異物検知：** **充電エリア内に金属製の異物があり、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた** **→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。**
		携帯機器のずれ： **携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた** **→ 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。**
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	**ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止** **→ いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。**

※ フロントのワイヤレス充電器のみ表示されます。

知識

■使用条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

● ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。

・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応してい

ます。

・WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

●リヤ★：ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

●iPhone の急速充電は、特定の周波数で行っています。周波数の切りかえ中は、iOS のバージョンによっては、急速充電動作を行わない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

フロント★：エンジンスイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は “ジー” や “カチッ” と作動音がしますが、異常ではありません。

リヤ★：電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にエンジンスイッチを押して ACC や ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は “ジー” と作動音がしますが、異常ではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

警告

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりして、あいだが 2mm 以上となるとき

・厚みがあるケースやカバー
・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リングやストラップなどのアクセサリー

注意

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード

・アルミ箔を使用したタバコの箱

・金属製の財布やかばん

・小銭

・カイロ

・CD や DVD などのメディア

・金属製のデコレーション

・金属製のケースやカバー

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ 情報等でご確認ください。

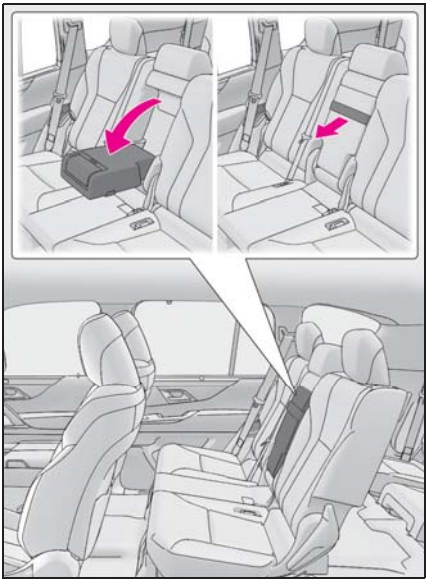
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレストを使うには（セカンドシート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用する



注意

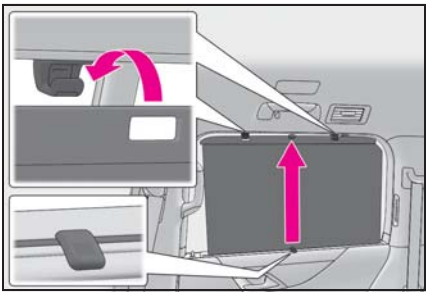
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

リヤドアサンシェードを使うには

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



警告

■リヤドアサンシェードについて

- リヤドアサンシェード操作中は、フックや溝に指などを置かないでください。巻き込まれてけがをするおそれがあります。
- フックが片方はずれた状態で使用しないでください。

リヤドアサンシェードがはずれ、ケガをするおそれがあります。

注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤドアサンシェードにものを貼らない
- リヤドアサンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- リヤドアが開閉しているときは、リヤドアサンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
  傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

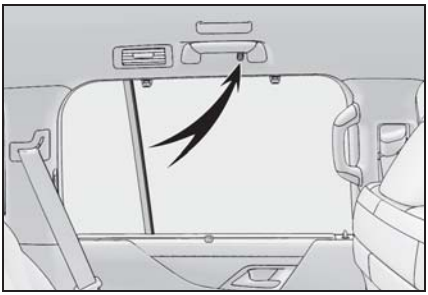
■リヤドアサンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックにはリヤドアサンシェード以外のものをかけない
  フックが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
  スクリーン部が破損するおそれがあります。

コートフックを使うには

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



警告

■**コートフックへかけてはいけないもの**

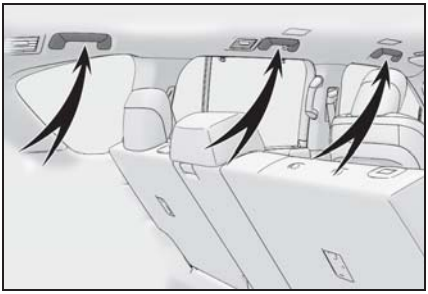
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップを使うには

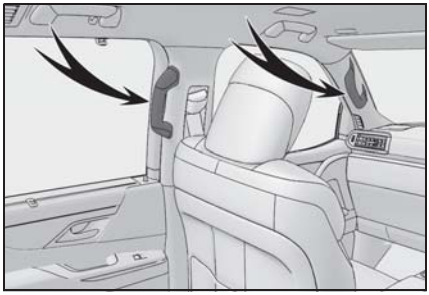
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式

ピラーに取り付けられているアシストグリップは、乗降時などにお使いください。



警告

■**アシストグリップ（回転式）について**

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■**アシストグリップの破損を防ぐために**

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 456

内装の手入れ 460

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 463

エンジンルームカバー 464

ウォッシャー液の補充 466

タイヤについて 466

タイヤ空気圧について 475

エアコンフィルターの交換 476

電子キーの電池交換 477

ヒューズの点検・交換 479

電球（バルブ）の交換 481

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

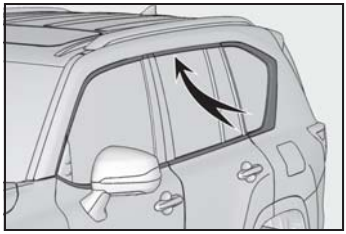
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■黒色ステンレスモール★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面を強くこすらないでください。塗装がムラになることがあります。



■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

●自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。

近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてくだ

さい。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.119）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■アルミホイール（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装ホイールは通常のアルミホイールとお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

●洗車の際は、水洗いで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジ又は柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

●マット塗装の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・コーティング剤や研磨剤入りの洗剤は使用しない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水にぬれた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラ

スクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

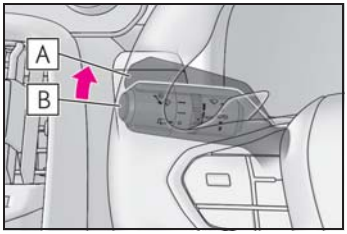
■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニターについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

注意

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.35）電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→P.445）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
  - シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

注意

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.210)

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長いあいだ放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く

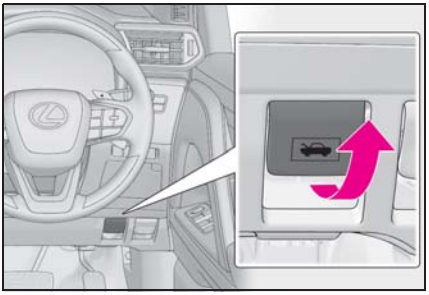
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

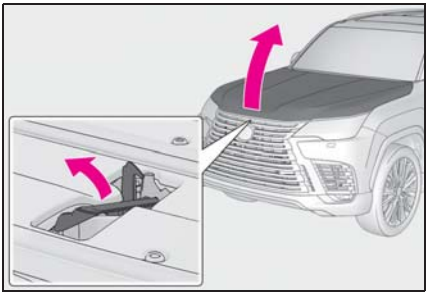
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

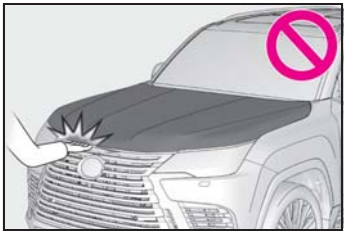
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

注意

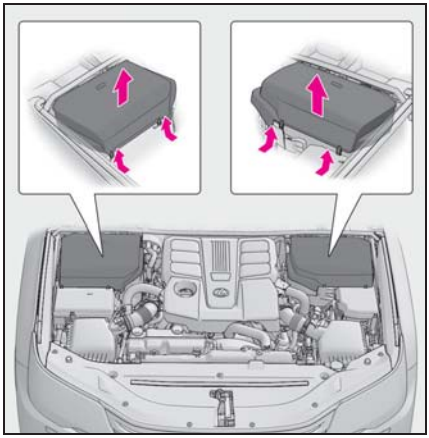
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ロッド部を軍手などでふれない
  - ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

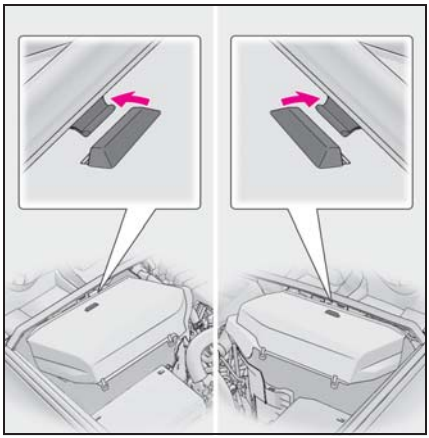
メンテナンス時など、必要に応じてエンジンルームカバーを開けたままにしたり、取りはずすことができます。

エンジンルームカバーを開けたままにするには

1 ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

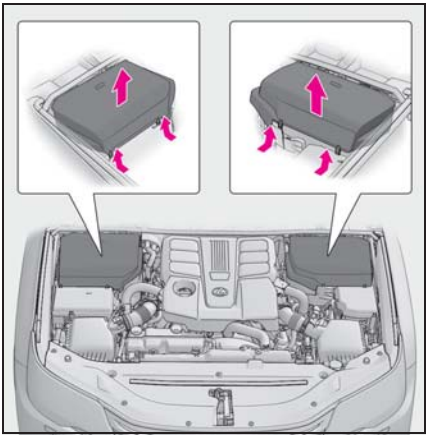


2 図のようにカバー上部の穴にツメを挿し込んでカバーを固定する

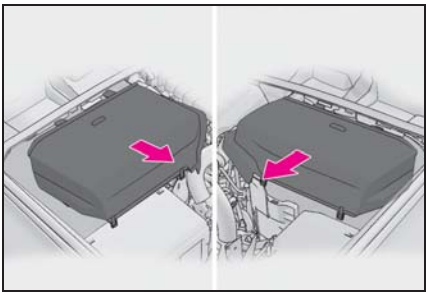


エンジンルームカバーを取りはずすには

1 ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

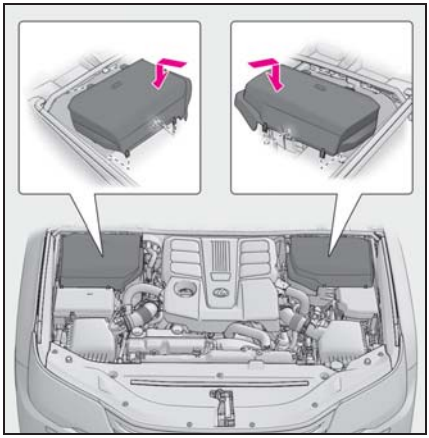


2 カバーを手前に引いて取りはずす



エンジンルームカバーを取り付けるには

図のようにツメを挿し込んで、カバーを取り付ける



警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

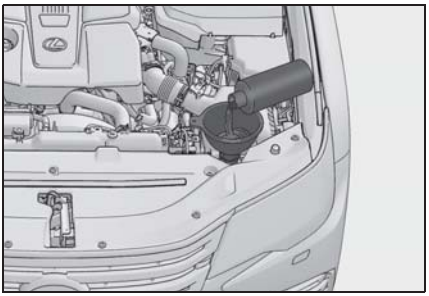
■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに “ウォッシャー液を補充してください” と表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

▶265/65R18 114V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

▶265/55R20 109V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

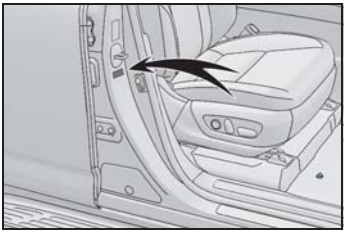
▶265/50R22 109V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、
レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

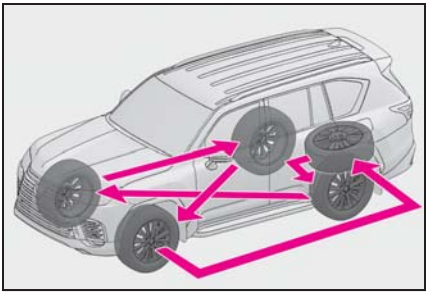
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。
誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

このシステムは状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイで 2 種類の警報とブザーでお知らせをします。

● “空気圧を調整してください” が表示されたとき

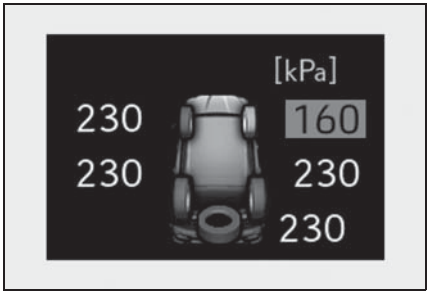
通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
表示された画面の指示に従ってください。

● “すみやかに安全な場所でタイヤ点検” が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
表示された画面の指示に従ってください。
ただし、このシステムはパンク等を検出することができない場合があります。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

表示される単位を変更することができます。



■ 単位の切りかえかた

1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が動いているときは、単位の切りかえができません。

2 エンジンスイッチを ON にする

3 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して”車両設定”を選択し、OKを押す

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“TPWS 設定”を選択し、OKを押す

6 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“単位設定”を選択し、OKを押す

7 メーター操作スイッチの∧または∨を押してお好みの単位を選択し、OKを押す

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、検出できません。

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、

システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.472）

知識

■ **ホイールごとタイヤを交換するとき**

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■ **タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
  レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- タイヤサイズの変更をしたとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき （→P.472）

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1. 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する
2. タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3. エンジンを始動する （→P.181）

車両が動いているときは、初期化できません。

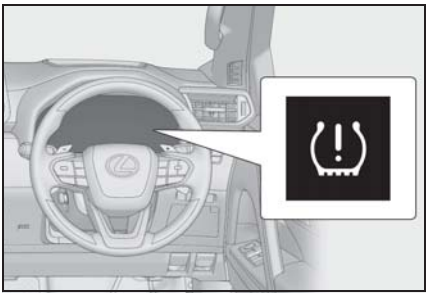
4 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して " 車両設定 " を選択し、OK を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して "TPWS 設定 " を選択し、OK を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して " 初期化 " を選択し、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまで OK を押し続ける

" 空気圧設定受付 " というメッセージが表示され、初期化を開始します。初期化中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が "---" になります。



8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化ができない場合は、エンジンスイッチは ON のまま、安全な場所に約 20 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■初期化するときは

- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
  なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります

■初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場

合や、初期化できない場合があります。
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

● 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

● 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

● 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

● 新しいバルブ／送信機を装着したとき

● すでにID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する

2 エンジンを始動する（→P.181）

車両が動いているときは、ID コード登録操作ができません。

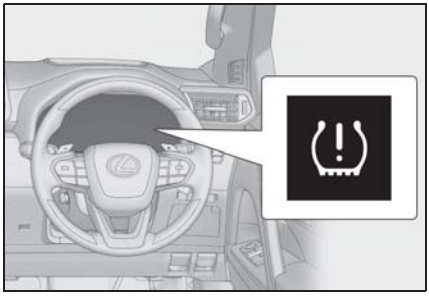
3 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ” 車両設定 ” を選択し、OK を押す

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “TPWS 設定 ” を選択し、OK を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 自動 ID 登録 ” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅するまで OK を押し続ける

“ センサ ID/ 位置 登録受付 ” というメッセージが表示され、登録を開始します。
ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。



7 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する。

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ空気圧が表示されます。
信号待ちで停車時間が長くなる場合など、走行条件によっては、登録に約 1 時間以上かかる場合があります。

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.470）

知識

■ID コードの登録をするときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえ（→P.474）を行うと短い時間で切りかえることができます。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイで“自動 ID 登録”を再度選択してください。（→P.472）

●ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチを ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 20 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり3回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できな

い場合はレクサス販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧警報システムの ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。

通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

ID コードの登録は、レクサス販売店で行ってください。

■ 作動条件

- この機能は 2 セット目のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。
  2 セット目のタイヤが登録されていない場合、マルチインフォメーションディスプレイで “ センサ ID ／位置登録 ” を選択し 2 分待機しても ID 切りかえはできません。
- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。
  他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

■ ID コードの切りかえかた

1 車を安全な場所に停車し、切りかえをしたいタイヤセットに交換をする。

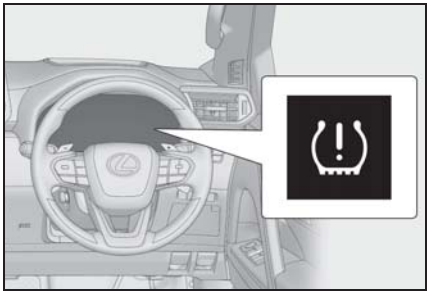
2 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ” 車両設定 ” を選択し、OK を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “TPWS 設定 ” を選択し、OK を押す

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 自動 ID 登録 ” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまで、OK を押し続ける

その後、1 分間点滅したあとに点灯します。



約 2 分後に 2 セット目の ID コードに切りかえが完了しタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.470）

取り付けたタイヤの空気圧が異なる場合、初期化が必要になりますが、同じ空気圧に設定されている場合は、初期化の必要はありません。

7 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

2 セット目に切りかえが完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ空気圧が表示されます。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。
(→P.537)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

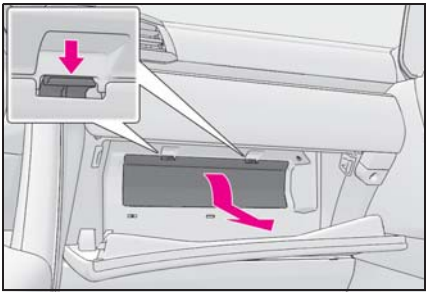
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

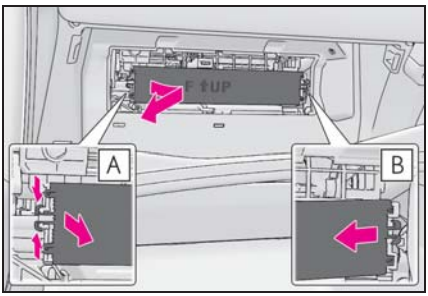
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、仕切り板を取りはずす（→P.429）

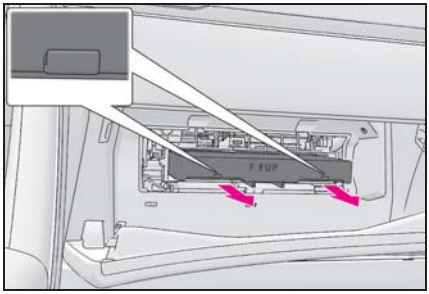
3 パネルを取りはずす



4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

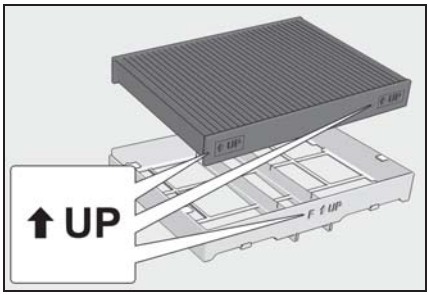


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「⇧ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

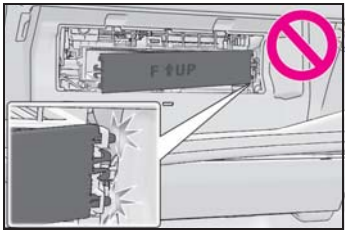
■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■カードキー★の電池交換が必要なときは

カードキーの電池はレクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池：CR2032

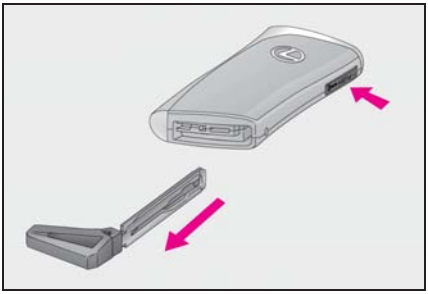
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

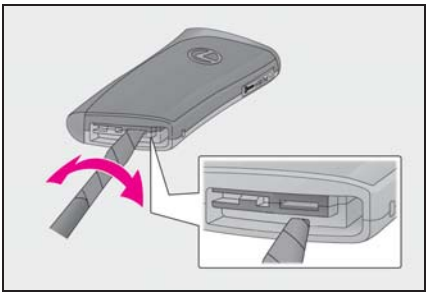
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



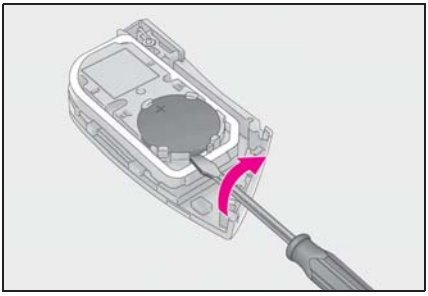
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 小さいマイナスドライバーを使って消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

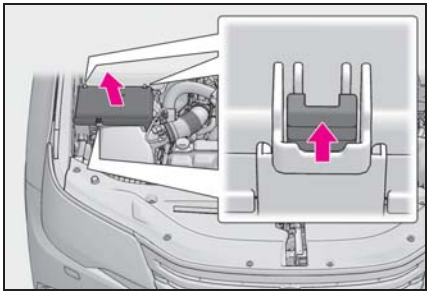
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

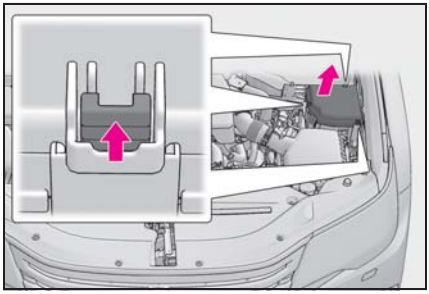
A タイプ：

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずし（→P.464）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



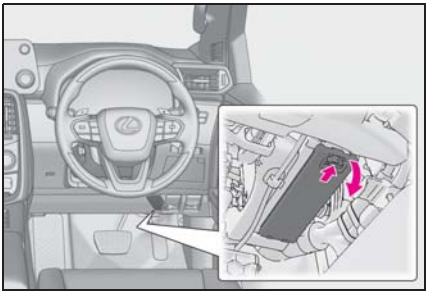
B タイプ：

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずし（→P.464）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



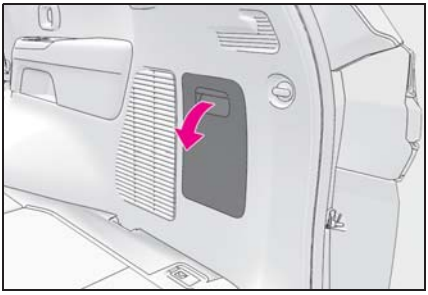
▶ 運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

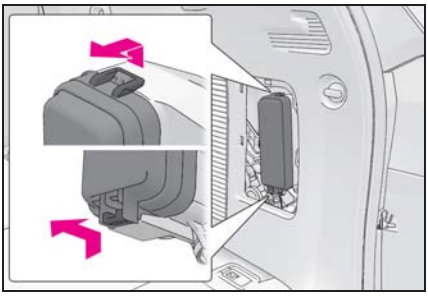


▶ ラゲージルーム

カバーを取りはずす

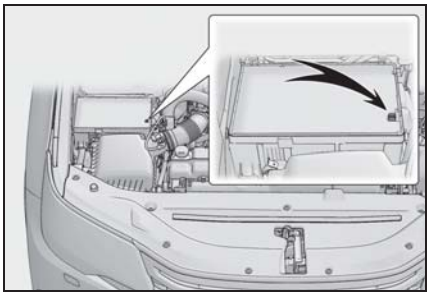


ヒューズボックスカバーを取りはずす



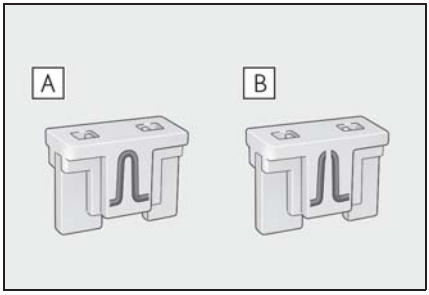
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P.481）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

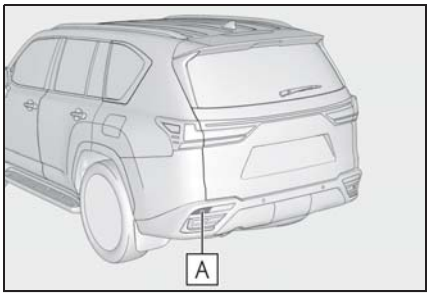
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球の W（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.538）

電球の位置



A リヤフォグランプ

■ レクサス販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／LED デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- コーナリングランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯

- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- ドアミラー照明
- サイドステップ照明

知識

■LED ランプについて

リヤフォグランプ以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

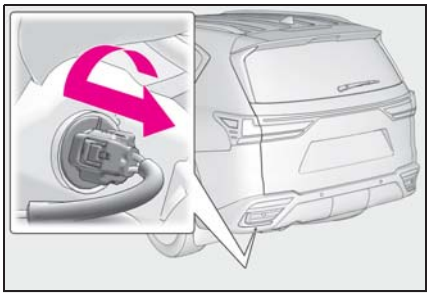
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.481

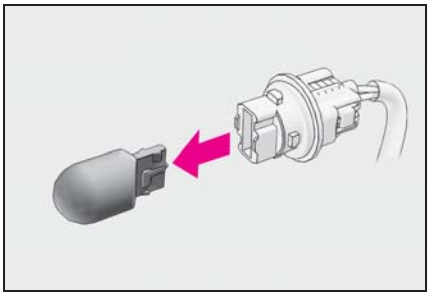
電球交換をするには

■ リヤフォグランプ

1 ソケットを左にまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の順序で取り付ける

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

警告

- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 486
非常点滅灯（ハザードランプ）. 487
発炎筒 487
車両を緊急停止するには..... 488
水没・冠水したときは..... 489

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 491
フューエルポンプシャットオフシステム 495
警告灯がついたときは..... 496
警告メッセージが表示されたときは 505
パンクしたときは..... 510
エンジンがかからないときは .. 520
キーをなくしたときは..... 522
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは..... 522
バッテリーがあがったときは .. 524
オーバーヒートしたときは..... 528
スタックしたときは..... 531

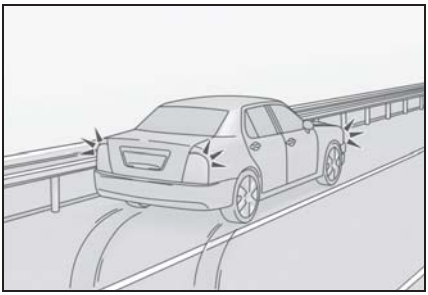
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.487）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



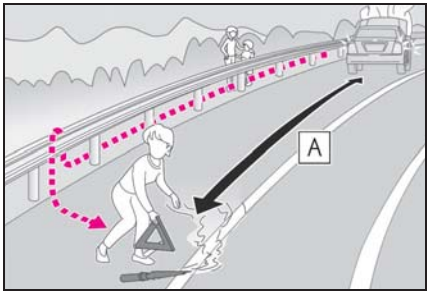
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.487）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

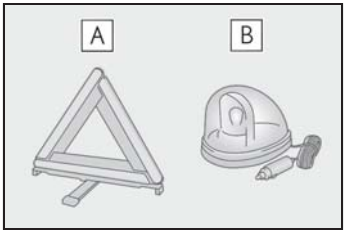


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

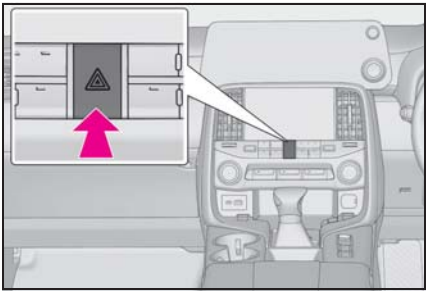
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

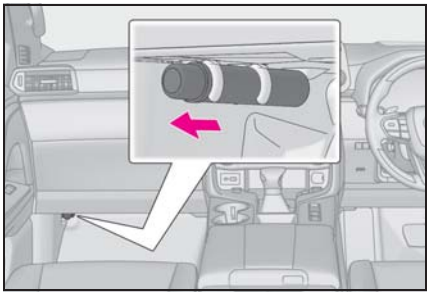
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

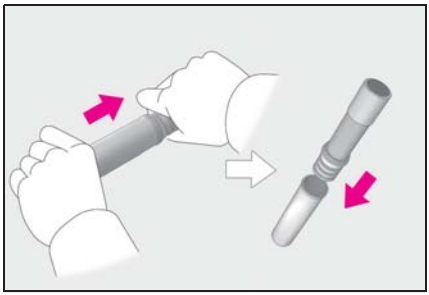
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



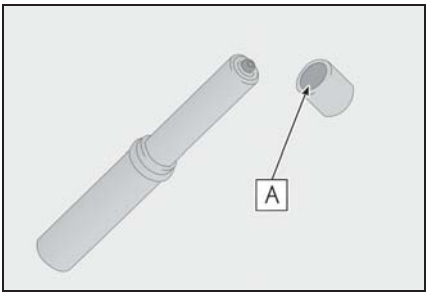
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

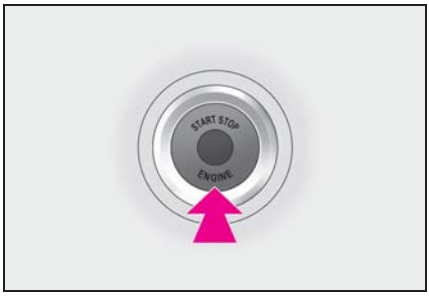
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

バッテリーの消費電力を抑えるためにエ

アコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラスが使用され

ております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

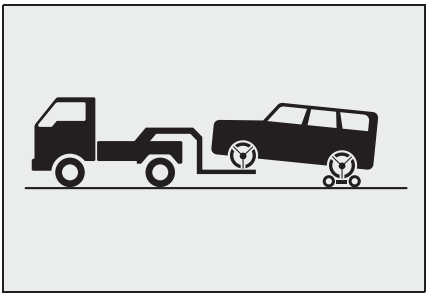
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

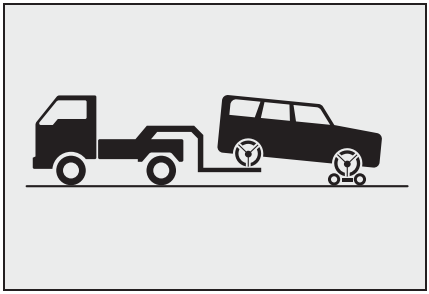
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



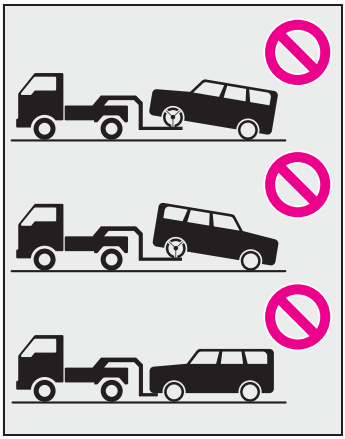
台車を使用して前輪を持ち上げる

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

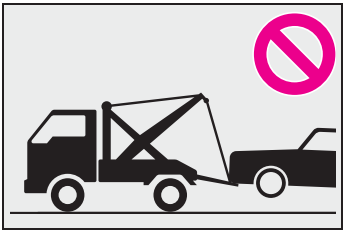
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



注意

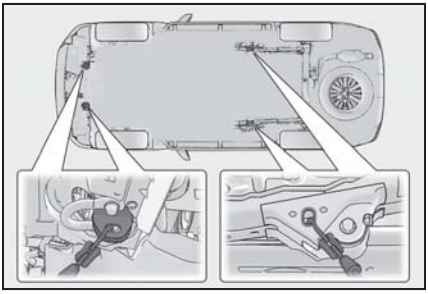
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

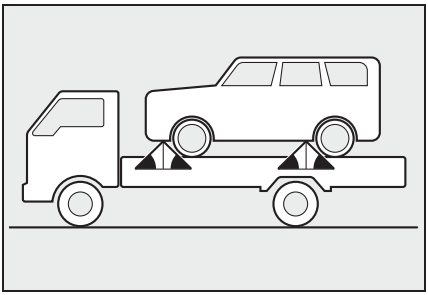


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

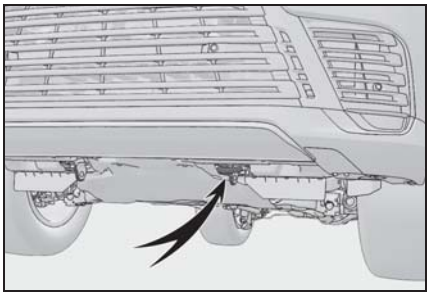
●ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

●AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。固縛後に車高がかわると、車両の損傷につながるおそれがあります。（→P.362）

他車にけん引してもらうとき

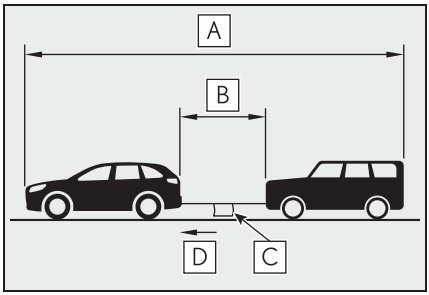
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

4 トランスファースイッチを H4 かつフロント・センター・リヤの各デフロックを OFF の状態にし、各表示灯が消灯したことを確認する

5 車高を N（標準）モードにして車高制御を停止する（→P.362）

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.191）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.187

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

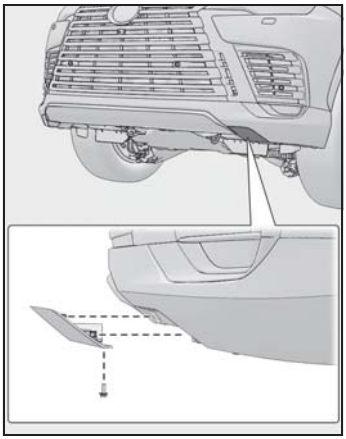
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ロープがバンパーに当たるときは

ロープをかける角度によりロープがバンパーに当たるときは、カバー★を取りはずしてください。

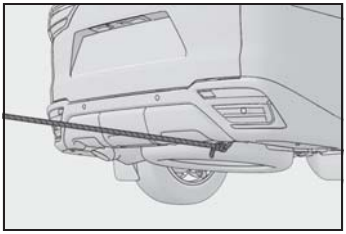
・ボルトを取りはずし、カバーを手前に引いてツメ（2ヶ所）を取りはずします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



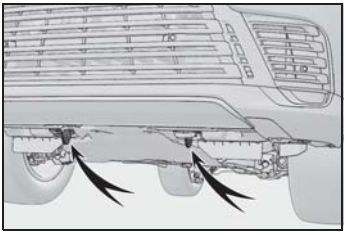
■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。
作動を停止しないと車高がかわり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
（→P.362）

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）（ヒッチメンバー付き車以外）などをけん引しないでください。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 → **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.528）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●マルチテレイン ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.213, 508）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.225**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.233）**

■ BSM OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	BSM（ブラインドスポットモニター）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.264）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.264, 505）**

■ RCTA OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.264）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.277, 505）**

■ RCD OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
RCD OFF	RCD（リヤカメラディテクション）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.282, 505）**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
P OFF	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.271, 505）**

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF	PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.288, 505）**

■ ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ●衝突時の急加速抑制が作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ●速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●トレーラースウェイコントロールの異常 ●アクティブ TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●ダウンヒルアシストコントロールシステムの異常 ●マルチテレインセレクトの異常 ●クロールコントロールの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ L4 作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （速い点滅）	表示灯が点滅した場合： 4WD システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ センターデフロック作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（速い点滅）	表示灯が点滅した場合： センターディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ フロントデフロック作動表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
（速い点滅）	表示灯が点滅した場合： フロントディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤデフロック作動表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
（速い点滅）	表示灯が点滅した場合： リヤディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 12L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.503）に従ってください。**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：

→P.510

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.470）

■スペアタイヤに交換した場合

スペアタイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。スペアタイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯は点灯します。タイヤがパンクした場合、スペアタイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。正常なタイヤと交換後、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.469

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から送信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→P.470）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー※	警告内容
―	あり	・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
―	なし	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.171）

・ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）・急アクセル時加速抑制★が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.175, 284, 384）。画面の指示に

従って対処してください。

●エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”（→P.528）
・“BSM 現在使用できません”（→P.264）
・“RCTA 現在使用できません”（→P.277）
・“リヤカメラ検知使用できません”（→P.283）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

・“トランスミッションオイル　高温　安全な場所に停止し取扱書を確認してください”
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“BrakeHold 作動不可”

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・“エンジン油圧不足”
・“故障のためブレーキ力が低下”

●“補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し取扱書を確認” が表示されたとき

充電系統が故障している可能性があります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。メッセージが表示されているときは、バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

■“駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■“バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときに

メッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ **“アクセルを戻してください” が表示されたときは**

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ドライブスタートコントロール（→P.175）
- プラスサポート（販売店装着オプション）（→P.382）

■ **前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは**

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.213, 498）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能
- ドライバー異常時対応システム

■ **レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは**

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.213, 498）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能

■ **“クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法：→P.213）

■ **“クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■ **次のメッセージが表示されたときは、対処法に従ってください。表示が消えたら使用可能です。**

- “CRAWL 使用不可 取扱書を確認してください” （→P.374）
- “ターンアシスト機能操作時は作動条件の確認をして下さい” （→P.376）
- “ターンアシスト機能操作時は CRAWL を ON にして下さい” （→P.373）

警告

■ **警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.466 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたとき

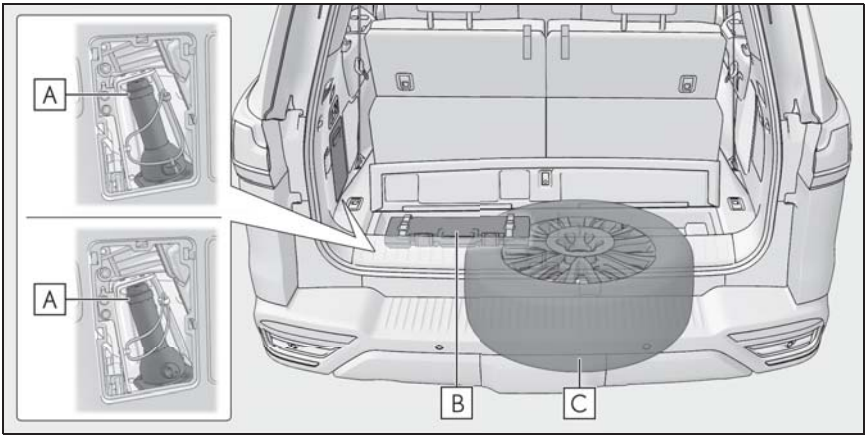
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- 侵入・傾斜センサーを OFF にする（→P.65）
- AHC を OFF にしてください。（→P.359）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.487）

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

▶ 7 人乗り車

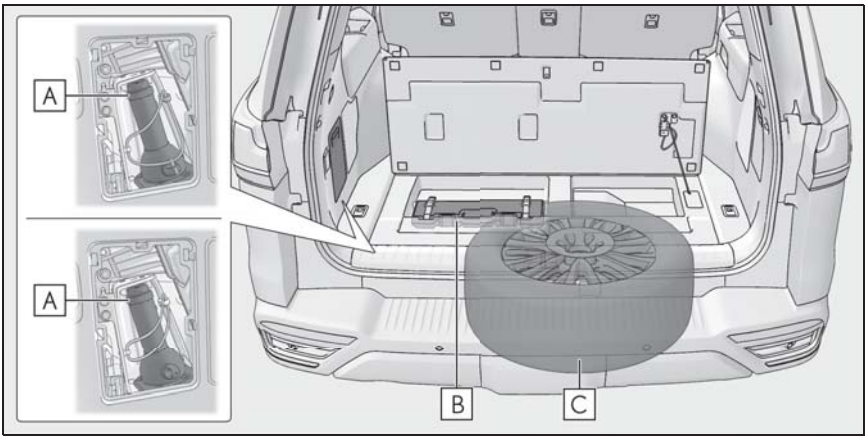


A ジャッキ

B 工具箱

C スペアタイヤ

▶ ４人乗り車／５人乗り車

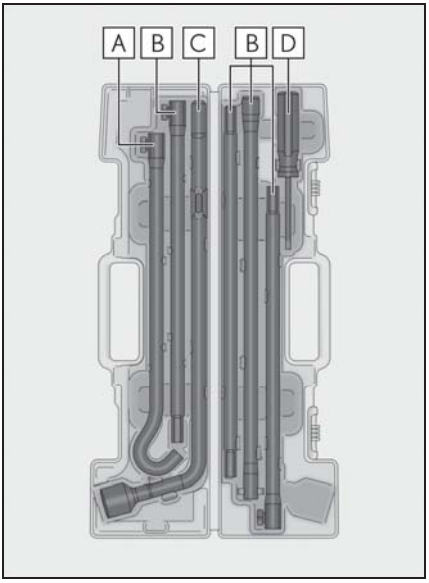


A ジャッキ

B 工具箱

C スペアタイヤ

工具



A ジャッキハンドルバー

B ジャッキハンドル延長バー

C ホイールナットレンチ

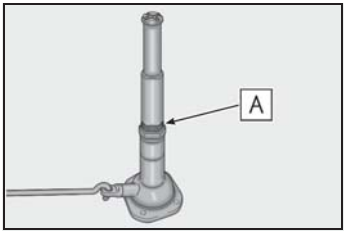
D ドライバー

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- AHC が OFF の状態で、エンジンを停止する（→P.359）
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 黄色い警告線 A が見えたら、それ以上にジャッキアップしない



- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

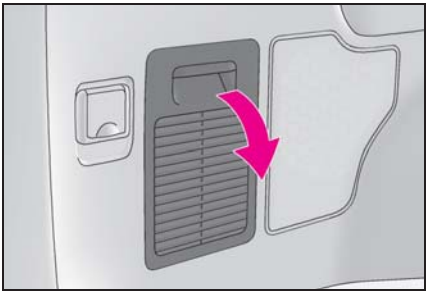
車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、ホイールナットレンチの穴部を使いネジ部を確実に締め付けてください。

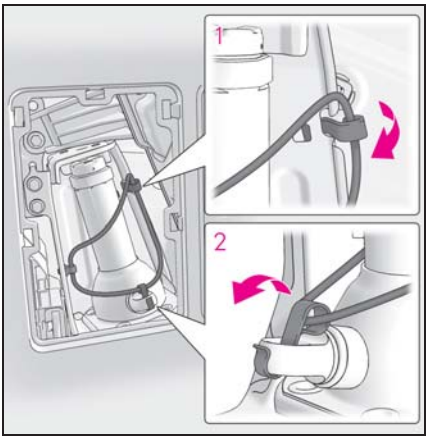
ジャッキを取り出すには

1 カバーを取りはずす

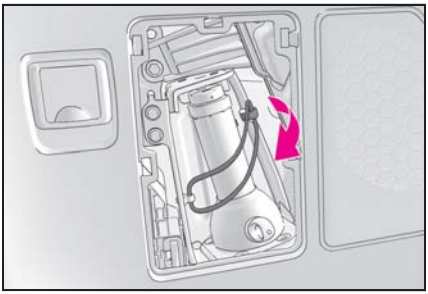


2 固定バンドをはずす

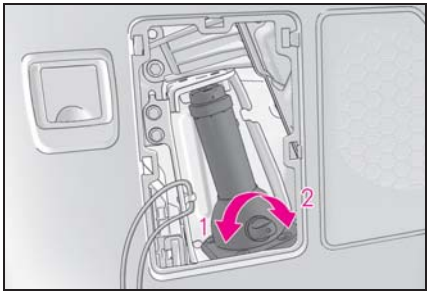
▶ A タイプ



▶ B タイプ



3 ジャッキをゆるめて取りはずす



1 ゆるめる

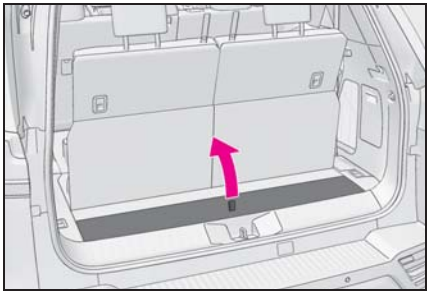
2 締める

使用後は取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。

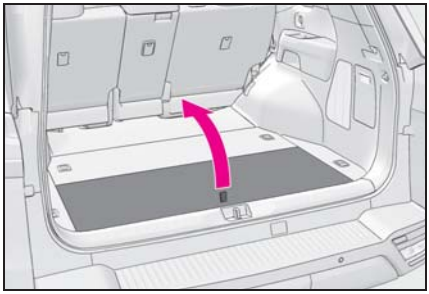
工具箱を取り出すには

1 デッキボードを持ち上げる

▶ 7 人乗り車

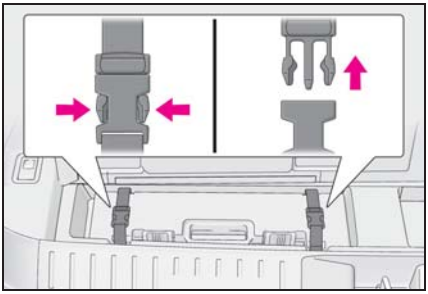


▶ 4 人乗り車／5 人乗り車

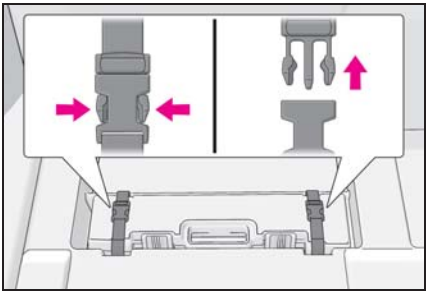


2 固定バンドをはずして取り出す

▶ 7人乗り車



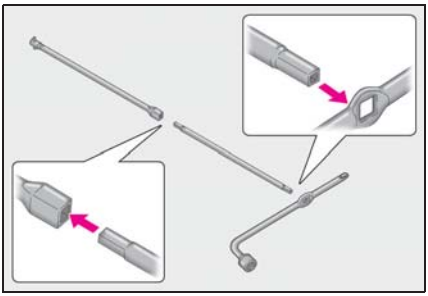
▶ 4人乗り車／5人乗り車



スペアタイヤを取り出すには

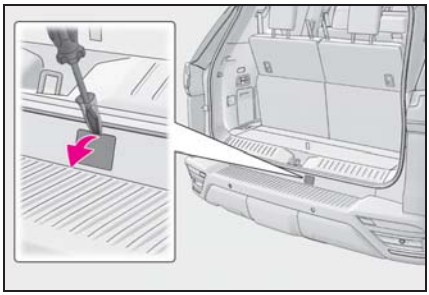
1 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドル延長バーとホイールナットレンチを取り出し、次の手順で組み付けます。

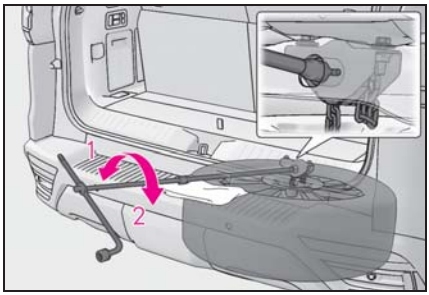


2 リヤバンパーのフタを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 組み付けたジャッキハンドルを挿し込む

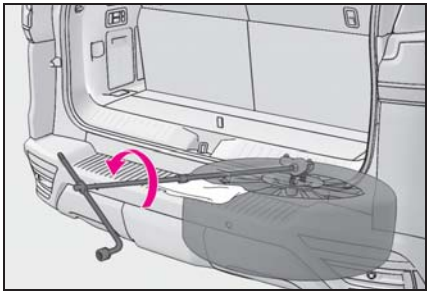


1 下がる

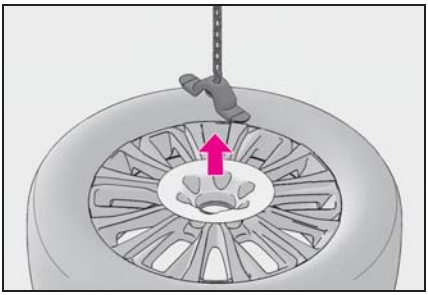
2 上がる

あて布をジャッキハンドルの下にしてリヤバンパーを保護してください。

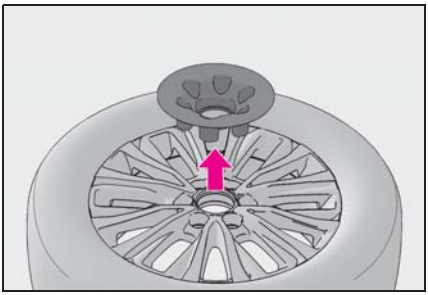
4 スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる



5 スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

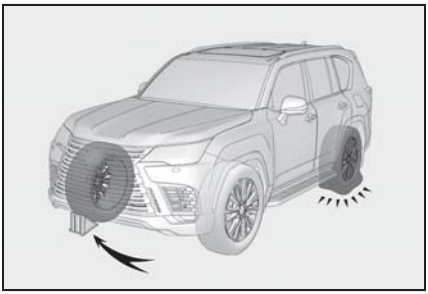


6 スペアホイールカバーを取りはずす



パンクしたタイヤを交換するには

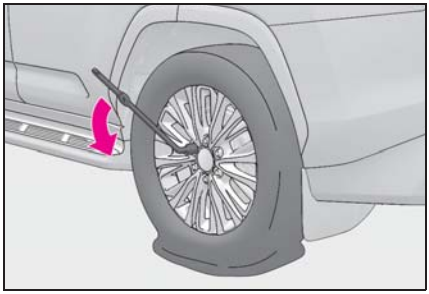
1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

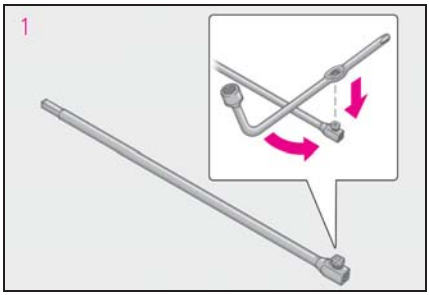
※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



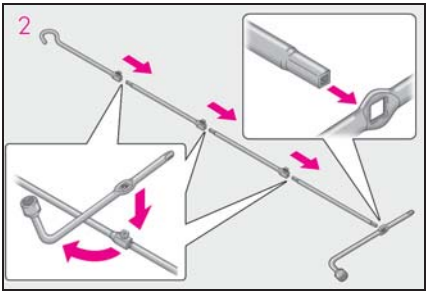
3 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドル延長バー、ホイールナットレンチを取り出し、次の手順で組み付けます。



1 ホイールナットレンチの穴部を使い、ジャッキハンドル延長バーの

接続用ボルトをゆるめる

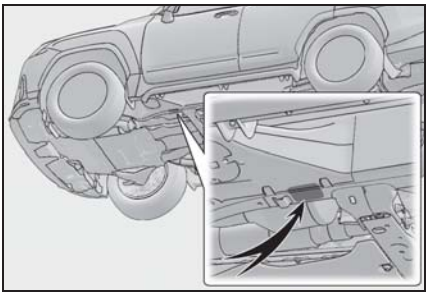


2 ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長バーを接続して、ホイールナットレンチの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける。ジャッキハンドル延長バーをホイールナットレンチの穴部に確実に挿し込む。

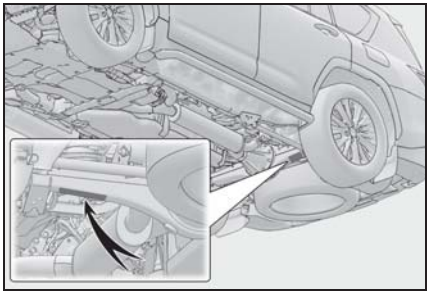
ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。

4 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

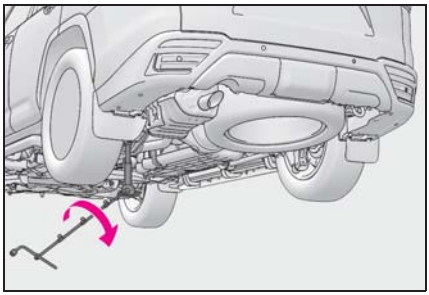
▶ フロント側



▶ リヤ側

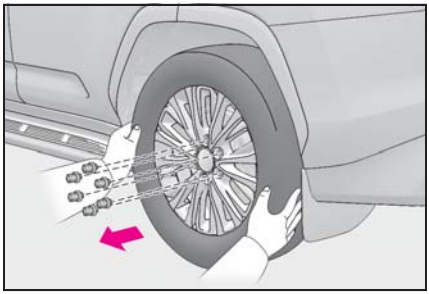


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

・センターオーナメントは直接手をかけて取らない

取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。

・AHC を OFF にしてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P.359）

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 131N・m（1336kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

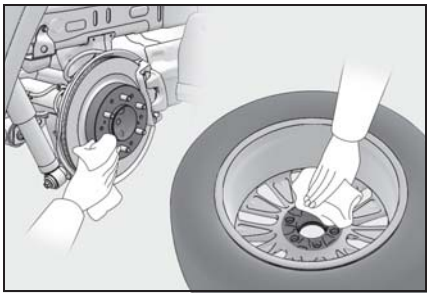
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.116）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

スペアタイヤを取り付けるには

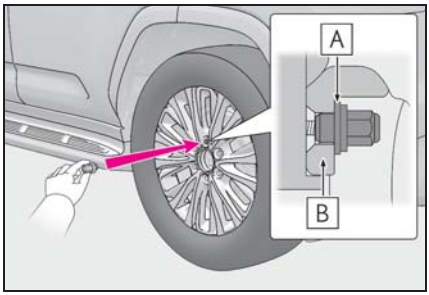
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

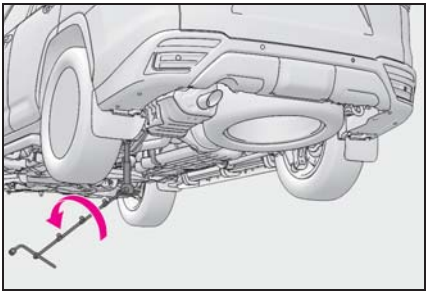


2 スペアタイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金 A がホイール B にあたるまでまわします。

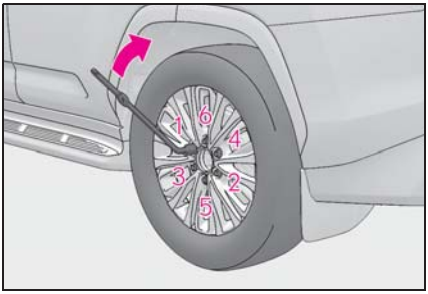


3 車体を下げる



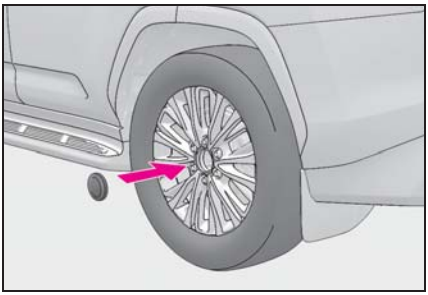
4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
131N・m（1336kgf・cm）



5 センターオーナメントを取り付ける

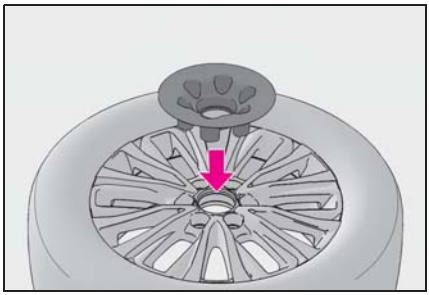
はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。



パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

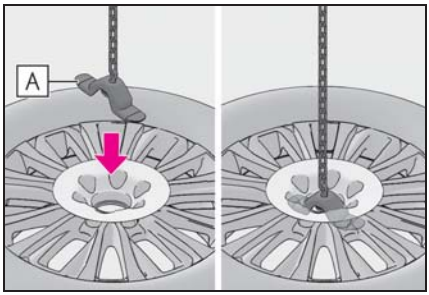
1 タイヤの外側が上になるように地面に置く

2 スペアホイールカバーを取り付ける



3 アンカープレート A を取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす

アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。



4 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

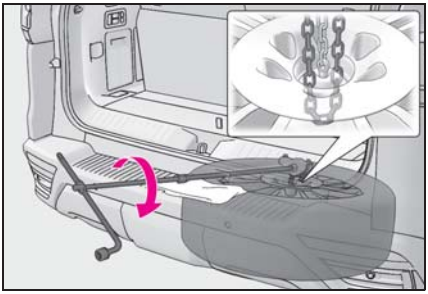
あて布をジャッキハンドルの下にしてリヤバンパーを保護してください。

タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

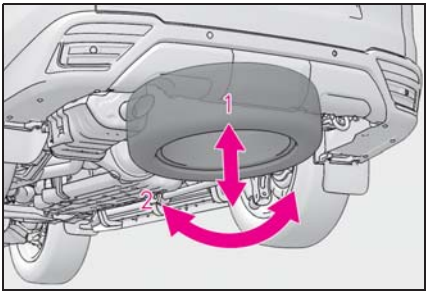
タイヤを半分まで上げたら、鎖がタイヤ

の穴に正しく収まっていることを確認してください。

締め付けトルク：
47 N・m （480 kgf・cm）



5 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する



1 タイヤを上下にゆする

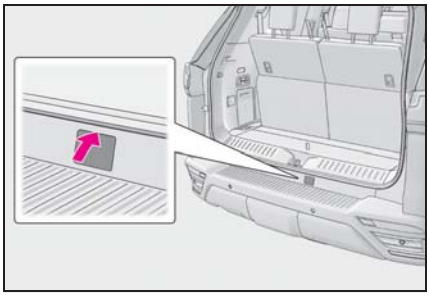
2 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。

ゆるんだり、正しく収納できなかったりした場合は、手順 **4** と手順 **5** をくり返してください。

6 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順 **5** をくり返す

7 図のようにリヤバンパーのフタを取り付ける



8 工具・ジャッキを収納する

知識

■タイヤを交換したあとは

タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。（→P.468）

警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

正しい手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■スペアタイヤを格納するときは

●タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。

注意

●タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■タイヤを交換するときは

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、レクサス販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.181）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P.181）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.62）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P.524）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。(→P.521)
- 指紋認証システムがONのときは、指紋認証に失敗、または指紋センサーが故障している可能性があります。(→P.67)

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→P.524)
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.190)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. シフトレバーがPの位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをACCにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキー★をすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.119）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

指紋認証に成功せずエンジンの始動が出来ないとき、または指紋センサーが故障したときは次の手順でエンジンを始動することができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.542）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.119）

注意

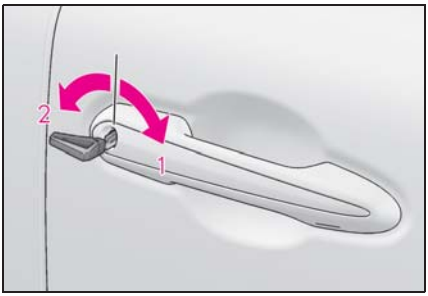
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキー★を含む）をお持ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアを施錠・解錠するには

メカニカルキー（→P.95）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

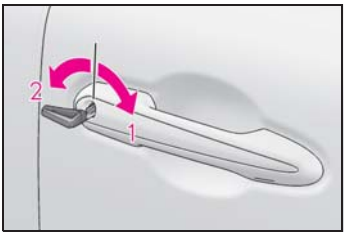


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを始動するには

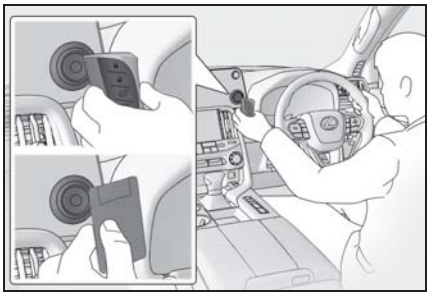
1 シフトレバーがＰの状態でブレーキペダルを踏む

2 図のように、電子キーまたはカードキー★でエンジンスイッチにふれる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

指紋認証システムの異常でエンジンが始動できなかった場合は、カスタマイズ機能で指紋認証システムをOFF にしてください。この状態でも、電子キーを携帯していればエンジンの始動は可能です。(→P.552)

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.477)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.63)

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.184)

バッテリーがあがったときは

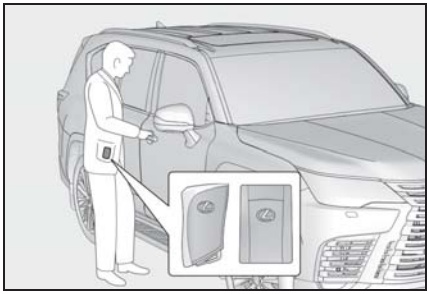
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

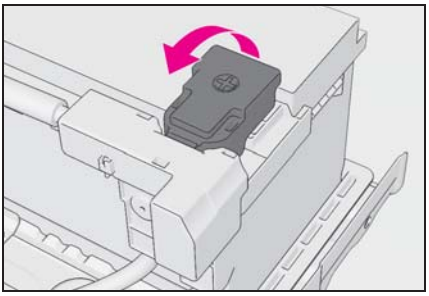
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.64)

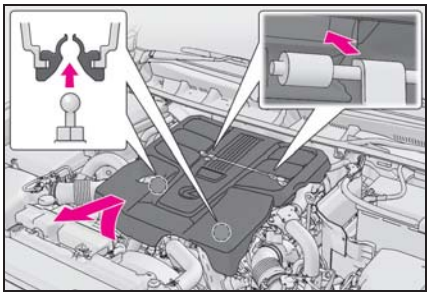


2 ボンネットを開けて(→P.463)、エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずす(→P.464)

3 バッテリーの＋端子のカバーを開ける



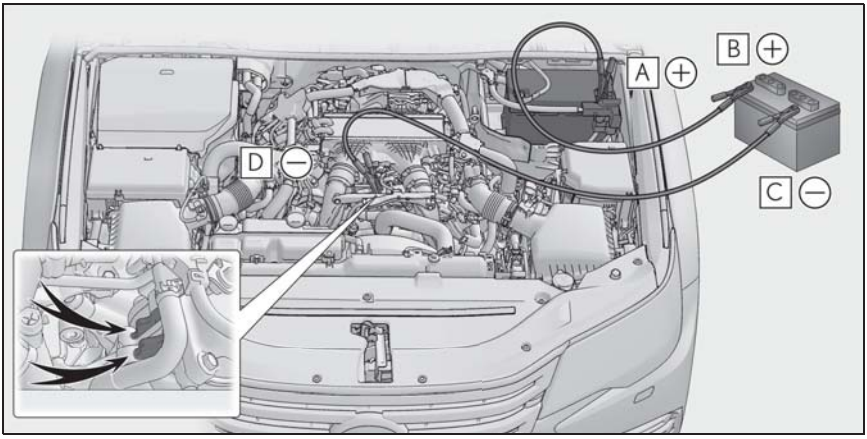
先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いて取りはずします。



4 エンジン上部のカバーをはずす

5 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約５分間自車のバッテリーを充電する

7 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

8 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する

9 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.553）

■バッテリー端子をはずすとき

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN4）、20 時間率容量（20HR）が同等（80Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（689A）以上のバッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、バッテリー

が正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■バッテリー端子をはずすとき

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーを交換するときは

バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

注意

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

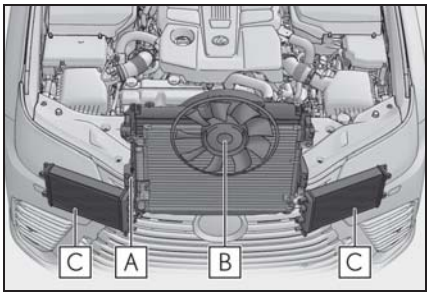
- 水温計（→P.76）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



A エンジンラジエーター

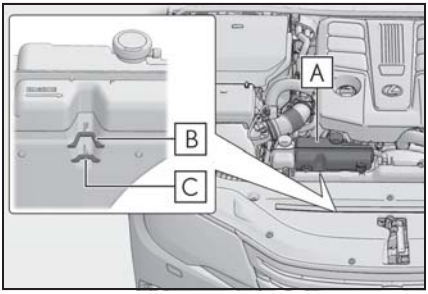
B ファン

C インタークーラーラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

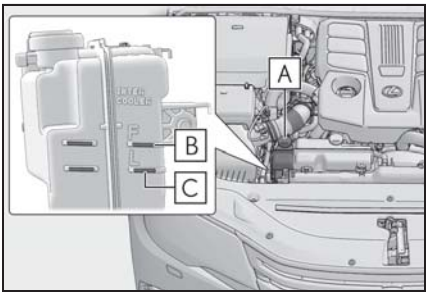


A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

▶ インタークーラー



A リザーバータンク

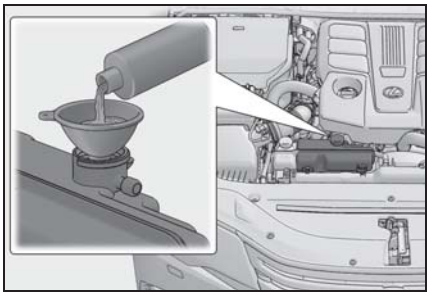
B “F”（上限）

C “L”（下限）

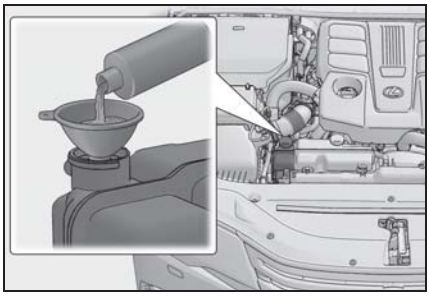
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P.535）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの“エンジン冷却水高温
安全な場所に停車して取扱書を

確認してください” 表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡してください。
表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P.463）、エンジンルームカバー（→P.464）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびエンジンラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 後輪周辺の土や雪などを取り除く

3 後輪の下に木や石などをあてがう

4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

次の方法もお試しください。

- アクティブ TRC を OFF にする (→P.388)
- トランスファーレンジを切りかえる (→P.366)
- センターデフロックを使用する (→P.366)
- フロントデフロック★を使用する (→P.369)
- リヤデフロック★を使用する (→P.371)
- クロールコントロールを使用する (→P.372)
- マルチテレインセレクトを使用する (→P.377)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→P.505)

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 534

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 539

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 553

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	80

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22 パーセント以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

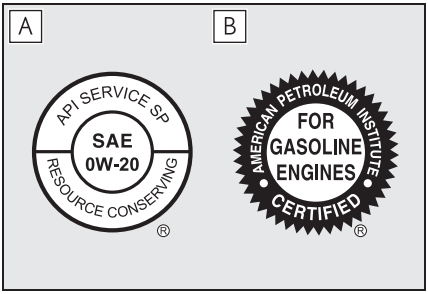
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	7.0	7.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マーク

が付いています。

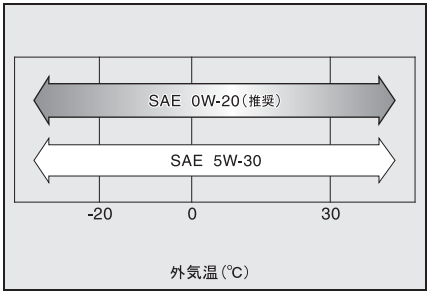


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	14.6	3.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
弊社純正オートフルード WS	11.4

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

注意

■オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

▶ フロント

指定銘柄（推奨粘度）	仕様	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	デフロック非装着車	1.16
	デフロック装着車	1.32

▶ リヤ

指定銘柄（推奨粘度）	仕様	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	デフロック・LSD 非装着車	5.45
	デフロック装着車	5.18
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LX（API GL-5 SAE 75W-85）	LSD 装着車	5.25

注意

■ディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正トランスファーギヤオイル LF（SAE 75W）	1.79

サスペンション

指定銘柄
弊社純正サスペンションフルード AHC

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	145 以上

※ エンジン回転時に 300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
265/65R18 114V	18 × 7 1/2J	230（2.3）	230（2.3）
265/55R20 109V	20 × 8J	230（2.3）	230（2.3）
265/50R22 109V	22 × 8J	230（2.3）	230（2.3）

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm）］
131（1336）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リヤフォグランプ	21

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
VJA310W	V35A-FTS（3.5L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

重量（ヒッチメンバー付き車）※

項目	グレード	重量
許容車両総重量	すべて	3280kg
けん引能力	ブレーキ装着トレーラー	3500kg
	ブレーキ非装着トレーラー	750kg

※ 許容車両総重量とトレーラー重量の合計重量は、6750kg をこえないでください。

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。**（→P.166）**

設定を変更するには

■ **マルチメディア画面で設定するには**

1 メインメニューの⚙を選択する

2 サブメニューの“車両カスタマイズ”を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、（作動）・（非作動）を選択します。

音量や照度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

→P.82

知識

■**カスタマイズ設定を行うとき**

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■**カスタマイズ設定を行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**カスタマイズ設定を行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A マルチメディア画面で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→P.63）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.76, 79）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語 ※2	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
車速表示	デジタル	アナログ	—	○	—
		両方表示			
ドライブインフォ 1※2	瞬間燃費	設定できる項目は P.80 を参照	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2※2	航続可能距離		—	○	—
	リセット間平均車速				
割り込み表示 ※2	あり	なし	—	○	—
エコドライブインジケーター ※2	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
制動灯表示灯	あり	なし	—	—	○
提案サービス ※2	あり	あり（停車中のみ）	○	—	○
		なし			

※1機能についての詳しい説明は P.82 を参照してください。

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ヘッドアップディスプレイ（→P.85）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	あり	なし	—	○	—
タコメーター切りかえ ※	タコメーター	エコドライブインジケーター	—	○	—
		表示なし			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
目的地案内 ※	あり	なし	—	○	—
レーン表示 ※	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示 ※	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示 ※	あり	なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック（→P.97, 522）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック ※	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）※	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	あり	なし	○	—	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	なし	あり	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.95, 118）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（非常点滅灯）※	あり	なし	○	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）※	標準	任意の音量	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.118）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択 ※1	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	—
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間 ※2	2 秒	非作動	—	—	○
		1.5 秒			
		2.5 秒			
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
エンジンスイッチ文字照明	あり	なし	—	—	○

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック（→P.95）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
解錠時の操作 ※	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
ドアが施錠されている状態で を操作したときのドアロック解錠作動（→P.104）	なし	あり（全ドア解錠）	—	—	○
		あり（バックドアのみ解錠）			

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー（→P.99）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リヤシートリマインダー ※	する	しない	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア（→P.104）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	—
車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	1 回押し続ける	1 回押し	—	—	○
ワイヤレスリモコンの を押してパワーバックドアを開くときの操作	1 回押し続ける	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		非作動			
パワーバックドア作動中のブザー音量	レベル 3	レベル 1	—	○	—
		レベル 2			
パワーバックドア作動中のブザー吹鳴 ※1	なし	あり	—	—	○
パワーバックドア全開時の開度	5	1 ～ 4	○	—	—
		お好みの位置（高さ）※2			
バックドアを引き下げたときの自動閉作動	あり	なし	—	—	○
バックドアオープンスイッチを押したときの自動開作動	あり	なし	—	—	○
バックドアオープンスイッチを押して自動開作動するまでの時間	0.3 秒	0.5 秒	—	—	○
		0.8 秒			
ドアが施錠されている状態でバックドアオープンスイッチを操作したときのドアロック解錠作動	あり	なし	—	—	○
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	あり	なし	—	—	○
ハンズフリーパワーバックドアの作動	あり	なし	—	○	—
キックセンサーの感度調整	+1	+0	—	—	○
		+2			
キックセンサーが足を検知したときのブザー	あり	なし	—	—	○
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	なし	あり	—	—	○

※1作動開始時のブザーを非吹鳴にすることはできません。

※2バックドア下部のスイッチ操作で設定します。（→P.117）

■ ポジションメモリー（→P.161）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドレストと車両天井との干渉防止機能（メモリー位置呼び出し時）	あり	なし	—	—	○

■ パワーイージーアクセスシステム（→P.161）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート前後移動量 ※	標準	なし	○	—	○
		少なめ			
降車時のステアリング移動 ※	上下のみ	全て作動	○	—	—
		前後のみ			
		なし			

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー（→P.152）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

■ パワーウインドウ、ムーンルーフ共通（→P.155, 158）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能 ※	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 ※	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

※ パワーウインドウの設定を変更すると、ムーンルーフの設定も連動して変更されます。

■ ムーンルーフ（→P.158）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○

■ ランプ（→P.196）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
おむかえ照明機能の制御	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.196）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整（コンライト感度調整）※	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチを OFF にする	運転席ドアを開ける	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	あり	なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）（→P.206）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能（→P.207）	する	しない	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	—	○
リバース連動機能（→P.207）	1 回のみ作動	しない	—	—	○
		連続作動			

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）（→P.199）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	—	○
		普通			
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○
		約 40km/h から作動			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	—	○

※ ハイビームとロービームの自動切りかえのみ作動します。

■ ドライブスタートコントロール（→P.175）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	—	○	—

※ “なし” に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに “あり” にもどります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.215）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能 ※	あり／なし	—	○	—
警報感度	早い／中間／遅い	—	○	—

※ エンジンスイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.225）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき検知	あり／なし	—	○	—
ふらつき検知感度	高／普通／低	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.234）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.237）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—
通信利用型レーダークルーズコントロール	あり／なし	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.249）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知距離	近い／中間／遠い	—	○	—

■ ITS Connect（→P.256）

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—
通知感度	高	低	—	○	—

※ 機能についての詳しい説明は P.256 を参照してください

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.263）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知※			

※ “死角領域の車両のみ検知” を選択すると、停車中の検知機能は OFF になります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.276）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

■ クリアランスソナー（→P.270）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.284）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.281）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCD（リヤカメラディテクション）機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 レベル 3	—	○	—

■ マルチテレインモニター（→P.341）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
コーナリングビュー ※	あり	なし	○	—	—
床下透過の映像表示 ※	あり	なし	○	—	—
クリアランスソナーの 3D 表示 ※	あり	なし	○	—	—
クリアランスソナーのフロントセンターの検知距離 ※	近い	標準	○	—	—
クリアランスソナーのリヤセンターの検知距離 ※	近い	標準	○	—	—
ボディーカラー ※	カラー 1	カラー 2 ～ 8	○	—	—
カメラ映像自動オフ ※	あり	なし	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ エアコン（→P.406）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	する	しない	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる ※	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節 ※	標準	-3 ～ 3	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.418）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	標準	-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	標準	-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	—	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	—	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	—	○

※ シートヒーターのみマイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター（→P.418）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整 ※	標準	-2（低め）～ 2（高め）	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション（→P.422）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間 ※	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
ドアトリムオーナメント照明、インサイドドアハンドル照明、スポット照明、足元照明、小物入れ照明、カップホルダーの照度、フロントコンソールボックスランプなどの照明色 ※	シルキーホワイト	各照明色	○	—	○
		カスタム			
全てのエリア：ドアトリムオーナメント照明、インサイドドアハンドル照明、スポット照明、足元照明、小物入れ照明、カップホルダーの照度、フロントコンソールボックスランプなどの照度 ※	標準	任意の照度	○	—	○
フロント部：フロントドアトリムオーナメント照明、フロントインサイドドアハンドル照明、スポット照明などの照度 ※	標準	任意の照度	○	—	○
リヤ部：リヤドアトリムオーナメント照明、リヤインサイドドアハンドル照明などの照度 ※	標準	任意の照度	○	—	○
足元照明の照度 ※	標準	任意の照度	○	—	○
ドアミラー照明、サイドステップ照明の消灯までの時間 ※	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
電子キーを携帯して車両に近付いたときのドアミラー照明、サイドステップ照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときのドアミラー照明、サイドステップ照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアを開けたときのドアミラー照明、サイドステップ照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアを施錠して車両から離れたときの室内灯自動消灯	あり	なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.357）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワートレーン制御	Normal	Power Eco	○	—	—
カスタムモード時のステアリング制御	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード時のサスペンション制御	Normal	Sport Comfort	○	—	—
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—	—

■ 指紋認証システム ※1（→P.67）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
指紋認証システム機能 ※2	なし ※3	あり	○	—	○

※1設定方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※2指紋情報を登録していないときは変更することができません。

※3指紋情報を登録すると自動的に “ あり ” になります。

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトレバーをP 以外にしたときの全ドア施錠” を両方とも “ あり ” にした場合次のように作動します。
・ シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応オートドアロックは作動しません。
・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートシステムが “ なし ” の場合、“ 解錠されるドアの選択 ” の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、 “ 作動の合図（非常点滅灯）” ・ “ 作動の合図（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.288
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき（指定空気圧が複数ある場合） ・ID コードの登録を実施したとき	P.468, 470
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）	・バッテリーを脱着したとき	P.376
パワーバックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.112
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P.155
ムーンルーフ		P.159

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 556
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 558
アルファベット順さくいん …. 560
五十音順さくいん …… 562

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.522）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.522）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.477）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.184）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.119）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.101）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.181）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.181）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.118）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.182）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.523）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.524）
- 指紋認証に成功していますか？（→P.67）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.187）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.182）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.157）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.185）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.558）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.496、505 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.510）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.531）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.63
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.505
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.63
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.477
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.118
	電子キーを車内に置き忘れている	P.505

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.101
	パーキングブレーキが解除されていない	P.501
	シートベルトを着用していない ※	P.502
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.189
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.173
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P.242
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.215
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.228

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.235
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.251
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.270
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.276

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connectが作動した	P.256
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 406
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 386
AHC
（アクティブハイトコントロール）
..... 359
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
..... 199
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 186
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 387
BSM
（ブラインドスポットモニター）263
CRAWL
（クロールコントロール）..... 372
DAC
（ダウンヒルアシストコントロール）
..... 380
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）..... 386
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 7
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 387
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）.... 85
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）..... 534
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....46
ITS Connect
通信利用型レーダークルーズコントロール 244
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....482
Lexus Safety System +
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....199
LTA（レーントレーシングアシスト）.....225
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....215
RSA（ロードサインアシスト）.234
先行車発進告知機能.....249
ドライバー異常時対応システム251
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....237
LTA
（レーントレーシングアシスト）225
MTS
（マルチテレインセレクト）.....377
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..215
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）284
RCD
（リヤカメラディテクション）..281
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....276
RSA
（ロードサインアシスト）.....234
S-FLOW
フロント席集中送風モード 411
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....35

S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）386
TRC
（トラクションコントロール）387, 531
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）..... 387
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）..... 386

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 524
アームレスト..... 452
ITS Connect..... 256
アウターミラー（ドアミラー）
BSM 263
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 276
運転席ポジションメモリー..... 161
格納のしかた 153
操作..... 152
ミラーヒーター 408
リバース連動機能 153
アクセサリーコンセント 440
アクセサリーソケット 440
アクティブ TRC..... 387
アクティブハイトコントロール（AHC）..... 359
乗降モード 361
アシストグリップ..... 454
足元照明 422
アダプティブハイビームシステム（AHS）..... 199
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 387
アラーム
オートアラーム 63
音さくいん 558
警告ブザー 496, 505
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 386
アンテナ
スマートエントリー＆スタートシステム..... 118

い

イージークローザー
サイドドア.....101
バックドア.....109
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）.....181
エンジンのかけ方 181
自動電源 OFF 機能.....185
車両を緊急停止するには 488
モード切りかえ 184
位置交換（タイヤローテーション）..467
イベントデータレコーダー（EDR）.....7
イモビライザーシステム.....62
イルミネーテッドエントリーシステム.....424
インサイドハンドル照明.....422
インジケーター（表示灯）.....73
エコドライブインジケーター 88
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....78
インテリアランプ 424

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー 190
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー 411
ウォッシャー.....204, 206
パワーウインドウ 155
リヤウインドウデフォッガー 408
ウインドウロックスイッチ.....157
ウインドシールドデアイサー.....411
ウォーニングランプ（警告灯）.72, 496
ウォッシャー
液の補充.....466
スイッチ.....204, 206

タンク容量 537
冬の前の準備・点検..... 394
動けなくなったときは（スタック）. 531
雨滴感知式ワイパー 204
運転
雨の日の運転 170
運転を補助する装置..... 386
寒冷時の運転 394
正しい運転姿勢 29
手順 170
運転支援機能情報表示 82
運転席シートベルト非着用警告灯... 502
運転席シートポジションメモリー... 161

え

エアコン 406
エコ空調モード 408
曇り取り（フロントガラス）..... 408
曇り取り（リヤウインドウ）..... 408
「ナノイー X」..... 409
フィルターの交換 476
フロントオートエアコン..... 406
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
..... 411
リヤオートエアコン..... 414
エアコン・デフォッガー 408
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 497
改造・廃棄 42
作動条件 37
正しい姿勢 29
配置 35
エコドライブインジケーター 81, 88
エコドライブインジケーターランプ.. 81
S-FLOW 411
LED デイタイムランニングランプ.. 197
エレクトリックパワーステアリング
（EPS）.....387
パワーステアリング警告灯 497
エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム（ECB）.....386
エンジン
エンジンイモビライザーシステム.....62
エンジンが始動できない 520
エンジン警告灯 497
エンジンスイッチ（イグニッション）.181
エンジンの始動方法 181
エンジンルームカバー 464
エンジンを停止する前に 171
オーバーヒート 528
緊急時の停止方法 488
タコメーター 76
フューエルポンプシャットオフシステム
.....495
ボンネット.....463
エンジンオイル
冬の前の準備・点検 394
メンテナンスデータ 534
油圧警告灯.....496
容量 534
エンジン回転計（タコメーター).....76
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ）.....181
エンジンのかけ方 181
自動電源 OFF 機能.....185
車両を緊急停止するには 488
照明 422
モード切りかえ 184
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....463
警告音.....101
エンジンルーム
エンジンルームカバー 464
エンジンルームから蒸気が出ている...528

お

オイル（エンジンオイル）..... 534
オーディオシステム連携表示 82
オートアラーム..... 63
オートエアコン..... 406, 414
オートドアロック・アンロック機能 102
オートマチックトランスミッション 186
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）..... 198
オーバーヒート..... 528
オープナー
　給油扉 209
　バックドア 104
　ボンネット 463
オープントレイ..... 433
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）. 445
お子さまを乗せるとき
　ウインドウロックスイッチ..... 157
　お子さまの安全のために..... 45
　シートベルトの着用..... 32
　ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告..... 418
　チャイルドシート 46
　チャイルドシートの取り付け 46
　チャイルドプロテクター..... 101
　発炎筒の取り扱いに関する警告 488
　バックドアに関する警告..... 103
　バッテリーに関する警告..... 527
　パワーウインドウに関する警告 156
　ムーンルーフに関する警告..... 159
オドメーター
　ODO TRIP スイッチ 78
　表示項目 76

か

カーゴフック..... 434
カーテンシールドエアバッグ 35
カードキー 92
カードホルダー 432
カーペット
　洗浄 460
　フロアマットの取り付け方 28
外気温度表示 76
外装の電球（バルブ）
　交換要領.....481
　ワット数.....538
買い物フック 435
カスタマイズ機能 539
型式.....538
カップホルダー 431
カメラ
　前方カメラ.....210
　デジタルインナーミラー 148
ガラスの曇り取り
　フロントウインドウガラス 408
　リヤウインドウガラス 408
冠水路走行 175
寒冷時の運転 394

き

キー
　エンジンが始動できない 520
　カードキー.....92
　キーナンバープレート 92
　キーの構成.....92
　キーレスエントリー 95, 118
　キーをなくした 522
　正常に働かない.....522
　施錠・解錠ができない 523
　電子キー.....92
　電池が切れた.....477, 522
　メカニカルキー 95
　ワイヤレスリモコン 95
キーレスエントリー
　スマートエントリー＆スタートシステム

..... 118
ワイヤレスドアロック..... 95
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）.. 173
キックセンサー..... 106, 107
給油
給油のしかた 208
メンテナンスデータ..... 534
緊急時シートベルト固定機構 32
緊急始動機能..... 521
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 520
オーバーヒートした..... 528
キーの電池が切れた..... 477, 522
キーをなくした 522
警告灯がついた 496
警告メッセージが表示された 505
けん引..... 491
故障したときは 486
車両を緊急停止する..... 488
水没・冠水したときは..... 489
スタックした 531
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かない..... 522
発炎筒..... 487
バッテリーがあがった..... 524
パンクした 510
緊急ブレーキシグナル 387

く

空気圧（タイヤ）..... 537
タイヤ空気圧警報システム..... 468
メンテナンスデータ..... 537
クールボックス..... 439
区間距離計（トリップメーター）
ODO TRIP スイッチ 78
表示項目 76
曇り取り
フロントガラス.....408
ミラーヒーター.....408
リヤウインドウデフォッガー 408
クラクション（ホーン）.....143
クリアランスソナー 270
操作 270
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ.....196
電球（バルブ）の交換 481
クリップ
フロアマット.....28
クルーズコントロール
警告メッセージ.....508
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....237
グローブボックス 429
グローブボックスランプ.....429
クロールコントロール.....372

け

警音器（ホーン）.....143
計器類（メーター）
マルチインフォメーションディスプレイ79
メーター.....76
警告灯.....72
ABS ＆ブレーキアシスト.....497
LTA 表示灯 498
PCS 498
PKSB OFF 表示灯 499
SRS エアバッグ 497
RCTA OFF 表示灯 498
RCD OFF 表示灯.....499
L4 作動表示灯 500
エンジン.....497
クリアランスソナー OFF 表示灯 499
高水温.....497
シートベルト非着用 502

充電 496
スリップ表示灯 500
センターデフロック作動表示灯 501
タイヤ空気圧 502
ドライブスタートコントロール 500
燃料残量 502
パーキングブレーキ表示灯 501
パワーステアリング..... 497
BSM OFF 表示灯 498
プリテンショナー 497
ブレーキ 496
ブレーキオーバーライドシステム 500
ブレーキホールド作動表示灯 501
フロントデフロック作動表示灯 501
ペダル誤操作 500
油圧 496
リヤデフロック作動表示灯 501
警告ブザー
RCD（リヤカメラディテクション）... 499
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 498
LTA（レーントレーシングアシスト）. 498
クリアランスソナー..... 275, 499
高水温 497
シートベルト非着用..... 502
シフトダウン制限 189
車線逸脱警報 228
充電 496
衝突警報 215
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 242
手放し運転警告（LTA) 233
ドライブスタートコントロール 500
パーキングブレーキ未解除走行時 192
半ドア 99
半ドア走行 101
BSM（ブラインドスポットモニター）498
PKSB（パーキングサポートブレーキ) 499
PCS（プリクラッシュセーフティ）....498
ブレーキ.....496
ブレーキオーバーライドシステム.....500
ブレーキホールド 501
ペダル誤操作.....500
ボンネット開.....101
油圧 496
リバース.....186
警告メッセージ 505
化粧ミラー（バニティミラー）.....440
けん引
けん引のしかた 491
トレーラーのけん引 178
フック.....492

こ

交換
エアコンフィルター 476
キーの電池.....477
スペアタイヤ.....510
電球（バルブ）.....481
ヒューズ.....479
工具（ツール）.....510
降車オートロック機能.....97
航続可能距離 80, 89
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）.....175
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 481
コートフック 454
コーナリングランプ 198
電球（バルブ）の交換 481
子供専用シート
選択方法.....46
取り付け方.....47
小物入れ.....433
コンソールボックス 429

コンライト（自動点灯・消灯装置）. 196

さ

サードシート
格納 133
調整 127
ヘッドレスト 140
サイドエアバッグ 35
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー 190
サイドミラー（ドアミラー）
BSM 263
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 276
格納のしかた 153
操作 152
ポジションメモリー 161
ミラーヒーター 408
リバース連動機能 153
サスペンションコントロール（PCS）
..... 216
三角表示板（停止表示板）..... 486
サンシェード
リヤドア 453
ルーフ 158
サンバイザー 440

し

シート 123, 127, 136
シートヒーター 418
シートベンチレーター 418
正しい運転姿勢 29
チャイルドシート 46
調整 123, 127, 137
手入れ 460
ドライビングポジションメモリー 161
パワーイージーアクセスシステム 161
ヘッドレスト 140
ポジションメモリー 165
メモリーコール機能 163
リヤシートリラクゼーションシステム 138
シートヒーター 418
シートベルト
お子さまの着用 31, 32
緊急時シートベルト固定機構 32
高さ調節 33
正しく着用するには 32
着け方・はずし方 32
手入れ 460
妊娠中の方の着用 31
非着用警告灯 502
シートベルト非着用警告灯 502
シートベルトプリテンショナー
機能 33
プリテンショナー警告灯 497
シートベンチレーター 418
シートポジションメモリー 161, 165
G モニター 398
室内灯（インテリアランプ）..... 422
始動後走行距離 80
始動のしかた 181
シフトポジション 186
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ 186
シフトレンジの切りかえ 188, 189
シフトロックシステム（解除ボタン）. 187
操作 187
リバース警告ブザー 186
シフトレバーがシフトできないときは
..... 187
シフトロックシステム 187
指紋認証システム 67
ジャッキ
車載ジャッキ 510

ジャッキハンドル..... 512
車幅灯
電球（バルブ）の交換..... 481
ランプスイッチ 196
車両型式 538
車両仕様（スペック）..... 534
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 488
充電用 USB 端子 442
収納装備 427
瞬間燃費 80, 89
仕様（車両仕様）..... 538
衝撃感知ドアロック解除システム..... 98
乗降モード..... 361
初期化
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）..... 376
タイヤ空気圧警報システム..... 470
パーキングサポートブレーキ..... 288
パワーウインドウ 155
パワーバックドア 112
ムーンルーフ 159
初期設定 553
助手席シートベルト非着用警告灯... 502
侵入センサー（オートアラーム）..... 65

す

水温計 76
スイッチ
DAC/CRAWL 373, 380
DRIVE MODE 357
LTA 230
MODE SELECT.... 357, 373, 377, 380
MTS 377
ODO TRIP..... 78
TRC OFF 388
VIEW..... 300
VSC OFF 388
イグニッション 181
インストルメントパネル照度調整..... 78
ウインドウロック 157
ウォッシャー..... 204, 206
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 200
エンジン..... 181
おくだけ充電..... 445
シート調整..... 123, 127
シートヒーター 418
シートベンチレーター 418
シートポジションメモリー 161
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 237
車高切りかえスイッチ 359
侵入・傾斜センサー OFF..... 65
ステアリングヒーター 418
センターデフロック 367
ターンアシスト 373
タイヤ空気圧警報リセット 470
デジタルインナーミラー 145
ドアミラー..... 152
ドアロック..... 100
ドライビングポジションメモリー..... 161
ドライブモードセレクト 357
トランスファー 366
パーキングブレーキ 190
ハザードランプ..... 487
バックドアオープン 105
パドルシフト..... 188, 189
パワーウインドウ 155
パワーバックドア 104
ハンドルの位置調整 143
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 487
フォグランプ..... 203
ブレーキホールド 193
フロントデフロック 369
フロントワイパーデアイサー 411

方向指示レバー 190
ホーン（警音器）..... 143
ムーンルーフ 158
メーター操作 80
ランプ 196
リセット（タイヤ空気圧警報システム）
..... 470
リヤウインドウデフォッガー 408
レーダークルーズコントロール 237
ワイパー 204, 206
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.... 445
スタック 531
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.. 386
ステアリングヒーター 418
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 143
運転席ポジションメモリー 161
ステアリングヒーター 418
パワーイージーアクセスシステム 161
メーター操作スイッチ 80
ステアリングロック 182
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 387
電球（バルブ）の交換 481
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 394
スピードメーター 76
スペアタイヤ
空気圧 466, 537
交換方法 510
スペック（車両仕様）..... 534
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置 118
エンジンの始動 181
カスタマイズ設定 539
緊急始動機能 521
警告ブザー 118
警告メッセージ 118
作動範囲 118
正常に働かないとき 522
節電機能 119
電波がおよぼす影響について 122
ドアの解錠・施錠 97, 104
バックドアの解錠・施錠 104
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 481
ランプスイッチ 196
スリップ表示灯 388

せ

清掃 456, 460
アルミホイール 457
外装 456
シートベルト 460
内装 460
レーダーセンサー 210, 264
制動灯
緊急ブレーキシグナル 387
電球（バルブ）の交換 481
セカンダリーコリジョンブレーキ ... 387
セカンドシート
格納 128
サードシートへの乗り降り 128
シートヒーター 419
シートベンチレーター 420
調整 127
ヘッドレスト 140
積算距離計（オドメーター）
ODO TRIP スイッチ 78
表示項目 76
セキュリティインジケーター 62, 63
接近警報（後方車両）..... 387
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 242
先行車発進告知機能 249

センサー
LTA 225
雨滴感知センサー 205
キックセンサー 106, 107
侵入・傾斜センサー..... 65
デジタルインナーミラー..... 147
パワーバックドア 109
ライトセンサー 197
レーダーセンサー 210, 264
洗車 456
前照灯（ヘッドランプ）..... 196
オートレベリングシステム..... 198
電球（バルブ）の交換..... 481
ライトセンサー 197
ランプ消し忘れ防止機能..... 197
ランプスイッチ 196
センターデフロック 367

そ

走行時間 80
走行情報表示..... 80
走行モード（ドライブモード）..... 357
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
..... 468
速度計（スピードメーター）..... 76

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
..... 190
電球（バルブ）の交換..... 481
方向指示レバー 190
タイヤ
空気圧 475, 537
交換 467, 510
締め付けトルク 517, 537
タイヤ空気圧警告灯..... 502
チェーン 394
点検 466
パンクしたときは 510
冬用タイヤ.....394
ホイールサイズ 537
ローテーション（位置交換）.....467
タイヤが空まわりする（スタックした）
.....531
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択 472
機能について 468
空気圧バルブ／送信機について.....470
空気圧表示画面 468
初期化.....470
タイヤ空気圧警告灯 502
タイヤチェーン 394
ダウンヒルアシストコントロールシステ
ム.....380
タコメーター 76

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....394
チャイルドシート 46
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け.58
シートベルトでの固定 56
助手席にチャイルドシートを取り付けると
き 47
選択方法.....46
トップテザーアンカレッジ 60
チャイルドプロテクター.....101
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
警告灯.....501
警告メッセージ.....192
操作 190
冬季の注意.....396
パーキングブレーキ表示灯 501
未解除走行時警告ブザー 192

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール 244
ツール（工具）..... 510

て

提案サービス機能..... 83
ディスプレイ
フロントマルチオペレーションパネル 398
ヘッドアップディスプレイ 85
マルチインフォメーションディスプレイ79
リヤマルチオペレーションパネル 401
ディファレンシャル..... 536
手入れ
アルミホイール 457
外装..... 456
シートベルト 460
デジタルインナーミラー..... 148
内装..... 460
レーダーセンサー 210, 264
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換..... 481
ランプスイッチ 196
デジタルインナーミラー 144
デッキボード..... 435
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 408
電圧計 76
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 481
ワット数 538
点検基準値（メンテナンスデータ）. 534
電子キー 92, 477
作動範囲 118
正常に働かないとき..... 522
節電機能 119
電池が切れた 477, 522
電池交換（キー）.....477

と

ドア.....97
イージークローザー 101, 109
オートドアロック・アンロック機能...102
降車オートロック機能 97
衝撃感知ドアロック解除システム.....98
スマートエントリー＆スタートシステム 118
チャイルドプロテクター 101
ドアガラス.....155
ドアロックスイッチ 100
ドアロックボタン 100
バックドア.....103
ワイヤレスリモコン 97
ドアカーテシランプ
位置 422
ドアミラー
BSM.....263
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....276
格納のしかた.....153
操作 152
ミラーヒーター 408
リバース連動機能 153
ドアミラー足元照明
電球（バルブ）の交換 481
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.....62
オートアラーム 63
指紋認証システム 67
読書灯 425
時計.....76
トップテザーアンカレッジ.....60
トノカバー 436, 437
ドライバー異常時対応システム 251

ドライビングポジションメモリー
ポジションメモリー..... 161
メモリーコール機能..... 163
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 175
後退速度の抑制制御..... 176
ドライブモードセレクトスイッチ... 357
トラクションコントロール（TRC）. 387
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー 189
操作 186
パドルシフトスイッチ..... 188, 189
メンテナンスデータ..... 535
トリップメーター
ODO TRIP スイッチ 78
表示項目 76
トレーラースウェイコントロール... 387

な

内装
収納装備 427
手入れ 460
「ナノイー X」..... 409
ナビゲーションシステム連携表示..... 82

に

ニーエアバッグ..... 35
荷物
カーゴフック 434
買い物フック 435
積むときの注意 177
荷室内装備 434

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.... 531

ね

燃費
瞬間燃費.....80, 89
平均燃費.....80, 89
燃費画面 89
燃料
給油 208
種類 534
燃料残量警告灯 502
フューエルポンプシャットオフシステム
.....495
容量 534
燃料計 76

は

パーキングサポートブレーキ（PKSB）
.....284
警告メッセージ.....288
操作 285
パーキングサポートブレーキ（後方車両）
.....292
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....294
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）.....289
パーキングブレーキ
操作 190
冬季の注意.....396
パーキングブレーキ表示灯 501
ブレーキ警告灯 496
未解除走行時警告ブザー 192
パーソナルランプ 425
排気ガス 44
ハイビーム（ヘッドランプ）.....196
AHS（アダプティブハイビームシステム）
.....199
電球（バルブ）の交換 481

ランプスイッチ 196
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 481
ハザードランプ（非常点滅灯）..... 487
スイッチ 487
電球（バルブ）の交換..... 481
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 155
パワーバックドア 109
フロントシート 123
ムーンルーフ 158
発炎筒 487
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 481
バックドア..... 103
イージークローザー..... 109
オープンスイッチ 105
キックセンサー 106, 107
バックドアハンドル..... 106
パワーバックドア 104
ハンズフリーパワーバックドア 106, 107
バッテリー
警告灯 496
バッテリーがあがった..... 524
バッテリーを交換するとき 526
パドルシフトスイッチ 188, 189
バニティ（化粧用）ミラー 440
バニティミラーランプ
装備について 440
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 481
ワット数 538
パワーイージーアクセスシステム... 161
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ..... 157
閉めることができないときは..... 155
初期化 155
操作 155
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...156
挟み込み防止機能 155
巻き込み防止機能 155
パワーステアリング
警告灯.....497
パワーバックドア 104
パンクした
スペアタイヤ装着車 510
タイヤ空気圧警告灯 502
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 481
ランプスイッチ.....196
ハンズフリーパワーバックドア....106, 107
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....143
運転席ポジションメモリー 161
ステアリングヒーター 418
パワーイージーアクセスシステム.....161
メーター操作スイッチ 80

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....386
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）.....387
PKSB
後方車両.....292
後方歩行者.....294
前後方静止物.....289
ヒーター
オートエアコン.....406
シートヒーター.....418
ステアリングヒーター 418
ミラーヒーター.....408
リヤオートエアコン 414
非常点滅灯（ハザードランプ）.....487
スイッチ.....487

電球（バルブ）の交換 481
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換 481
ランプスイッチ 196
ヒューズ 479
表示灯 73
日よけ（サンバイザー） 440
ヒルスタートアシストコントロール 387

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 524
フォグランプ
スイッチ 203
電球（バルブ）の交換 481
ブザー
BSM 263
PKSB 286
RCTA 276
LTA（レーントレーシングアシスト） 498
音さくいん 558
クリアランスソナー 275
高水温 497
シートベルト非着用警告 502
シフトダウン制限 189
車線逸脱警報 228
充電 496
衝突警報 215
接近警報（レーダークルーズコントロール） 242
手放し運転警告（LTA） 233
ドライブスタートコントロール 500
パーキングブレーキ未解除走行時警告 192
半ドア 101
半ドア警告 99, 118
PCS（プリクラッシュセーフティ） 498
ブレーキ 496
ブレーキオーバーライドシステム 500
ブレーキホールド 501
油圧 496
リバース警告 186
フック
カーゴフック 434
買い物フック 435
けん引フック 492
コートフック 454
フロアマット固定フック 28
フューエルポンプシャットオフシステム 495
フューエルメーター（燃料計） 76
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた 208
冬の前の準備（寒冷時の運転） 394
冬用タイヤ 394
ブラインドスポットモニター（BSM） 263
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS 警告灯 498
機能 215
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 387
警告灯 496
パーキングブレーキ 190
ブレーキホールド 193
メンテナンスデータ 537
ブレーキアシスト 386
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 497
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 173
ブレーキフルード 537
ブレーキホールド 193
フロアマット 28
フロントシート
シートヒーター 418
シートベンチレーター 418
シートポジションメモリー 161
正しい運転姿勢 29

調整 123
手入れ 460
ドライビングポジションメモリー 161
パワーイージーアクセスシステム 161
ヘッドレスト 140
メモリーコール機能..... 161
フロントデフロック 369
フロントフォグランプ
スイッチ 203
電球（バルブ）の交換..... 481
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 481
方向指示レバー 190
フロントマルチオペレーションパネル
..... 398

へ

平均車速 80, 89
平均燃費 80, 89
ヘッドアップディスプレイ 85
運転支援システム表示..... 87
エコドライブインジケーター 88
設定 86
割り込み表示 87
ヘッドランプ
クリーナー 204
電球（バルブ）の交換..... 481
ライトセンサー 197
ランプ消し忘れ防止機能..... 197
ランプスイッチ 196
ヘッドランプオートレベリングシステム
..... 198
ヘッドレスト..... 140
ベンチレーター（シートベンチレーター）
..... 418

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....510
メンテナンスデータ 537
ホイールナットレンチ.....512
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー 190
ホーン（警音器）.....143
ポジションメモリー 161, 165
保証.....8
ボトルホルダー 432
ボンネット（エンジンフード）
開け方.....463
警告メッセージ.....101

ま

マイセッティング 166
マルチインフォメーションディスプレイ
.....79
運転支援機能情報 82
エコドライブインジケーター 81
オーディオシステム連携 82
警告メッセージ.....505
設定 82
走行情報表示.....80
タイヤ空気圧.....468
提案サービス機能 83
ドライブインフォメーション 80
ナビゲーションシステム連携 82
メーター操作スイッチ 80
メニューアイコン 79
割り込み表示.....79
マルチテレイン ABS.....386
マルチテレインセレクト.....377
マルチテレインモニター
VIEW スイッチ.....300

アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて 308
アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビューについて 311
拡大機能について 339
シースルービュー／ムービングビューについて 320
ドアミラー格納時の表示について 338
バックアンダーフロアビュー＆両サイドビューについて 317
バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューについて 314
パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナリングビューについて 324
パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューについて 329
パノラミックビュー＆ワイドフロントビューについて 321
フロントビュー＆両サイドビューについて 306
マルチテレインモニター画面表示条件について 300
マルチテレインモニターで表示できる画面 296
マルチテレインモニターについて 296
床下透過映像について 339

み

ミラー
デジタルインナーミラー 144
ドアミラー 152
バニティミラー 440
ミラーヒーター 408

む

ムーンルーフ
初期化 159
操作 158
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 158
挟み込み防止機能 158

め

メーター（計器類）..... 76
ODO TRIP スイッチ 78
警告灯 72, 496
警告メッセージ 505
表示灯 73
ヘッドアップディスプレイ 85
マルチインフォメーションディスプレイ79
メーター
照度調整 78
設定 82
メーター操作スイッチ 80
メカニカルキー 95
メニューアイコン 79
メモリーコール機能 163
メンテナンスデータ 534

ゆ

油圧計 76
ユーザーカスタマイズ機能 539
雪道ですべって動けない（スタックした）..... 531
油脂類 534

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 481
ランプスイッチ 196
ラゲージルーム 434

ラゲージルームランプ 109
ラジエーター
オーバーヒート 528
メンテナンスデータ..... 535
ランプ
インテリアランプ 422
AHS（アダプティブハイビームシステム）
..... 199
コーナリングランプ..... 198
室内灯 422
電球（バルブ）の交換..... 481
パーソナルランプ 425
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 487
フロントフォグランプ..... 203
ヘッドランプ（前照灯）..... 196
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 190
ライトセンサー 197
ランプ消し忘れ防止機能..... 197
リヤフォグランプ 203
ワット数 538
ランプ消し忘れ防止機能 197

り

リバース連動機能..... 153
リヤアームレスト..... 452
リヤウインドウデフォッガースイッチ
..... 408
リヤエアコン..... 414
リヤカメラデテクション
警告メッセージ 282
操作..... 281
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 276
リヤサンシェード..... 453
リヤシート..... 127, 136
サードシートの格納..... 133
調整..... 127, 136
ポジションメモリー 165
リラクゼーションシステム 138
リヤシートヒーター 418
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...502
リヤデフロック 371
リヤドアサンシェード.....453
リヤフォグランプ
スイッチ.....203
電球（バルブ）の交換 481
ワット数.....538
リヤ方向指示灯 190
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー 190
リヤマルチオペレーションパネル ...401

れ

冷却水
冬の前の準備.....394
メンテナンスデータ 535
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 528
メンテナンスデータ 535
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....237
接近警報.....242
レーダー.....210
レーントレーシングアシスト（LTA）225
警告メッセージ.....233
操作 230
レクサスクライメイトコンシェルジュ
.....405
レバー
シフト.....186
ハンドル位置調整 143
方向指示.....190
ボンネット解除 463

ろ

ロードサインアシスト (RSA)..... 234
ロック
ウインドウロック 157
シフトロック 187
スマートエントリー＆スタートシステム
..... 118
チャイルドプロテクター..... 101
ドア..... 97
バックドア 103
ワイヤレスリモコン..... 95

わ

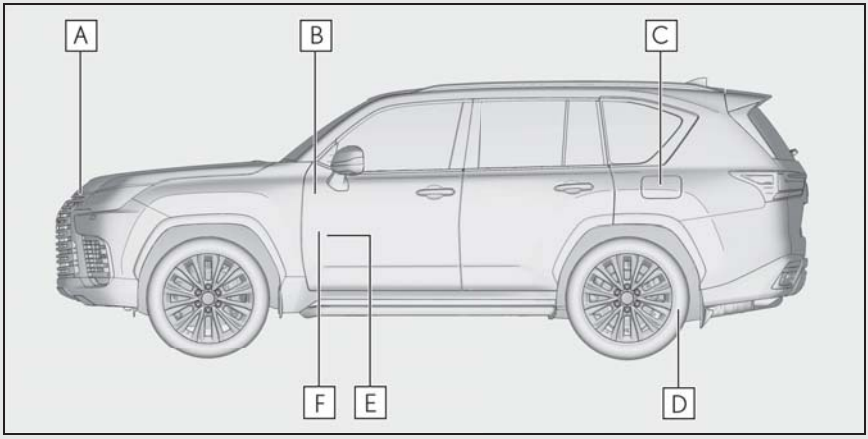
ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充..... 466
フロント 204
フロントワイパーデアイサー 411
リヤ..... 206
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 395
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）. 445
ワイヤレスリモコン
作動の合図 98
操作..... 95
電池の交換 477
半ドア警告ブザー 99
ワックス 456
ワット数 538

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声対話サービス
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- G-Link

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.463）

B パワーバックドアスイッチ（→P.104）

C 給油口（→P.209）

D タイヤ空気圧（→P.537）

E 給油扉オープナー（→P.209）

F ボンネット解除レバー（→P.463）

燃料の容量（参考値）	80L
燃料の種類	P.534
タイヤが冷えているときの空気圧	P.537
エンジンオイル容量（参考値）	P.534
エンジンオイルの種類	P.534

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

ヨJ-3

M60V33
01999-60V33
ZI-2023年6月23日
2022年11月 1 日初版
2023年6月30日 2 版
LX600